

2021年度
教職・資格（市ヶ谷）
講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覽

〔発行日：2021/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

資格関係科目 【B4004】 職業指導（仕事の場と学び）〔高橋 浩〕年間	1
教職科目 【C6000】 教職入門〔天野 一哉〕春学期	2
教職科目 【C6001】 教職入門〔寺崎 里水〕春学期	3
教職科目 【C6002】 教職入門〔児玉 洋介〕秋学期	4
教職科目 【C6003】 教職入門〔高野 良一〕秋学期	5
教職科目 【C6004】 教育原理〔天野 一哉〕秋学期	6
教職科目 【C6005】 教育原理〔筒井 美紀〕秋学期	7
教職科目 【C6006】 教育原理〔飯窪 真也〕秋学期	8
教職科目 【C6007】 教育原理〔澤里 翼〕春学期	9
教職科目 【C6008】 教育の制度・経営〔植竹 丘〕春学期	10
教職科目 【C6009】 教育の制度・経営〔仲田 康一〕秋学期	11
教職科目 【C6010】 教育の制度・経営〔高野 良一〕秋学期	12
教職科目 【C6011】 教育の制度・経営〔植竹 丘〕秋学期	13
教職科目 【C6012】 教育心理学〔田澤 実〕秋学期	14
教職科目 【C6013】 教育心理学〔輕部 雄輝〕秋学期	14
教職科目 【C6014】 教育心理学〔児玉 茉奈美〕春学期	15
教職科目 【C6015】 教育心理学〔山上 真貴子〕春学期	16
教職科目 【C6016】 教育心理学〔遠藤 裕子〕春学期	17
教職科目 【C6017】 教育心理学〔児玉 茉奈美〕秋学期	18
教職科目 【C6018】 教育課程論〔飯窪 真也〕春学期	19
教職科目 【C6019】 教育課程論〔川津 貴司〕春学期	20
教職科目 【C6020】 教育課程論〔飯窪 真也〕春学期	21
教職科目 【C6021】 教育課程論〔黄 郁倫〕秋学期	22
教職科目 【C6022】 教育課程論〔飯窪 真也〕秋学期	23
教職科目 【C6023】 教育方法論〔岩本 俊一〕春学期	24
教職科目 【C6024】 教育方法論〔松尾 知明〕春学期	25
教職科目 【C6025】 教育方法論〔黄 郁倫〕春学期	25
教職科目 【C6026】 教育方法論〔川津 貴司〕秋学期	26
教職科目 【C6027】 教育方法論〔黄 郁倫〕秋学期	27
教職科目 【C6028】 教育相談〔田澤 実〕春学期	27
教職科目 【C6029】 教育相談〔土屋 弥生〕秋学期	28
教職科目 【C6030】 教育相談〔児玉 茉奈美〕春学期	29
教職科目 【C6031】 教育相談〔山上 真貴子〕秋学期	30
教職科目 【C6032】 教育相談〔遠藤 裕子〕秋学期	31
教職科目 【C6033】 教育相談〔土屋 弥生〕春学期	32
教職科目 【C6034】 道德教育指導論〔土屋 創〕春学期	34
教職科目 【C6035】 道德教育指導論〔田口 賢太郎〕春学期	35
教職科目 【C6036】 道德教育指導論〔渡邊 優子〕秋学期	36
教職科目 【C6037】 道德教育指導論〔田口 賢太郎〕秋学期	37
教職科目 【C6038】 特別活動論〔中村 岳夫〕春学期	38
教職科目 【C6039】 特別活動論〔中村 岳夫〕春学期	39
教職科目 【C6040】 特別活動論〔児玉 洋介〕春学期	40
教職科目 【C6041】 特別活動論〔中村 岳夫〕秋学期	41
教職科目 【C6042】 特別活動論〔森本 扶〕秋学期	42
教職科目 【C6043】 生徒・進路指導論〔岩本 俊一〕春学期	43
教職科目 【C6044】 生徒・進路指導論〔渡部 忠治〕春学期	44
教職科目 【C6045】 生徒・進路指導論〔児玉 洋介〕秋学期	45
教職科目 【C6046】 生徒・進路指導論〔児美川 孝一郎〕秋学期	46
教職科目 【C6047】 生徒・進路指導論〔綿貫 公平〕秋学期	47
教職科目 【C6048】 特別な教育的ニーズの理解と支援〔伊藤 友彦〕春学期	48
教職科目 【C6049】 特別な教育的ニーズの理解と支援〔伊藤 友彦〕春学期	49
教職科目 【C6050】 特別な教育的ニーズの理解と支援〔伊藤 友彦〕秋学期	50
教職科目 【C6051】 特別な教育的ニーズの理解と支援〔伊藤 友彦〕秋学期	51

教職科目	【C6052】	総合的な学習の時間の指導法 [窪 和広] 春学期	52
教職科目	【C6053】	総合的な学習の時間の指導法 [窪 和広] 春学期	53
教職科目	【C6054】	総合的な学習の時間の指導法 [窪 和広] 秋学期	54
教職科目	【C6055】	総合的な学習の時間の指導法 [窪 和広] 秋学期	55
教職科目	【C6056】	社会・地歴科教育法 [石出 法太] 年間	56
教職科目	【C6057】	社会・地歴科教育法 (1) [石出 法太] 春学期	57
教職科目	【C6058】	社会・地歴科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期	58
教職科目	【C6059】	社会・地歴科教育法 [石出 法太] 年間	59
教職科目	【C6060】	社会・地歴科教育法 (1) [石出 法太] 春学期	60
教職科目	【C6061】	社会・地歴科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期	61
教職科目	【C6062】	社会・地歴科教育法 [本山 明] 年間	62
教職科目	【C6063】	社会・地歴科教育法 (1) [本山 明] 春学期	63
教職科目	【C6064】	社会・地歴科教育法 (2) [本山 明] 秋学期	64
教職科目	【C6065】	社会・地歴科教育法 [本山 明] 年間	65
教職科目	【C6066】	社会・地歴科教育法 (1) [本山 明] 春学期	66
教職科目	【C6067】	社会・地歴科教育法 (2) [本山 明] 秋学期	67
教職科目	【C6068】	社会・地歴科教育法 [石出 法太] 年間	68
教職科目	【C6069】	社会・地歴科教育法 (1) [石出 法太] 春学期	69
教職科目	【C6070】	社会・地歴科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期	70
教職科目	【C6071】	社会・地歴科教育法 [石出 法太] 年間	71
教職科目	【C6072】	社会・地歴科教育法 (1) [石出 法太] 春学期	72
教職科目	【C6073】	社会・地歴科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期	73
教職科目	【C6074】	社会・公民科教育法 [八木橋 正之] 年間	74
教職科目	【C6075】	社会・公民科教育法 (1) [八木橋 正之] 春学期	75
教職科目	【C6076】	社会・公民科教育法 (2) [八木橋 正之] 秋学期	76
教職科目	【C6077】	社会・公民科教育法 [八木橋 正之] 年間	77
教職科目	【C6078】	社会・公民科教育法 (1) [八木橋 正之] 春学期	78
教職科目	【C6079】	社会・公民科教育法 (2) [八木橋 正之] 秋学期	78
教職科目	【C6080】	社会・公民科教育法 [松尾 知明] 年間	79
教職科目	【C6081】	社会・公民科教育法 (1) [松尾 知明] 春学期	80
教職科目	【C6082】	社会・公民科教育法 (2) [松尾 知明] 秋学期	81
教職科目	【C6083】	社会・公民科教育法 [松尾 知明] 年間	81
教職科目	【C6084】	社会・公民科教育法 (1) [松尾 知明] 春学期	82
教職科目	【C6085】	社会・公民科教育法 (2) [松尾 知明] 秋学期	83
教職科目	【C6086】	社会・公民科教育法 [石出 法太] 年間	83
教職科目	【C6087】	社会・公民科教育法 (1) [石出 法太] 春学期	84
教職科目	【C6088】	社会・公民科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期	85
教職科目	【C6089】	社会・公民科教育法 [石出 法太] 年間	86
教職科目	【C6090】	社会・公民科教育法 (1) [石出 法太] 春学期	87
教職科目	【C6091】	社会・公民科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期	88
教職科目	【C6092】	商業科教育法 [木村 良成] 年間	89
教職科目	【C6093】	商業科教育法 I [木村 良成] 春学期	90
教職科目	【C6094】	商業科教育法 II [木村 良成] 秋学期	91
教職科目	【C6095】	英語科教育法 I [石原 紀子] 春学期集中	92
教職科目	【C6096】	英語科教育法 (1) [石原 紀子] 春学期	93
教職科目	【C6097】	英語科教育法 (2) [石原 紀子] 春学期	94
教職科目	【C6098】	英語科教育法 I [石原 紀子] 春学期集中	95
教職科目	【C6099】	英語科教育法 (1) [石原 紀子] 春学期	96
教職科目	【C6100】	英語科教育法 (2) [石原 紀子] 春学期	97
教職科目	【C6101】	英語科教育法 II [飯野 厚] 年間	98
教職科目	【C6102】	英語科教育法 (3) [飯野 厚] 春学期	99
教職科目	【C6103】	英語科教育法 (4) [飯野 厚] 秋学期	100
教職科目	【C6104】	英語科教育法 II [飯野 厚] 年間	101
教職科目	【C6105】	英語科教育法 (3) [飯野 厚] 春学期	102
教職科目	【C6106】	英語科教育法 (4) [飯野 厚] 秋学期	103
教職科目	【C6107】	中国語科教育法 I [渡辺 昭太] 春学期集中	104
教職科目	【C6108】	中国語科教育法 (1) [渡辺 昭太] 春学期	106

教職科目	【C6109】	中国語科教育法(2) [渡辺 昭太] 春学期	107
教職科目	【C6110】	中国語科教育法Ⅱ [渡辺 昭太] 秋学期集中	108
教職科目	【C6111】	中国語科教育法(3) [渡辺 昭太] 秋学期	109
教職科目	【C6112】	中国語科教育法(4) [渡辺 昭太] 秋学期	110
教職科目	【C6113】	情報科教育法Ⅰ [御園生 純] 春学期	111
教職科目	【C6114】	情報科教育法Ⅱ [御園生 純] 秋学期	112
教職科目	【C6115】	教育実習(事前指導) [大栗 健二] 春学期	113
教職科目	【C6116】	教育実習(事前指導) [池田 真澄] 秋学期	114
教職科目	【C6117】	教育実習(事前指導) [丸山 義昭] 秋学期	114
教職科目	【C6118】	教育実習(事前指導) [松尾 知明] 秋学期	115
教職科目	【C6119】	教育実習(事前指導) [寺崎 里水] 秋学期	116
教職科目	【C6120】	教育実習(事前指導) [高野 良一] 秋学期	117
教職科目	【C6121】	教育実習(事前指導) [筒井 美紀] 秋学期	118
教職科目	【C6122】	教育実習(事前指導) [御園生 純] 秋学期	119
教職科目	【C6123】	教育実習(事前指導) [宮坂 健介] 春学期	120
教職科目	【C6124】	教職実践演習 [大栗 健二] 秋学期	121
教職科目	【C6125】	教職実践演習 [池田 真澄] 秋学期	122
教職科目	【C6126】	教職実践演習 [丸山 義昭] 秋学期	123
教職科目	【C6127】	教職実践演習 [松尾 知明] 秋学期	124
教職科目	【C6128】	教職実践演習 [寺崎 里水] 秋学期	125
教職科目	【C6129】	教職実践演習 [高野 良一] 秋学期	126
教職科目	【C6130】	教職実践演習 [筒井 美紀] 秋学期	127
教職科目	【C6131】	教育実習(高) [教育実習担当教員※] 年間	128
教職科目	【C6132】	教育実習(中・高) [教育実習担当教員※] 年間	128
教職科目	【C6133】	人文地理学Ⅰ [片岡 義晴] 春学期	129
教職科目	【C6134】	人文地理学Ⅱ [片岡 義晴] 秋学期	130
教職科目	【C6135】	自然地理学Ⅰ [狩野 真規] 春学期	131
教職科目	【C6136】	自然地理学Ⅱ [狩野 真規] 秋学期	132
教職科目	【C6137】	地誌Ⅰ [山口 隆子] 春学期	133
教職科目	【C6138】	地誌Ⅰ [南 春英] 春学期	133
教職科目	【C6139】	地誌Ⅱ [山口 隆子] 秋学期	134
教職科目	【C6140】	地誌Ⅱ [南 春英] 秋学期	135
資格関係科目	【C6700】	生涯学習入門Ⅰ [久井 英輔] 春学期	136
資格関係科目	【C6701】	生涯学習入門Ⅰ [朝岡 幸彦] 春学期	137
資格関係科目	【C6702】	生涯学習入門Ⅱ [久井 英輔] 秋学期	138
資格関係科目	【C6703】	生涯学習入門Ⅱ [朝岡 幸彦] 秋学期	139
資格関係科目	【C6704】	図書館情報学概論Ⅰ [原田 隆史] 春学期	140
資格関係科目	【C6705】	図書館情報学概論Ⅰ [村上 郷子] 春学期	141
資格関係科目	【C6706】	図書館情報学概論Ⅱ [原田 隆史] 秋学期	142
資格関係科目	【C6707】	図書館情報学概論Ⅱ [丹 一信] 秋学期	143
資格関係科目	【C6708】	図書館情報学概論Ⅱ [菅原 真悟] 秋学期	144
資格関係科目	【C6709】	図書館情報学概論Ⅱ [丹 一信] 春学期	145
資格関係科目	【C6710】	図書館サービス概論 [丹 一信] 春学期	146
資格関係科目	【C6711】	情報サービス演習 [田中 順子] 年間	147
資格関係科目	【C6712】	情報サービス演習 [田中 順子] 年間	148
資格関係科目	【C6713】	情報サービス演習 [菅原 真悟] 年間	149
資格関係科目	【C6714】	図書館情報資源概論 [小黒 浩司] 春学期	150
資格関係科目	【C6715】	図書館情報資源概論 [村上 郷子] 春学期	151
資格関係科目	【C6716】	図書館情報資源概論 [村上 郷子] 春学期	152
資格関係科目	【C6717】	図書館情報資源特論 [小黒 浩司] 秋学期	153
資格関係科目	【C6718】	図書館情報資源特論 [村上 郷子] 秋学期	154
資格関係科目	【C6719】	図書館情報資源特論 [村上 郷子] 秋学期	155
資格関係科目	【C6720】	図書館演習 [坂本 旬] 年間	156
資格関係科目	【C6721】	図書館演習 [村上 郷子] 年間	157
資格関係科目	【C6722】	図書館演習 [丹 一信] 年間	158
資格関係科目	【C6723】	図書館演習 [丹 一信] 年間	159
資格関係科目	【C6724】	読書と豊かな人間性 [有吉 末充] 秋学期	160

資格関係科目	【C6725】	情報メディアの活用 [村上 郷子] 秋学期	161
資格関係科目	【C6726】	情報メディアの活用 [坂本 旬] 秋学期	162
資格関係科目	【C6727】	社会教育演習 [久井 英輔] 年間	163
資格関係科目	【C6728】	生涯学習支援論Ⅰ [久井 英輔] 春学期	164
資格関係科目	【C6729】	生涯学習支援論Ⅰ [朝岡 幸彦] 春学期	166
資格関係科目	【C6730】	生涯学習支援論Ⅱ [久井 英輔] 秋学期	167
資格関係科目	【C6731】	生涯学習支援論Ⅱ [朝岡 幸彦] 秋学期	168
資格関係科目	【C6732】	現代生活・文化と社会教育Ⅰ [鈴木 悌遍] 春学期	169
資格関係科目	【C6733】	現代生活・文化と社会教育Ⅱ [佐々木 美貴] 秋学期	170
資格関係科目	【C6734】	博物館概論 [金山 喜昭] 春学期	171
資格関係科目	【C6735】	博物館経営論 [金山 喜昭] 春学期	172
資格関係科目	【C6736】	博物館経営論 [杉長 敬治] 秋学期	173
資格関係科目	【C6737】	博物館資料論 [田中 裕二] 秋学期	174
資格関係科目	【C6738】	博物館教育論 [渡邊 祐子] 秋学期	175
資格関係科目	【C6739】	博物館教育論 [山下 治子] 秋学期	176
資格関係科目	【C6740】	図書館制度・経営論 [森 智彦] 秋学期	177
資格関係科目	【C6741】	児童サービス論 [田中 順子] 秋学期	178
資格関係科目	【C6742】	情報サービス論 (2013 年度より開設) [田中 順子] 春学期	179
資格関係科目	【C6743】	情報資源組織論 [丹 一信] 春学期	179
資格関係科目	【C6744】	情報資源組織演習 [丹 一信] 年間	180
資格関係科目	【C6745】	情報資源組織演習 [村上 郷子] 年間	181
資格関係科目	【C6746】	情報資源組織演習 [竹之内 禎] 年間	182
資格関係科目	【C6747】	情報資源組織演習 [菅原 真悟] 年間	183
資格関係科目	【C6748】	学校図書館メディアの構成 [有吉 末充] 秋学期	184
資格関係科目	【C6749】	学校経営と学校図書館 [松田 ユリ子] 秋学期	185
資格関係科目	【C6750】	学習指導と学校図書館 [松田 ユリ子] 秋学期	186
資格関係科目	【C6751】	社会教育経営論 [御園生 純] 年間	187
資格関係科目	【C6752】	社会教育経営論 [御園生 純] 年間	188
資格関係科目	【C6753】	社会教育活動Ⅰ [桔川 純子] 春学期	189
資格関係科目	【C6754】	社会教育活動Ⅱ [佛木 完] 秋学期	190
資格関係科目	【C6755】	社会教育実習 [朝岡 幸彦] 年間	191
資格関係科目	【C6756】	博物館資料保存論 [今野 農] 春学期	192
資格関係科目	【C6757】	博物館資料保存論 [清水 玲子] 秋学期	193
資格関係科目	【C6758】	職業指導 (仕事の場と学び) [高橋 浩] 年間	194
資格関係科目	【C6759】	博物館展示論 [渡邊 尚樹] 秋学期	195
資格関係科目	【C6760】	博物館展示論 [渡邊 尚樹] 春学期	196
資格関係科目	【C6761】	博物館情報・メディア論 [柏女 弘道] 春学期	197
資格関係科目	【C6762】	博物館情報・メディア論 [石川 貴敏] 秋学期	198
資格関係科目	【C6763】	博物館実習Ⅰ [田中 裕二] 年間	199
資格関係科目	【C6764】	博物館実習Ⅰ [金山 喜昭] 年間	200
資格関係科目	【C6765】	博物館実習Ⅱ [小西 雅徳] 年間	201
資格関係科目	【C6766】	博物館実習Ⅱ [杉山 享司] 年間	202
資格関係科目	【C6767】	博物館実習Ⅲ [金山 喜昭] 年間	203
資格関係科目	【C6768】	ミュージアム資料保存論 [今野 農] 春学期	204
資格関係科目	【C6769】	ミュージアム資料保存論 [清水 玲子] 秋学期	205
資格関係科目	【C6770】	ミュージアム展示論 [渡邊 尚樹] 秋学期	206
資格関係科目	【C6771】	ミュージアム展示論 [渡邊 尚樹] 春学期	207
資格関係科目	【C6772】	ミュージアム情報・メディア論 [柏女 弘道] 春学期	208
資格関係科目	【C6773】	ミュージアム情報・メディア論 [石川 貴敏] 秋学期	209

職業指導（仕事の場と学び）

高橋 浩

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学生から社会人における様々なキャリア上の転機に対応できるような職業指導（進路指導）のための諸理論および方法を学ぶ。職業指導の場面は単に学校から社会へ移行する際の職業選択の支援だけにとどまらない。社会人になってから遭遇する様々なライフイベントや転機を乗り越えるための支援や、より良い職業生活へと導く開発的支援を習得する必要がある。

【到達目標】

職業指導（進路指導）に求められるキャリア理論・カウンセリング理論とその方法について理解し、自他の今後のキャリアに応用できる。

職業指導・進路指導に必要な基礎的なキャリア支援技法を習得し、他者に対する支援的な態度と言動を取れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面事業で実施する。

職業指導（進路指導）は個人の人生に関わる分野である。職業を選択するプロセスや、働くことの意味・意義を理解した上で指導をする態度や知識・技法を身につける必要がある。そのために本授業では、一方的な講義に終始するのではなく、職業指導（進路指導）およびキャリアカウンセリングの諸理論・技法について実践場面を想定したテーマについて、グループワークやディスカッション、ロールプレイを行い、体験的に職業指導の実践力を習得していく。毎回、リアクションペーパーを提出してもらいが、次回の授業冒頭にてコメントや補足などのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	職業指導・進路指導の歴史①（米国編）	米国において職業指導・進路指導がどのような歴史をたどって発展してきたのかについて理解する。
2	職業指導・進路指導の歴史②（日本編）	日本における職業指導・進路指導の発展の歴史と今日的課題および意義（学習指導要領を含む）について理解する。
3	職業選択としての職業指導・進路指導の理論①（マッチング理論）	人の特性と職業のマッチングの理論であるパーソンズおよびホランドの理論を理解し、その活用方法を学ぶ。
4	職業選択としての職業指導・進路指導の理論②（意思決定の理論）	ジェラットやヒルトンの理論をもとに、職業選択の合理性と不確実性について理解し、その活用方法を学ぶ。
5	職業選択としての職業指導・進路指導の理論③（学習と偶発性）	クルンホルツの理論をもとに、職業選択の学習による影響と偶発性について理解し、その活用方法を学ぶ。
6	職業選択としての職業指導・進路指導の理論④（転機への対処）	シュロスバーグの理論をもとに、転機への対処について理解し、その活用方法を学ぶ。
7	生涯発達としての職業指導・進路指導の理論①（発達段階とアイデンティティ）	エリクソンの心理-社会的発達理論をもとにライフステージ毎の発達課題やアイデンティティについて理解し、職業との関連について学ぶ。
8	生涯発達としての職業指導（進路指導）の理論②（キャリア・ステージ理論）	ギンズバーグやスーパー、レビンソンの理論をもとにキャリアの発達段階と発達課題について理解し、その活用方法を学ぶ。
9	意味形成としての職業指導・進路指導の理論①（働く意味の形成）	ハンセンやサビカスの理論をもとに、働く意味の形成とキャリア発達との関連について理解を深める。
10	意味形成としての職業指導・進路指導の理論②（関係性アプローチ）	ホールの関係性アプローチについて理解し、キャリア形成と人間関係の関連について学ぶ。
11	組織における職業指導・進路指導の理論①（人事制度）	企業・組織における人事制度、特に年功賃金制と成果主義（目標管理制度など）について理解する。
12	組織における職業指導・進路指導の理論②（キャリア・アンカー）	企業・組織におけるキャリア形成理論やキャリア・アンカーについて、シャインの理論の有効性と限界を理解し、活用方法について学ぶ。
13	学びの場としての職業	経験学習理論や組織学習理論について理解し、「学びの場」としての職業について理解する。

14	試験・まとめ	試験として理論の有効性と限界、活用方法について各自のまとめを発表し、ディスカッションと解説を行う。
15	キャリア支援の種類と機能	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア教育のそれぞれの意味と機能について学ぶ。
16	キャリアカウンセリングの概要	キャリアカウンセリングとは何か、面談による支援・指導とは何かについて、ディスカッションを通じて学ぶ。
17	支援者としての自己理解と他者理解①（無意識と自己）	フロイト、ユング、バーンの理論にもとづいて無意識と抑圧など心の働きについて学ぶ。
18	支援者としての自己理解と他者理解②（認知理論）	ベックの認知療法やエリスの論理療法などの認知理論にもとづいて、認知変容・自己理解と問題解決について学ぶ。
19	支援者としての自己理解と他者理解③（学習理論）	3つの学習理論（古典的学習、オペラント学習、観察学習）にもとづいて、行動変容と問題解決の関係について学ぶ。
20	支援者としての自己理解と他者理解④（自己理論・来談者中心療法）	ロジャーズの自己理論（来談者中心療法）にもとづいて自己概念の働きと、自己一致/自己不一致について学ぶ。
21	アセスメントのしくみと解釈①（フォーマルアセスメント）	フォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
22	アセスメントのしくみと解釈②（インフォーマルアセスメント）	インフォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
23	職業指導の演習①（関係構築：態度と関わり技法）	面談初期の関係構築で必要となる基本的態度や関わり技法について、ロールプレイを通じて学ぶ。
24	職業指導の演習②（自己探索支援：質問技法）	面談中期の自己探索支援において用いられる質問技法の種類や効果、問いの立て方について、ロールプレイを通じて学ぶ。
25	職業指導の演習③（行動化支援：目標設定と計画・実行の支援）	面談後期の行動化支援で行われる目標設定とその計画・実行の支援について、解決志向アプローチに基づいた支援を学ぶ。
26	職業指導の演習④（支援の構造化：支援のプロセス）	複数の汎用的なカウンセリング・プロセス・モデルを学び、面談の組み立て方（構成）について、ロールプレイを通じて学ぶ。
27	総合的演習	これまで学んだ理論・技法を総合的に用いたロールプレイを行い、職業指導の導入部における望ましい支援方法を体験的に習得する。
28	試験とまとめ	試験として、面談場面を想定したロールプレイを行い、結果についてのフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各理論・技法については、授業前にテキストおよび参考図書などで概要の把握と、疑問点や意見をまとめておき、授業当日のディスカッションに備えておくこと。

習得した支援技法については、それを日常生活の中で自他に応用するように努めること。

【テキスト（教科書）】

『新時代のキャリアコンサルティング—キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来』労働政策研究・研修機構編（労働政策研究・研修機構）

【参考書】

『進路指導・キャリア教育の理論と実践』吉田辰雄・篠崎著（日本文化科学社）
『新版 キャリアの心理学』渡辺三枝子編著（ナカニシヤ出版）

『カウンセリングの理論』國分康孝著（誠信書房）

『小中学校学習指導要領』

『中学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

・職業指導（進路指導、キャリア）の理論のその方法の理解について：春学期末のレポート課題（50%）、授業への参加姿勢（50%）

・カウンセリング理論とその支援技法について：秋学期末の演習（50%）、授業への参加姿勢（50%）

【学生の意見等からの気づき】

実際の指導場面を踏まえたディスカッションとロールプレイをより多く行い実践力を強化する。

【Outline and objectives】

In this class, students learn theories and methods for career guidance that can cope with career turning points from school to work. Scenes of career guidance are not limited to just assisting vocational selection in transitioning from school to work. It is necessary to master support skills to overcome various life events and turning points encountered after becoming a worker, and development skills to lead to a better life career.

教職入門

天野 一哉

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状、かれらを取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を、対話を通して実践的に深めていく。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」が1つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

新型コロナウイルスの感染状況による変更も含め、授業の課題等、詳細については、「学習支援システム」を通じて告知する。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	4年間の学びをイメージする
第2回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学・教職課程
第3回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度、教員採用
第4回	職業としての教師としての成長	研修・免許更新、服務義務
第5回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第6回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第7回	教職に関する実務①	学校という組織の運営、公務分掌
第8回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア

第9回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第10回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子供たち
第11回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第12回	教職の課題①	子供の貧困、学力格差、力のある学校
第13回	教職の課題②	「チーム学校」への対応、協働と連携、「共生」社会
第14回	教職の方向性	変わる子供の学び・学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書（教育史を含む）の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】

天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社
 中学校学習指導要領（平成29年3月公示）、高等学校学習指導要領（平成21年3月）、
 生徒指導提要（平成22年3月） ※いずれもPDFでダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学習に主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題：40%、定期試験：60%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーション等のスキルは、1回、2回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】

春学期（本講）・秋学期（教育原理）合わせての履修の推奨する。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

寺崎 里水

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考えることを前提に、以下の事柄を到達目標とする。

- ①教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解すること。
- ②教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないかが理解できること。
- ③授業を通して、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行います。教職課程の入門科目として位置付けられており、指定された教科書をもとに講義を行うほか、個人やグループでワークをしたり、課題レポートを提出したりしてもらいます。課題提出やそのフィードバックは授業内と学習支援システムの両方を通じて行います。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：4年間の学びのイメージ	職業を選択すること、教職を選択すること
第2回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第3回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度・教員採用
第4回	専門職としての教師の成長・育成	研修・免許更新・服務義務
第5回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第6回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第7回	教職に関する実務①	学校という組織の運営・校務分掌
第8回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第9回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第10回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子どもたち
第11回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第12回	教師の課題①	子どもの貧困、学力格差、力のある学校
第13回	教師の課題②	チーム学校への対応、協働と連携
第14回	教職の方向性	変わる子どもの学び、学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された課題をすることが予習になるように講義内容を考えています。必ず課題を終わらせ、提出したのちに、授業に参加してください。教科書の内容すべてを授業内で扱えるわけではないので、授業で触れた章はもちろん、関連文献・資料として紹介されたものを各自で読んだり調べたりしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】

生徒指導提要（平成22年3月、文部科学省） ※PDFでダウンロード可能
植上一希・寺崎里水（2018）『わかる・役立つ教育学入門』大月書店

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。

具体的には、提出課題の内容：50%、試験：50%で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場面があるので、インターネットに接続し、必要な資料をダウンロードしてプリントアウトしたり、重要だと感じた内容を自身でノートにまとめる必要があります。ネットに接続できる環境、パソコン、パソコンが用意できない場合はタブレット（スマホは画面が小さいので推奨しません）が必要です。

【その他の重要事項】

教職課程を履修する学生を対象に開講する科目です。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

見玉 洋介

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

今日の学校教育の抱える様々な課題、教師に対する様々な期待などを視野に入れながら、中等教育（中学高校）に焦点を当てて、「教職の意義」「教員の役割」「教員の職務」を主たる要素に授業を構成する。多人数の授業であっても、学生同士の学び合いが充実するよう、毎回の授業での課題コメント（WEB 提出）を次回授業で活用しながら、授業内容への主体的な関わりを大切に授業をすすめたい。

大学行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と 4 年間の学びのイメージ	本講座の授業計画の概要、進め方。教員養成制度のしくみと、教師になるために学ぶべき内容の概略。
第 2 回	教師という職業の特徴	「教師像」と、教師に寄せられる期待を小説等を題材に考えながら、教師という職業世界に接近する。
第 3 回	教職の歴史	近代学校制度と教職観の変遷をたどりながら、今日の教員に求められる期待と役割を考える。
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	教職の専門性の捉え方、専門性を獲得していく手立て、そのための教員の育成と現職研修のしくみ。
第 5 回	現代の学校と教師の資質・役割	今日の学校現場での教師の実生活と、ライフステージ。
第 6 回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教員の「勤務の特殊性」とは何か。教員の働き方をめぐる困難な課題とその改善に向けたとりくみ。
第 7 回	職務の全体像	専門職として「教育をつかさどる」仕事と、学校という組織を集団的に運営する校務の分掌。
第 8 回	職務内容①：教科指導	授業をつくる。授業から学ぶ。カリキュラムをデザインする。
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	いじめ、非行、不登校など、生徒の発する困難な諸課題ともかわりながら、生徒を育み、生徒と生きる教師。
第 10 回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	「学ぶ」こと、「働く」ことの意味を問いつつ、生徒自身の内に進路を拓く力を育む。
第 11 回	職務内容④：学級経営	一年間の学級のあゆみを通して、生活や行事のなかでの学級の変化や成長を見る。
第 12 回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	学校の教育力、学校が創り出す文化の源となる教職員の共同。

第 13 回 地域・家庭・多様な専門家との連携 子どもの貧困、学力格差、不登校、非行など、広がる子どもの課題に対応するための連携・共同。

第 14 回 まとめ：変わる学校、学び続ける教師 人権教育、インクルーシブ教育、主権者教育など、広がる教育課題と、転換期の学校にあって、学び続ける教師。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業にかかわる課題コメント（300 字程度）の作成（3 日以内に学習支援システムから提出）、2 回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、また参考文献等を指示する。

【参考書】

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示 文部科学省）
生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省） ※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、毎回課題コメントを提出）に対する評価（50%）と、授業のテーマに即した 2 回の課題レポートに対する評価（50%）とを総合的に見る。
定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生自身が自らの学校生活を通じて抱えてきた問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業だが、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】

講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進める。各回授業ごとの課題コメント（300 字程度）を入力するために、スマホや PC などの端末が必要（提出は講義後 3 日以内）。また、課題レポート（2 回）は word などの電子データの形で作成し、学習支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

高野 良一

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまでに以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさねながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。

なお、原則は対面授業ですが、コロナ感染症等の状況では変更、ZOOM との併用もあり得ます。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：免許・養成・採用の制と4年間の学び	教職履修の全体イメージ、本授業の構成、進め方と評価
第2回	教職の捉え方（特徴）	受講生の教職像、教職アイデンティティ、教職の3要素
第3回	教職の歴史	戦前の教師、戦後①「二十四の瞳」、戦後②学園ドラマの中の教師
第4回	教師の成長と学び	「学び続ける教師」、「反省的実践家」、教師養成「改革」
第5回	現代学校と教職員の権利・職責	学校改革の展開、教職員の種類と職責、教師の権利と「働き方改革」
第6回	教育指導の全体像	教育指導の4分野、教師の指導文化、教員評価
第7回	特別活動と部活の指導：職務内容①	「教育課程」としての特別活動、課題活動の部活、指導とハラスメント
第8回	職務内容②：教科指導（道徳を含む）	学習指導要領改訂、教科の変更点、「特別の教科」の道徳
第9回	職務内容③：生徒・生活指導	生徒指導の日本の特質、校則指導、いじめ指導
第10回	職務内容④：総合的な学習の時間と進路指導	総合的な学習の時間の位置づけ、職業指導から進路指導へ、キャリア教育
第11回	職務内容⑤：学級経営	学級の歴史、学級規模、担任教師の役割
第12回	学校組織のなかの教師	教職員の構成、校務分掌とチームワーク（同僚性）、年間指導計画
第13回	多様な関係者との連携	「チーム学校」、コミュニティ・スクール、親・住民の学校参加
第14回	まとめ：「学び続ける教師」	「学び続ける教師」、教職履修の計画化、修了試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

藤本典裕『新版（改訂2版）教職入門：教師への道』図書文化社
学習指導要領、生徒指導提要（平成22年3月、文部科学省）※PDFでダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題：30%程度、修了試験：70%程度を目安として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内発言やコメントペーパーなどを通じて、学生の意見などを授業に反映させたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教育原理

天野 一哉

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**授業の概要**

教育の諸問題は私たちが生きている今ここで起こっている現実であることから、書籍やネットなど閉じた媒体のみに学ぶのではなく、生身の人間、動いている世の中から発掘すべきである。そこで、授業では学生諸君と担当教員、ゲスト・スピーカーとの対話、そして教育現場へのフィールドワークから「教育とは何か」「問題点は何か」「いかに改革すべきか」などを考察してもらおう。また「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

【到達目標】

教育の基本的諸概念、教育に関する歴史及び思想を踏まえ、教員・同学及び専門家との対話や教育現場への取材を通して、現在の教育を知り、自分自身の“教育原理”を探究する。具体的には教員として、あるいは社会人としての知識のみならず、意識とスキルの向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実践力育成のため、対話による PBL(Project Based Learning) の手法を用いて、課題設定・調査・分析・考察・発表等の方法を学ぶ。

学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」が 1 つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。新型コロナウイルスの感染状況による変更も含め、授業の課題等、詳細については、「学習支援システム」を通じて告知する。

大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的及び方法、「教育原理」についてディスカッション
第 2 回	「教育」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 3 回	「学習」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 4 回	「教員」「学校」とは何か	教育制度の成立 解説とグループ・ディスカッション
第 5 回	教育史①	世界の教育史の概観
第 6 回	教育史②	日本の教育史の概観
第 7 回	教育思想①	世界の思想の概観
第 8 回	教育思想②	日本の思想の概観 家庭/家族
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	ゲスト①	現任教員によるキャリア教育等の学校現場報告と対話
第 11 回	教育評価	自己評価・ルーブリック評価・ゴールフリー評価

第 12 回 プレゼンテーション① 第 11 回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン

第 13 回 プレゼンテーション② 第 11 回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン

第 14 回 総まとめ 全授業テーマの総括と学生の省察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書（教育史を含む）の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する』法政大学出版局

【参考書】

天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本分、解説、資料）、※いずれも文部科学省 HP より最新版をダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的な諸概念を理解しているか、それを用いて、教育の諸問題について考察する力がついているかを毎回の「100 字以上省察」：40 %、レポート（またはプレゼンテーション）：60 % で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーション等のスキルは、1 回、2 回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】

春学期（教職入門）・秋学期（本講義）合わせての履修を推奨する。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.

Active learning; group discussion about today's educational issues

教育原理

簡井 美紀

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的な概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的な概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業形式】

・2020年度は履修者が50人未満(40数名)だったので、2021年度は原則対面実施対象の科目となりましたが、履修者数や教室容量、コロナ状況を総合的に考慮し、zoomによるオンライン授業に切り替える可能性もあります。
・第1回の授業では、教室に来て下さい。

【授業の進め方】

授業は予習を大前提に進むので、履修者はテキストブックを読み、「予習のための Questions」に対する自分の解・考察をノートに書いたうえで授業に臨むこと。なお、授業終了時に毎回の課題が出されるので、授業支援システムに解・考察を書き込んで提出のこと。課題へのフィードバックは次回授業冒頭で行なう。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	テキスト序章を下敷きとする
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	なぜ教育は支配階級のためにしか存在しなかったのか？（プラトン『国家論』とジョン・デューイ『哲学の改造』を下敷き。テキスト第1章第1・2節、第4章第1節）
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	修道院・修道僧が「学校」「教師」のモデルになったのはなぜか？（エミール・デュルケイム『フランス教育思想史』を下敷き。テキスト第1章第3節）
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	中世に「こども」はいなかった？（フィリップ・アリエス『子供の誕生』を下敷き。テキスト第4章第1節）
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	絶対王政に対抗する市民社会で生まれた教育思想はどのようなものか？（ルソーとコメニウスを取り上げる。テキスト第2章第1～3節）
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命による社会変化は教育観・方法論にどのような影響をもたらしたか？（助教法・ベル＝ランカスターシステムを取り上げる。テキスト第3章第1～3節）
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	帝国主義はなぜ・どのように近代公教育制度の成立を促したか？（テキスト第3章第4節）

第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	「児童の世紀」と「児童中心主義」が生まれてきた社会的背景はどのようなものか？（エレン・ケイ『児童の世紀』とジョン・デューイ『子どもとカリキュラム』を下敷き。テキスト第3章第4節）
第9回	発達と学習	「こども」から「おとな」へと人はどのように発達してゆくのか？（エリック・エリクソン『ライフサイクル、その終焉』を下敷き。テキスト第4章第2～3節）
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校給食か手作り弁当か？——公教育と家庭・養育の関係性とその歴史的変遷
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	知識伝達型授業か知識活用型授業か？——児童中心主義とカリキュラムの中心統合理論との融合
第12回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	PISA型学力と各国の教育コンテキスト
第13回	個性・能力・学力と教育思想	集団教育か個別教育か？——「否定」の困難を中心に
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	教育の基礎的な諸概念を中心に総まとめ。筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進め方と方法を参照。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

簡井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】

・簡井美紀（2014）『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマニシスト社・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史の変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の3つの方法で確認し評価します。
毎回授業終了時提出の課題 24%（2×12回）、期末論述試験 76%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドは、図や表によるまとめを多くしています。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion on the current educational issues

教育原理

飯窪 真也

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。フィードバックは次回の授業時に行います。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	授業で扱う内容を俯瞰します。
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	古代ギリシア・ローマ時代における教育の発祥について、当時の社会背景と結び付けながら考察します。
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	キリスト教社会の文脈とその文脈における教育の意味を考察します。
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	時代によって異なる「こども」の捉え方について考察します。
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	ルネッサンス期の社会やものの見方の変化に基づく教育についての考えを考察します。
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命を背景にした公教育黎明期の教育システムについて考察します。
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	近代的な国家の成立に伴う国家による教育の基本的な枠組みについて考察します。
第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	現代日本の教育整備の向かう方向について、その背景にある考え方から考察します。
第9回	発達と学習	教育を考える際の基本になる発達と学習の基礎的な考え方を学びます。
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育と家庭、地域社会の関係について、今日的な課題をとりあげ考察します。
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	教科指導・生徒指導の諸理論について学びます。
第12回	個性・能力・学力と教育思想	教育思想の背景にある個性・能力・学力の考え方について掘り下げます。
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割について、総括的に考察します。
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり（授業内試験）	授業で扱った内容を振り返り、次の学びへつなぎます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の内容について復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）

→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的諸概念を理解しているか、それをを用いて学校・教育の歴史の変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の3つの方法で確認し評価します。

授業への参加姿勢 30%、リアクションペーパー 30%、授業内論述試験 40%等により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.

Active learning; group discussion about today's educational issues

教育原理

澤里 翼

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的な概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的な概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

序盤は講義中心ですが、中盤以後は授業前半でグループで調べた内容を発表してもらい後半で解説や不足部分の講義を行います。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、全体で共有したり、個別にコメントを返したりしています。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	講師の紹介、今後の授業内容、評価の方針等についてもお話しします。
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	教育や教育学に影響を与えた、ギリシャの哲学者や中国の思想家等を紹介しします
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	「学校」の成立とその形態について扱います
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	子どもを生まれながらに「善」「悪」あるいは「白紙」とみる見方について発表してもらい・解説します。
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	教育における遺伝と環境の役割について過去の思想を追ったうえで、現在の展開について紹介しします
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	一斉教授の成立とそのメリットデメリットについて考えます
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	教育費負担のしくみがどうあるべきかについて議論しします
第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	学校を「監獄」とする見方について考えます
第9回	発達と学習	系統的学習と経験的学習について比較・考察しします
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校運営への家庭や地域の関わり方について議論しします。
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	いじめや体罰などの教育問題について考えます
第12回	個性・能力・学力と教育思想	教育格差、学力格差の問題について扱います。
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	学校の運営や教師の働き方について考えます
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	小テスト実施予定です

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループの担当箇所について調べ、発表してもらいます。最低1回は授業外でグループの打ち合わせが必要になると思います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません

【参考書】

・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局・筒井美紀（2014）『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）

→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（各回提出してもらいアクションペーパー）10%

小テスト 10%

授業への貢献度（ミニ・グループ・ディスカッション）40%

期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムにできるだけ資料をアップするようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

・授業に出席の際にはマスクの着用をお願いします。

・授業支援システムなどを利用して課題等を提示しますので、体調がすぐれない時などには無理をせずご相談ください。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.

Active learning; group discussion about today's educational issues

教育の制度・経営

植竹 丘

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原則として担当者による講義を行う。毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい、発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、次回でリアクションを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容、進め方、評価方法、科学的に教育現象を見る
第2回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第3回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第4回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割、教育政策決定過程について
第5回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第6回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について、義務教育費国庫負担金制度、教員給与制度について
第7回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第8回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第9回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第10回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第11回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第13回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく、専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第14回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣。
 勝野正章・村上祐介（2020）『新訂 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会。
 小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社。
 青木栄一・川上泰彦（2019）『教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会。
 小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房。
 小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会。
 藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター。
 藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店。

日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版。
 文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%
 疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントシートとして疑問点を提出させ、次回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大学設置基準第21条第2項の規定に基づき、一単位時間あたり最低4.5時間の自主学習が求められる。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育の制度・経営

仲田 康一

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を原則とする。リアクションペーパーを各回配り、フィードバックとする。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第2回	世界の教育改革	新自由主義・新保守主義の改革
第3回	憲法・教育基本法	戦後の憲法・教育基本法体制と学校教育体系とその変質
第4回	教育行政のしくみ	教育行政の構造と原則・計画行政の功罪
第5回	学習指導要領と教科書制度	教育課程法制、教育課程の編成と実施、教科書と補助教材、教科書検定について
第6回	教育財政制度と無償化	教育を受ける権利の保障をめぐる論点の確認～特に貧困・格差等
第7回	学校組織の法としくみ	学校制度・運営・教職員配置・組織構造
第8回	学級経営	日本の学級制度の意義や特殊性をめぐって
第9回	学校と教員の評価	standardization と accountability による教育改革
第10回	教員の成長と同僚性	教師の働く場としての学校・教師の権利と地位・同僚性のあり方
第11回	子どもの人権と学校	校則、懲戒・体罰、学校の助成/統制の問題など
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校安全法制
第13回	「チームとしての学校」	学校における多/他職種の連携について
第14回	地域・家庭・多様な専門家に関わった学校づくり	学校支援ボランティア・学校協議会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の再読、意見の言語化。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定せず、授業時に参考となるものを適宜示す。

【参考書】

勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学（改訂新版）』学文社
小川正人・勝野正章『改定版 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40%程度）、定期試験（60%程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記入を求めたが、それを読む限り時事に触れるトピックは関心が高く、メディアで語られていることを場合によっては相対化することが学生の関心を呼んでいたため、今年度もそうした問題を敏感に取り入れるよう心がける。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育の制度・経営

高野 良一

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業内容の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えること。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、これには危機管理や安全対策、地域との連携も含まれる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。なお、授業は原則的に対面ですが、コロナ感染症等へ対応で変更、ZOOM との併用になることもあります。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業のテーマと構成、進め方と評価、日本の学校改革の今
第 2 回	世界の教育改革	学校体系の国際比較、米国の学校制度改革、日本の学校制度改革
第 3 回	憲法・教育基本法	憲法の教育条項、教育基本法の新旧比較、教基法の1～3条
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省、教育委員会、地教法と学校
第 5 回	教育内容行政	学習指導要領改訂、教科書制度、カリキュラム・マネジメント
第 6 回	教育財政と無償制	無償制、国庫負担金・補助金、「受益者負担」、就学援助と教育扶助
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校管理規則、校長とミドルリーダー、校務分掌
第 8 回	学級経営	学級の誕生と性格、学級編制基準、少人数学級・指導
第 9 回	学校と教員の評価	学校評価、教員評価、PDCA
第 10 回	教員の成長と同僚性	「学び続ける教師」、同僚としての教師、授業研究
第 11 回	子どもの人権と学校	子どもの人権、学校の指導文化、校則
第 12 回	教師・学校の危機管理・安全対策	危機管理・安全対策「元年」、学校保健安全法、3・11の教訓
第 13 回	「チームとしての学校」	「チーム学校」政策、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー、「働き方改革」
第 14 回	学校と地域の連携	学校と地域の連携、コミュニティスクール、まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員が必要に応じて指定する。

【参考書】

本図愛実・末富芳編著『新・教育の制度と経営【三訂版】』学事出版
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（30%程度）、定期試験（70%程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーの記述を見ると、学んだ知識を踏まえて、自らの体験や意見を書くことに不慣れである。他者との意見交換の機会も増やしながらか、基礎知識を理解し自らの考えをまとめる力を養うことに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育の制度・経営

植竹 丘

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原則として担当者による講義を行う。毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい、発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、次回でリアクションを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容、進め方、評価方法、科学的に教育現象を見る
第 2 回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割、教育政策決定過程について
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第 6 回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について、義務教育費国庫負担金制度、教員給与制度について
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第 8 回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第 9 回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第 10 回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第 11 回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第 13 回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく、専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣。
 勝野正章・村上祐介（2020）『新訂 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会。
 小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社。
 青木栄一・川上泰彦（2019）『教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会。
 小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房。
 小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会。
 藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター。
 藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店。

日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版。
 文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%
 疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントシートとして疑問点を提出させ、次回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大学設置基準第 21 条第 2 項の規定に基づき、一単位時間あたり最低 4.5 時間の自主学習が求められる。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育心理学

田澤 実

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、外的及び内的要因の相互作用
 ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
 ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
 ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
 ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程並びに特徴を理解する。
 ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義、リアクションペーパー提出。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要および成績評価等を説明する。
第2回	教育における発達理解の意義	発達と教育の関連
第3回	対人関係の発達	幼児、児童及び生徒の対人関係の発達および主体的学習を支える集団づくりの理解
第4回	認知の発達	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達
第5回	アイデンティティ	心身の発達過程、外的及び内的要因の相互作用
第6回	学習の理論	様々な学習の形態や概念
第7回	学習の指導	主体的な学習活動を支える指導の基礎
第8回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけ
第9回	学習の評価	主体的学習を支える学習評価の在り方
第10回	記憶の種類	様々な学習の過程を説明する代表的理論
第11回	性格の理解	乳幼児期から青年期の各時期における個人差
第12回	性格の様々な測定方法	個人差の測定方法
第13回	発達障害の理解	3つの発達障害の具体的特徴および歴史的背景
第14回	発達障害の支援・指導	3つの発達障害の具体的特徴を踏まえた学習支援と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにアップロードする。各自で印刷して持参する。

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第3版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
 文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）、授業への積極的参加（30%）で評価

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当せず。一昨年度の授業の感想や試験結果を踏まえ、授業で扱うテーマについて一部変更を加えた。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

軽部 雄輝

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、子どもの健全な成長と発達、および人格形成を援助する教育場面に関わる心理学的理論と方法について学ぶ。具体的には、下記に関するトピックについて扱う。

・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、外的及び内的要因の相互作用
 ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
 ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
 ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
 ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程並びに特徴を理解する。
 ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で以下の4つのトピックを扱う。

- 【発達】：幼児、児童及び生徒の心身の発達過程についての知識（第2回～第5回）
 - 【学習】：幼児、児童及び生徒の学習の過程や発達を踏まえた学習を支える指導（第6回～第10回）
 - 【パーソナリティ】：幼児、児童及び生徒の特徴を理解するときの視点（第11回～第12回）
 - 【臨床】：特別な教育的ニーズをもつ子どもへの援助（第13回～第14回）
- なお、各回の授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。
第2回	教育における発達理解の意義	教育場面における発達を理解することの意義を取り上げ、理解する。
第3回	対人関係の発達	乳幼児期から青年期における対人関係の発達と課題について理解する。
第4回	認知の発達	ピアジェの理論を中心として、乳幼児期から青年期における認知発達を理解する。
第5回	アイデンティティ	乳幼児期から青年期の各時期における発達課題と、アイデンティティとの関連について紹介する。
第6回	学習の理論	幼児、児童及び生徒の学習の過程を扱う。様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
第7回	学習の指導	学習指導・生徒指導のあり方を理解する。
第8回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけを紹介し、やる気メカニズムについて理解する。
第9回	学習の評価	学習評価・教育評価のあり方を理解する。
第10回	記憶の種類	記憶の構造や種類を説明し、認知の特徴と関連づけて理解する。
第11回	性格の理解	パーソナリティ研究の観点から、幼児、児童及び生徒の特徴を理解する。
第12回	性格の様々な測定方法	性格テストを体験する。心理学的な測定として、質問紙法、作業検査法、投影法を紹介する。
第13回	発達障害の理解	発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についてその特徴を紹介する。
第14回	発達障害の支援・指導	発達を踏まえた学習支援や生活指導についての基礎的な考え方を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容に関するレポート及び演習問題等の課題が課されることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著） 2012 『実践につながる教育心理学』北樹出版

櫻井茂男（編） 2017 『改訂版のしく学べる最新教育学—教職に関わるすべての人に—心理学』 図書文化

吉川成司・関田和彦・鈎治雄（編著） 2010 『はじめて学ぶ教育心理学』ミネルヴァ書房

子安増生ら 2015 『教育心理学 第3版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でのグループディスカッションや体験学習等を取り入れ、受講生間の意見交換や実践的な疑似演習の機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターを利用する。

講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。

【その他の重要事項】

担当者は、適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して、本授業では理論のみならず、可能な限り具体的な実践場面への応用についても受講生とともに検討する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

児玉 茉奈美

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では教育心理学を学ぶことで、人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に、その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。

- ・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎
- ・教育現場で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】

- ・乳幼児や児童、および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・乳幼児や児童、および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
- ・現代社会で生じる問題について理解を深め、自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は学習支援システムを用いたオンラインでの開講となる（資料配布型）。毎回リアクションペーパーの提出を課題とし、次の授業までにフィードバック資料を授業資料のひとつとして掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する
第2回	発達理論	ピアジェやフロイト、エリクソンの古典的発達理論について説明する。
第3回	認知能力の発達	言語発達をはじめとした認知能力の発達について説明する。
第4回	社会情緒的能力の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達について説明する。
第5回	学習理論	学習のメカニズムについて説明する。
第6回	記憶	学習にとって重要な記憶のメカニズムについて説明する。
第7回	動機づけ	動機づけ理論について説明し、意欲を高めるにはどうすれば良いか考える。
第8回	学習の指導・介入	学習者への指導や介入の方法について説明する。
第9回	学習の評価	教育目的や方法に応じて、どのように学習評価の観点や時期、評価者を検討するかを説明する。
第10回	学級集団	教師と子どもや、子ども同士の関係が子どもに与える影響について説明する。
第11回	個人差の理解（知能／パーソナリティ）	知能やパーソナリティについて説明する。
第12回	発達障がい理解と支援	発達障がいの特徴や支援について説明する。
第13回	現代的課題（いじめ／虐待）	いじめや虐待のメカニズムや介入について説明する。
第14回	現代的課題（不登校／LGBTQ）	不登校やLGBTQの特徴や介入について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準備学習] 次回の授業内容について、参考書該当箇所を一読し、配布資料の穴埋めをする。

[復習] レジュメを参照しながら、学んだ概念、それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。

本授業の準備学習および復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

鎌原雅彦・竹鋼誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第5版〕 有斐閣（2090円）

櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）（2018）実践につながる教育心理学 北樹出版（2200円）

児玉佳一（編）（2020）やさしく学ぶ教職課程：教育心理学 学文社（2300円）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50％、リアクションペーパー 50％

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のオンライン授業で、配布資料を掲示したままにしてほしいとの要望があったため、学期末まで掲示したままとする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

山上 真貴子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。提出された最終課題については、最終授業、または、「学習支援システム」にて全体講評をフィードバックする予定である。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	教育における発達理解の意義	発達に応じた学びについて考える。
第2回	認知の発達	学びの背後にある認知発達について考える。
第3回	対人関係の発達	学びを支える家族・仲間・教師との人間関係を考える。
第4回	アイデンティティ	学びと深くつながる自己・アイデンティティについて考える。
第5回	記憶の種類	記憶の仕組みについて知り、学びについての理解を深める。
第6回	学習の理論	学習についてのさまざまな心理学の理論を紹介する。
第7回	学習の指導	理論をもとに、教える方法・学ぶ方法について考える。
第8回	動機づけ	学びを支える「やる気」について考える。
第9回	学習の評価	学びをうながす教育評価について考える。
第10回	性格の理解	学びの中で生じる個人差をはじめとし、さまざまな性格のとらえ方について理解する。
第11回	性格の様々な測定方法	性格は測れるのか。さまざまな測定法から性格に迫る。
第12回	発達障害の理解	近年注目の集まる発達障害とはどんなものかを概説する。
第13回	発達障害の支援・指導	発達障害の具体的な支援・指導とは何かを考える。
第14回	試験・まとめと解説	試験とその解説、および、後期を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

興味を持ったトピックについて、積極的に文献を参照し、理解を深めてください。また、授業ごとに課題されるまとめの問題について復習しておきましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムに事前に授業資料をアップします。初回はこちらで印刷・配布しますが、2回目以降は原則として、各自印刷して授業にご持参下さい。

【参考書】

鎌原雅彦ら 2019『やさしい教育心理学 第5版』有斐閣アルマ
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業への積極的参加（30%）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。

昨年度に引き続き、なかなか先の読めない状況ですが、状況に応じて対応していきたいと思っておりますので、困ったことなどあれば適宜ご相談下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに授業資料をアップします。各自、事前に忘れず印刷して持参してください。また、今後学習支援システム経由でお知らせ発信をする可能性もありますので、このシステムの使い方に慣れておくようにして下さい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

遠藤 裕子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切にした授業を行います。

講義の他、文献講読、グループディスカッション、授業内での発表など、さまざまな授業形態を体験することで、主体的に学ぶことができるようにします。

オンデマンド教材（動画、資料）の提供を行います。

・授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が14回の授業で学ぶことを確認します。
第2回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第3回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第4回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達の過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりの違いや、学校教育について考えます。
第5回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第6回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第7回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。
第8回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。

第9回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第10回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第11回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第12回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介します。さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。
第13回	発達障害の理解	発達障害について正しく学び、理解を深めます。
第14回	発達障害の支援・指導	発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題などは授業日に完結することを基本としますが、事前に文献を読むことや授業内で取り組んだワークシートなどを用いての復習が必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、必要に応じて、参考文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第3版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣 2100円＋税
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出をもって出席とします。リアクションペーパーへの記載内容、まとめのレポートを採点したものを総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの授業改善アンケートでは、すべての項目で概ね良い評価を得ました。特にさまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気での授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

児玉 茉奈美

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では教育心理学を学ぶことで、人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に、その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。
・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎
・教育現場で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】

・乳幼児や児童、および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童、および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・現代社会で生じる問題について理解を深め、自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は学習支援システムを用いたオンラインでの開講となる（資料配布型）。毎回リアクションペーパーの提出を課題とし、次の授業までにフィードバック資料を授業資料のひとつとして掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する
第2回	発達理論	ピアジェやフロイト、エリクソンの古典的発達理論について説明する。
第3回	認知能力の発達	言語発達をはじめとした認知能力の発達について説明する。
第4回	社会情緒的能力の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達について説明する。
第5回	学習理論	学習のメカニズムについて説明する。
第6回	記憶	学習にとって重要な記憶のメカニズムについて説明する。
第7回	動機づけ	動機づけ理論について説明し、意欲を高めるにはどうすれば良いか考える。
第8回	学習の指導・介入	学習者への指導や介入の方法について説明する。
第9回	学習の評価	教育目的や方法に応じて、どのように学習評価の観点や時期、評価者を検討するかを説明する。
第10回	学級集団	教師と子どもや、子ども同士の関係が子どもに与える影響について説明する。
第11回	個人差の理解（知能／パーソナリティ）	知能やパーソナリティについて説明する。
第12回	発達障がい理解と支援	発達障がいの特徴や支援について説明する。
第13回	現代的課題（いじめ／虐待）	いじめや虐待のメカニズムや介入について説明する。
第14回	現代的課題（不登校／LGBTQ）	不登校やLGBTQの特徴や介入について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準備学習] 次回の授業内容について、参考書該当箇所を一読し、配布資料の穴埋めをする。

[復習] レジュメを参照しながら、学んだ概念、それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。

本授業の準備学習および復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

児玉佳一（編著）（2019）やさしく学ぶ教職課程：教育心理学 学文社（2300円＋税）
鎌原雅彦・竹鋼誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第5版〕 有斐閣（2090円）
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）（2018）実践につながる教育心理学 北樹出版（2200円）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %，リアクションペーパー 50 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のオンライン授業にて、配布資料を掲示したままにしてほしいとの要望があったため、学期末まで掲示することとする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育課程論

飯窪 真也

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーに対するフィードバックは次の授業時に行います。

講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画－同時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容の復習を行ってください。指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（40 %）、課題（20 %）、授業内試験（40 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

川津 貴司

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作った「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	学力論の系譜	学力はどのように問題となってきたか
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方
第 10 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	指導計画のデザイン
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 13 回	カリキュラム評価	P D C A サイクルとカリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめとテスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は指定なし。プリントを配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解したか、という観点から評価を行う。毎回の小レポート（50%）、発表の内容（30%）、最終レポート（20%）をもとに総合的に評価する。定期試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生のニーズを考えながら、柔軟な授業展開をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

飯窪 真也

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーに対するフィードバックは今回の授業時に行います。

講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容の復習を行ってください。指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（40 %）、課題（20 %）、授業内試験（40 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

黄 郁倫

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、カリキュラムに関して、その概念の歴史の変遷、近年の改革動向、特徴的な開発事例、という 3 つの観点から扱うことによって、より多角的に理解することを目指す。また、カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方について理解する。

【到達目標】

21 世紀社会の資質・能力の育成を目指した教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進み方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTR などでも利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂のポイント	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方
第 9 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 10 回	教育課程と指導計画 (1)	指導計画のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画 (2)	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 12 回	教育課程と指導計画 (3)	教科・領域の横断
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめ	日本における特徴的なカリキュラム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996 年

佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年

秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %

ホームワーク 20 %

期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】

This class aims at providing diverse understanding of the concept of curriculum by introducing it from three perspectives: historical changes of the concept, recent reform trends, and characteristic reform cases. In addition, through studying researches on curriculum and the curriculum guidelines, it is hoped to help students to understand the significance of curriculum as well as the practical way to organize, design, study, and evaluate it.

教育課程論

飯窪 真也

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーに対するフィードバックは次の授業時に行います。

講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画ー通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画ー教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（40 %）、課題（20 %）、授業内試験（40 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育方法論

岩本 俊一

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、教育における方法の問題を、教授技術の学として成立するにいたる道筋をたどる中で論じるとともに日本の学校教育における具体的ありかたをいくつかの実践例を取り上げて分析する。さらにまた教育方法論の基本的な問題である生活指導と学習指導の関係について、我が国のカリキュラム体系と関連づけて考察する。

上記講義内容に関する理解を助けるため、我が国の学校における教育課程の概要及び具体的な実践例等、諸資料を適宜配布する。そのさい、情報機器、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る。

課題等を課した場合には、課題締切後の授業冒等、適宜フィードバックの機会を設ける予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ねらいと概要
第 2 回	教育方法と教師の専門性	・教師の専門性について考える
第 3 回	教育方法の基礎的理論	・児童生徒の学びと学習理論について考える。
第 4 回	新学習指導要領と教育方法	・新学習指導要領と資質・能力の育成について論じる
第 5 回	教育の内容と学習活動	・単元の学習活動の構想 ・教育の内容と学習活動
第 6 回	学習活動と学習環境	・学習活動と学習環境について論じる ・学習環境としての学校について考える。
第 7 回	教育目標の明確化	単元学習活動における目標及び設定について論じる
第 8 回	学力と評価の観点	・評価の考え方・進め方について論じる
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	・主体的な学び/対話的な学びについて論じる
第 10 回	個に応じた指導の工夫	・個に応じた指導について考える
第 11 回	情報機器及び教材の活用	・情報機器の基本的な使用方法及び活用方法について
第 12 回	発問や板書などの指導技術	発問や板書などの指導の基本的技術について論じる
第 13 回	教育評価	・評価の考え方・進め方について論じる
第 14 回	授業のまとめ、テスト	・ふりかえりと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に内容をまとめる等、復習を通じて理解を深めるようにすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めないが、参考文献などは適宜授業内において指示する予定である。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験 100 % で評価する。

平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

教育方法論

松尾 知明

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資質・能力を育成する教育への転換が求められるなかで、教育の現場では教師一人ひとりに授業デザイン力が求められる時代になっている。この授業では、資質・能力を育てる授業デザインや教育方法について検討するとともに、その知見をもとに単元指導計画を効果的にデザインする。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
2	教育方法及び教師の専門性	学びのデザイン力をつけるには
3	教育方法の基礎的理論	学びと学習理論
4	主体的・対話的で深い学び	思考力を育む
5	個に応じた指導の工夫	一斉指導から個に応じた指導へ
6	新学習指導要領と教育方法	資質・能力の育成に向けて
7	教育の内容と学習活動	単元と指導計画、学習活動の構想
8	学習活動と学習環境	学習活動の構想
9	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
10	学力と評価の観点	評価規準の設定
11	情報機器及び教材の活用	学びのツール
12	教育評価	評価の考え方・進め方
13	発問や板書などの指導技術	授業を実践する
14	まとめ	授業の振り返り、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、教科書の該当する部分や資料を読んでくるとともに、課された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30％）、課題（40％）、テスト（30％）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の組み立て方を工夫をする。

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

教育方法論

黄 郁倫

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、教育の方法を「学び」、「教師」、「授業」の三つの観点から理解することを通して、教育の実践に携わるために必要な理論的知見を養う。また、教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】

1. 教育の方法に関する多様な理論や概念に触れ、現代の授業実践に対する影響を理解する。
2. グループワークを通して、観方や考え方の違う他者と協同する経験を持つ。
3. 資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTR などでも利用できるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、コメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	学びのデザイン力をつける	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びの学習理論
第 4 回	二十一世紀の学び	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	単元の学習活動の構想 (1)	教育内容と学習活動
第 6 回	単元の学習活動の構想 (2)	学習活動の構想
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	授業研究	授業研究の手法
第 9 回	教育方法 (1)	主体的・対話的・深い学び
第 10 回	教育方法 (2)	個に応じた指導の工夫
第 11 回	教育方法 (3)	情報機器及び教材の活用
第 12 回	教育方法 (4)	教育の基礎的な技術
第 13 回	教育評価	真正の評価の考え方・進め方
第 14 回	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容は、前時までの内容を前提としていることが多い。このため、レジュメを見直し、参考文献にこまめに当たるなど、復習をきちんと行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査などが宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40％
ホームワーク 20％
期末レポート 40％

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションと個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】

This class aims at cultivating students' theoretical knowledge necessary for engaging in the practice of education through introducing the method of education from three viewpoints: "learning", "teacher", and "class." It is hoped that through this class students will learn basic concepts, ways of thinking, as well as methods and techniques to design a class.

教育方法論

川津 貴司

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作った「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	教育方法と教師の専門性	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びと学習理論
第 4 回	新学習指導要領と教育方法	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	教育の内容と学習活動	活動的な学びの組織化
第 6 回	学習活動と学習環境	環境づくりの視点
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	学力と評価の観点	評価規準の設定
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	対話の重要性
第 10 回	個に応じた指導の工夫	個性を生かす方法
第 11 回	情報機器及び教材の活用	情報機器の効果的な使用方法
第 12 回	発問や板書などの指導技術	授業事例から学ぶ
第 13 回	教育評価	評価の際の留意点
第 14 回	授業のまとめ、テスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回テキスト（課題）を読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付け、単元指導計画を効果的に作成することができるか、という観点から評価を行う。

毎回の小レポート（50%）、発表の内容（30%）、最終レポート（20%）をもとに総合的に評価する。

定期試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生のニーズも考えながら、柔軟な授業展開をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

教育方法論

黄 郁倫

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、教育の方法を「学び」、「教師」、「授業」の三つの観点から理解することを通して、教育の実践に携わるために必要な理論的知見を養う。また、教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】

1. 教育の方法に関する多様な理論や概念に触れ、現代の授業実践に対する影響を理解する。
2. グループワークを通して、観方や考え方の違う他者と協同する経験を持つ。
3. 資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTR などでも利用できるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回の授業の際には、コメントペーパーの提出を求める。また、振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	学びのデザイン力をつける	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎理論	児童生徒の学びの学習理論
第 4 回	二十一世紀の学び	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	単元の学習活動の構想 (1)	教育内容と学習活動
第 6 回	単元の学習活動の構想 (2)	学習活動の構想
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	授業研究	授業研究の手法
第 9 回	教育方法 (1)	主体的・対話的・深い学び
第 10 回	教育方法 (2)	個に応じた指導の工夫
第 11 回	教育方法 (3)	情報機器及び教材の活用
第 12 回	教育方法 (4)	教育の基礎的な技術
第 13 回	教育評価	真正の評価の考え方・進め方
第 14 回	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容は、前時までの内容を前提としていることが多い。このため、レジュメを見直し、参考文献にこまめに当たるなど、復習をきちんと行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査などが宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %
ホームワーク 20 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションと個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】

This class aims at cultivating students' theoretical knowledge necessary for engaging in the practice of education through introducing the method of education from three viewpoints: "learning", "teacher", and "class." It is hoped that through this class students will learn basic concepts, ways of thinking, as well as methods and techniques to design a class.

教育相談

田澤 実

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義とリアクションペーパー提出。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学校における教育相談の意義
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児、児童の心理的特質や教育的課題
第 3 回	青年期の発達	生徒の心理的特質や教育的課題
第 4 回	成人期の発達	保護者の心理的特質
第 5 回	カウンセリングの基礎	カウンセリングにおける基本的態度
第 6 回	カウンセリングの技法	カウンセリングにおける傾聴、質問技法
第 7 回	教育相談の進め方	教育相談を進める際に必要な基礎的知識
第 8 回	非行に関する相談	非行に関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 9 回	いじめに関する相談	いじめに関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 10 回	不登校に関する相談	不登校に関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 11 回	虐待に関する相談	虐待に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりに関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 13 回	発達障害に関する相談	発達障害に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 14 回	外部機関との連携	組織的な取組みや連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

渡部昌平（編著）柴田健・田澤実 2018「実践 教育相談～個人と集団を伸ばす「最強のクラス作り」～」川島書店

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（70 %）、積極的参加（30 %）にて評価

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当せず。一昨年度の授業の感想や定期試験の回答傾向を総合的に判断して扱うテーマや内容に一部変更を加えた。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

土屋 弥生

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこないます。授業の中で適宜、課題解決型の学習を取り入れます。また、小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったテストやレポート等、課題に対する講評や解説も行います。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 3 回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 4 回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 5 回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第 6 回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第 7 回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 11 回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 13 回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 14 回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・第 1 回「ガイダンス」

事前学習（2 時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。

事後学習（2 時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。

・第 2 回「幼児期、児童期の発達」

事前学習（2 時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第 3 回「青年期の発達」

事前学習（2 時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第 4 回「成人期の発達」

事前学習（2 時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第 5 回「カウンセリングの基礎」

事前学習（2 時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。

・第 6 回「カウンセリングの技法」

事前学習（2 時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。

・第 7 回「教育相談の進め方」

事前学習（2 時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。

・第 8 回「非行に関する相談」

事前学習（2 時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 9 回「いじめに関する相談」

事前学習（2 時間）いじめの現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 10 回「不登校に関する相談」

事前学習（2 時間）不登校の現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 11 回「発達障害に関する相談」

事前学習（2 時間）発達障害について、厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 12 回「ひきこもりに関する相談」

事前学習（2 時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 13 回「虐待に関する相談」

事前学習（2 時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 14 回「外部機関との連携」

事前学習（2 時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

春日井敏之ら（編）2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

文部科学省 2010『生徒指導提要』教育図書

文部科学省 HP <https://www.mext.go.jp/>

厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>

内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

小テスト（30%）、課題および期末レポート（60%）、平常点（10%）とする。小テスト、課題、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

児玉 茉奈美

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、子どもの理解とかかわりの基本的な視点、子どもが現実にかかえる不適應の問題、そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解することを目指す。

【到達目標】

- ・乳幼児や児童、および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・乳幼児や児童、および生徒とのかかわりの基本的な視点を身につける。
- ・現代社会で子どもがかかえる問題について理解を深め、そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は学習支援システムを用いたオンラインでの開講となる（資料配布型）。毎回リアクションペーパーの提出を課題とし、次の授業までにフィードバック資料を授業資料のひとつとして掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	子どもの発達	古典的な発達理論を学んだ上で、子どもの対人関係の発達について説明する。
第 3 回	不適應の子どもの理解とかかわり	発達段階ごとの不適應とつまずきを理解し、子どもとのかかわりを考える。
第 4 回	ストレス	ストレス理論やそのコーピングストラテジー（対処方略）について説明する。
第 5 回	精神障害	不安障害やうつ病、統合失調症、摂食障害について説明する。
第 6 回	発達障がい	自閉症スペクトラムや ADHD、LD について説明する。
第 7 回	不登校	不登校の子どもを理解するため、その背景や支援について説明する。
第 8 回	いじめ	いじめをする／される子どもを理解するため、その背景や支援について説明する。
第 9 回	暴力行為	暴力行為をする／される子どもを理解するため、その背景や支援について説明する。
第 10 回	子ども虐待	子ども虐待を受ける子どもやしてしまう親を理解するため、その背景や支援について説明する。
第 11 回	心理教育的アセスメント	見る・聴く・測るという 3 つのアセスメント方法について説明する。
第 12 回	カウンセリングの理論	精神分析療法や行動療法、クライアント中心療法といった、カウンセリングの基本的な理論について説明する。
第 13 回	カウンセリングの実践	教育機関におけるカウンセリングの方法について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	教員同士だけではなく、保護者や関係機関との連携の重要性とその方法について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準備学習] 次回の授業内容について、テキスト該当箇所を一読し、配布資料の穴埋めをする。

[復習] レジューメを参照しながら、学んだ概念、それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。

本授業の準備学習および復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

黒田祐二（2018） 実践につながる教育相談 北樹出版 （2100 円）

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、リアクションペーパー 50 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のオンライン授業で、復習のため資料の掲示期間を長くしてほしいという要望があった。そのため、配布資料の掲示は授業期間終了までとする予定である。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

山上 真貴子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的の事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。提出された最終課題については、最終授業、または、「学習支援システム」にて全体講評をフィードバックする予定である。
 大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	教育相談の進め方	一般的な教育相談の進め方について概説する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 3 回	青年期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 4 回	成人期の発達	小中高を過ぎれば教育相談の範囲外？一困りごとはいきなり消えてはくれない。
第 5 回	不登校に関する相談	不登校の現状について解説し、事例を用いて不登校に関する相談について考える。
第 6 回	いじめに関する相談	いじめの現状について解説し、事例を用いていじめに関する相談について考える。
第 7 回	非行に関する相談	非行の現状について解説し、事例を用いて非行に関する相談について考える。
第 8 回	虐待に関する相談	虐待の現状について解説し、事例を用いて虐待に関する相談について考える。
第 9 回	発達障害に関する相談	発達障害の現状について解説し、事例を用いて発達障害に関する相談について考える。
第 10 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状について解説し、事例を用いて引きこもりに関する相談について考える。
第 11 回	カウンセリングの基礎	スクールカウンセラーって何をする人？
第 12 回	カウンセリングの技法	さまざまなカウンセリングの技法を紹介する。
第 13 回	外部機関との連携	どんな機関と、どう連携すれば良いか、事例を用いて考える。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とその解説、および、後期を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

興味を持ったトピックについて、授業内で紹介する文献を含めた関連書を積極的に参照すること。授業で紹介する各事例については、授業後に再度熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、事前に授業支援システムにアップした資料を使用する。初回はこちらで印刷・配布するが、原則として第 2 回以降は各自印刷して持参するようにして下さい。

【参考書】

春日井敏之ら（編）2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

試験（40％）、レポート（30％）、積極的参加（30％）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や間相当を書いていた
だきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力
授業中にフィードバックを行います。

昨年度に引き続き、なかなか先の読めない状況ですが、状況に応じて対応し
ていきたいと思っておりますので、困ったことなどあれば適宜ご相談下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに授業資料をアップしますので、必ず事前に印刷してきて
下さい。また、今後学習支援システム経由でお知らせ発信をする可能性もあ
りますので、このシステムの使い方に慣れておくようにして下さい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding
of the basic knowledge on educational counseling and organizational
approach.

教育相談

遠藤 裕子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを旨とする。

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切にしながら授業を行います。講義の他、文献講読、グループセッション、授業内での発表などを取り入れて、主体的に学ぶことができるようにします。

オンデマンド教材（動画、資料）の提供を行います。

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

1. 【教育相談の意義及び理論】（第1回～第4回）

・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念

2. 【教育相談の方法】（第5回～第6回）

・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識

3. 【教育相談の展開】（第7回～第14回）

・幼児、児童及び生徒の不応や問題行動の意味

・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取組み並びに連携

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第3回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第4回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第5回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第6回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。

第7回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第8回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第9回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第10回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第11回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第13回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第14回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に文献を読む、また授業中に取り組んだワークシートを用いて復習する必要がある場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、必要に応じて、文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】

「教育相談の理論と方法」 会沢信彦編著 北樹出版
文部科学省 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出をもって出席とします。リアクションペーパーへの記載内容、まとめのレポートを採点したものを総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

学生のリアクションペーパーに、さまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気です授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

授業者は、小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、関連して、本授業では事例的トピックも取り上げ、可能な限り具体的な対応についても検討します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

土屋 弥生

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこないます。授業の中で適宜、課題解決型の学習を取り入れます。また、小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テストやレポート等、課題に対する講評や解説も行います。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第3回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第4回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第5回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第6回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第7回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第8回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。

第9回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第10回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第11回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第13回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第14回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・第1回「ガイダンス」
事前学習（2時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。
事後学習（2時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめる。
- ・第2回「幼児期、児童期の発達」
事前学習（2時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめる。
- ・第3回「青年期の発達」
事前学習（2時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめる。
- ・第4回「成人期の発達」
事前学習（2時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめる。
- ・第5回「カウンセリングの基礎」
事前学習（2時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめる。
- ・第6回「カウンセリングの技法」
事前学習（2時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめる。
- ・第7回「教育相談の進め方」
事前学習（2時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめる。
- ・第8回「非行に関する相談」
事前学習（2時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」(Web 閲覧可)で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめる。
- ・第9回「いじめに関する相談」
事前学習（2時間）いじめの現状について、文部科学省のHP等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめる。
- ・第10回「不登校に関する相談」

- 事前学習（2時間）不登校の現状について、文部科学省のHP等で調べておく。
- 事後学習（2時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめる。
- ・第11回「発達障害に関する相談」
事前学習（2時間）発達障害について、厚生労働省HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめる。
- ・第12回「ひきこもりに関する相談」
事前学習（2時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」(Web 閲覧可)で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめる。
- ・第13回「虐待に関する相談」
事前学習（2時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」(Web 閲覧可)で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめる。
- ・第14回「外部機関との連携」
事前学習（2時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」(Web 閲覧可)で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

春日井敏之ら(編)2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房
文部科学省2010『生徒指導提要』教育図書
文部科学省HP <https://www.mext.go.jp/>
厚生労働省HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>
内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

小テスト（30%）、課題および期末レポート（60%）、平常点（10%）とする。小テスト、課題、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

道徳教育指導論

土屋 創

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあつて、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心として授業を進める。適宜 DVD 等の視聴覚資料を用いるとともに、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを行う。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントシート等の内容を紹介し、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道徳教育を学ぶ意義について	授業の進め方に関するガイダンスを行うとともに、道徳教育を学ぶ意義について考察する。
第 2 回	道徳教育の現状と課題—「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領における道徳教育の位置づけ、「道徳の教科化」をめぐる議論、「評価」のあり方について検討する。
第 3 回	道徳教育の歴史	戦前および戦後の道徳教育について検討する。
第 4 回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	「心の教育」をめぐる議論について検討する。
第 5 回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	「いのちの教育」、「死の教育」について検討する。
第 6 回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	「人権教育」の視点から道徳教育のあり方を検討する。
第 7 回	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論について検討する。
第 8 回	悪の体験と子どもの発達	悪の体験と自己の変容、教育の限界点について考察する。
第 9 回	情報モラル	情報モラルおよび情報モラルに関する実践について検討する。
第 10 回	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育としての道徳教育について検討する。
第 11 回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の意義と、モラルジレンマ資料を用いた実践について検討する。
第 12 回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案の書き方、発問の分類等、指導案作成に関する諸事項について検討する。
第 13 回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介する。
第 14 回	全体のふりかえりとまとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業までに前回の学習内容の復習をする。授業中に提示された資料や参考文献を読み理解を深める。（本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業内にて資料を配付し、参考文献を紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？—「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011 年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシート（60 %）と各自作成する学習指導案（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の能動的な学びや考察を促すことができるよう、ディスカッションやフィードバックの方法について工夫する。

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

道徳教育指導論

田口 賢太郎

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自身が授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進める。授業の中で適宜グループワーク（ペアワーク）やディスカッション、プレゼンテーション等を課す。

また、前回授業にて課されたリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道徳教育を学ぶ意義について	道徳、倫理、マナー、ルールから「道徳教育の指導」を検討し、現代社会と学校の役割を考える。
第 2 回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	「資質・能力」から道徳教育を検討する。「道徳の時間」と「道徳科」を巡る議論を検討する。「学習評価方法の課題」を考える。
第 3 回	道徳教育の歴史	修身科と教育勅語を中心に戦前の道徳教育を検討する。道徳教育の戦後の推移を検討する。
第 4 回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	教育の諸言説にみる「心」について検討する。
第 5 回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	「生命の尊さ」「崇高なもの」を通じた道徳教育指導を検討する。
第 6 回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	人権の基本を踏まえ、差別、いじめについて考える。
第 7 回	道徳性の発達理論	発達論から道徳の指導を検討する。
第 8 回	悪の体験と子どもの発達	道徳の指導における「道徳を超える体験」について検討する。
第 9 回	情報モラル	情報化社会の進展と情報モラルについて検討する。
第 10 回	シティズンシップ教育について	市民としての道徳教育について検討する。
第 11 回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の基本とモラルジレンマ型授業展開上の注意について検討する。
第 12 回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	「道徳科」指導案の書き方を（本時の展開・発問の工夫を中心に）検討する。
第 13 回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	指導案を踏まえた実践について（導入の工夫・展開の構想・終末の注意点を中心に）検討する。
第 14 回	全体のふりかえりとまとめ	まとめとして道徳教育と学校教育の課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業各回にのぞんでは、前回までの学習内容の復習をし、指示された課題については必ず取り組む。

授業後は、授業中に提示された資料や参考文献を熟読し、各回のテーマの理解を深める。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」

文部科学省「中学校学習指導要領 解説 特別の教科 道徳編」2017 年

【参考書】

「小学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版 文部科学省）

井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）

松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？—「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011 年）

このほか、毎回の授業において、資料を配布し、また次回授業に関連する参考文献も提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における課題（60％）と 1 4 回目に行う達成度を確認するレポート（40％）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗については、学生から得た意見・要望をその都度伺いつつ、反映する。

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

道徳教育指導論

渡邊 優子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあつて、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自身が授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めるが、授業の中で適宜グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行う。また、授業の前半で、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道徳教育を学ぶ意義について	授業の進め方や評価方法についてのガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義について検討する。
第 2 回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領における道徳教育の位置付け、道徳の教科化、その評価などについて検討する。
第 3 回	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育について検討する。
第 4 回	心の教育について－学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえ、心の教育について検討する。
第 5 回	いのちの教育について－学習指導要領における「いのちの教育」	学習指導要領を踏まえ、いのちの教育について検討する。
第 6 回	人権教育について－学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえ、人権教育について検討する。
第 7 回	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論とそれへの批判を踏まえ、道徳性の発達について検討する。
第 8 回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の授業の意義を踏まえ、モラルジレンマ資料を用いた実践について検討する。
第 9 回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案の書き方、発問の仕方など、指導案作成のポイントについて検討する。
第 10 回	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
第 11 回	情報モラルについて	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育の事例について検討する。
第 12 回	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育としての道徳教育について検討する。
第 13 回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
第 14 回	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業までに前回の学習内容の復習をする。授業中に提示された資料や参考文献を読み理解を深めるとともに、課題については必ず取り組んだうえで授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、必要に応じて授業中に資料を配布、参考文献を紹介する。

【参考書】

井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か?』（日本図書センター、2011 年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシート（60 %）と各自作成する道徳の学習指導案（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやディスカッションを実施する際には、履修者が活動しやすいように授業の展開において工夫する。授業中に実施するワークのねらい等を示すことで、履修者自身による能動的な学びをサポートする。

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

道徳教育指導論

田口 賢太郎

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自身が授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進める。授業の中で適宜グループワーク（ペアワーク）やディスカッション、プレゼンテーション等を課す。

また、前回授業にて課されたリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道徳教育を学ぶ意義について	道徳、倫理、マナー、ルールから「道徳教育の指導」を検討し、現代社会と学校の役割を考える。
第 2 回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	「資質・能力」から道徳教育を検討する。「道徳の時間」と「道徳科」を巡る議論を検討する。「学習評価方法の課題」を考える。
第 3 回	道徳教育の歴史	修身科と教育勅語を中心に戦前の道徳教育を検討する。道徳教育の戦後の推移を検討する。
第 4 回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	教育の諸言説にみる「心」について検討する。
第 5 回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	「生命の尊さ」「崇高なもの」を通じた道徳教育指導を検討する。
第 6 回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	人権の基本を踏まえ、差別、いじめについて考える。
第 7 回	道徳性の発達理論	発達論から道徳の指導を検討する。
第 8 回	悪の体験と子どもの発達	道徳の指導における「道徳を超える体験」について検討する。
第 9 回	情報モラル	情報化社会の進展と情報モラルについて検討する。
第 10 回	シティズンシップ教育について	市民としての道徳教育について検討する。
第 11 回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の基本とモラルジレンマ型授業展開上の注意について検討する。
第 12 回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	「道徳科」指導案の書き方を（本時の展開・発問の工夫を中心に）検討する。
第 13 回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	指導案を踏まえた実践について（導入の工夫・展開の構想・終末の注意点を中心に）検討する。
第 14 回	全体のふりかえりとまとめ	まとめとして道徳教育と学校教育の課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業各回にのぞんでは、前回までの学習内容の復習をし、指示された課題については必ず取り組む。

授業後は、授業中に提示された資料や参考文献を熟読し、各回のテーマの理解を深める。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」

文部科学省「中学校学習指導要領 解説 特別の教科 道徳編」2017 年

【参考書】

「小学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版 文部科学省）

井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）

松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？—「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011 年）

このほか、毎回の授業において、資料を配布し、また次回授業に関連する参考文献も提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における課題（60％）と 1 4 回目に行う達成度を確認するレポート（40％）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生から得た意見・要望をその都度伺いつつ、反映する。

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

特別活動論

中村 岳夫

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質について理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養、実践力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。授業で提出されたリアクションペーパーをまとめたものを次回までに講義通信としてまとめ、次の授業でいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。対面授業を基本とするが、状況によって ZOOM によるオンライン授業となる場合もある。その場合には、「学習支援システム」を通じて指示・連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の方針・流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法 ～指導案プレゼン前討議
第 7 回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開 ～指導案プレゼン①
第 8 回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動 ～指導案プレゼン②
第 9 回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第 10 回	学校行事	協同的創造の実践 ～学校行事・学年行事
第 11 回	部活動	民主的運営の視点と実践
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の実践と課題
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の実践と課題
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。本授業の準備学習・復習等の時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（50 %）、課題プレゼン（25 %）、授業内試験（25 %）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら学校現場からの視点を意識して授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

中村 岳夫

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養、実践力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。授業で提出されたリアクションペーパーをまとめたものを次回までに講義通信としてまとめ、次の授業でいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。対面授業を基本とするが、状況によって ZOOM によるオンライン授業となる場合もある。その場合には、「学習支援システム」を通じて指示・連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の方針・流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法 ～指導案プレゼン前討議
第 7 回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開 ～指導案プレゼン①
第 8 回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動 ～指導案プレゼン②
第 9 回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法 ～参加・参画・自治
第 10 回	学校行事	協同的創造の実践 ～学校行事・学年行事
第 11 回	部活動	民主的運営の視点と実践
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の実践と課題
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の実践と課題
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。本授業の準備学習・復習等の時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（50 %）、課題プレゼン（25 %）、授業内試験（25 %）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら学校現場からの視点を意識して授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

児玉 洋介

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とするが、一時限目の通学時の混雑等に配慮し、動画配信を併用するなど、状況に対応した形態をとる。学生同士の学び合いが充実するよう、授業コメントの活用を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講座の授業計画の概要、授業のねらい、進め方、評価等についての説明等。
第 2 回	教育課程の中の特別活動	一日の学校生活の流れ、一年間の学校行事などを見ながら特別活動の位置を考える。
第 3 回	特別活動の歴史	日本の学校における教科外教育の歴史。
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学級、学校行事、儀式等の成立と役割。学習指導要領の変遷と特別活動の位置付けの変化。
第 5 回	特別活動の目標と展開	特別活動は何を育てるのか。生徒の実態に即した創造的とりくみを黎明期の新制中学校実践から学ぶ。
第 6 回	学級・ホームルーム活動	ホームルームの活動とその指導。中学校の学級組織とその活動。高校ホームルーム活動の歴史と現状。
第 7 回	話し合い活動とその指導	生徒との対話、生徒同士が本音で語り合うクラス討論、意見交換の場の設定など、コミュニケーション力の育成。
第 8 回	特別活動の評価と改善	生徒の生活実態や社会環境等の背景とかわった学級・学年のとりくみ指導。「学級だより」「班ノート」などのコミュニケーションツールの活用。
第 9 回	児童会・生徒会活動	生徒の自治活動と担任・担当教員・学校の指導の在り方。
第 10 回	学校行事	学校文化の創造と特別活動を考える。文化的活動の意義、学校文化論を、「南中ソーラン」の歴史に学ぶ。
第 11 回	部活動	教育課程外の活動と、教育課程との関連。部活動・クラブ活動の歴史的位
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シテイズンシップ教育）	置。部活動の今日的課題と将来展望。学びを育てる特別活動。共同の学びを通じた生徒たちの問題意識の深化。
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	地域の教育力、地域再生の力を活用した地域産業や職業への学び。国際理解教育や高校生の国際交流。
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性	「集団」活動を通した「個」の発達成長という特別活動の持つ固有の教育的意義をとらえ、学びの発展の可能性を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業にかかわる課題コメント（300 字程度）の作成（3 日以内に学習支援システムから提出）、2 回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、また参考文献等を指示する。

【参考書】

『中学校学習指導要領/特別活動編』、『高等学校学習指導要領/特別活動編』（最新版 文部科学省）

※ PDF でダウンロード可。

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、毎回課題コメントを提出）に対する評価（50 %）と、授業のテーマに即した 2 回の課題レポートに対する評価（50 %）を総合的に見る。定期テストは行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生自身が自らの学校生活を通じて抱えてきた問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業だが、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】

講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進める。各回授業ごとの課題コメント（300 字程度）を入力するために、スマホや PC などの端末が必要（提出は講義後 3 日以内）。また、課題レポート（2 回）は word などの電子データの形で作成し、学習支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

中村 岳夫

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養、実践力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。授業で提出されたリアクションペーパーをまとめたものを次回までに講義通信としてまとめ、次の授業でいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。対面授業を基本とするが、状況によって ZOOM によるオンライン授業となる場合もある。その場合には、「学習支援システム」を通じて指示・連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の方針・流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法 ～指導案プレゼン前討議
第 7 回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開 ～指導案プレゼン①
第 8 回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動 ～指導案プレゼン②
第 9 回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第 10 回	学校行事	協同的創造の実践 ～学校行事・学年行事
第 11 回	部活動	民主的運営の視点と実践
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の実践と課題
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の実践と課題
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。本授業の準備学習・復習等の時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（50 %）、課題プレゼン（25 %）、授業内試験（25 %）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら学校現場からの視点を意識して授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

森本 扶

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法
第 7 回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第 8 回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第 9 回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第 10 回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第 11 回	部活動	指導と体罰、民主的運営の視点と実践
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シテイズンシップ教育）	シテイズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習やレポート課題等を適宜組み入れる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じ教員が適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（50 %）、グループワーク・発表（25 %）、レポート課題（25 %）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業支援システムを利用することもある。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

生徒・進路指導論

岩本 俊一

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。さらに、教育における理論と実践との関係から生徒指導に関する理解をさらに深めることを目標とする。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現代日本の子どもの生活現実とそのよって来る背景をふまえて、学校教育における生徒指導および進路指導（それを包括するキャリア教育）のありかたについて多角的に考察する。課題等を課した場合にはその提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	生徒指導の意義と役割	・学校教育における生徒指導の位置づけ、基本的な考え方について論じる
第 3 回	生徒指導の方法	・生徒指導の方法について論じる。
第 4 回	生徒指導における集団指導	・生徒指導における集団指導についてさまざまな指導場面を通して考える。
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	・集団指導の組織的な推進体制について論じる
第 6 回	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	・暴力行為、いじめにどう対応するか
第 7 回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	・不登校にどう対応するかについて考える
第 8 回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	・今日的な生徒指導の課題への対応について考える
第 9 回	進路指導の意義と役割	・教育課程上の位置づけ、基本的な考えかた
第 10 回	進路指導の歴史と方法	・ガイダンスの歴史とその理論及び方法について論じる
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	・学校教育におけるキャリア教育の位置づけと基本的な考え方
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	・進路指導とガイダンスの役割と方法について論じる
第 13 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	・進路指導・キャリア・カウンセリングの役割と方法について論じる
第 14 回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	・進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しないが、講義内容に応じて参考文献は適宜指示する。

【参考書】

吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社、2009 年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社、2014 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験 100 % で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

渡部 忠治

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。次に、その日のテーマについての資料や実践例などを説明・紹介する。続いて、その話題について感想・意見の交換を行う。そして最後に、リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	生徒・進路指導の意味や意義について アンケート（各自の学校体験を振り返る）
第 2 回	生徒指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ、指導上の基本的な考え方について
第 3 回	生徒指導の方法	子どもの権利と校則、懲戒、体罰問題について
第 4 回	生徒指導における集団指導	学びの共同性の視点からの集団指導の意義について
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域と連携した生徒指導の重要性について
第 6 回	生徒指導における個別指導（いじめ問題への対処）	今必要な「いじめ」対策及び教育実践上の課題（個別的/集団的）について
第 7 回	生徒指導における個別指導（生徒の問題行動への対処）	暴力行為、少年事件を通して生徒理解の難しさと必要な対応について
第 8 回	生徒指導における個別指導（部活動をめぐる諸問題とその対処）	部活動を通じた生徒指導のあり方について
第 9 回	生徒指導における個別指導（ジェンダー、性的マイノリティの理解）	学校文化におけるジェンダー問題と性的マイノリティに関する指導上の課題について
第 10 回	進路指導の意義と役割	進路指導の歴史と方法を踏まえた、今日的な進路指導の意義と役割について
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	生徒の日常生活の中から将来の人生観、職業観をどのように育むかについて
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	生徒を取り巻く社会や将来に対する不安への理解に基づいたガイダンスについて

- 第 13 回 進路指導・キャリア教育 体験的な学びの事前・事後指導の育におけるキャリア・大切さと留意点について
カウンセリングの役割と方法
- 第 14 回 進路指導・キャリア教育 アンケートや学習活動の振り返りにおけるキャリア・記録を将来の生き方につなげる
パスポートの活用 指導について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

折出健二編『教師教育テキストシリーズ 13 生活指導』学文社,2014 年
教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社,2013 年
土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店,2014 年
青柳健隆・岡部祐介『部活動の論点』旬報社,2019 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパー等）40 %、試験（小論文）60 %で、総合的に判断し、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

例年、学生のリアクションペーパーでは意見交換を望む声が多い。通常授業では、意見交換できる時間を可能な限り設けていきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

児玉 洋介

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

生徒指導・進路指導いずれも、生徒集団全体に対する指導と、個々の生徒に対する指導、それぞれについての指導の在り方、方針や方法を理解できるようにする。また、理論講義を踏まえ、あらためて学生自らが体験してきた学校生活での生徒指導・進路指導を振り返りながら、そこに現時点からの検証を加える。生徒指導論では「いじめ」をめぐる諸問題、進路指導論では「受験と進路」「学校と職場の接続」をめぐる諸問題に焦点をあてて、これを深く掘り下げる。

学生同士の学びあいが充実するよう、授業内容へのコメントを活用した意見交流を大切に、フィードバックしながら進めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	授業計画の概要、ねらい、すすめ方、評価等についての説明と、「課題レポート①」について
第 2 回	生徒指導の意義と役割	「生活」指導と「生徒」指導。教育活動としての「指導」の広がりや教育課程上の位置づけ。
第 3 回	生徒指導の方法	生徒指導の方法、教育相談、法的制度と学校外の児童自立支援施設等。『生徒指導提要』（文部科学省）
第 4 回	生徒指導における集団指導	学級と生活指導。学習集団と生活集団。生活指導の中心舞台（学級・HR）と担任教師
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	学校における組織的推進体制と、生徒の自治的自律的とりくみ。今日の生徒指導の焦点的課題、「規範意識」「校則指導」「体罰」等をめぐって
第 6 回	生徒指導における個別指導（暴力行為、非行、いじめ加害等への対処）	学校における事故管理としての処分と、教育活動としての問題行動指導のあり方。「規範意識の醸成」「ゼロ・トレランス」
第 7 回	生徒指導における個別指導（いじめ問題等への教育課題としての対応）	「いじめ防止対策推進法」と今日の「いじめ問題」。
第 8 回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導をめぐる管理的アプローチと教育的アプローチ。不登校生徒や、発達障害等の課題を抱えた生徒とのかかわりと支援。
第 9 回	進路指導の意義と役割（進路指導の教育課程上の位置づけ）	「生徒の進路」が「指導」の対象となることの意味を考える。進路指導の基礎理論。
第 10 回	進路指導の歴史と方法	中等教育の歴史的役割の変化と、その現段階。学校と社会の接続。普通教育と職業教育。
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	「進路指導」と「キャリア教育」それぞれの概念、基本的考え方。今日の雇用情勢と日本の若者の社会参加をめぐる課題。
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	集団的進路指導、ガイダンスの役割と方法。中学生にとっての「学ぶこと」「働くこと」を考える授業。
第 13 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	進路指導・キャリア教育における個別指導。キャリアカウンセリングの役割と方法。

第 14 回 進路指導・キャリア教育 学校での「学び」と「ポートフォリオ」におけるポートフォリオの活用 進路指導論のまとめもふくめて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業にかかわる課題コメント（300 字程度）の作成（3 日以内に学習支援システムから提出）、2 回予定している課題レポート作成に必要な調査・研究をふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各回 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、また参考文献等を指示する。

【参考書】

『生徒指導提要』（文部科学省）
『中学校キャリア教育の手引き』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、毎回課題コメントを提出）に対する評価（50%）と、授業のテーマに即した 2 回の課題レポートに対する評価（50%）を総合的に見る。
定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生自身が自らの学校生活を通じて抱えてきた問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業だが、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】

講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進める。各回授業ごとの課題コメント（300 字程度）を入力するために、スマホや PC などの端末が必要（提出は講義後 3 日以内）。また、課題レポート（2 回）は word などの電子データの形で作成し、学習支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

児美川 孝一郎

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。さらに、教育における理論と実践との関係から生徒指導に関する理解をさらに深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現代日本の子どもの生活現実とそのよって来る背景をふまえて、学校教育における生徒指導および進路指導（それを包括するキャリア教育）のありかたについて多角的に考察する。

講義を軸にしつつも、参加者全員によるディスカッションやグループディスカッションを適宜交える。

提出されたりアクションペーパーや課題等へのフィードバックは、今回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	生徒指導の意義と役割	・学校教育における生徒指導の位置づけ、基本的な考え方について論じる
第 3 回	生徒指導の方法	・生徒指導の方法について論じる。
第 4 回	生徒指導における集団指導	・生徒指導における集団指導についてさまざまな指導場面を通して考える。
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	・集団指導の組織的な推進体制について論じる
第 6 回	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	・暴力行為、いじめにどう対応するか
第 7 回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	・不登校にどう対応するかについて考える
第 8 回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	・今日的な生徒指導の課題への対応について考える
第 9 回	進路指導の意義と役割	・教育課程上の位置づけ、基本的な考えかた
第 10 回	進路指導の歴史と方法	・ガイダンスの歴史とその理論及び方法について論じる
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	・学校教育におけるキャリア教育の位置づけと基本的な考え方
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	・進路指導とガイダンスの役割と方法について論じる
第 13 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	・進路指導・キャリア・カウンセリングの役割と方法について論じる
第 14 回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	・進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しないが、講義内容に応じて参考文献は適宜指示する。

【参考書】

吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社、2009 年

藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社、2014 年

『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、試験またはレポート 60 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

綿貫 公平

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に各テーマについての資料や実践例などの説明。

次にその話題について感想・意見の交換。

最後にリアクションペーパーの提出。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業者のコメントとともに掲載した「講義通信」を発行し、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	講義計画とその概要説明、講義アンケート
第 2 回	生徒指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ、指導上の基本的な考え方について
第 3 回	生徒指導の方法	子どもの権利と校則、懲戒、体罰問題について
第 4 回	生徒指導における集団指導	学びの共同性の視点からの集団指導の意義について
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域と連携した生徒指導の重要性について
第 6 回	生徒指導における個別指導（いじめ問題への対処）	今必要な「いじめ」対策及び教育実践上の課題（個別的/集団的）について
第 7 回	生徒指導における個別指導（生徒の問題行動への対処）	暴力行為、少年事件を通して生徒理解の難しさが必要な対応について
第 8 回	生徒指導における個別指導（部活動をめぐる諸問題とその対処）	部活動を通じた生徒指導のあり方について
第 9 回	生徒指導における個別指導（ジェンダー、性的マイノリティの理解）	学校文化におけるジェンダー問題と性的マイノリティに関する指導上の課題について
第 10 回	進路指導の意義と役割	進路指導の歴史と方法を踏まえた、今日的な進路指導の意義と役割について
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	生徒の日常生活の中から将来の人生観、職業観をどのように育むかについて
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	生徒が抱える社会や将来に対する不安への理解に基づいたガイダンスについて
第 13 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	体験的な学びの事前・事後指導の大切さと留意点について
第 14 回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	アンケートや学習活動の振り返り・記録を将来の生き方につなげる指導について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際、適宜指示する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

折出健二編『教師教育テキストシリーズ 13 生活指導』学文社、2014 年
 教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社、2013 年
 土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店、2014 年
 『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパーの内容等）70 %、試験 30 %で、総合的に判断し、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

例年、学生のリアクションペーパーでは、意見交換を望む声が多い。意見交換できる時間を可能な限り設けていきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

特別な教育的ニーズの理解と支援

伊藤 友彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったことなどにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身につけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身につけ、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面による授業を行う予定であり、授業形態は基本的に講義である。この授業では教科書を用いる。各授業のテーマについて課題を提示し、小レポートを提出してもらう。課題の提示と小レポートの提出および小レポートに対するフィードバック（コメントの返却）は学習支援システムを通じて行う。小レポートについては授業内で発表、討論の場を設ける。新型コロナウイルスへの対応により授業の進め方などに変更がある場合は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法（期末試験など）について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を解説する。
第 2 回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別な教育的ニーズについて、障害の定義や社会的な理解、教育制度の変遷との関係から解説する。
第 3 回	認知特性とはなにか	情報を入力し、理解し、記憶する認知特性の個人差を扱う。入力段階で制約がある視覚、聴覚障害の特性や支援についても解説する。
第 4 回	学習障害とその支援	学習障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学習面の支援について、ICT の活用を中心に紹介する。
第 5 回	AD/HD、ADD とその支援	AD/HD の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。行動面の支援について、薬物療法と環境調整を紹介する。
第 6 回	自閉症スペクトラム障害とその支援	自閉症スペクトラム障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。対人面の支援について、ソーシャルスキル教育やピアサポートを紹介する。
第 7 回	軽度知的障害とその支援	軽度知的障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学校生活の支援について、スモールステップ指導を中心に紹介する。知的障害特別支援学校の教育課程についても扱う。
第 8 回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由、病弱の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。移動や心理面、人間関係の支援について紹介する。肢体不自由特別支援学校の教育課程の類型についても扱う。

第 9 回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	貧困世帯や外国人児童生徒等の割合、学習や生活上の困難について、事例をもとに解説する。地域における学習支援や Japanese as a Second Language (JSL) カリキュラムを中心に紹介する。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	インクルーシブ教育の理念をサラマンカ宣言に基づいて解説する。インクルーシブ教育を具現化するための「多様な学びの場」についても扱う。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	児童生徒の実態を把握し、支援計画を立案・実行・評価・改善する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義と活用方法について解説する。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	児童生徒を校内外で組織的に支援するための機関連携について解説する。具体的には、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの役割、スクールソーシャルワーカーや医療、保健、福祉、労働機関との連携を扱う。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の導入経緯や意義を解説する。人権の尊重や配慮、健康・衛生管理、服装、所持品、基本的マナーについて、事例をもとに紹介する。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、通常学校と特別支援学校の「学びの連続性」という点から、特別支援教育の今後の動向と教職員に求められる資質、能力を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間を標準とする。各授業テーマに対応する教科書の部分をあらかじめ読んでおく。各授業のテーマについて課される小レポートを作成する。小レポートでは、授業のテーマについての理解と、そのテーマについての自分の考えを求められるので、教科書をよく読み、関連する文献などを検索してテーマについての理解を深める。そのうえで、与えられた文字数を守って、理解しやすい文章になるように注意して小レポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子（2014）『はじめての特別支援教育－教職をめざす大学生のために－改訂版』有斐閣アルマ

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
 ・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
 ・宮崎 英憲（監修）（2017）『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成 29 年版学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校 明治図書出版
 ・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社

【成績評価の方法と基準】

授業テーマごと小レポートの成績（提出回数と評価点：60%）と期末試験の成績（40%）によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムで各学生に小レポートを返却する際は評価結果のみならず、コメントを付すことにする。学生同士が意見交換をする場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

小レポート課題では、学習支援システムを用いるので、学習支援システムを使用できるように機器の準備（パソコンやスマホなど）が必要。

【Outline and objectives】

We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resourceless family through inclusive proposition.

特別な教育的ニーズの理解と支援

伊藤 友彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったことなどにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身につけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身につけ、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面による授業を行う予定であり、授業形態は基本的に講義である。この授業では教科書を用いる。各授業のテーマについて課題を提示し、小レポートを提出してもらう。課題の提示と小レポートの提出および小レポートに対するフィードバック（コメントの返却）は学習支援システムを通じて行う。小レポートについては授業内で発表、討論の場を設ける。新型コロナウイルスへの対応により授業の進め方などに変更がある場合は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法（期末試験など）について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を解説する。
第 2 回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別な教育的ニーズについて、障害の定義や社会的な理解、教育制度の変遷との関係から解説する。
第 3 回	認知特性とはなにか	情報を入力し、理解し、記憶する認知特性の個人差を扱う。入力段階で制約がある視覚、聴覚障害の特性や支援についても解説する。
第 4 回	学習障害とその支援	学習障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学習面の支援について、ICT の活用を中心に紹介する。
第 5 回	AD/HD、ADD とその支援	AD/HD の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。行動面の支援について、薬物療法と環境調整を紹介する。
第 6 回	自閉症スペクトラム障害とその支援	自閉症スペクトラム障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。対人面の支援について、ソーシャルスキル教育やピアサポートを紹介する。
第 7 回	軽度知的障害とその支援	軽度知的障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学校生活の支援について、スモールステップ指導を中心に紹介する。知的障害特別支援学校の教育課程についても扱う。
第 8 回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由、病弱の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。移動や心理面、人間関係の支援について紹介する。肢体不自由特別支援学校の教育課程の類型についても扱う。

第 9 回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	貧困世帯や外国人児童生徒等の割合、学習や生活上の困難について、事例をもとに解説する。地域における学習支援や Japanese as a Second Language (JSL) カリキュラムを中心に紹介する。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	インクルーシブ教育の理念をサラマンカ宣言に基づいて解説する。インクルーシブ教育を具現化するための「多様な学びの場」についても扱う。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	児童生徒の実態を把握し、支援計画を立案・実行・評価・改善する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義と活用方法について解説する。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	児童生徒を校内外で組織的に支援するための機関連携について解説する。具体的には、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの役割、スクールソーシャルワーカーや医療、保健、福祉、労働機関との連携を扱う。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の導入経緯や意義を解説する。人権の尊重や配慮、健康・衛生管理、服装、所持品、基本的マナーについて、事例をもとに紹介する。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、通常学校と特別支援学校の「学びの連続性」という点から、特別支援教育の今後の動向と教職員に求められる資質、能力を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間を標準とする。各授業テーマに対応する教科書の部分をあらかじめ読んでおく。各授業のテーマについて課される小レポートを作成する。小レポートでは、授業のテーマについての理解と、そのテーマについての自分の考えを求められるので、教科書をよく読み、関連する文献などを検索してテーマについての理解を深める。そのうえで、与えられた文字数を守って、理解しやすい文章になるように注意して小レポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子（2014）『はじめての特別支援教育－教職をめざす大学生のために－改訂版』有斐閣アルマ

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
 ・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
 ・宮崎 英憲（監修）（2017）『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成 29 年版学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校 明治図書出版
 ・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社

【成績評価の方法と基準】

授業テーマごと小レポートの成績（提出回数と評価点：60%）と期末試験の成績（40%）によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムで各学生に小レポートを返却する際は評価結果のみならず、コメントを付すことにする。学生同士が意見交換をする場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

小レポート課題では、学習支援システムを用いるので、学習支援システムを使用できるように機器の準備（パソコンやスマホなど）が必要。

【Outline and objectives】

We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resourceless family through inclusive proposition.

特別な教育的ニーズの理解と支援

伊藤 友彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったことなどにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身につけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身につけ、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面による授業を行う予定であり、授業形態は基本的に講義である。この授業では教科書を用いる。各授業のテーマについて課題を提示し、小レポートを提出してもらう。課題の提示と小レポートの提出および小レポートに対するフィードバック（コメントの返却）は学習支援システムを通じて行う。小レポートについては授業内で発表、討論の場を設ける。新型コロナウイルスへの対応により授業の進め方などに変更がある場合は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法（期末試験など）について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を解説する。
第 2 回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別な教育的ニーズについて、障害の定義や社会的な理解、教育制度の変遷との関係から解説する。
第 3 回	認知特性とはなにか	情報を入力し、理解し、記憶する認知特性の個人差を扱う。入力段階で制約がある視覚、聴覚障害の特性や支援についても解説する。
第 4 回	学習障害とその支援	学習障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学習面の支援について、ICT の活用を中心に紹介する。
第 5 回	AD/HD、ADD とその支援	AD/HD の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。行動面の支援について、薬物療法と環境調整を紹介する。
第 6 回	自閉症スペクトラム障害とその支援	自閉症スペクトラム障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。対人面の支援について、ソーシャルスキル教育やピアサポートを紹介する。
第 7 回	軽度知的障害とその支援	軽度知的障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学校生活の支援について、スモールステップ指導を中心に紹介する。知的障害特別支援学校の教育課程についても扱う。
第 8 回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由、病弱の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。移動や心理面、人間関係の支援について紹介する。肢体不自由特別支援学校の教育課程の類型についても扱う。

第 9 回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	貧困世帯や外国人児童生徒等の割合、学習や生活上の困難について、事例をもとに解説する。地域における学習支援や Japanese as a Second Language (JSL) カリキュラムを中心に紹介する。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	インクルーシブ教育の理念をサラマンカ宣言に基づいて解説する。インクルーシブ教育を具現化するための「多様な学びの場」についても扱う。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	児童生徒の実態を把握し、支援計画を立案・実行・評価・改善する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義と活用方法について解説する。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	児童生徒を校内外で組織的に支援するための機関連携について解説する。具体的には、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの役割、スクールソーシャルワーカーや医療、保健、福祉、労働機関との連携を扱う。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の導入経緯や意義を解説する。人権の尊重や配慮、健康・衛生管理、服装、所持品、基本的マナーについて、事例をもとに紹介する。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、通常学校と特別支援学校の「学びの連続性」という点から、特別支援教育の今後の動向と教職員に求められる資質、能力を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間を標準とする。各授業テーマに対応する教科書の部分をあらかじめ読んでおく。各授業のテーマについて課される小レポートを作成する。小レポートでは、授業のテーマについての理解と、そのテーマについての自分の考えを求められるので、教科書をよく読み、関連する文献などを検索してテーマについての理解を深める。そのうえで、与えられた文字数を守って、理解しやすい文章になるように注意して小レポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子（2014）『はじめての特別支援教育－教職をめざす大学生のために－改訂版』有斐閣アルマ

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
 ・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
 ・宮崎 英憲（監修）（2017）『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成 29 年版 学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校 明治図書出版
 ・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社

【成績評価の方法と基準】

授業テーマごと小レポートの成績（提出回数と評価点：60%）と期末試験の成績（40%）によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムで各学生に小レポートを返却する際は評価結果のみならず、コメントを付すことにする。学生同士が意見交換をする場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

小レポート課題では、学習支援システムを用いるので、学習支援システムを使用できるように機器の準備（パソコンやスマホなど）が必要。

【Outline and objectives】

We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resourceless family through inclusive proposition.

特別な教育的ニーズの理解と支援

伊藤 友彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったことなどにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身につけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身につけ、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面による授業を行う予定であり、授業形態は基本的に講義である。この授業では教科書を用いる。各授業のテーマについて課題を提示し、小レポートを提出してもらう。課題の提示と小レポートの提出および小レポートに対するフィードバック（コメントの返却）は学習支援システムを通じて行う。小レポートについては授業内で発表、討論の場を設ける。新型コロナウイルスへの対応により授業の進め方などに変更がある場合は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法（期末試験など）について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を解説する。
第 2 回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別な教育的ニーズについて、障害の定義や社会的な理解、教育制度の変遷との関係から解説する。
第 3 回	認知特性とはなにか	情報を入力し、理解し、記憶する認知特性の個人差を扱う。入力段階で制約がある視覚、聴覚障害の特性や支援についても解説する。
第 4 回	学習障害とその支援	学習障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学習面の支援について、ICT の活用を中心に紹介する。
第 5 回	AD/HD、ADD とその支援	AD/HD の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。行動面の支援について、薬物療法と環境調整を紹介する。
第 6 回	自閉症スペクトラム障害とその支援	自閉症スペクトラム障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。対人面の支援について、ソーシャルスキル教育やピアサポートを紹介する。
第 7 回	軽度知的障害とその支援	軽度知的障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学校生活の支援について、スモールステップ指導を中心に紹介する。知的障害特別支援学校の教育課程についても扱う。
第 8 回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由、病弱の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。移動や心理面、人間関係の支援について紹介する。肢体不自由特別支援学校の教育課程の類型についても扱う。

第 9 回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	貧困世帯や外国人児童生徒等の割合、学習や生活上の困難について、事例をもとに解説する。地域における学習支援や Japanese as a Second Language (JSL) カリキュラムを中心に紹介する。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	インクルーシブ教育の理念をサラマンカ宣言に基づいて解説する。インクルーシブ教育を具現化するための「多様な学びの場」についても扱う。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	児童生徒の実態を把握し、支援計画を立案・実行・評価・改善する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義と活用方法について解説する。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	児童生徒を校内外で組織的に支援するための機関連携について解説する。具体的には、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの役割、スクールソーシャルワーカーや医療、保健、福祉、労働機関との連携を扱う。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の導入経緯や意義を解説する。人権の尊重や配慮、健康・衛生管理、服装、所持品、基本的マナーについて、事例をもとに紹介する。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、通常学校と特別支援学校の「学びの連続性」という点から、特別支援教育の今後の動向と教職員に求められる資質、能力を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間を標準とする。各授業テーマに対応する教科書の部分をあらかじめ読んでおく。各授業のテーマについて課される小レポートを作成する。小レポートでは、授業のテーマについての理解と、そのテーマについての自分の考えを求められるので、教科書をよく読み、関連する文献などを検索してテーマについての理解を深める。そのうえで、与えられた文字数を守って、理解しやすい文章になるように注意して小レポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子（2014）『はじめての特別支援教育－教職をめざす大学生のために－改訂版』有斐閣アルマ

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
 ・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
 ・宮崎 英憲（監修）（2017）『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成 29 年版学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校 明治図書出版
 ・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社

【成績評価の方法と基準】

授業テーマごと小レポートの成績（提出回数と評価点：60%）と期末試験の成績（40%）によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムで各学生に小レポートを返却する際は評価結果のみならず、コメントを付すことにする。学生同士が意見交換をする場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

小レポート課題では、学習支援システムを用いるので、学習支援システムを使用できるように機器の準備（パソコンやスマホなど）が必要。

【Outline and objectives】

We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resourceless family through inclusive proposition.

総合的な学習の時間の指導法

窪 和広

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を中心とするが、授業内の質疑応答も行いながら、実際に「総合的な学習の時間」の指導案を作成してもらい、指導案作成後は指導案についての発表を行い、学生同士で議論を行い、最終指導案は提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	本講義のねらいと目標、授業の進め方
第 2 回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時間数、他教科との関連）	教育目標、授業時間数、他の教科との関連
第 3 回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	Dewy, J. の唱えた Laening by doin, Learning through doing はどのような理念なのかを学ぶ。
第 4 回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	教育がなぜ実社会から切り離されがちなのかその背景を正確に学び、その必然性と併せて、総合的な学習の時間で、学校的学びを実社会につなげる意義と目的を学ぶ。
第 5 回	アクティヴ・ラーニングの技法	総合的な学習の時間において求められるアクティヴ・ラーニングの具体的手法を学ぶ。
第 6 回	具体的な実践例（社会科学系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科学との連携の強い授業案作りを学ぶ（地域づくりと経営学）。
第 7 回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、理科との連携の強い授業案作りを学ぶ（環境問題への技術的アプローチ）。
第 8 回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	総合的な学習の時間における学校ごとの目標の立て方：総合的な学習の時間は学校ごとに課題と目標とを定める。その意義、目的、具体的な立て方について、第 7、8 回の実践例をもとに学ぶ。特に、問題の発見の仕方や、生徒に実践させるうえでの診断的評価との兼ね合いについて学ぶ。
第 9 回	年間計画と指導案作成の理解	総合的な学習の時間は長期的な視野に基づき年間計画を立てて実施することが必要である。その理念及び実践上の必要性について学び、その長期的視野のもとで、個別の指導案を作成する方法を学ぶ。
第 10 回	指導案作成の実践的学習（1）	前時での学習を活かし、具体的な指導案を作成する。
第 11 回	指導案改善の観点と方法	前時に作成した指導案を改善する際の観点を学ぶ。具体的には、①他の教科との関連、②活動における生徒の主体性の育成、③対話的な学習、の観点を学ぶ

- 第 12 回 指導案改善の実践的学習（2） 前時に学習した観点に基づき自分の作成した指導案を改良する。
- 第 13 回 授業指導案の発表と講評 授業の指導案を発表し相互評価と教員からの講評を行う。
- 第 14 回 試験・まとめと解説 試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。指導案の作成は授業時間外で行っていただきます。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領』
 文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』
 文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領』
 文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』
 文部科学省の HP で見れます
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
 文部科学省（2008 / 2009）『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（指導案発表の成果）20 %、最終提出の授業計画案（授業指導案）30 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

最終目的が「1 単位時間（1 授業分）の指導案」を作成できるようになることであり、作成した年間計画、単元計画、指導案等についてフィードバックを積極的に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出の際は、授業支援システムを利用する。指導案の作成時は PC（パソコン）を用意してください。

【その他の重要事項】

教職科目の「道徳の指導法」、「教育相談等に関する科目」に該当する科目を履修することにより、この科目の理解が深まることになります。シラバスの内容は受講生の興味関心に応じて若干の変更をする場合があります。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make taching plans, the way of evaluation of students' grades.

総合的な学習の時間の指導法

窪 和広

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探索する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を中心とするが、授業内の質疑応答も行いながら、実際に「総合的な学習の時間」の指導案を作成してもらい、指導案作成後は指導案についての発表を行い、学生同士で議論を行い、最終指導案は提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション (ねらいと目標、進め方)	本講義のねらいと目標、授業の進め方
第 2 回	「総合的な学習の時間」の位置づけ(目標、授業時数、他教科との関連)	教育目標、授業時間数、他の教科との関連
第 3 回	カリキュラム上の特徴(問題解決型学習や探求的な学習)	Dewey, J. の唱えた <i>Learning by doing, Learning through doing</i> はどのような理念なのかを学ぶ。
第 4 回	実社会に活かす学び(学校教育と実社会経験の架橋)	教育がなぜ実社会から切り離されがちなのかその背景を正確に学び、その必然性と併せて、総合的な学習の時間で、学校的学びを実社会につなげる意義と目的を学ぶ。
第 5 回	アクティヴ・ラーニングの技法	総合的な学習の時間において求められるアクティヴ・ラーニングの具体的手法を学ぶ。
第 6 回	具体的な実践例(社会科系)と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科との連携の強い授業案作りを学ぶ(地域づくりと経営学)。

第 7 回 具体的な実践例(理科系)と評価方法 総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、理科との連携の強い授業案作りを学ぶ(環境問題への技術的アプローチ)。

第 8 回 学校ごとの目標の立て方(目標と診断的評価) 総合的な学習の時間における学校ごとの目標の立て方:総合的な学習の時間は学校ごとに課題と目標とを定める。その意義、目的、具体的な立て方について、第 7、8 回の実践例をもとに学ぶ。特に、問題の発見の仕方や、生徒に実践させるうえでの診断的評価との兼ね合いについて学ぶ。

第 9 回 年間計画と指導案作成の理解 総合的な学習の時間は長期的な視野に基づき年間計画を立てて実施することが必要である。その理念及び実践上の必要性について学び、その長期的視野のもとで、個別の指導案を作成する方法を学ぶ。

第 10 回 指導案作成の実践的学習(1) 前時での学習を活かし、具体的な指導案を作成する。

第 11 回 指導案改善の観点と方法 前時に作成した指導案を改善する際の観点を学ぶ。具体的には、①他の教科との関連、②活動における生徒の主体性の育成、③対話的な学習、の観点を学ぶ

第 12 回 指導案改善の実践的学習(2) 前時に学習した観点に基づき自分の作成した指導案を改良する。

第 13 回 授業指導案の発表と講評 授業の指導案を発表し相互評価と教員からの講評を行う。

第 14 回 試験・まとめと解説 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。指導案の作成は授業時間外で行っていただきます。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

文部科学省(2017)『中学校学習指導要領』
文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』
文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領』
文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』
文部科学省の HP で見れます
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
文部科学省(2008 / 2009)『中学校 / 高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点(指導案発表の成果) 20 %、最終提出の授業計画案(授業指導案) 30 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

最終目的が「1 単位時間(1 授業分)の指導案」を作成できるようになることであり、作成した年間計画、単元計画、指導案等についてフィードバックを積極的に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出の際は、授業支援システムを利用する。指導案の作成時は PC(パソコン)を用意してください。

【その他の重要事項】

教職科目の「道徳の指導法」、「教育相談等に関する科目」に該当する科目を履修することにより、この科目の理解が深まることになります。

シラバスの内容は受講生の興味関心に応じて若干の変更をすることがあります。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make taching plans, the way of evaluation of students' grades.

総合的な学習の時間の指導法

窪 和広

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を中心とするが、授業内の質疑応答も行いながら、実際に「総合的な学習の時間」の指導案を作成してもらい、指導案作成後は指導案についての発表を行い、学生同士で議論を行い、最終指導案は提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	本講義のねらいと目標、授業の進め方
第 2 回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業回数、他教科との関連）	教育目標、授業時間数、他の教科との関連
第 3 回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	Dewy, J. の唱えた Laening by doin, Learning through doing はどのような理念なのかを学ぶ。
第 4 回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	教育がなぜ実社会から切り離されがちなのかその背景を正確に学び、その必然性と併せて、総合的な学習の時間で、学校の学びを実社会につなげる意義と目的を学ぶ。
第 5 回	アクティヴ・ラーニングの技法	総合的な学習の時間において求められるアクティヴ・ラーニングの具体的手法を学ぶ。
第 6 回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科との連携の強い授業案作りを学ぶ（地域づくりと経営学）。
第 7 回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、理科との連携の強い授業案作りを学ぶ（環境問題への技術的アプローチ）。
第 8 回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	総合的な学習の時間における学校ごとの目標の立て方：総合的な学習の時間は学校ごとに課題と目標とを定める。その意義、目的、具体的な立て方について、第 7、8 回の実践例をもとに学ぶ。特に、問題の発見の仕方や、生徒に実践させるうえでの診断的評価との兼ね合いについて学ぶ。
第 9 回	年間計画と指導案作成の理解	総合的な学習の時間は長期的な視野に基づき年間計画を立てて実施することが必要である。その理念及び実践上の必要性について学び、その長期的視野のもとで、個別の指導案を作成する方法を学ぶ。
第 10 回	指導案作成の実践的学習（1）	前時での学習を活かし、具体的な指導案を作成する。
第 11 回	指導案改善の観点と方法	前時に作成した指導案を改善する際の観点を学ぶ。具体的には、①他の教科との関連、②活動における生徒の主体性の育成、③対話的な学習、の観点を学ぶ。

- 第12回 指導案改善の実践的学習(2) 前時に学習した観点に基づき自分の作成した指導案を改良する。
- 第13回 授業指導案の発表と講評 授業の指導案を発表し相互評価と教員からの講評を行う。
- 第14回 試験・まとめと解説 試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
指導案の作成は授業時間外で行ってまいります。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領』
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』
文部科学省のHPで見れます
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
文部科学省（2008 / 2009）『中学校 / 高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（指導案発表の成果）20%、最終提出の授業計画案（授業指導案）30%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

最終目的が「1単位時間（1授業分）の指導案」を作成できるようになることであり、作成した年間計画、単元計画、指導案等についてフィードバックを積極的に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出の際は、授業支援システムを利用する。
指導案の作成時はPC（パソコン）を用意してください。

【その他の重要事項】

教職科目の「道徳の指導法」、「教育相談等に関する科目」に該当する科目を履修することにより、この科目の理解が深まることになります。
シラバスの内容は受講生の興味関心に応じて若干の変更をすることがあります。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, the way of evaluation of students' grades.

総合的な学習の時間の指導法

窪 和広

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を中心とするが、授業内の質疑応答も行いながら、実際に「総合的な学習の時間」の指導案を作成してもらい、指導案作成後は指導案についての発表を行い、学生同士で議論を行い、最終指導案は提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	本講義のねらいと目標、授業の進め方
第2回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業回数、他教科との関連）	教育目標、授業回数、他の教科との関連
第3回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	Dewy, J. の唱えた Laening by doin, Learning through doing はどのような理念なのかを学ぶ。
第4回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	教育がなぜ実社会から切り離されがちなのかその背景を正確に学び、その必然性と併せて、総合的な学習の時間で、学校の学びを実社会につなげる意義と目的を学ぶ。
第5回	アクティブ・ラーニングの技法	総合的な学習の時間において求められるアクティブ・ラーニングの具体的手法を学ぶ。
第6回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、社会科との連携の強い授業案作りを学ぶ（地域づくりと経営学）。
第7回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	総合的な学習の時間と他の授業への展開、連携について、実践例をもとに、授業の構想の仕方を具体的に学ぶ。特に、理科との連携の強い授業案作りを学ぶ（環境問題への技術的アプローチ）。
第8回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	総合的な学習の時間における学校ごとの目標の立て方：総合的な学習の時間は学校ごとに課題と目標とを定める。その意義、目的、具体的な立て方について、第7、8回の実践例をもとに学ぶ。特に、問題の発見の仕方や、生徒に実践させるうえでの診断的評価との兼ね合いについて学ぶ。
第9回	年間計画と指導案作成の理解	総合的な学習の時間は長期的な視野に基づき年間計画を立てて実施することが必要である。その理念及び実践上の必要性について学び、その長期的視野のもとで、個別の指導案を作成する方法を学ぶ。
第10回	指導案作成の実践的学習(1)	前時での学習を活かし、具体的な指導案を作成する。
第11回	指導案改善の観点と方法	前時に作成した指導案を改善する際の観点を学ぶ。具体的には、①他の教科との関連、②活動における生徒の主体性の育成、③対話的な学習、の観点を学ぶ。

- 第12回 指導案改善の実践的学習 前時に学習した観点に基づき自分の作成した指導案を改良する。
 第13回 授業指導案の発表と講評 授業の指導案を発表し相互評価と教員からの講評を行う。
 第14回 試験・まとめと解説 試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。指導案の作成は授業時間外で行ってまいります。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領』
 文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』
 文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領』
 文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』
 文部科学省のHPで見れます
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
 文部科学省（2008 / 2009）『中学校 / 高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（指導案発表の成果）20%、最終提出の授業計画案（授業指導案）30%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

最終目的が「1単位時間（1授業分）の指導案」を作成できるようになることであり、作成した年間計画、単元計画、指導案等についてフィードバックを積極的に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出の際は、授業支援システムを利用する。指導案の作成時はPC（パソコン）を用意してください。

【その他の重要事項】

教職科目の「道徳の指導法」、「教育相談等に関する科目」に該当する科目を履修することにより、この科目の理解が深まることになります。シラバスの内容は受講生の興味関心に応じて若干の変更をすることがあります。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, the way of evaluation of students' grades.

社会・地歴科教育法

石出 法太

単位：4単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑などで毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況により計画・授業形態が変更されることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
2	社会科学教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科学の前史（戦前の社会科学系科目）	明治以降の日本の教育について—教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科学の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科学における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科学の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計（1）：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計（2）：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な課題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。

24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中で日本を考える。
26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・レポート提出・学習指導案提出（30%）、二回の試験（60%）を総合的に勘案して評価する。授業の形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons.

社会・地歴科教育法（1）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに教科書と学習方法を具体的に学ぶ。授業は講義、課題と発表、質疑からなり、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
第 3 回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について一教育勅諭と修身教育などについて学ぶ。
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
第 5 回	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的な授業方法を考える。
第 8 回	社会・地歴科の評価	授業実践の中で具体的に学ぶ。
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校社会科の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校地歴科の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校の現実的な課題をとりあげる
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してこよう。

・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。

・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

毎時間の授業への取り組み（40%）、レポートと確認テスト（60%）。授業形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題につながる実際に役立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テーマにそった模擬授業（歴史の授業を軸とする）を材料に検討をおこなう。学生の模擬授業案の提出と検討、模擬授業発表と質疑、報告のまとめ等で授業をすすめる。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
第 2 回	授業の設計 (1)：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
第 3 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
第 4 回	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
第 5 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
第 6 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
第 7 回	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
第 8 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
第 9 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
第 10 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
第 11 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
第 12 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
第 13 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
第 14 回	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとまとめの試験作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してこること。
 ・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。
 ・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。
 文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
 文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

模擬授業を含め毎時間授業への取り組み（40%）、レポートと確認テスト（60%）。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題を意識した役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・地歴科教育法

石出 法太

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑などで毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況により計画・授業形態が変更されることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、授業の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について—教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計（1）：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計（2）：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な課題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。

24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・レポート提出・学習指導案提出（30%）、二回の試験（60%）を総合的に勘案して評価する。授業の形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

社会・地歴科教育法（1）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、課題と発表、質疑からなり、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
第 3 回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について一教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
第 5 回	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的な授業方法を考える。
第 8 回	社会・地歴科の評価	授業実践の中で具体的に学ぶ。
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校社会科の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校地歴科の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校の現実的な課題をとりあげる
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してこること。

・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。

・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

毎時間の授業への取り組み（40%）、レポートと確認テスト（60%）。授業形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題につながる実際に役立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テーマにそった模擬授業（歴史の授業を軸とする）を材料に検討をおこなう。学生の模擬授業案の提出と検討、模擬授業発表と質疑、報告のまとめ等で授業をすすめる。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
第 2 回	授業の設計 (1)：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
第 3 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
第 4 回	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
第 5 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
第 6 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
第 7 回	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
第 8 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
第 9 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
第 10 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
第 11 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
第 12 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
第 13 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
第 14 回	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとまとめの試験作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。
・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

模擬授業を含め毎時間授業への取り組み（40 %）、レポートと確認テスト（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題を意識した役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・地歴科教育法

本山 明

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第 3 回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科教育改革と社会科の成立
第 5 回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用方法を現場での実態をもとに構想していく
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいか。ICT を利用した発表学習
第 8 回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	SDG s の授業について 高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	SDG s の授業について 中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）（11 回に統合）	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）（12 回に統合）	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か
第 15 回	学習指導案とその作成方法	学習指導案とは何か 必要な項目 留意点
第 16 回	授業の設計（1）：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第 17 回	授業の設計（2）：教材の探し方と問の作り方、ICT 教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第 18 回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 19 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 20 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 21 回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する

第 22 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 23 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 24 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 25 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 26 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDG s について研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 27 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第 28 回	まとめ：授業内確認テストも含む	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①予習復習の方法は適宜指示する。特に授業に関わる学習指導要領は、該当部分を予習してくること。②夏季休業中における課題の作成。＊必須③宿題＊必須
＊必須の提出ができないときは単位修得困難。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領解説」社会科編、「高等学校学習指導要領解説」地歴科編

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート 50 %
宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学習指導案の作成方法を細かく、指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要な場合は指示する。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業支援システムで受け付ける。
実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。
時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

社会・地歴科教育法（1）

本山 明

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態（講義、演習）、授業内での発表、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパー
授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	前期の授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第 3 回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科教育改革と社会科の成立
第 5 回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用方法を現場での実態をもとに構想していく
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいのか。ICT を利用した発表学習
第 8 回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG s の授業について
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG s の授業について
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しない。毎回資料を配布します。

【参考書】

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート 50 %
宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業についての建設的な要望は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用するときは事前に連絡をする。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業の後に受け付ける。

実務経験としては中学校社会科の教員としての経験がある。現場の感覚に近い授業方法が修得できる。

時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

本山 明

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態（講義、演習）、授業内での発表、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパー

授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：学習指導案とその作成方法	授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	授業の設計 (1)：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第 3 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第 4 回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 5 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 6 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 7 回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 8 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 9 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 10 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 11 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 12 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDG s について研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 13 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第 14 回	まとめ：授業内確認テストも含む	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しない。毎回資料を配布します。

【参考書】

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

平常点・授業内レポート 50 %

宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に対する建設的な要望は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用する場合は事前に連絡する。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業後に受け付ける。

実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。

時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・地歴科教育法

本山 明

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第 3 回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科教育改革と社会科の成立
第 5 回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用方法を現場での実態をもとに構想していく
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいのか。ICT を利用した発表学習
第 8 回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	SDG s の授業について 高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	SDG s の授業について 中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）（11 回に統合）	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）（12 回に統合）	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か
第 15 回	学習指導案とその作成方法	学習指導案とは何か 必要な項目 留意点
第 16 回	授業の設計（1）：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第 17 回	授業の設計（2）：教材の探し方と問の作り方、ICT 教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第 18 回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 19 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 20 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 21 回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する

第 22 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 23 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 24 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 25 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 26 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDG s について研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 27 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第 28 回	まとめ：授業内確認テストも含む	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①予習復習の方法は適宜指示する。特に授業に関わる学習指導要領は、該当部分を予習しておくこと。②夏季休業中における課題の作成。＊必須③宿題＊必須

＊必須の提出ができないときは単位修得困難。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領解説」社会科編、「高等学校学習指導要領解説」地歴科編

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

平常点・授業内レポート 50 %

宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学習指導案の作成方法を細かく、指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要な場合は指示する。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業支援システムで受け付ける。

実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。

時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

社会・地歴科教育法（1）

本山 明

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態（講義、演習）、授業内での発表、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパー
授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	前期の授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第 3 回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科教育改革と社会科の成立
第 5 回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用方法を現場での実態をもとに構想していく
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいのか。ICT を利用した発表学習
第 8 回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG s の授業について
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG s の授業について
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しない。毎回資料を配布します。

【参考書】

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

平常点・授業内レポート 50 %

宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業についての建設的な要望は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用するときは事前に連絡をする。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業の後に受け付ける。

実務経験としては中学校社会科の教員としての経験がある。現場の感覚に近い授業方法が修得できる。

時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

本山 明

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態（講義、演習）、授業内での発表、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパー

授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：学習指導案とその作成方法	授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	授業の設計 (1)：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第 3 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第 4 回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 5 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 6 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 7 回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 8 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 9 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 10 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 11 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 12 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDG s について研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 13 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第 14 回	まとめ：授業内確認テストも含む	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しない。毎回資料を配布します。

【参考書】

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

平常点・授業内レポート 50 %

宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に対する建設的な要望は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用する場合は事前に連絡する。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業後に受け付ける。

実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。

時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・地歴科教育法

石出 法太

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑となり、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説をおこなう。状況により授業形態・計画の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、授業の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について—教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計（1）：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計（2）：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な課題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。

24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中で日本を考える。
26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・レポート提出・学習指導案提出（30%）、二回の試験（60%）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons.

社会・地歴科教育法（1）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに教科書と学習方法を具体的に学ぶ。授業は講義、課題と発表、質疑となる。提出物・レポート、試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況によって授業形態・計画の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
第 3 回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について一教育勸諭と修身教育などについて学ぶ。
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
第 5 回	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
第 8 回	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとまとめの試験作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。

・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。

・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

毎時間の授業への取り組み（40%）、レポートと確認テスト（60%）。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題につながる実際に役立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テーマにそった模擬授業（歴史の授業を軸とする）を材料に検討をおこなう。学生の模擬授業案の提出と検討、模擬授業発表と質疑、報告のまとめ等で授業をすすめる。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
第 2 回	授業の設計 (1)：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
第 3 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
第 4 回	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題を取りあげ検討する。
第 5 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
第 6 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題について取りあげる。
第 7 回	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
第 8 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマを取りあげる。
第 9 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
第 10 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習を取りあげる。
第 11 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
第 12 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
第 13 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
第 14 回	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとまとめの試験作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してこること。
 ・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。
 ・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。
 文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
 文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

模擬授業を含め毎時間授業への取り組み（40%）、レポートと確認テスト（60%）。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題を意識した役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・地歴科教育法

石出 法太

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑となり、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説をおこなう。状況により授業形態・計画の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、授業の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について—教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計（1）：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計（2）：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な課題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。

24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中で日本を考える。
26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・レポート提出・学習指導案提出（30%）、二回の試験（60%）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

社会・地歴科教育法（1）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに教科書と学習方法を具体的に学ぶ。授業は講義、課題と発表、質疑となる。提出物・レポート、試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況によって授業形態・計画の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
第 3 回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について一教育勸諭と修身教育などについて学ぶ。
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
第 5 回	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
第 8 回	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとまとめの試験作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。

・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。

・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

毎時間の授業への取り組み（40%）、レポートと確認テスト（60%）。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題につながる実際に役立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テーマにそった模擬授業（歴史の授業を軸とする）を材料に検討をおこなう。学生の模擬授業案の提出と検討、模擬授業発表と質疑、報告のまとめ等で授業をすすめる。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
第 2 回	授業の設計 (1)：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
第 3 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
第 4 回	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題を取りあげ検討する。
第 5 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
第 6 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
第 7 回	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
第 8 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマを取りあげる。
第 9 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
第 10 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習を取りあげる。
第 11 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
第 12 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
第 13 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
第 14 回	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとまとめの試験作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。
・本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

教員が適宜紹介する。
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

模擬授業を含め毎時間授業への取り組み（40 %）、レポートと確認テスト（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な課題を意識した役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・公民科教育法

八木橋 正之

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は授業で配布する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、授業のねらいや目標を講義形式で行い、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行います。

秋学期は、各自が中学社会、高校公民科科目から1科目を選び、学習指導案（授業プラン）の作成と発表の模擬授業を行います。授業で提示する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行い、レポートや課題については授業内で講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	公民的資質とは何か	戦後教育における社会科教育の役割について
第2回	社会・公民科教育の歴史	教育勅語と修身、戦後の出発と教育基本法・社会科
第3回	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の位置づけと変遷について
第4回	社会・公民科の目標と内容	主権者としての公民的資質の育成について
第5回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	憲法・人権・民主主義をどう学ぶか
第6回	実践事例の検討（高校公民科）	高校公民科の科目編成と授業展開
第7回	学習指導案の書き方	学習指導案の作成と方法について
第8回	教材の研究と開発	社会科教育と教材について
第9回	情報機器及び教材の効果的な活用	各種資料・統計の扱い方と方法について
第10回	学習評価の工夫と実際	評価の考え方と進め方について
第11回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業計画作成の留意点①
第12回	学習指導案の検討（高校公民科）	授業計画作成の留意点②
第13回	実践研究及び授業評価の視点	実践研究及び授業評価の視点
第14回	実践研究（中学社会科公民的分野）	公民的分野の学習の流れ—地理的分野・歴史的分野との関連
第15回	授業の指導案をどうつくるか	学習のねらいと目標及び指導方法について
第16回	実践研究（高校「現代社会」）	「現代社会」の基本的性格と目標について—中学公民的分野との関連
第17回	実践研究（高校「倫理」）	「倫理」の基本的性格と目標について
第18回	実践研究（高校「政治・経済」）	「政治・経済」の基本的性格と目標について
第19回	実践研究（高校「公共」）	新科目としての性格と目標について—憲法学習を中心に
第20回	模擬授業（中学社会科公民的分野）—私たちと現代社会	現代社会の見方や考え方について
第21回	模擬授業（中学社会科公民的分野）—私たちと経済・社会	豊かな暮らし、民主主義とは何か
第22回	模擬授業（中学社会科公民的分野）—世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	私たちと国際社会の課題について
第23回	模擬授業（高校「現代社会」）	人間の尊厳と平等、個人の尊重、法の支配などを中心に
第24回	模擬授業（高校「倫理」）	現代の諸課題と倫理について—生命倫理、環境倫理を中心に

第 25 回	模擬授業（高校「政治・経済」）	三権分立と国民の政治参加を中心に
第 26 回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	憲法の三原則を中心に
第 27 回	高校社会・公民科の授業実践の課題	主権者としての社会認識をどう育てるか
第 28 回	授業のまとめ	課題レポートの作成と発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのか意識して考えるようにすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配付します。

【参考書】

「＜新版＞社会・地歴・公民科教育法」白井嘉一・柴田義松編著 学文社 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、課題（60％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（1）

八木橋 正之

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業で配布する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通して、授業のねらいや目標を講義形式で行い、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行い、授業内で講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画及びアンケートによる受講生の意識調査
第 2 回	公民的資質とは何か	戦後教育における社会科教育の役割について
第 3 回	社会・公民科教育の歴史	教育勅諭と修身、戦後の出発と教育基本法・社会科
第 4 回	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の位置づけと変遷について
第 5 回	社会・公民科の目標と内容	主権者としての公民的資質の育成について
第 6 回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	憲法・人権・民主主義をどう学ぶか
第 7 回	実践事例の検討（高校公民科）	高校公民科の科目編成と授業展開
第 8 回	学習指導案の書き方	学習指導案の作成と方法について
第 9 回	教材の研究と開発	社会科教育と教材について
第 10 回	情報機器及び教材の効果的な活用	各種資料・統計の扱い方と方法について
第 11 回	学習評価の工夫と実際	評価の考え方と進め方について
第 12 回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業計画作成の留意点①
第 13 回	学習指導案の検討（高校公民科）	授業計画作成の留意点②
第 14 回	春学期のまとめとテスト	学習指導案作成に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのか意識して考えるようにすること。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配布します。

【参考書】

「＜新版＞社会・地歴・公民科教育法」白井嘉一・柴田義松編著 学文社 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、課題（40％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（2）

八木橋 正之

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

秋学期は、各自が中学社会、高校公民科科目から1科目選び、学習指導案（授業プラン）の作成と発表の模擬授業を行います。授業で提示する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行い、授業内で講評・解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の指導案をどうつくるか	学習のねらいと目標及び指導方法について
第2回	実践研究（高校「現代社会」）	「現代社会」の基本的性格と目標について－中学公民的分野との関連
第3回	実践研究（高校「倫理」）	「倫理」の基本的性格と目標について
第4回	実践研究（高校「政治・経済」）	「政治・経済」の基本的性格と目標について
第5回	実践研究（高校「公共」）	新科目としての性格と目標について－憲法学習を中心に
第6回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代社会の見方や考え方について
第7回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	豊かな暮らし、民主主義とは何か
第8回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	私たちと国際社会の課題について
第9回	模擬授業（高校「現代社会」）	人間の尊厳と平等、個人の尊重、法の支配などを中心に
第10回	模擬授業（高校「倫理」）	現代の諸課題と倫理について－生命倫理、環境倫理を中心に
第11回	模擬授業（高校「政治・経済」）	三権分立と国民の政治参加を中心に
第12回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	憲法の三原理を中心に
第13回	高校社会・公民科の授業実践の課題	主権者としての社会認識をどう育てるか
第14回	授業のまとめ	課題レポートの作成と発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのかを意識して考えるようにすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配布します。

【参考書】

「＜新版＞社会・地歴・公民科教育法」白井嘉一・柴田義松編著 学文社 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、課題（学習指導案の作成及び発表等を含む）（60％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

社会・公民科教育法

八木橋 正之

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は授業で配布する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、授業のねらいや目標を講義形式で行い、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行います。

秋学期は、各自が中学社会、高校公民科科目から1科目選び、学習指導案（授業プラン）の作成と発表の模擬授業を行います。授業で提示する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行い、レポートや課題については授業内で講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	公民的資質とは何か	戦後教育における社会科教育の役割について
第2回	社会・公民科教育の歴史	教育勅諭と修身、戦後の出発と教育基本法・社会科
第3回	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の位置づけと変遷について
第4回	社会・公民科の目標と内容	主権者としての公民的資質の育成について
第5回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	憲法・人権・民主主義をどう学ぶか
第6回	実践事例の検討（高校公民科）	高校公民科の科目編成と授業展開
第7回	学習指導案の書き方	学習指導案の作成と方法について
第8回	教材の研究と開発	社会科教育と教材について
第9回	情報機器及び教材の効果的な活用	各種資料・統計の扱い方と方法について
第10回	学習評価の工夫と実際	評価の考え方と進め方について
第11回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業計画作成の留意点①
第12回	学習指導案の検討（高校公民科）	授業計画作成の留意点②
第13回	実践研究及び授業評価の視点	実践研究及び授業評価の視点
第14回	実践研究（中学社会科公民的分野）	公民的分野の学習の流れー地理的分野・歴史的分野との関連
第15回	授業の指導案をどうつくるか	学習のねらいと目標及び指導方法について
第16回	実践研究（高校「現代社会」）	「現代社会」の基本的性格と目標についてー中学公民的分野との関連
第17回	実践研究（高校「倫理」）	「倫理」の基本的性格と目標について
第18回	実践研究（高校「政治・経済」）	「政治・経済」の基本的性格と目標について
第19回	実践研究（高校「公共」）	新科目としての性格と目標についてー憲法学習を中心に
第20回	模擬授業（中学社会科公民的分野）ー私たちと現代社会	現代社会の見方や考え方について
第21回	模擬授業（中学社会科公民的分野）ー私たちと経済・社会	豊かな暮らし、民主主義とは何か
第22回	模擬授業（中学社会科公民的分野）ー世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	私たちと国際社会の課題について
第23回	模擬授業（高校「現代社会」）	人間の尊厳と平等、個人の尊重、法の支配などを中心に
第24回	模擬授業（高校「倫理」）	現代の諸課題と倫理についてー生命倫理、環境倫理を中心

第25回	模擬授業（高校「政治・経済」）	三権分立と国民の政治参加を中心に
第26回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	憲法の三原理を中心に
第27回	高校社会・公民科の授業実践の課題	主権者としての社会認識をどう育てるか
第28回	授業のまとめ	課題レポートの作成と発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのか意識して考えるようにすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配付します。

【参考書】

「＜新版＞社会・地歴・公民科教育法」臼井嘉一・柴田義松編著 学文社 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、課題（60％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（1）

八木橋 正之

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業で配布する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通して、授業のねらいや目標を講義形式で行い、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行い、授業内で講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画及びアンケートによる受講生の意識調査
第 2 回	公民的資質とは何か	戦後教育における社会科教育の役割について
第 3 回	社会・公民科教育の歴史	教育勅諭と修身、戦後の出発と教育基本法・社会科
第 4 回	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の位置づけと変遷について
第 5 回	社会・公民科の目標と内容	主権者としての公民的資質の育成について
第 6 回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	憲法・人権・民主主義をどう学ぶか
第 7 回	実践事例の検討（高校公民科）	高校公民科の科目編成と授業展開
第 8 回	学習指導案の書き方	学習指導案の作成と方法について
第 9 回	教材の研究と開発	社会科教育と教材について
第 10 回	情報機器及び教材の効果的な活用	各種資料・統計の扱い方と方法について
第 11 回	学習評価の工夫と実際	評価の考え方と進め方について
第 12 回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業計画作成の留意点①
第 13 回	学習指導案の検討（高校公民科）	授業計画作成の留意点②
第 14 回	春学期のまとめとテスト	学習指導案作成に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのか意識して考えるようにすること。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配布します。

【参考書】

「＜新版＞社会・地歴・公民科教育法」白井嘉一・柴田義松編著 学文社 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、課題（40％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（2）

八木橋 正之

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

秋学期は、各自が中学社会、高校公民科科目から1科目選び、学習指導案（授業プラン）の作成と発表の模擬授業を行います。授業で提示する資料をもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行い、授業内で講評・解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の指導案をどうつくるか	学習のねらいと目標及び指導方法について
第 2 回	実践研究（高校「現代社会」）	「現代社会」の基本的性格と目標について－中学公民的分野との関連
第 3 回	実践研究（高校「倫理」）	「倫理」の基本的性格と目標について
第 4 回	実践研究（高校「政治・経済」）	「政治・経済」の基本的性格と目標について
第 5 回	実践研究（高校「公共」）	新科目としての性格と目標について－憲法学習を中心に
第 6 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代社会の見方や考え方について
第 7 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	豊かな暮らし、民主主義とは何か
第 8 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人間の福祉、よりよい社会を目指して	私たちと国際社会の課題について
第 9 回	模擬授業（高校「現代社会」）	人間の尊厳と平等、個人の尊重、法の支配などを中心に
第 10 回	模擬授業（高校「倫理」）	現代の諸課題と倫理について－生命倫理、環境倫理を中心に
第 11 回	模擬授業（高校「政治・経済」）	三権分立と国民の政治参加を中心に
第 12 回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	憲法の三原理を中心に
第 13 回	高校社会・公民科の授業実践の課題	主権者としての社会認識をどう育てるか
第 14 回	授業のまとめ	課題レポートの作成と発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのかを意識して考えるようにすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配布します。

【参考書】

「＜新版＞社会・地歴・公民科教育法」白井嘉一・柴田義松編著 学文社 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、課題（学習指導案の作成及び発表等を含む）（60％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

社会・公民科教育法

松尾 知明

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。さらに、これらの基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	情報機器及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り
15	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
16	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法
17	実践研究（高校「公共」）	地方の政治と自治
18	実践研究（高校「倫理」）	対立と合意形成
19	実践研究（高校「政治・経済」）	正義とは
20	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	実践研究 発表(1)
21	高校社会・公民科の授業実践の課題	実践研究 発表(2)
22	実践研究	主権者教育
23	学習指導案の検討	検討と準備
24	模擬授業（中学社会科公民的分野）	基本的な授業態度（発声・表情、所作）
25	模擬授業（高校「公共」）	教授・学習活動の展開
26	模擬授業（高校「倫理」）	生徒との関わり
27	模擬授業（高校「政治・経済」）	授業実践のまとめ
28	授業のまとめ	振り返りとまとめ、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。教材研究や学習指導案の作成を行う。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂上康俊他『新編 新しい社会 公民』東京書籍（文部科学省検定教科書）、和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019年。その他、授業において指示する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題（50%）、テスト（20%）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を行ったり観察したりする視点をより明確にする。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

社会・公民科教育法（1）

松尾 知明

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。社会・公民科教育法(1)では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。なお、受講希望者は、オリエンテーションでグループ分けを行うので、第1回目の授業に必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	情報機器及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、個人やグループで教材研究や学習指導案の作成を行う。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019年。その他、授業において指示をする。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）、課題（40%）、テスト（30%）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークをさらに工夫する。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法 (2)

松尾 知明

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。社会・公民科教育法(2)では、グループで実践研究の発表を行うとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業を行う。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
2	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法
3	実践研究（高校「公共」）	地方の政治と自治
4	実践研究（高校「倫理」）	対立と合意形成
5	実践研究（高校「政治・経済」）	正義とは
6	中学校社会・公民科授業実践の課題	実践研究 発表(1)
7	高校社会・公民科の授業実践の課題	実践研究 発表(2)
8	実践研究	主権者教育
9	学習指導案の検討	検討と準備
10	模擬授業（中学社会科公民的分野）	基本的な授業態度（発声・表情、所作）
11	模擬授業（高校「公共」）	教授・学習活動の展開
12	模擬授業（高校「倫理」）	生徒との関わり
13	模擬授業（高校「政治・経済」）	授業実践のまとめ
14	授業のまとめ	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂上康俊他『新編 新しい社会 公民』東京書籍（文部科学省検定教科書）、和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019年。その他、授業においてを指示する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題（50%）、テスト（20%）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を行ったり観察したりする視点をより明確にする。

【Outline and objectives】

This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

社会・公民科教育法

松尾 知明

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、これらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。さらに、これらの基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、これらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	情報機器及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り
15	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
16	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法
17	実践研究（高校「公共」）	地方の政治と自治
18	実践研究（高校「倫理」）	対立と合意形成
19	実践研究（高校「政治・経済」）	正義とは
20	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	実践研究 発表(1)
21	高校社会・公民科の授業実践の課題	実践研究 発表(2)
22	実践研究	主権者教育
23	学習指導案の検討	検討と準備
24	模擬授業（中学社会科公民的分野）	基本的な授業態度（発声・表情、所作）
25	模擬授業（高校「公共」）	教授・学習活動の展開
26	模擬授業（高校「倫理」）	生徒との関わり
27	模擬授業（高校「政治・経済」）	授業実践のまとめ
28	授業のまとめ	振り返りとまとめ、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。教材研究や学習指導案の作成を行う。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂上康俊他『新編 新しい社会 公民』東京書籍（文部科学省検定教科書）、和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019年。その他、授業において指示する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題（50%）、テスト（20%）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を行ったり観察したりする視点をより明確にする。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

社会・公民科教育法（1）

松尾 知明

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。社会・公民科教育法(1)では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。なお、受講希望者は、オリエンテーションでグループ分けを行うので、第1回目の授業に必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	情報機器及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、個人やグループで教材研究や学習指導案の作成を行う。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019年。その他、授業において指示をする。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）、課題（40%）、テスト（30%）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークをさらに工夫する。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法 (2)

松尾 知明

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。社会・公民科教育法(2)では、グループで実践研究の発表を行うとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業を行う。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
2	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法
3	実践研究（高校「公共」）	地方の政治と自治
4	実践研究（高校「倫理」）	対立と合意形成
5	実践研究（高校「政治・経済」）	正義とは
6	中学校社会・公民科授業実践の課題	実践研究 発表(1)
7	高校社会・公民科の授業実践の課題	実践研究 発表(2)
8	実践研究	主権者教育
9	学習指導案の検討	検討と準備
10	模擬授業（中学社会科公民的分野）	基本的な授業態度（発声・表情、所作）
11	模擬授業（高校「公共」）	教授・学習活動の展開
12	模擬授業（高校「倫理」）	生徒との関わり
13	模擬授業（高校「政治・経済」）	授業実践のまとめ
14	授業のまとめ	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂上康俊他『新編 新しい社会 公民』東京書籍（文部科学省検定教科書）、和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019年。その他、授業においてを指示する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題（50%）、テスト（20%）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を行ったり観察したりする視点をより明確にする。

【Outline and objectives】

This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

社会・公民科教育法

石出 法太

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会・公民科教員として必要な指導上の知識や技能を習得する。現実の様々な課題について問題関心を持ち、自己学習に努め、様々な授業実践に学び、模擬授業を通して実践的な指導力の基礎を身につける。

【到達目標】

教員として社会・公民科がもつ意義や役割を理解し、現代社会を分析できる能力を養い、現代社会の課題を様々な視点から教材として開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期には、社会・公民科の内容やあゆみを現代の課題や問題とむすびつけて学ぶ。秋学期には、実践的指導力の習得をめざし、受講生各自が学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、その検討をおこなう。授業は発表、グループディスカッションやグループワークを取り入れ、視聴覚教材・情報機器等を介した能動的な学習となる。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況により計画・授業形態の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス—授業の進め方の確認	1年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
2	戦前の社会科の歴史をたどる—教育勅語と修身	明治以降の近代化の中で学制から教育勅語の発布までを学ぶ。
3	戦前の社会科の歴史をたどる—大正期の教育と公民科の成立	明治から大正期までの教育をおさえ、国定教科書の果たした役割を考える。
4	戦前の社会科の歴史をたどる—皇国民の育成と国民科	戦争と靖国、国民学校などの教育を学ぶ。
5	植民地と教育—朝鮮・台湾・占領地での皇民化教育	大日本帝国の中における戦前の社会科の歴史をたどる。
6	敗戦と教育—修身と公民科	敗戦が何をもたらしたのか、修身を総括し公民科の構想などを社会科前史として学ぶ。
7	日本国憲法と社会科の成立	社会科成立の経過、とくに憲法との関わり、学習指導要領の成立などを学ぶ。
8	社会科のあゆみ—社会科の解体	戦後の社会の変化と学習指導要領の変遷から学ぶ。
9	現在の社会科—社会科と公民科と地歴科	現学習指導要領の内容や課題について学ぶ。
10	公民科について	中学校社会科の公民、高等学校の公民科の成立とその内容を学ぶ。
11	社会科・公民科の授業実践研究①—中学	社会科における優れた実践事例について班別に調べて演習を行う。
12	社会科・公民科の授業実践研究②—高校	公民科における優れた実践事例について班別に調べて演習を行う。
13	学習指導案の作成について演習	指導計画・学習指導案の作成方法などについて演習を行う。夏季課題の説明。
14	春学期の授業のまとめ・確認試験を含む	春学期の授業について総括する。いくつかのテーマについて試験を授業時間内に作成する。
15	秋学期の授業予定の確認・夏季課題の学習指導案の講評・検討	夏季課題の学習指導案を取り上げ、具体的に改善点を示し受講生と共に検討する。
16	模擬授業に向けての実践授業研究	社会・公民科の一つの授業実践をとりあげて検討する。
17	学習指導案の検討・模擬授業の予備知識および授業準備の確認	学習指導案作成上の留意点を確認する。模擬授業に関する全体的な課題について説明する。
18	模擬授業の準備のための演習	前回の学習成果をふまえ、模擬授業実施上の留意点を全体で確認し、班ごとに模擬授業の準備を行う。
19	模擬授業①—社会科	人権と日本国憲法について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。

20	模擬授業②—社会科	人権と共生社会について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
21	模擬授業③—社会科	現代の民主政治について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
22	模擬授業④—公民科	消費生活と経済について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
23	模擬授業⑤—公民科	資源・エネルギー問題について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
24	模擬授業⑥—公民科	戦争と平和の問題について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
25	模擬授業に関するまとめの演習①—社会科	各班の模擬授業について中学社会科という視点から総括的に講評し、さらに改善点を指摘して全体で共有する。
26	模擬授業に関するまとめの演習②—公民科	各班の模擬授業について高校公民科という視点から総括的に講評し、さらに改善点を指摘して全体で共有する。
27	社会科・公民科の授業の方法-多極化する国際関係と多様なナショナリズムをどうとらえるか	公民科の教材として、現代の国際関係論・ナショナリズム論の基本を学ぶ。
28	秋学期の授業のまとめ・レポート試験の実施	秋学期の授業について総括する。いくつかのテーマについての試験を授業時間内に作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
- ②各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
- ③毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。
- ④本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を基準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

授業時に適宜指示する。
「学習指導要領」（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10％）、授業時の感想・レポート・学習指導案（30％）、二回の試験（60％）をもとに総合的に勘案して評価する。授業形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

広い視野や異なる視点から学ぶことを考えると、この「社会・公民科教育法」を履修した場合には、他の担当者の「社会・地歴科教育法」の履修が望ましい。授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（1）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的な知識の習得と学生の主体的な学習への取り組みによって授業をすすめる。講義や視覚教材による学習、授業内の発表、討議などが中心となり、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などについては適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	1年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
第2回	公民的資質とは何か	現在の公民科の課題を含めて学習する。
第3回	社会・公民科教育の歴史	明治以降の学校教育、その中で公民科について学ぶ。
第4回	学習指導要領と社会・公民科	社会科の成立から学習指導要領の変遷を学ぶ。
第5回	社会・公民科の目標と内容	具体的な公民科の授業を通して目標と内容を学ぶ。
第6回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校での憲法をとりあげた授業で考える。
第7回	実践事例の検討（高校公民科）	高等学校での国際問題をとりあげた授業で検討する。
第8回	学習指導案の書き方	模擬授業や教育実習を想定して指導案を考える。
第9回	教材の研究と開発	中・高の授業をとりあげて教材研究論を考える。
第10回	情報機器及び教材の効果的な活用	実際の授業の中での機材の使用などを検討する。
第11回	学習評価の工夫と実際	実際の授業をとりあげて評価の問題を考える。
第12回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
第13回	学習指導案の検討（高校公民科）	高校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
第14回	春学期のまとめとテスト	春学期のふりかえりとまとめのレポート試験の作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
- ・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
- ・毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

教員が適宜紹介する。
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10％）、毎時間提出の感想・レポート提出など（30％）、試験（60％）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点に立った実際に役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（2）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には学生の主体的な学習への取り組みによって授業をすすめる。授業においては模擬授業、発表、討議などが中心となる。さらに講義などの補足もおこなわれ、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実践研究及び授業評価の視点	授業計画とあわせ、今後の授業への対応を示す。
第 2 回	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法学習についての実践を扱う。
第 3 回	実践研究（高校「公共」）	現代社会の実践を検討する。
第 4 回	実践研究（高校「倫理」）	思想について人物面からとりあげて検討する。
第 5 回	実践研究（高校「政治・経済」）	現代世界の政治・経済の問題をとりあげる。
第 6 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代日本の課題をとりあげたものをテーマとする。
第 7 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	消費と労働の問題を軸に政治・経済を考える。
第 8 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	現在の世界の紛争やテロをテーマにとりあげる。
第 9 回	模擬授業（高校「公共」）	新科目公共に対する問題意識をもって実践を考える。
第 10 回	模擬授業（高校「倫理」）	現在の宗教を含め倫理的なテーマを課題を考える。
第 11 回	模擬授業（高校「政治・経済」）	具体的な現在の課題をとりあげて検討する。
第 12 回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	授業方法も含め公民の授業の課題を明らかにする。
第 13 回	高校社会・公民科の授業実践の課題	現実的なテーマから授業課題を明らかにする。
第 14 回	授業のまとめ・確認テスト	授業をふりかえりレポート試験を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校「学習指導要領」については、該当部分を必ず予習しておくこと。
 ・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
 ・毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

教員が適宜紹介する。
 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・学習指導案・模擬授業（30%）、試験（60%）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

社会・公民科教育法

石出 法太

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科教員として必要な指導上の知識や技能を習得する。現実の様々な課題について問題関心を持ち、自己学習に努め、様々な授業実践に学び、模擬授業を通して実践的な指導力の基礎を身につける。

【到達目標】

教員として社会・公民科がもつ意義や役割を理解し、現代社会を分析できる能力を養い、現代社会の課題を様々な視点から教材として開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期には、社会・公民科の内容やあゆみを現代の課題や問題とむすびつけて学ぶ。秋学期には、実践的指導力の習得をめざし、受講生各自が学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、その検討をおこなう。授業は発表、グループディスカッションやグループワークを取り入れ、視聴覚機材・情報機器等を介した能動的な学習となる。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。状況により計画・授業形態の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス—授業の進め方の確認	1年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
2	戦前の社会科の歴史をたどる—教育勅語と修身	明治以降の近代化の中で学制から教育勅語の発布までを学ぶ。
3	戦前の社会科の歴史をたどる—大正期の教育と公民科の成立	明治から大正期までの教育をおさえ、国定教科書の果たした役割を考える。
4	戦前の社会科の歴史をたどる—皇国民の育成と国民科	戦争と靖国、国民学校などの教育を学ぶ。
5	植民地と教育—朝鮮・台湾・占領地での皇民化教育	大日本帝国の中における戦前の社会科の歴史をたどる。
6	敗戦と教育—修身と公民科	敗戦が何をもたらしたのか、修身を総括し公民科の構想などを社会科前史として学ぶ。
7	日本国憲法と社会科の成立	社会科成立の経過、とくに憲法との関わり、学習指導要領の成立などを学ぶ。
8	社会科のあゆみ—社会科の解体	戦後の社会の変化と学習指導要領の変遷から学ぶ。
9	現在の社会科—社会科と公民科と地歴科	現学習指導要領の内容や課題について学ぶ。
10	公民科について	中学校社会科の公民、高等学校の公民科の成立とその内容を学ぶ。
11	社会科・公民科の授業実践研究①—中学	社会科における優れた実践事例について班別に調べて演習を行う。
12	社会科・公民科の授業実践研究②—高校	公民科における優れた実践事例について班別に調べて演習を行う。
13	学習指導案の作成について演習	指導計画・学習指導案の作成方法などについて演習を行う。夏季課題の説明。
14	春学期の授業のまとめ・確認試験を含む	春学期の授業について総括する。いくつかのテーマについて試験を授業時間内に作成する。
15	秋学期の授業予定の確認・夏季課題の学習指導案の講評・検討	夏季課題の学習指導案を取り上げ、具体的に改善点を示し受講生と共に検討する。
16	模擬授業に向けての実践授業研究	社会・公民科の一つの授業実践をとりあげて検討する。
17	学習指導案の検討・模擬授業の予備知識および授業準備の確認	学習指導案作成上の留意点を確認する。模擬授業に関する全体的な課題について説明する。
18	模擬授業の準備のための演習	前回の学習成果をふまえ、模擬授業実施上の留意点を全体で確認し、班ごとに模擬授業の準備を行う。
19	模擬授業①—社会科	人権と日本国憲法について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。

20	模擬授業②—社会科	人権と共生社会について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
21	模擬授業③—社会科	現代の民主政治について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
22	模擬授業④—公民科	消費生活と経済について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
23	模擬授業⑤—公民科	資源・エネルギー問題について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
24	模擬授業⑥—公民科	戦争と平和の問題について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
25	模擬授業に関するまとめの演習①—社会科	各班の模擬授業について中学社会科という視点から総括的に講評し、さらに改善点を指摘して全体で共有する。
26	模擬授業に関するまとめの演習②—公民科	各班の模擬授業について高校公民科という視点から総括的に講評し、さらに改善点を指摘して全体で共有する。
27	社会科・公民科の授業の方法-多極化する国際関係と多様なナショナリズムをどうとらえるか	公民科の教材として、現代の国際関係論・ナショナリズム論の基本を学ぶ。
28	秋学期の授業のまとめ・レポート試験の実施	秋学期の授業について総括する。いくつかのテーマについての試験を授業時間内に作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
- ②各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
- ③毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。
- ④本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を基準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

授業時に適宜指示する。
「学習指導要領」（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10％）、授業時の感想・レポート・学習指導案（30％）、二回の試験（60％）をもとに総合的に勘案して評価する。授業形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

広い視野や異なる視点から学ぶことを考えると、この「社会・公民科教育法」を履修した場合には、他の担当者の「社会・地歴科教育法」の履修が望ましい。授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（1）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的な知識の習得と学生の主体的な学習への取り組みによって授業をすすめる。講義や視覚教材による学習、授業内の発表、討議などが中心となり、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などについては適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	1年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
第2回	公民的資質とは何か	現在の公民科の課題を含めて学習する。
第3回	社会・公民科教育の歴史	明治以降の学校教育、その中で公民科について学ぶ。
第4回	学習指導要領と社会・公民科	社会科の成立から学習指導要領の変遷を学ぶ。
第5回	社会・公民科の目標と内容	具体的な公民科の授業を通して目標と内容を学ぶ。
第6回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校での憲法をとりあげた授業で考える。
第7回	実践事例の検討（高校公民科）	高等学校での国際問題をとりあげた授業で検討する。
第8回	学習指導案の書き方	模擬授業や教育実習を想定して指導案を考える。
第9回	教材の研究と開発	中・高の授業をとりあげて教材研究論を考える。
第10回	情報機器及び教材の効果的な活用	実際の授業の中での機材の使用などを検討する。
第11回	学習評価の工夫と実際	実際の授業をとりあげて評価の問題を考える。
第12回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
第13回	学習指導案の検討（高校公民科）	高校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
第14回	春学期のまとめとテスト	春学期のふりかえりとまとめのレポート試験の作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
- ・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
- ・毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

教員が適宜紹介する。
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10％）、毎時間提出の感想・レポート提出など（30％）、試験（60％）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点に立った実際に役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（2）

石出 法太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には学生の主体的な学習への取り組みによって授業をすすめる。授業においては模擬授業、発表、討議などが中心となる。さらに講義などの補足もおこなわれ、毎回提出物がある。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実践研究及び授業評価の視点	授業計画とあわせ、今後の授業への対応を示す。
第 2 回	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法学習についての実践を扱う。
第 3 回	実践研究（高校「公共」）	現代社会の実践を検討する。
第 4 回	実践研究（高校「倫理」）	思想について人物面からとりあげて検討する。
第 5 回	実践研究（高校「政治・経済」）	現代世界の政治・経済の問題をとりあげる。
第 6 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代日本の課題をとりあげたものをテーマとする。
第 7 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	消費と労働の問題を軸に政治・経済を考える。
第 8 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	現在の世界の紛争やテロをテーマにとりあげる。
第 9 回	模擬授業（高校「公共」）	新科目公共に対する問題意識をもって実践を考える。
第 10 回	模擬授業（高校「倫理」）	現在の宗教を含め倫理的なテーマを課題を考える。
第 11 回	模擬授業（高校「政治・経済」）	具体的な現在の課題をとりあげて検討する。
第 12 回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	授業方法も含め公民の授業の課題を明らかにする。
第 13 回	高校社会・公民科の授業実践の課題	現実的なテーマから授業課題を明らかにする。
第 14 回	授業のまとめ・確認テスト	授業をふりかえりレポート試験を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校「学習指導要領」については、該当部分を必ず予習しておくこと。
 ・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
 ・毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

教員が適宜紹介する。
 文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・学習指導案・模擬授業（30%）、試験（60%）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

商業科教育法

木村 良成

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春・秋学期の授業を通して、商業教育、特に高等学校の商業科教育についての正しい認識と理解を得させるとともに、当該教科の教育についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。

まず最初に、商業教育とは、特に高等学校段階での商業教育とは一体どのような性格の教育なのか、そしてそれにはどのような効用なり、役割が期待されているのかを考えてみる。

春学期の授業では、当該教科の学習指導を中心とした授業展開を考えているが、その前段階として、まず、一般的な商業の学習指導の概念や学習指導計画、学習形態と学習指導法などについて学習する。その後、高等学校の商業教科の組織上の科目群、すなわち、流通ビジネス（商業経済）、国際経済、簿記会計、経営情報（情報処理）および総合的（総合学習）の各科目群の中から幾つかの科目を選んで、それぞれの科目の性格・目標、内容などとの関連において、これらに適した学習指導法について考え、演習を試みてみる。秋学期は、そのような商業教育は、わが国の場合、何時ごろ、どのような社会的経済的背景の下に起こり、どのような変遷を経て今日に至ったのか、特に戦後の教育制度の下での変遷に重点をおいてみる。

その後、最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学校の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから、ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【到達目標】

教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになること。そして、商業科教員として最大限身につけておくような教材研究ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義一辺倒にならぬように、例えば、課題解決的な学習や模擬授業のようなものを取り入れたり、現職教員を招いての講演会を行うなど、多様な授業形態・方法を工夫してやっていきたいと思っている。

単元や要所終了時にリアクションペーパーの提出や課題を求め、それにより教育方法や教育指導法が十分学習できたかどうか判断を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本における現在の商業教育全般について	「商業教育」とは何か
2	商学と商業学の違いについて	学問間の違い
3	教科商業の科目について	(1) 基礎科目（実際の科目についての説明）
4	教科商業の科目について	(2) 必修科目（実際の低学年での科目についての説明）
5	教科商業の科目について	(3) 必修科目（実際の高学年での科目についての説明）
6	教科商業の科目について	(4) 発展科目（実際の科目についての説明）
7	商業教育の特質	普通高校との相違
8	現代商業教育の役割	現代に求められている商業教育
9	学習指導の形態と進め方	商業教育におけるそれぞれの科目の学習指導方法
10	学習指導法と指導計画について	指導計画における「指導案」の役割
11	学習指導計画と教育評価	教育評価の様々な方法について
12	外国における商業教育の現状	諸外国での現状（近隣アジア諸国での現状）
13	生涯学習と商業教育の結びつき	生涯学習の意義と定義
14	高等学校・大学以外で行われている商業教育	商業教育が行われている現場
15	現代商業教育の実状と問題点について	課題と解決
16	今後の商業教育の動向について	将来の商業科教育を模索
17	近代商業教育制度の創設	室町時代から江戸時代
18	明治時代の商業教育	明治時代初期における学制を中心とした教育

19	学制の発布とその創成期	教育令や商業学校通則に従った商業教育
20	明治時代中期以降の商業教育	実業学校令における商業教育
21	大正時代から昭和時代初期（戦前から戦後にかけて）の商業教育	大正期における商業教育の絶頂期
22	第二次世界大戦中の商業教育	商業教育の危機
23	第二次世界大戦後まもなくの商業教育体系の変化	高度経済成長期までの商業教育の成長
24	商業教育の体系的变化	高度経済成長期以降の低成長およびバブル経済下における商業教育の質的变化（平成不況も含む）
25	実際に行われている商業教育の現場から	商業科高等学校教員を招聘しての講演
26	授業を行うにあたっての留意点	(1) 教材研究の方法にあたって
27	授業を行うにあたっての留意点	(2) 板書例と黒板の書き方
28	授業を行うにあたっての留意点	(3) 50分授業の展開方法とヤマ場の創出方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修学生の授業への主体的・積極的な参加を期待する。

【テキスト（教科書）】

木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）＜授業時必携＞

【参考書】

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』＜最新版＞

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』＜最新版＞

他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また、授業内容に関係する参考文献・資料などについては、最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この授業の成績評価は、春・秋学期それぞれ一回の定期試験（またはレポート）、授業中の学習態度、出席率などを総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項無し

【学生が準備すべき機器他】

1 2 桁電卓

【その他の重要事項】

簿記・会計が理解できていること。

【Outline and objectives】

This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it. Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored. And then, historical development of commercial education after the World War II, the subject goals of commercial education in the National Courses of Study, and their curriculum developments are explored.

商業科教育法 I

木村 良成

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まず最初に授業を通して、商業教育、特に高等学校の商業科教育についての正しい認識と理解を得させるとともに、当該教科の教育についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。

次に、商業教育とは、特に高等学校段階での商業教育とは一体どのような性格の教育なのか、そしてそれにはどのような効用なり、役割が期待されているのかを考えてみる。

春学期の授業では、当該教科の学習指導を中心とした授業展開を考えているが、その前段階として、まず、一般的な商業の学習指導の概念や学習指導計画、学習形態と学習指導法などについて学習する。その後、高等学校の商業教科の組織上の科目群、すなわち、流通ビジネス（商業経済）、国際経済、簿記会計、経営情報（情報処理）および総合的（総合学習）の各科目群の中から幾つかの科目を選んで、それぞれの科目の性格・目標、内容などとの関連において、これらに適した学習指導法について考え、演習を試みてみる。

その後、最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学校の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから、ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【到達目標】

教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになること。そして、商業科教員として最大限身につけておくような教材研究ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義一辺倒にならぬように、例えば、課題解決的な学習や模擬授業のようなものを取り入れたり、現職教員を招いての講演会を行うなど、多様な授業形態・方法を工夫してやっていきたいと思っている。

単元や要所終了時にリアクションペーパーの提出や課題を求め、それにより教育方法や教育指導法が十分学習できたかどうか判断を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本における現在の商業教育全般について	「商業教育」とは何か
第 2 回	商学と商業学の違いについて	学問の違い
第 3 回	教科商業の科目について	(1) 基礎科目（実際の科目についての説明）
第 4 回	教科商業の科目について	(2) 必修科目（実際の低学年での科目についての説明）
第 5 回	教科商業の科目について	(3) 必修科目（実際の高学年での科目についての説明）
第 6 回	教科商業の科目について	(4) 発展科目（実際の科目についての説明）
第 7 回	商業教育の特質	普通高校との相違
第 8 回	現代商業教育の役割	現代に求められている商業教育
第 9 回	学習指導の形態と進め方	商業教育におけるそれぞれの科目の学習指導方法
第 10 回	学習指導法と指導計画について	指導計画における「指導案」の役割
第 11 回	学習指導計画と教育評価	教育評価の様々な方法について
第 12 回	外国における商業教育の現状	諸外国での現状（近隣アジア諸国での現状）
第 13 回	生涯学習と商業教育の結びつき	生涯学習の意義と定義
第 14 回	高等学校・大学以外で行われている商業教育	商業教育が行われている現場

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修学生の授業への主体的・積極的な参加を期待する。

【テキスト（教科書）】

木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）＜授業時必携＞

【参考書】

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』＜最新版＞

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』＜最新版＞

他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また、授業内容に関係する参考文献・資料などについては、最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この授業の成績評価は、定期試験（またはレポート）＜40％＞、授業中の学習態度＜30％＞や履修状況など＜30％＞を総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

1 2 桁計算機

【その他の重要事項】

簿記・会計が理解できていること。

必ず最初に「商業科教育法Ⅰ」を履修すること。（その後、「商業科教育法Ⅱ」を履修することとする。）

【Outline and objectives】

This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it. Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored. And then, the goals and characteristics of commercial education in the National Courses of Study are examined.

商業科教育法Ⅱ

木村 良成

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになることを主眼とし、商業科の一教員として最大限身につけておくように学習活動を行う。講義一辺倒にならぬように、学生主体の授業を行う。

【到達目標】

商業科教育法Ⅰの授業を通して、商業教育、特に高等学校の商業科教育の科目の違いについて学習した。今回は当該科目の教育方法についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。

秋学期においては、今まで学習していた商業教育は、わが国の場合、何時ごろ、どのような社会的経済的背景の下に起こり、どのような変遷を経て今日に至ったのか、特に戦後の教育制度の下での変遷に力点をおいてみる。

ここでも、最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学校の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから、ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

課題解決的な学習や模擬授業、現職教員を招いての講演会を行う。

単元や要所終了時にリアクションペーパーの提出や課題を求め、それにより教育方法や教育指導法が十分学習できたかどうか判断を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代商業教育の実状と問題点及び課題と解決	課題と解決方法について探る
第 2 回	今後の商業教育の動向について、将来の商業科教育を模索	将来の商業科教育を模索し、考える
第 3 回	近代商業教育制度の創設—室町時代から江戸時代	室町時代から江戸時代における教育体系
第 4 回	明治時代の商業教育—明治時代初期における学制を中心とした教育	明治時代初期における学制を中心とした教育（森有礼の存在）
第 5 回	学制の発布とその創成期—教育令や商業学校通則に従った商業教育	教育令や商業学校通則に従った商業教育（その他実業学校との比較）
第 6 回	明治時代中期以降の商業教育—実業学校令における商業教育	実業学校令における商業教育での進展
第 7 回	大正時代から昭和時代初期（戦前から戦後にかけて）の商業教育—大正期における商業教育の絶頂期	大正期における商業教育の栄光の絶頂期
第 8 回	第二次世界大戦中の—商業教育の危機	商業教育の危機とその現状
第 9 回	第二次世界大戦後まもなくの商業教育体系の変化—高度経済成長期までの商業教育の成長	高度経済成長期までの商業教育の成長
第 10 回	商業教育の体系的変化—高度経済成長期以降の低成長およびバブル経済下における商業教育の質的変化（平成不況も含む）	高度経済成長以降の低成長及びバブル経済下における商業教育の質的変化
第 11 回	実際に行われている商業教育の現場から（担当：商業科高等学校教員を招聘）	高等学校商業科に勤務している教員を招聘しての講演
第 12 回	授業を行うにあたっての留意点（1）教材研究の方法と情報機器の活用方法	教材研究の方法にあたって
第 13 回	授業を行うにあたっての留意点（2）板書例と黒板の書き方	板書例と黒板やホワイトボード、電子黒板の使用法

第14回 授業を行うにあたっての留意点 (3) 50分授業の展開方法とヤマ場の創出方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）

【参考書】

文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』最新版
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』最新版
 他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また、授業内容に係る参考文献・資料などについては、最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この授業の成績評価は、定期試験（またはレポート）＜40％＞、授業中の学習態度＜30％＞や履修状況など＜30％＞を総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】

【学生が準備すべき機器他】

1 2 桁計算機

【その他の重要事項】

必ず最初に「商業科教育法Ⅰ」を履修してから、この「商業科教育法Ⅱ」履修のこと。

【Outline and objectives】

Based on the knowledge and skills of Commercial Education I, this class aims to gain basic teaching skills for commercial education. Historical development of commercial education after the World War II, the subject goals of commercial education in the National Courses of Study, and their curriculum developments are explored.

英語科教育法Ⅰ

石原 紀子

単位：4 単位 | 開講セメスター：春学期集中

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各回授業の前半は、主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。各回授業の後半は、理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。

【到達目標】

英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回授業の前半では主に理論的側面を扱うので、教科書の内容を補う講義やグループでの議論、ディベートなどを通して理論的知識を身につけ、それに対する批判的思考を涵養する。後半は理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは Google Classroom を通じて一週間以内に閲覧できるようにする。個々のレポートに対する評価とフィードバックも一週間以内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要、英語力と英語教育、英語教育の略歴
第2回	英語学習経験、英語教員の資質	英語学習経験の考察、省察力、英語教員の資質と役割
第3回	学習指導要領	学習指導要領の変遷と内容、英語運用能力の概念と指導
第4回	発音・文字指導	効果的な発音・文字指導、模擬授業
第5回	英語教授法	英語教授法の歴史と特徴
第6回	リスニング指導	効果的なリスニング指導、模擬授業
第7回	授業準備・授業案	授業計画と授業準備
第8回	スピーキング指導	効果的なインタラクション・発表指導、模擬授業
第9回	言語習得	第一・第二言語習得のメカニズム、英語運用能力とインタラクション
第10回	リーディング指導	効果的なリーディング指導、模擬授業
第11回	学習者論	自律的学習と学習方略
第12回	ライティング指導	効果的なライティング指導、領域統合型の指導、模擬授業
第13回	ことばと文化	多文化・異文化理解、語用論的指導
第14回	語彙・表現指導	効果的な語彙・表現指導、模擬授業
第15回	国際文化理解教育	国際理解と英語教育
第16回	文法指導	効果的な文法指導、模擬授業
第17回	指導案	指導案の構成・内容
第18回	表現指導	辞書やコーパスの使用・指導、模擬授業
第19回	教材研究	教材の特徴と評価、ICT の活用
第20回	中学校での指導	中等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第21回	教室の使用言語	教室英語の導入と指導法、模擬授業
第22回	高等学校での指導	高等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第23回	早期外国語教育	早期教育・イマージョン教育の仕組みと効果
第24回	小学校での英語教育	初等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第25回	評価活動	観点別評価・パフォーマンス評価の理念と方法
第26回	評価と言語学習意欲	評価活動の運用と学習意欲、模擬授業
第27回	教育実習と授業の形態	教育実習の意義と内容・チーム・ティーチング
第28回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。本授業の準備・復習時間は、各週計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

行動志向の英語科教育の基礎と実践（2017, JACET 教育問題研究会編・三修社）

【参考書】

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参加/貢献度 (20%) *
- 2) 省察レポート (2) (40%)
- 3) 模擬授業 (20%) とその省察 (10%)
- 4) その他の課題 (10%)

*授業への参加を重視するため、授業6コマ相当の欠席をすると単位の履修が不可能となる。

【学生の意見等からの気づき】

英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ英語でも指導ができるようにするためこの授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手な学生でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認すること。Zoom授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要。

【その他の重要事項】

この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイデア、疑問、意見交換などを歓迎する。

2021年度は、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性がある。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知する。初回授業はオンライン（リアルタイム配信型）でZoomで実施する。詳しい説明をするので授業支援システムに掲載されるZoomの接続法を参照して必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The first half of each course meeting provides an overview of theoretical aspects of English language teaching (ELT). The topics to be dealt with include the history of ELT in Japan and of teaching methodologies, learner-centered theories, second language acquisition, teaching English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans. The second half of each course meeting focuses on practice aspects of English language teaching (ELT). The topics are directly linked to classroom instruction, including: the teaching of four skills for communicative ELT, grammar and vocabulary instruction, ELT in elementary, junior high, and senior high schools, early childhood ELT, and assessment.

英語科教育法（1）

石原 紀子

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。

【到達目標】

英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。なお、英語科教育法（2）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

主に理論的側面を扱うので、教科書の内容を補う講義やグループでの議論、ディベートなどを通して理論的知識を身につけ、それに対する批判的思考を涵養する。個々のレポートに対する評価とフィードバックは、Google Classroomを通して一週間以内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要、英語力と英語教育、英語教育の略歴
第2回	学習指導要領	学習指導要領の変遷と内容、英語運用能力の概念と指導
第3回	英語教授法	英語教授法の歴史と特徴
第4回	授業準備	授業準備と授業計画
第5回	言語習得	第一・第二言語習得のメカニズム・英語運用能力とインタラクション
第6回	学習者論	学習スタイルと学習方略
第7回	ことばと文化	ことばと文化、異文化理解・語用論的指導
第8回	国際文化理解教育	国際理解と英語教育
第9回	指導案	指導案の構成・内容
第10回	教材研究	教材の特徴と評価、ICTの活用
第11回	教室の使用言語	教室英語の導入と指導法
第12回	早期外国語教育	早期外国語教育・イメージ教育の仕組みと効果
第13回	評価活動	観点別評価・パフォーマンス評価の理念と方法
第14回	教育実習と授業の形態	教育実習の意義と内容・効果的なティーム・ティーチング・まとめと考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

行動志向の英語科教育の基礎と実践（2017, JACET 教育問題研究会編・三修社）

【参考書】

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】

- 授業参加貢献度 (30%)
省察レポート (2) (60%)
その他の課題 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ、英語でも指導ができるようにするため、この授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手の方でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認すること。Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要。

【その他の重要事項】

この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイデア、疑問、意見交換などを歓迎する。

2021 年度は、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性がある。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知する。初回授業はオンライン（リアルタイム配信型）で Zoom で実施する。詳しい説明をするので授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of theoretical aspects of English language teaching (ELT). The topics to be dealt with include the history of ELT in Japan and of teaching methodologies, learner-centered theories, second language acquisition, teaching English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans.

英語科教育法（2）

石原 紀子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。

【到達目標】

英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に実践面を中心に、コミュニケーションな英語科教育のための 4 領域や文法・語彙などの指導、中・高における英語指導、早期英語教育と小学校での英語活動、テストなどの評価活動など教室指導と直接関連するテーマを取り上げる。なお、英語科教育法（1）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは Google Classroom を通して一週間以内に閲覧できるようにする。個々のレポートに対する評価とフィードバックも一週間以内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英語学習経験の考察、省察力、英語教員の資質と役割
第 2 回	学習指導要領、発音・文字指導	学習指導要領の変遷と内容、効果的な発音・文字指導、模擬授業
第 3 回	リスニング指導	効果的なリスニング指導、模擬授業
第 4 回	スピーキング指導	効果的なインタラクション・発表の指導、模擬授業
第 5 回	リーディング指導	効果的な文字・リーディング指導、模擬授業
第 6 回	ライティング指導	効果的なライティング指導・領域統合型の指導、模擬授業
第 7 回	語彙指導	効果的な語彙指導、模擬授業
第 8 回	文法指導	効果的な文法指導、模擬授業
第 9 回	表現指導	辞書やコーパスの使用・指導、模擬授業
第 10 回	中学での指導	中等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 11 回	高等学校での指導	高等学校での英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 12 回	小学校での指導	初等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 13 回	評価と言語学習意欲	評価活動の運用と学習意欲、模擬授業
第 14 回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

行動志向の英語科教育の基礎と実践（2017, JACET 教育問題研究会編・三修社）

【参考書】

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】

授業参加貢献度 (20%) *
省察レポート (2) (40%)
レッスン・プラン、模擬授業 (30%) とその省察 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ、英語でも指導ができるようにするため、この授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手の方でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認すること。Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要。

【その他の重要事項】

この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイデア、疑問、意見交換などを歓迎する。

2021 年度は、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性がある。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知する。初回授業はオンライン（リアルタイム配信型）で Zoom で実施する。詳しい説明をするので授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course focuses on practice aspects of English language teaching (ELT). The topics include the teaching of four skills for communicative ELT, grammar and vocabulary instruction, ELT in elementary, junior high, and senior high schools, early childhood ELT, and assessment.

英語科教育法 I

石原 紀子

単位：4 単位 | 開講セメスター：春学期集中

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各回授業の前半は、主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。各回授業の後半は、理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。

【到達目標】

英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回授業の前半では主に理論的側面を扱うので、教科書の内容を補う講義やグループでの議論、ディベートなどを通して理論的知識を身につけ、それに対する批判的思考を涵養する。後半は理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは Google Classroom を通して一週間以内に関覧できるようにする。個々のレポートに対する評価とフィードバックも一週間以内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	コース概要、英語力と英語教育、英語教育の略歴
第 2 回	英語学習経験、英語教員の資質	英語学習経験の考察、省察力、英語教員の資質と役割
第 3 回	学習指導要領	学習指導要領の変遷と内容、英語運用能力の概念と指導
第 4 回	発音・文字指導	効果的な発音・文字指導、模擬授業
第 5 回	英語教授法	英語教授法の歴史と特徴
第 6 回	リスニング指導	効果的なリスニング指導、模擬授業
第 7 回	授業準備・授業案	授業計画と授業準備
第 8 回	スピーキング指導	効果的なインタラクション・発表指導、模擬授業
第 9 回	言語習得	第一・第二言語習得のメカニズム、英語運用能力とインタラクション
第 10 回	リーディング指導	効果的なリーディング指導、模擬授業
第 11 回	学習者論	自律的学習と学習方略
第 12 回	ライティング指導	効果的なライティング指導、領域統合型の指導、模擬授業
第 13 回	ことばと文化	多文化・異文化理解、語用論的指導
第 14 回	語彙・表現指導	効果的な語彙・表現指導、模擬授業
第 15 回	国際文化理解教育	国際理解と英語教育
第 16 回	文法指導	効果的な文法指導、模擬授業
第 17 回	指導案	指導案の構成・内容
第 18 回	表現指導	辞書やコーパスの使用・指導、模擬授業
第 19 回	教材研究	教材の特徴と評価、ICT の活用
第 20 回	中学校での指導	中等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 21 回	教室の使用言語	教室英語の導入と指導法、模擬授業
第 22 回	高等学校での指導	高等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 23 回	早期外国語教育	早期教育・イマージョン教育の仕組みと効果
第 24 回	小学校での英語教育	初等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 25 回	評価活動	観点別評価・パフォーマンス評価の理念と方法
第 26 回	評価と言語学習意欲	評価活動の運用と学習意欲、模擬授業
第 27 回	教育実習と授業の形態	教育実習の意義と内容・チーム・ティーチング
第 28 回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。本授業の準備・復習時間は、各週計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

行動志向の英語科教育の基礎と実践（2017, JACET 教育問題研究会編・三修社）

【参考書】

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参加/貢献度 (20%) *
- 2) 省察レポート (2) (40%)
- 3) 模擬授業 (20%) とその省察 (10%)
- 4) その他の課題 (10%)

*授業への参加を重視するため、授業6コマ相当の欠席をすると単位の履修が不可能となる。

【学生の意見等からの気づき】

英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ英語でも指導ができるようにするためこの授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手な学生でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認すること。Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要。

【その他の重要事項】

この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイデア、疑問、意見交換などを歓迎する。

2021年度は、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性がある。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知する。初回授業はオンライン（リアルタイム配信型）で Zoom で実施する。詳しい説明をするので授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The first half of each course meeting provides an overview of theoretical aspects of English language teaching (ELT). The topics to be dealt with include the history of ELT in Japan and of teaching methodologies, learner-centered theories, second language acquisition, teaching English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans. The second half of each course meeting focuses on practice aspects of English language teaching (ELT). The topics are directly linked to classroom instruction, including: the teaching of four skills for communicative ELT, grammar and vocabulary instruction, ELT in elementary, junior high, and senior high schools, early childhood ELT, and assessment.

英語科教育法（1）

石原 紀子

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。

【到達目標】

英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。なお、英語科教育法（2）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

主に理論的側面を扱うので、教科書の内容を補う講義やグループでの議論、ディベートなどを通して理論的知識を身につけ、それに対する批判的思考を涵養する。個々のレポートに対する評価とフィードバックは、Google Classroom を通じて一週間以内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要、英語力と英語教育、英語教育の略歴
第2回	学習指導要領	学習指導要領の変遷と内容、英語運用能力の概念と指導
第3回	英語教授法	英語教授法の歴史と特徴
第4回	授業準備	授業準備と授業計画
第5回	言語習得	第一・第二言語習得のメカニズム・英語運用能力とインタラクション
第6回	学習者論	学習スタイルと学習方略
第7回	ことばと文化	ことばと文化、異文化理解・語用論的指導
第8回	国際文化理解教育	国際理解と英語教育
第9回	指導案	指導案の構成・内容
第10回	教材研究	教材の特徴と評価、ICTの活用
第11回	教室の使用言語	教室英語の導入と指導法
第12回	早期外国語教育	早期外国語教育・イメージ教育の仕組みと効果
第13回	評価活動	観点別評価・パフォーマンス評価の理念と方法
第14回	教育実習と授業の形態	教育実習の意義と内容・効果的なティーム・ティーチング・まとめと考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

行動志向の英語科教育の基礎と実践（2017, JACET 教育問題研究会編・三修社）

【参考書】

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】

- 授業参加貢献度 (30%)
- 省察レポート (2) (60%)
- その他の課題 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ、英語でも指導ができるようにするため、この授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手の方でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認すること。Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要。

【その他の重要事項】

この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイデア、疑問、意見交換などを歓迎する。

2021 年度は、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性がある。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知する。初回授業はオンライン（リアルタイム配信型）で Zoom で実施する。詳しい説明をするので授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of theoretical aspects of English language teaching (ELT). The topics to be dealt with include the history of ELT in Japan and of teaching methodologies, learner-centered theories, second language acquisition, teaching English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans.

英語科教育法（2）

石原 紀子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。

【到達目標】

英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に実践面を中心に、コミュニケーションな英語科教育のための 4 領域や文法・語彙などの指導、中・高における英語指導、早期英語教育と小学校での英語活動、テストなどの評価活動など教室指導と直接関連するテーマを取り上げる。なお、英語科教育法（1）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。模擬授業に関しては直後のディスカッションでコメントし、より詳細なフィードバックは Google Classroom を通して一週間以内に閲覧できるようにする。個々のレポートに対する評価とフィードバックも一週間以内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英語学習経験の考察、省察力、英語教員の資質と役割
第 2 回	学習指導要領、発音・文字指導	学習指導要領の変遷と内容、効果的な発音・文字指導、模擬授業
第 3 回	リスニング指導	効果的なリスニング指導、模擬授業
第 4 回	スピーキング指導	効果的なインタラクション・発表の指導、模擬授業
第 5 回	リーディング指導	効果的な文字・リーディング指導、模擬授業
第 6 回	ライティング指導	効果的なライティング指導・領域統合型の指導、模擬授業
第 7 回	語彙指導	効果的な語彙指導、模擬授業
第 8 回	文法指導	効果的な文法指導、模擬授業
第 9 回	表現指導	辞書やコーパスの使用・指導、模擬授業
第 10 回	中学での指導	中等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 11 回	高等学校での指導	高等学校での英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 12 回	小学校での指導	初等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 13 回	評価と言語学習意欲	評価活動の運用と学習意欲、模擬授業
第 14 回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

行動志向の英語科教育の基礎と実践（2017, JACET 教育問題研究会編・三修社）

【参考書】

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】

授業参加貢献度 (20%) *
省察レポート (2) (40%)
レッスン・プラン、模擬授業 (30%) とその省察 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ、英語でも指導ができるようにするため、この授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手の方でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行うため、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認すること。Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要。

【その他の重要事項】

この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイデア、疑問、意見交換などを歓迎する。

2021 年度は、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性がある。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知する。初回授業はオンライン（リアルタイム配信型）で Zoom で実施する。詳しい説明をするので授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course focuses on practice aspects of English language teaching (ELT). The topics include the teaching of four skills for communicative ELT, grammar and vocabulary instruction, ELT in elementary, junior high, and senior high schools, early childhood ELT, and assessment.

英語科教育法Ⅱ

飯野 厚

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に付け、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】

- 1) 英語教育の現状に精通する
- 2) 多様な語学指導法の存在を知り実践できる
- 3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりと教室運営ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第 2 回	世界の中の英語	世界の言語事情から World Englishes まで
第 3 回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第 4 回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第 5 回	外国語教授法 1	文法訳読法、直接教授法、
第 6 回	外国語教授法 2	オーラルメソッド（パーマメソッド）、オーディオリンガルメソッド
第 7 回	外国語指導法 3	コミュニケーションアプローチ、ナチュラルアプローチ
第 8 回	外国語指導法 4	TBLT、CBLT、CLIL
第 9 回	外国語指導法 5	サイレントウェイ、サジェストベディア、TPR
第 10 回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第 11 回	語彙指導	受容語彙・発表語彙、機能語・内容語、語彙頻度とサイズ、意図的学習・偶発的学習
第 12 回	文法指導 1	演繹的指導法、PPP 式、明示的フィードバック
第 13 回	文法指導 2	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的フィードバック、気づき
第 14 回	まとめ	専門用語理解テスト
第 15 回	オリエンテーション	模擬授業割り振りと準備方法
第 16 回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順
第 17 回	指導案作成演習	教材研究と授業構成
第 18 回	教材・教具	英語教科書の現状、教育学、ICT 活用
第 19 回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング、ディクテーションなど
第 20 回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&A による理解、音読、速読、多読、訳読、スキミング、スキヤニング
第 21 回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第 22 回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳
第 23 回	四技能の統合的扱い	授業における言語要素、四技能、メソッド・指導技術の折衷
第 24 回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実際
第 25 回	学習者要因	年齢、動機づけ、個人差、認知スタイル、主体的な学習者を育成するため具体例
第 26 回	テスト作成	到達度を測るテスト、4 技能の問題形式
第 27 回	テスト結果の分析と評価	平均値と標準偏差、偏差値、形成的評価の実際、英語標準テストと CEFR
第 28 回	まとめ	指導案作成、諸課題に関する論述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う（基本的に Micro-teaching を含めたワークショップ+解説）。
- (2) 秋学期には、中学校または高校教科書の指導案を作成する。
- (3) 英語教育関連の研究会・学会に学期に1回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】

『新・グローバル時代の英語教育』（2020）成美堂

【参考書】

『We Can』文部科学省 小学3,4年向
 『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6年向
 『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
 『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書（三省堂）
 『英語教育用語辞典』（大修館）
 『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

春・秋学期テスト 50%、授業内活動・提出物 50%（模擬授業を含む発表 40%；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート 10%）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】

オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】

生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】

In this course, the students will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.

英語科教育法（3）

飯野 厚

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に付け、教室指導に活用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】

- 1) 英語教育の現状に精通する
- 2) 多様な語学指導法の存在を知り実践できる
- 3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第2回	世界の中の英語	世界の言語事情から World Englishes まで
第3回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第4回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第5回	外国語教授法1	文法訳読法、直接教授法、
第6回	外国語教授法2	オーラルメソッド（パーマメソッド）、オーディオリンガルメソッド
第7回	外国語教授法3	コミュニケーションアプローチ、ナチュラルアプローチ
第8回	外国語教授法4	TBLT、CBLT、CLIL
第9回	外国語教授法5	サイレントウェイ、サジェストベディ、TPR
第10回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第11回	語彙指導	受容語彙・発表語彙、機能語・内容語、語彙頻度とサイズ、意図的学習・偶発的学習
第12回	文法指導1	演繹的指導法、PPP方式、明示的フィードバック
第13回	文法指導2	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的フィードバック、気づき
第14回	まとめ	応用言語学用語理解テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う
- (2) 英語教育関連の研究会・学会に学期に1回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】

『新・グローバル時代の英語教育』成美堂（2020）

【参考書】

『We Can』文部科学省 小学3,4年向
 『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6年向
 『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
 『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書（2013）三省堂
 『英語教育用語辞典』（大修館）
 『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

春学期末テスト 50%、授業内活動・提出物 50%（模擬授業を含む発表 40%；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート 10%）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】

オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】

生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】

In this course, the students will will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.

英語科教育法（4）

飯野 厚

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身につけ、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】

- 1) 英語と英語教育の現状に精通する
- 2) 多様な語学指導法の存在を知り体験することができる
- 3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	模擬授業割り振りと準備方法
第 2 回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順
第 3 回	指導案作成演習	教材研究と授業構成
第 4 回	教材・教具	英語教科書の現状、教育工学、ICT 活用
第 5 回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング、ディクテーションなど
第 6 回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&A による理解、音読、速読、多読、訳読、スキミング、スキヤニング
第 7 回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第 8 回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳
第 9 回	四技能のバランスと統合	授業における言語要素、四技能、メソッド・指導技術の折衷
第 10 回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実際
第 11 回	学習者要因	年齢、動機づけ、個人差、認知スタイル
第 12 回	テスト作成	主到達度を測るテスト、4 技能の問題形式
第 13 回	テスト結果の分析と評価	平均値と標準偏差、偏差値、形成的評価の実際、英語標準テストと CEFR
第 14 回	まとめ	指導案作成、諸課題に関する論述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う
- (2) 高校教科書の担当課の指導案を作成し、模擬授業演習の準備を行う
- (3) 英語教育関連の研究会・学会に学期に 1 回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】

『新・グローバル時代の英語教育』（2020）成美堂

【参考書】

- 『We Can』文部科学省 小学 3, 4 年向
 『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6 年向
 『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
 『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書（2013）三省堂
 『英語教育用語辞典』（大修館）
 『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、授業内外の平常点 50%（模擬授業を含む発表 40 %；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う（基本的に Micro-teaching を含めたワークショップ+解説）。
- (2) 秋学期には、中学校または高校教科書の指導案を作成する。
- (3) 英語教育関連の研究会・学会に学期に1回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】

『新・グローバル時代の英語教育』（2020）成美堂

【参考書】

『We Can』 文部科学省 小学 3, 4 年向
 『Crown Junior』 小学校英語教科書（三省堂）5,6 年向
 『New Crown English Series』 中学校英語教科書（三省堂）
 『My Way English Series』 高校英語コミュニケーション教科書（三省堂）
 『英語教育用語辞典』（大修館）
 『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

春・秋学期テスト 50%、授業内活動・提出物 50%（模擬授業を含む発表 40 %；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】

オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】

生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】

In this course, the students will will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.

英語科教育法（3）

飯野 厚

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に付け、教室指導に応用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】

- 1) 英語教育の現状に精通する
- 2) 多様な語学指導法の存在を知り実践できる
- 3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第 2 回	世界の中の英語	世界の言語事情から World Englishes まで
第 3 回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第 4 回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第 5 回	外国語教授法 1	文法訳読法、直接教授法、
第 6 回	外国語教授法 2	オーラルメソッド（パーマメソッド）、オーディオリンガルメソッド
第 7 回	外国語教授法 3	コミュニケーション能力とは コミュニケーション能力とは 小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析 文法訳読法、直接教授法、 オーラルメソッド（パーマメソッド）、オーディオリンガルメソッド コミュニケーション能力とは 小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第 8 回	外国語教授法 4	文法訳読法、直接教授法、 オーラルメソッド（パーマメソッド）、オーディオリンガルメソッド
第 9 回	外国語教授法 5	コミュニケーション能力とは 小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析 文法訳読法、直接教授法、 オーラルメソッド（パーマメソッド）、オーディオリンガルメソッド コミュニケーション能力とは 小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第 10 回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第 11 回	語彙指導	受容語彙・発表語彙、機能語・内容語、 語彙頻度とサイズ、意図的学習・偶発的学習
第 12 回	文法指導 1	演繹的指導法、PPP 方式、明示的 フィードバック
第 13 回	文法指導 2	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的 フィードバック、気づき
第 14 回	まとめ	応用言語学用語理解テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う
- (2) 英語教育関連の研究会・学会に学期に1回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】

『新・グローバル時代の英語教育』成美堂（2020）

【参考書】

『We Can』 文部科学省 小学 3, 4 年向
 『Crown Junior』 小学校英語教科書（三省堂）5,6 年向
 『New Crown English Series』 中学校英語教科書（三省堂）
 『My Way English Series』 高校英語コミュニケーション教科書（2013）三省堂
 『英語教育用語辞典』（大修館）
 『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

春学期末テスト 50%、授業内活動・提出物 50%（模擬授業を含む発表 40 %；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】

オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】

生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】

In this course, the students will will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.

英語科教育法（4）

飯野 厚

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身につけ、教室指導に活用できる実践的知識と指導力を養う。

【到達目標】

- 1) 英語と英語教育の現状に精通する
- 2) 多様な語学指導法の存在を知り体験することができる
- 3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。学生の発表内容や模擬授業に関してその場で建設的なフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	模擬授業割り振りと準備方法
第 2 回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順
第 3 回	指導案作成演習	教材研究と授業構成
第 4 回	教材・教具	英語教科書の現状、教育工学、ICT 活用
第 5 回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング、ディクテーションなど
第 6 回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&A による理解、音読、速読、多読、訳読、スキミング、スキヤニング
第 7 回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第 8 回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳
第 9 回	四技能のバランスと統合	授業における言語要素、四技能、メソッド・指導技術の折衷
第 10 回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実践
第 11 回	学習者要因	年齢、動機づけ、個人差、認知スタイル
第 12 回	テスト作成	主到達度を測るテスト、4 技能の問題形式
第 13 回	テスト結果の分析と評価	平均値と標準偏差、偏差値、形成的評価の実際、英語標準テストと CEFR
第 14 回	まとめ	指導案作成、諸課題に関する論述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う
- (2) 高校教科書の担当課の指導案を作成し、模擬授業演習の準備を行う
- (3) 英語教育関連の研究会・学会に学期に 1 回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】

『新・グローバル時代の英語教育』（2020）成美堂

【参考書】

『We Can』文部科学省 小学 3, 4 年向
 『Crown Junior』小学校英語教科書（三省堂）5,6 年向
 『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）
 『My Way English Series』高校英語コミュニケーション教科書（2013）三省堂
 『英語教育用語辞典』（大修館）
 『現代英語教授法総覧』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、授業内外の平常点 50%（模擬授業を含む発表 40%；学外英語教育関連の学会・研究会参加レポート 10%）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】

オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】

生徒の指導者たる教員になるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】

In this course, the students will will learn basic knowledge on English Language Teaching, Applied Linguistics and Second Language Acquisition. They will become able to apply the knowledge to their practical instructional in English classrooms in junior and senior high schools.

中国語科教育法 I

渡辺 昭太

単位：4 単位 | 開講セメスター：春学期集中

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中学校・高等学校の『学習指導要領』（外国語科）や『外国語教育のめやす』、及び現役中国語教員の手記や最新の教育方法に関する文献など精読しつつ、日本の中学校・高等学校における中国語教育の目標及び現状、必要な心構えなどを理解する。また、中国語教育を行う際に必要となる中国語の体系的な知識を身に付けるため、中国語学および中国語教育、外国語教育に関する専門書や資料を講読し、その知識を教育の場いかに応用するかを考える。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【到達目標】

日本の中学校・高等学校における中国語教育の現状を知り、今後の中国語教育の在り方を考えるとともに、中国語教育を行う際に必要な専門知識を身に付けること、これが本授業のテーマである。

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 外国語科の『学習指導要領』や『外国語教育のめやす』等、中国語教育・外国語教育に関する資料や文献の精読・検討を行い、中学校・高等学校における中国語教育の目標や在り方、現状を適切に理解する。
- (2) 中国語のテキストで扱う諸項目を、中国語学の観点を交えつつ分析し、指導時にどのような工夫が必要かを考え、受講生に中国語の総合的なコミュニケーション能力を身に付けさせるための適切な指導ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。e ポートフォリオの利用方法の説明を行う。
第 2 回	これまでの中国語学習の振り返り	・受講生のこれまでの中国語学習に関して振り返り、疑問点などを共有する。
第 3 回	日本における中国語教育	・各種資料を精読しつつ、日本における中国語教育の歴史と現状、動向（最新の取り組みなど）を理解する。
第 4 回	中国語教育の意義	・各種資料を精読しつつ、公教育における中国語教育の意義について考える。
第 5 回	高等学校学習指導要領（外国語科）	・高等学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を高等学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第 6 回	中学校学習指導要領（外国語科）	・中学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を中学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第 7 回	中国語教育のガイドライン『外国語学習のめやす』	・中国語教育のガイドラインである『外国語学習のめやす』（国際文化フォーラム編）を精読・検討し、理解を深める。
第 8 回	『外国語学習のめやす』の応用	・『外国語学習のめやす』が提案する学習内容や学習方法を中学校及び高等学校の中国語科にどのように応用すべきか検討する。
第 9 回	中国語教育に影響を与えた外国語教授法	・中国語教育に影響を与えた外国語教授法や教具、現任教員の実践などを概観し、理解を深める。
第 10 回	ICT（各種情報機器）の有効活用	・現任教員の実践を紹介しつつ、e ラーニングやブレンド型学習の役割や在り方について考察する。
第 11 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—中国の言語事情—	・中国の複雑な言語状況への理解を深め、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。

第 12 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—現代中国語(普通話)—	・中学校および高等学校の中国語教育で扱う「現代中国語(普通話)」の概説を行い、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。	・本科目は国際文化学部 of 自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
第 13 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—発音とピンイン—	・発音及びピンイン(アルファベットを用いた中国語音声表記法)への理解を深め、指導時に留意すべき点を考える。	・本科目は集中授業のため、2 時間連続して受講する必要があるため、履修の際には注意すること。
第 14 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—発音指導の留意点—	・発音及びピンイン(アルファベットを用いた中国語音声表記法)の指導時に留意すべき点を考える。	【Outline and objectives】 In this course, we will try to grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school through reading relevant materials including the Courses of Study. Moreover, to acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar, we will also read various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.
第 15 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—中国語の類型論的特徴—	・中国語の類型論的特徴を考察し、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。	
第 16 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—基本的文法構造—	・中国語の基本的な文法構造を学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 17 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—動詞述語文—	・中国語の基本文型「動詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 18 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—名詞述語文—	・中国語の基本文型「名詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 19 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—形容詞述語文—	・中国語の基本文型「形容詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 20 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—主述述語文—	・中国語の基本文型「主述述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 21 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—連体修飾表現—	・中国語の連体修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 22 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—連用修飾表現—	・中国語の連用修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 23 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—補語—	・中国語の補語について学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 24 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—助動詞—	・中国語の助動詞について学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 25 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—さまざまな構文—	・中国語のさまざまな構文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 26 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—さまざまな複文—	・中国語のさまざまな複文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。	
第 27 回	中国語の総合的コミュニケーション能力の育成に向けて	・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力育成のための教育方法を検討する。	
第 28 回	全体のまとめと振り返り	・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。	

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』(最新版 文部科学省)
・『高等学校学習指導要領・解説 外国語編・英語編』(最新版 文部科学省)
・『中学校学習指導要領・解説 外国語編』(最新版 文部科学省)
・『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』(2013 年、公益財団法人国際文化フォーラム)
・胡玉華(2009)、『中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ』、東方書店。
・三宅登之(2012)、『中級中国語 読み解く文法』、白水社。
・木村英樹(2017)、『中国語はじめの一歩 [新版]』(ちくま学芸文庫)、筑摩書房。
・稲垣忠、鈴木克明(2015)、『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』、北大路書房。
・劉月華・潘文娛・故韡(2019)、『实用現代漢語語法(第三版)』、北京:商務印書館。

【成績評価の方法と基準】

・発表(輪読発表、質疑応答など)を 30%、期末レポートを 70%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】

・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。

中国語科教育法（1）

渡辺 昭太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中学校・高等学校の『学習指導要領』（外国語科）や『外国語教育のめやす』、及び現役中国語教員の手記や最新の教育方法に関する文献など精読しつつ、日本の中学校・高等学校における中国語教育の目標及び現状、必要な心構えなどを理解する。また、中国語教育を行う際に必要となる中国語の体系的な知識を身に付けるため、中国語学および中国語教育、外国語教育に関する専門書や資料を精読し、その知識を教育の場いかに応用するかを考える。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【到達目標】

日本の中学校・高等学校における中国語教育の現状を知り、今後の中国語教育の在り方を考えるとともに、中国語教育を行う際に必要な専門知識を身に付けること、これが本授業のテーマである。

本授業の到達目標は以下の通りである。

(1) 外国語科の『学習指導要領』や『外国語教育のめやす』等、中国語教育・外国語教育に関する資料や文献の精読・検討を行い、中学校・高等学校における中国語教育の目標や在り方、現状を適切に理解する。

(2) 中国語のテキストで扱う諸項目を、中国語学の観点から交えつつ分析し、指導時にどのような工夫が必要かを考え、受講生に中国語の総合的なコミュニケーション能力を身に付けさせるための適切な指導ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。e ポートフォリオの利用方法の説明を行う。
第 2 回	日本における中国語教育	・各種資料を精読しつつ、日本における中国語教育の歴史と現状、動向（最新の取り組みなど）を理解する。
第 3 回	高等学校学習指導要領（外国語科）	・高等学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を高等学校の中国語科にどのように応用すべきかを考える。
第 4 回	中国語教育のガイドライン『外国語学習のめやす』	・中国語教育のガイドラインである『外国語学習のめやす』（国際文化フォーラム編）を精読・検討し、理解を深める。
第 5 回	中国語教育に影響を与えた外国語教授法	・中国語教育に影響を与えた外国語教授法や教具、現任教員の実践などを概観し、理解を深める。
第 6 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—中国の言語事情—	・中国の複雑な言語状況への理解を深め、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第 7 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—発音とピンイン—	・発音及びピンイン（アルファベットを用いた中国語音声表記法）への理解を深め、指導時に留意すべき点を考える。
第 8 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—中国語の類型論的特徴—	・中国語の類型論的特徴を考察し、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第 9 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—動詞述語文—	・中国語の基本文型「動詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 10 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—形容詞述語文—	・中国語の基本文型「形容詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 11 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—連体修飾表現—	・中国語の連体修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。

第 12 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—補語—	・中国語の補語について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 13 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—さまざまな構文—	・中国語のさまざまな構文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 14 回	中国語の総合的コミュニケーション能力の育成に向けて	・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力育成のための教育方法を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版 文部科学省）
 ・『高等学校学習指導要領・解説 外国語編・英語編』（最新版 文部科学省）
 ・『中学校学習指導要領・解説 外国語編』（最新版 文部科学省）
 ・『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013 年、公益財団法人国際文化フォーラム）
 ・胡玉華（2009）『中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ』、東方書店。
 ・三宅登之（2012）『中級中国語 読み解く文法』、白水社。
 ・木村英樹（2017）『中国語はじめの第一歩 [新版]』（ちくま学芸文庫）、筑摩書房。
 ・稲垣忠、鈴木克明（2015）『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』、北大路書房。
 ・劉月華・潘文娉・故韓（2019）『《实用現代漢語語法（第三版）》』、北京：商務印書館。

【成績評価の方法と基準】

・発表（輪読発表、質疑応答など）を 30 %、期末レポートを 70 % として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】

・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。

・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。

・中国語科教育法（1）と（2）は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline and objectives】

In this course, we will try to grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school through reading relevant materials including the Courses of Study. Moreover, to acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar, we will also read various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.

中国語科教育法（2）

渡辺 昭太

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中学校・高等学校の『学習指導要領』（外国語科）や『外国語教育のめやす』、及び現役中国語教員の手記や最新の教育方法に関する文献など精読しつつ、日本の中学校・高等学校における中国語教育の目標及び現状、必要な心構えなどを理解する。また、中国語教育を行う際に必要となる中国語の体系的な知識を身に付けるため、中国語学および中国語教育、外国語教育に関する専門書や資料を講読し、その知識を教育の場に応用するかを考える。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【到達目標】

日本の中学校・高等学校における中国語教育の現状を知り、今後の中国語教育の在り方をお考えするとともに、中国語教育を行う際に必要な専門知識を身に付けること、これが本授業のテーマである。

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 外国語科の『学習指導要領』や『外国語教育のめやす』等、中国語教育・外国語教育に関する資料や文献の精読・検討を行い、中学校・高等学校における中国語教育の目標や在り方、現状を適切に理解する。
- (2) 中国語のテキストで扱う諸項目を、中国語学の観点から交えつつ分析し、指導時にどのような工夫が必要かを考え、受講生に中国語の総合的なコミュニケーション能力を身に付けさせるための適切な指導ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの中国語学習の振り返り	・受講生のこれまでの中国語学習に関して振り返り、疑問点などを共有する。
第 2 回	中国語教育の意義	・各種資料を精読しつつ、公教育における中国語教育の意義について考える。
第 3 回	中学校学習指導要領（外国語科）	・中学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を中学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第 4 回	『外国語学習のめやす』の応用	・『外国語学習のめやす』が提案する学習内容や学習方法を中学校及び高等学校の中国語科にどのように応用すべきか検討する。
第 5 回	ICT（各種情報機器）の有効活用	・現任教員の実践を紹介しつつ、eラーニングやブレンド型学習の役割や在り方について考察する。
第 6 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—現代中国語（普通話）—	・中学校および高等学校の中国語教育で扱う「現代中国語（普通話）」の概説を行い、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第 7 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—発音指導の留意点—	・発音及びピンイン（アルファベットを用いた中国語音声表記法）の指導時に留意すべき点を考える。
第 8 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—基本的な文法構造—	・中国語の基本的な文法構造を学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 9 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—名詞述語文—	・中国語の基本文型「名詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 10 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—主述述語文—	・中国語の基本文型「主述述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 11 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—連用修飾表現—	・中国語の連用修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第 12 回	中国語学の教育への応用と模擬指導—助動詞—	・中国語の助動詞について学習し、指導時に留意すべき点を考える。

第 13 回 中国語学の教育への応用と模擬指導—さまざまな複文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。複文—

第 14 回 全体のまとめと振り返り ・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。
・本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

- ・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版 文部科学省）
- ・『高等学校学習指導要領・解説 外国語編・英語編』（最新版 文部科学省）
- ・『中学校学習指導要領・解説 外国語編』（最新版 文部科学省）
- ・『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013 年、公益財団法人国際文化フォーラム）
- ・胡玉華（2009）『中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ』、東方書店。
- ・三宅登之（2012）『中級中国語 読み解く文法』、白水社。
- ・木村英樹（2017）『中国語ははじめの一歩【新版】』（ちくま学芸文庫）、筑摩書房。
- ・稲垣忠、鈴木克明（2015）『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』、北大路書房。
- ・劉月華・潘文娉・故譚（2019）『實用現代漢語語法（第三版）』、北京：商務印書館。

【成績評価の方法と基準】

・発表（輪読発表、質疑応答など）を 30 %、期末レポートを 70 % として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
- ・中国語科教育法（1）と（2）は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline and objectives】

In this course, we will try to grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school through reading relevant materials including the Courses of Study. Moreover, to acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar, we will also read various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.

中国語科教育法Ⅱ

渡辺 昭太

単位：4 単位 | 開講セメスター：秋学期集中

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領では、外国語科の目標として「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」ということが明示されている。この目的を達成するためには、教師は中国語や中国文化に対する深い理解に加えて、適切な指導方法を身に付ける必要がある。本授業では、中国語教材の分析や模擬授業の実践を通じて、中国語教育を行う際に必要な知識や技術を身につけられるようになる。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【到達目標】

日本の中学校・高等学校において中国語教育を行う際に必要となる実践的能力を育成し、学習者に応じた適切な授業づくりを主体的にできる人材を育成すること、これが本授業のテーマである。

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 教材分析を通じて各教材の特徴を理解・把握し、各項目を適切に指導できるようにする。
- (2) テストや評価方法に関する学習を通じて、自分の行った教育の効果・達成度を適切に測ることができるようになる。
- (3) 模擬授業の準備・実践を通じて、授業計画の立て方や学習指導案の作り方を学び、自分で主体的に「授業づくり」ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。e ポートフォリオの利用方法の説明を行う。
第2回	これまでの中国語授業の振り返り	・受講生がこれまでに受けた中国語の授業を振り返り、疑問点や気づいた点を共有する。
第3回	教材研究—大学生向け教科書—	・大学生向けの教科書を取り上げ、それを中学校及び高校で利用する際に留意すべき点を考える。
第4回	教材研究—中高生向け教科書—	・中高生向けの教科書を取り上げ、その特徴を分析し、指導の際に留意すべき点を考える。
第5回	教材研究—初級者向け文法書—	・初級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第6回	教材研究—中級者向け文法書—	・中級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第7回	教材研究—電子辞書・オンライン辞典等の活用—	・各種辞書を取り上げながら、情報機器（PC等）やICT教具の効果的な活用を考える。
第8回	教材研究—各種データベース／電子コーパスの活用—	・各種データベース／電子コーパスを取り上げ、ICT教材や情報機器の活用方法を検討する。
第9回	教材分析の準備—教科書選定—	・各受講生が分析を行う教科書の選定を行う。
第10回	教材分析の準備—単元選定—	・各受講生が分析を行う単元の選定を行う。
第11回	教材分析の実践—教科書の全体的分析—	・選択した教科書の特徴（コンセプトや構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第12回	教材分析の実践—各単元の分析—	・選択した各単元の特徴（説明方法や構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第13回	教材分析の発表—教科書の全体的特徴—	・選択した教科書の分析結果を発表し、その特徴や利用時の留意点について議論する。

第14回	教材分析の発表—各単元の特徴—	・選択した単元の分析結果を発表し、その特徴や指導時に注意すべきことなどについて議論する。
第15回	授業研究—授業の組み立て方—	・中国語の授業の組み立て方（導入・展開・まとめ、練習方法等）について学習する。
第16回	授業研究—各技能の指導法—	・学習指導要領を踏まえ、中国語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の指導法について学習する。
第17回	授業研究—学習指導案の確認—	・学習指導案の様々な実例を確認し、学習指導要領との関連、形式や一般的な記述事項を確認する。
第18回	授業研究—学習指導案作成上の留意事項—	・学習指導要領を踏まえ、学習指導案作成の際に留意すべきことを検討する。
第19回	授業研究—テストと評価—	・テストと評価に関して学習し、効果的なテストの作成方法と適切な評価方法について検討する。
第20回	授業研究—継続的学習を促す方法—	・学習者が中国語学習を継続的に進める仕組みや工夫、評価について検討する。
第21回	模擬授業の準備—教科書の選定—	・模擬授業で利用する教科書の選定を行う。
第22回	模擬授業の準備—単元の選定—	・模擬授業で扱う単元の選定を行う。
第23回	学習指導案の作成—作成前の確認—	・学習指導要領を踏まえ、どのような学習者に対して、どのような授業を行うのかを想定しつつ、記入すべき必要事項の確認などを行う。
第24回	学習指導案の作成—作成—	・模擬授業の実施に向けて、学習指導要領を踏まえ、学習指導案を作成する。
第25回	模擬授業と講評—実践—	・受講生による模擬授業を行う。
第26回	模擬授業と講評—講評—	・各受講生の模擬授業に対する講評を全員で行う。
第27回	中国語の総合的コミュニケーション能力を育成する授業の構築に向けて	・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力を育成するための授業方法（基礎的内容から発展的内容まで）を全員で検討する。
第28回	全体のまとめと振り返り	・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

・本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

- ・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版 文部科学省）
- ・『高等学校学習指導要領・解説 外国語編・英語編』（最新版 文部科学省）
- ・『中学校学習指導要領・解説 外国語編』（最新版 文部科学省）
- ・『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013年、公益財団法人国際文化フォーラム）
- ・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ』, 東方書店.
- ・三宅登之（2012）.『中級中国語 読み解く文法』, 白水社.
- ・木村英樹（2017）.『中国語ははじめの一歩 [新版]』（ちくま学芸文庫）, 筑摩書房.
- ・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』, 北大路書房.
- ・劉月華、潘文娛・故韓（2019）.『実用現代漢語語法（第三版）』, 北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への積極的参加度、適切な質疑応答など）を30%、教材分析（分析結果をまとめたレポート及び発表）を30%、模擬授業（含・学習指導案作成）を40%として合計100点満点とし、60点以上の成績で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】

・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。

・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なため、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。

・本科目は集中授業のため、2時限連続して受講する必要があるため、履修の際には注意すること。

【Outline and objectives】

In this course, we will acquire knowledge which is required in Chinese education for high school and junior high school students through analyzing teaching materials, and also improve students' Chinese teaching skills to achieve goals which is shown in the Courses of Study by practical trial lessons.

中国語科教育法 (3)

渡辺 昭太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学習指導要領では、外国語科の目標として「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」ということが明示されている。この目的を達成するためには、教師は中国語や中国文化に対する深い理解に加えて、適切な指導方法を身に付ける必要がある。本授業では、中国語教材の分析や模擬授業の実践を通じて、中国語教育を行う際に必要な知識や技術を身につけられるようにする。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【到達目標】

日本の中学校・高等学校において中国語教育を行う際に必要となる実践的能力を育成し、学習者に応じた適切な授業づくりを主体的にできる人材を育成すること、これが本授業のテーマである。

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 教材分析を通じて各教材の特徴を理解・把握し、各項目を適切に指導できるようになる。
- (2) テストや評価方法に関する学習を通じて、自分の行った教育の効果・達成度を適切に測ることができるようになる。
- (3) 模擬授業の準備・実践を通じて、授業計画の立て方や学習指導案の作り方を学び、自分で主体的に「授業づくり」ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。e ポートフォリオの利用方法の説明を行う。
第 2 回	教材研究—大学生向け教科書—	・大学生向けの教科書を取り上げ、それを中学校及び高校で利用する際に留意すべき点を考える。
第 3 回	教材研究—初級者向け文法書—	・初級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第 4 回	教材研究—電子辞書・オンライン辞典等の活用—	・各種辞書を取り上げながら、情報機器（PC 等）や ICT 教具の効果的な活用を考える。
第 5 回	教材分析の準備—教科書選定—	・各受講生が分析を行う教科書の選定を行う。
第 6 回	教材分析の実践—教科書の全体的分析—	・選択した教科書の特徴（コンセプトや構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第 7 回	教材分析の発表—教科書の全体的特徴—	・選択した教科書の分析結果を発表し、その特徴や利用時の留意点について議論する。
第 8 回	授業研究—授業の組み立て方—	・中国語の授業の組み立て方（導入・展開・まとめ、練習方法等）について学習する。
第 9 回	授業研究—学習指導案の確認—	・学習指導案の様々な実例を確認し、学習指導要領との関連、形式や一般的な記述事項を確認する。
第 10 回	授業研究—テストと評価—	・テストと評価に関して学習し、効果的なテストの作成方法と適切な評価方法について検討する。
第 11 回	模擬授業の準備—教科書の選定—	・模擬授業で利用する教科書の選定を行う。
第 12 回	学習指導案の作成—作成前の確認—	・学習指導要領を踏まえ、どのような学習者に対して、どのような授業を行うのかを想定しつつ、記入すべき必要事項の確認などを行う。
第 13 回	模擬授業と講評—実践—	・受講生による模擬授業を行う。

第 14 回 中国語の総合的コミュニケーション能力を育成する授業の構築に向けて

・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力を育成するための授業方法（基礎的内容から発展的内容まで）を全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

・本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

- ・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版 文部科学省）
- ・『高等学校学習指導要領・解説 外国語編・英語編』（最新版 文部科学省）
- ・『中学校学習指導要領・解説 外国語編』（最新版 文部科学省）
- ・『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013 年、公益財団法人国際文化フォーラム）
- ・胡玉華（2009）『中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ』、東方書店。
- ・三宅登之（2012）『中級中国語 読み解く文法』、白水社。
- ・木村英樹（2017）『中国語ははじめの一歩 [新版]』（ちくま学芸文庫）、筑摩書房。
- ・稲垣忠、鈴木克明（2015）『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』、北大路書房。
- ・劉月華、潘文娛・故緯（2019）『《实用現代漢語語法（第三版）》』、北京：商務印書館。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への積極的参加度、適切な質疑応答など）を 30 %、教材分析（分析結果をまとめたレポート及び発表）を 30%、模擬授業（含・学習指導案作成）を 40 % として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
- ・中国語科教育法 (3) と (4) は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline and objectives】

In this course, we will acquire knowledge which is required in Chinese education for high school and junior high school students through analyzing teaching materials, and also improve students' Chinese teaching skills to achieve goals which is shown in the Courses of Study by practical trial lessons.

中国語科教育法（4）

渡辺 昭太

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領では、外国語科の目標として「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」ということが明示されている。この目的を達成するためには、教師は中国語や中国文化に対する深い理解に加えて、適切な指導方法を身に付ける必要がある。本授業では、中国語教材の分析や模擬授業の実践を通じて、中国語教育を行う際に必要な知識や技術を身につけられるようになる。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【到達目標】

日本の中学校・高等学校において中国語教育を行う際に必要となる実践的能力を育成し、学習者に応じた適切な授業づくりを主体的にできる人材を育成すること、これが本授業のテーマである。

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 教材分析を通じて各教材の特徴を理解・把握し、各項目を適切に指導できるようになる。
- (2) テストや評価方法に関する学習を通じて、自分の行った教育の効果・達成度を適切に測ることができるようになる。
- (3) 模擬授業の準備・実践を通じて、授業計画の立て方や学習指導案の作り方を学び、自分で主体的に「授業づくり」ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせを行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

・授業内容に関する質問等は毎回の授業時に受け付ける。また、課題へのコメントやフィードバックは授業時に直接、あるいはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの中国語授業の振り返り	・受講生がこれまでに受けた中国語の授業を振り返り、疑問点や気づいた点を共有する。
第 2 回	教材研究—中高生向け教科書—	・中高生向けの教科書を取り上げ、その特徴を分析し、指導の際に留意すべき点を考える。
第 3 回	教材研究—中級者向け文法書—	・中級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第 4 回	教材研究—各種データベース／電子コーパスの活用—	・各種データベース／電子コーパスを取り上げ、ICT 教材や情報機器の活用方法を検討する。
第 5 回	教材分析の準備—単元選定—	・各受講生が分析を行う単元の選定を行う。
第 6 回	教材分析の実践—各単元の分析—	・選択した各単元の特徴（説明方法や構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第 7 回	教材分析の発表—各単元の特徴—	・選択した単元の分析結果を発表し、その特徴や指導時に注意すべきことなどについて議論する。
第 8 回	授業研究—各技能の指導法—	・学習指導要領を踏まえ、中国語の 4 技能（読む、書く、聞く、話す）の指導法について学習する。
第 9 回	授業研究—学習指導案作成上の留意事項—	・学習指導要領を踏まえ、学習指導案作成の際に留意すべきことを検討する。
第 10 回	授業研究—継続的学習を促す方法—	・学習者が中国語学習を継続的に進める仕組みや工夫、評価について検討する。
第 11 回	模擬授業の準備—単元の選定—	・模擬授業で扱う単元の選定を行う。
第 12 回	学習指導案の作成—作成—	・模擬授業の実施に向けて、学習指導要領を踏まえ、学習指導案を作成する。
第 13 回	模擬授業と講評—講評—	・各受講生の模擬授業に対する講評を全員で行う。
第 14 回	全体のまとめと振り返り	・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

- ・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版 文部科学省）
- ・『高等学校学習指導要領・解説 外国語編・英語編』（最新版 文部科学省）
- ・『中学校学習指導要領・解説 外国語編』（最新版 文部科学省）
- ・『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013 年、公益財団法人国際文化フォーラム）
- ・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ』, 東方書店.
- ・三宅登之（2012）.『中級中国語 読み解く文法』, 白水社.
- ・木村英樹（2017）.『中国語はじめての一步 [新版]』（ちくま学芸文庫）, 筑摩書房.
- ・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』, 北大路書房.
- ・劉月華・潘文娣・故韓（2019）.『実用現代漢語語法（第三版）』, 北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への積極的参加度、適切な質疑応答など）を 30 %、教材分析（分析結果をまとめたレポート及び発表）を 30%、模擬授業（含・学習指導案作成）を 40 % として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
- ・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
- ・中国語科教育法 (3) と (4) は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline and objectives】

In this course, we will acquire knowledge which is required in Chinese education for high school and junior high school students through analyzing teaching materials, and also improve students' Chinese teaching skills to achieve goals which is shown in the Courses of Study by practical trial lessons.

情報科教育法 I

御園生 純

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方や情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度である「情報活用能力」を養うための授業運営の理論および実践方法の習得を目指す。

【到達目標】

・教科「情報」設置の理念と社会的背景・高等学校全体の教育課程における位置づけを学ぶ。
・共通教科「情報」と専門教科「情報」の違い、および共通教科「情報」と他教科との関連等について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。秋学期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。

また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、情報倫理（他者の作成した情報を活用する際のルール等）などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教科情報設置の経緯とその精神について	なぜ教科「情報」が設けられたのか、その背景と社会的状況について理解する。
2	ディスカッション：高校時代に受けた教科「情報」とはどんな授業だったか？	高校での情報の授業がその後の社会生活でどのように機能しているのかについて
3	普通科科目「情報」と専門科目「情報」比較	他科目・高等学校の教育課程全体との関係の構造的な理解
4	普通教科情報の3つの観点と授業内容～情報活用能力とは	何を教えるのか？ そのためにどんな知識・技能が必要なのか？
5	問題解決と課題解決の授業の観念的・理論的理解	問題解決の理論と論理的思考について
6	「情報A」「情報B」から「情報の科学」への変更点	情報社会の変遷の現状とこれからの社会に求められる知識と技術について
7	「情報の科学」の内容と指導計画の概要	年間指導計画と科目目的との整合性について
8	「情報の科学」の授業例～情報A・Bとの相違点を中心に	学習指導要領改訂の目的の理解と情報テクノロジーの変遷について
9	「情報A」「情報C」から「社会と情報」への変更点	「情報の科学」「社会と情報」の各々の到達点と授業運営についての理解
10	「社会と情報」の内容と指導計画の概要	授業内容の理解と把握
11	「社会と情報」の授業例～情報Cとの相違点を中心に	社会における情報技術の活用の実態とその問題点について
12	「情報」教員に求められるスキル、学習指導案の考え方・書き方	授業設計のデザインと単元の組み立てについて
13	メディアリテラシーの概念と指導法	各種ソーシャルメディアや情報受信に必要なりテラシーについて。とりわけ情報の流用とそのルール・関係法規についての理解（小テスト実施）
14	Webとユーザビリティ、ユニバーサルデザインの理論、SNSの光と影	SNSなどの活用と実際の問題状況について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします
学習指導要領・高等学校「情報編」をあらかじめ精読しておくこと

【テキスト（教科書）】

学習指導要領・高等学校「情報編」

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

■評価配分

平常点 40%

課題1 40%（年間指導計画・単元計画の作成等）

小テスト20% 個人情報取り扱い・情報の引用・流用について

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【学生が準備すべき機器他】

ありません

【その他の重要事項】

ありません

【Outline and objectives】

The course of Teaching Method of Information Sciences (Joho-ka Kyoiku-ho) is made up of the two classes, Teaching Method I and II. The objectives of Teaching Method I are mainly for students to learn the basic knowledges and skills on information and information technologies, and to understand the goals of the subject and its positioning in the Course of Study for high schools.

情報科教育法Ⅱ

御園生 純

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- I. 教科「情報」の概要と意義
 - II. 情報活用の実践力・情報の科学的理解
 - III. 情報化社会に参画する態度
 - IV. 教科「情報」における学習指導
 - V. 教科「情報」のカリキュラム・指導計画作成
- 以上 5 つの項目について、以下授業の構成の内容で講義・実習をおこなう。

【到達目標】

- 1、実際に高校での授業運営が可能な実践的な教職能力の習得
- 2、授業指導案の作成能力の獲得
- 3、実際の教室運営と指導観の涵養

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。後期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。

また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 15 回	情報社会に参画する態度 I～受益者・受信者として。	E コマースなどの消費者としての取り組み
第 16 回	情報社会に参画する態度 II～発信者として。	SNS などの発信者としての取り組みと問題。
第 17 回	メディアリテラシー、電子コミュニケーション	SNS などの活用と実際
第 18 回	情報と職業	IT 技術によって労働の形態がどのように変わっていくのか？
第 19 回	あたらしい労働業専門性と労働のスタイル、電子決済や仮想通貨について	消費者教育としての情報教育
第 20 回	情報教育の理論～キーコンピテンシーとしての情報教育	あたらしい基礎リテラシーとしての情報教育
第 21 回	情報テクノロジーの進化と教職の変化	教職専門性と情報技術について
第 22 回	問題解決能力について	論理的思考と問題解決の手法
第 23 回	教科「情報」と「総合的な学習の時間」	教育課程全体における情報科の位置づけ
第 24 回	他教科との連携と協働、プレゼンテーションとディスカッション・コラボレーション	プレゼンテーションツールの利用方法について
第 25 回	情報教育における評価方法	授業評価（生徒の評価と授業の評価の関係について）
第 26 回	教師の自己点検と授業評価、学習環境の整備と保守	クラス全体を評価する～偏差値の重要性
第 27 回	「情報」の授業のイメージ作り	授業の入り口と出口～なにを習得させるのか？
第 28 回	学習計画の作成	年間指導計画の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
高校教科「情報」がどのような経緯で新設されたのか、目的とその歴史的経緯などについては web 等で調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

高等学校学習指導要領「総則」編
高等学校学習指導要領「情報」編

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

課題（発表プレゼン含む） 40%

模擬授業 30%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、実際に教壇に立った時に必要となる実践的な授業運営方法について模擬授業などを通じて学びます。

【Outline and objectives】

The aims of this lecture is basic knowledge as a teacher of subject information and acquisition of educational technology.

教育実習（事前指導）

大栗 健二

単位：単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマは「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備について理解した上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠なスキルを取り上げる。

【到達目標】

4年時に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と教科指導にかかわる基礎知識・力量の形成、教育実習に対処できる一定のスキルの獲得を目標とする。教育実習の受講を希望する学生は、この講座を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講義で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義内容は、英語科免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどのような準備とスキルが必要か、②学習指導案（授業指導案）の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④授業検討（学習指導案授業批評）などを主な内容として構成する。

（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなる。）

フィードバックの方法としては、学生から提出された課題を次の授業で紹介して講評し、また学生相互でその課題に対して討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・本講義のテーマと目標 ・英語教育とは何か
第2回	英語科授業の理論と実践（1） 指導案の作り方（1）	英語科授業の基本的理念と授業づくり ① ・英語の授業で大切にしたいこと（一人も取り残さない授業）
第3回	英語科授業の理論と実践（2） 指導案の作り方（2）	英語科授業の基本的理念と授業づくり ② ・英語の授業で大切にしたいこと（楽しくわかる授業）
第4回	英語科授業の理論と実践（3） 指導案の作り方（3）	英語科授業の基本的理念と授業づくり ③ ・英語の授業で大切にしたいこと（創造的な授業）
第5回	英語科授業の理論と実践（4） 指導案の作り方（4）	英語科授業の基本的理念と授業づくり ④ ・英語の授業で大切にしたいこと（魂の触れ合う授業）
第6回	模擬授業（1）	授業のふり返し・討論
第7回	模擬授業（2）	授業のふり返し・討論
第8回	模擬授業（3）	授業のふり返し・討論
第9回	模擬授業（4）	授業のふり返し・討論
第10回	模擬授業（5）	授業のふり返し・討論
第11回	模擬授業（6）	授業のふり返し・討論
第12回	模擬授業（7）	授業のふり返し・討論
第13回	模擬授業（8）	授業のふり返し・討論
第14回	講義のまとめ	講義全体をふり返し、自らの課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は授業で配信した講義資料を熟読して授業に臨み、毎時間毎に「授業に取り組んだ感想（疑問・質問・発見なども含む）」を書き、メールで提出すること。

なお、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・『三訂 教育実習の手引き』（法政大学教職課程委員会編）
・『現場発！ 人間的な英語の授業を求めて』池田真澄（2019）高文研 2200 円＋税
・教員が配信する講義資料

【参考書】

・『中学校学習指導要領』（平成 29 年告示）解説外国語編文部科学省

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（指導案・教材作りなど） 50 %

模擬授業の成果 30 %

レポート 20 %

として評価する（出席は、単位認定の前提条件である）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはできない。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業ができる端末を準備すること。

【その他の重要事項】

受講人数によって、模擬授業の日程や形式など、授業計画は調整する。

【Outline and objectives】

The theme of the class is "organizing classes". After understanding the flow of teaching practice and preparation for it, we will cover basic theories and knowledge related to the teaching plan and class itself, and indispensable skills.

教育実習（事前指導）

池田 真澄

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業テーマは、「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備に触れた上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠なスキルと心構えなどを取り上げる。

【到達目標】

・教育実習に参加するために、教職、教科指導、生徒指導に関する基礎的な知識やスキルを習得することができる。
・教育実習で求められる社会的・対人的スキルを獲得することができる。
・学習指導案を書き、授業を行うことができる。
なお、教育実習の受講を希望する学生は、教育実習事前指導を必ず受講し、実習前年度までにこの講義に合格する必要がある。本講義はクラス指定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Zoom と学習支援システムを中心に進める。講義の内容は、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備とスキルが必要か、②学習指導案の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④授業検討、⑤すでに教育実習を実施した4年生からの体験を学ぶ、を中心的な内容として構成する。なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価される。事後指導の評価は、実習日誌、教育実習体験レポートによる。また毎時間アクションペーパーを提出してもらい、翌週にフィードバックを行なう。オンラインの場合は別の方法でフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、教師に求められる資質・能力とは
2	教育実習に向けて	教育実習の目的、流れ、準備
3	学習指導	教育実習で知っておくべき基礎・基本
4	生徒指導	教育実習で知っておくべき基礎・基本
5	授業デザイン(1)	教材研究の進め方、学習指導案の書き方
6	授業デザイン(2)	学習指導案の書き方
7	授業デザイン(3)	発問、板書、ICT活用、指導・支援のあり方
8	オンデマンド型の授業(1)	スライドの構成案と検討
9	オンデマンド型の授業(2)	実施と評価
10	学習指導案検討	学習指導案の検討と準備
11	模擬授業(1)	授業の実施と検討
12	模擬授業(2)	授業の実施と検討
13	4年生との共同授業	4年生によるプレゼンと交流
14	授業のまとめ	授業づくりのポイント、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課題に応じてレポートを作成する。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田真澄『現場発！ 人間的な英語授業を求めて』高文研、2019年。

【参考書】

筒井美紀・遠藤野ゆり編『ベストをつくす教育実習』有斐閣、2017年。文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題、学習指導案、模擬授業、レポート（70%）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を行う視点のたせ方を工夫する。

【Outline and objectives】

Students in this class are supposed to aim to acquire basic knowledge and skills necessary for implementing teaching intern. Some of the targets are (1) gaining basic knowledge and skills of teaching profession, instruction and student guidance, (2) developing social and interpersonal skills, and (3) practicing teaching by developing lesson plans.

教育実習（事前指導）

丸山 義昭

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業テーマは、「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備に触れた上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠な方法・技術と心構えなどを取り上げる。4年生の教育実習体験を聴くことによって、現場での教育実習の具体的な取り組みについて学ぶ。

【到達目標】

4年時に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と、教科指導に関わる基礎知識と力量、教育実習に取り組むための方法・技術の獲得を目標とする。教育実習の受講を希望する学生は、この講義を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講義で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。なお、この講義はクラス指定であるので、自分の取得予定の免許の教科と、所属学部注意到登録すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義内容は、国語科免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備が必要か、②学習指導案（授業指導案）の作成、③授業を行うための知識と技量の獲得、④授業検討（授業検討）、⑤すでに教育実習を実施した4年生から体験を聴いて学ぶ、を中心的な内容として構成する。毎回、フィードバック用紙に意見や感想、質問を書き、提出。それらを次時に全員で共有し、学生の応答と教員のコメントを交えながら学びを深めていく。（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなるが、事後指導の一環として、4年次教育実習終了時の指定される時期（毎年10月上旬から12月中旬頃）、前年に参加した教育実習事前指導の講義クラスに相当する授業に参加し、3年生に実習体験や、授業を模範授業として再現するなどの「報告会」を実施する。全員の参加を義務とする。具体的な時期等は、4年次秋に掲示にて連絡するので、注意すること。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の方法や目当て、講義の進め方等についてのガイダンス
第2回	実習に向けての準備のあり方	授業において起こり得る様々なケースや陥りやすい思い込みなど、実践例を用いて確認する
第3回	4年生の教育実習体験を聴く①	学習指導案作成についての基本的な考え方と留意点
第4回	4年生の教育実習体験を聴く②	各自の授業テーマの設定と学習指導案の構想 B 4一枚程度の報告書提出、作業日程の確認
第5回	4年生の教育実習体験を聴く③	学習指導案の具体的な書き方とその構成要素の説明
第6回	4年生の教育実習体験を聴く④	模擬授業①「説明的文章」
第7回	4年生の教育実習体験を聴く⑤	授業の実際と学習指導案の展開①
第8回	4年生の教育実習体験を聴く⑥	模擬授業②「小説」
第9回	4年生の教育実習体験を聴く⑦	授業の実際と学習指導案の展開②
第10回	4年生の教育実習体験を聴く⑧	模擬授業③「古典」
第11回	模擬授業（中学国語・説明的文章）	各自の学習指導案の報告と検討 各グループに分かれて行う
第12回	模擬授業（中学国語・小説）	教員による模擬授業（学生の選んだテーマの多い領域での模擬授業） 模擬授業（2人）とそれをめぐる討論・批評
第13回	模擬授業（高校国語・評論）	模擬授業（2人）とそれをめぐる討論・批評
第14回	模擬授業（高校国語・小説）	模擬授業（2人）とそれをめぐる討論・批評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作成した学習指導案について教員の方からコメント、修正すべき点を提示するので、その内容、実際の模擬授業での実践、他者の模擬授業を見ての反省などを踏まえて作成し、最終レポートしての指導案は、第14回時に提出すること。詳細は授業内で指示する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。また、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を教育実習ガイダンス時に配布するので、参考にすること。

【参考書】

『学習指導要領』及び解説書（文部科学省）
 『学力・人格と教育実践』佐貫浩（大月書店）
 『新・生活指導の理論』竹内常一（高文研）
 『読むことの教育』竹内常一（山吹書店）
 『子どもの自分くずしと自分づくり』竹内常一（東京大学出版会）
 『カリキュラムの批評』佐藤学（世織書房）
 『実践国語科教育法』町田守弘（学文社）
 『改訂新版 教師の条件』小島弘道 他（学文社）
 『持続可能な未来のための教職論』諏訪哲郎 他（学文社）
 『文学は教育を変えられるか』福田淑子（コルサック社）
 『生き方を問う子どもたち』田中孝彦（岩波書店）
 『第三項理論が拓く文学研究／文学教育』田中実 他（明治図書）
 『文学が教育にできること』田中実 他（教育出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点を重視するが、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）、話し合い・討論への参加状況、模擬授業の様子、レポート課題（学習指導案など）を総合して評価する。なお、評価基準の詳細は、最初の講義時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The theme of this course is “how to give classes that develop students’ creativity”. This course includes classes on how to write teaching plan, the basic theory and knowledge on the teaching profession, and the essential method and skills necessary for teaching. Also, the students can learn the specific tackling about the practice teaching, listening to the experience of the seniors who have completed it.

教育実習（事前指導）

松尾 知明

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年次に実施される教育実習に必要とされる知識とスキルの習得が目的です。教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる3つの授業目的となります。

【到達目標】

授業の実践的指導力の土台作りが目標となります。そのために、プロ教師の授業分析を通じて、授業を成立させる諸要素を理解すること、授業に必要な知的・コミュニケーション・スキルを知ること、その上で、模擬授業づくりのグループワークを通じて、知り理解したものを血肉化することが求められます。

なお、教育実習の履修単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、事後指導を総合して評定されます。教育実習を希望する学生は、この講義を必ず受講し、合格することが求められます。本講義の履修が合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできません。なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面で実施し、授業支援システムを活用する。本は、授業中学校社会科・理科、高校地歴・公民・理科・商業の免許を取得する学生を対象としています。また、クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。

講義内容は、3つの単元から構成されます。

- ①教育実習とはなにか、準備すべきこととはなにか
 - ②プロ教師の授業を分析し、授業スキルを学ぶ
 - ③グループで学習指導案や教材を作成し、模擬授業をおこなう
- また、教育実習をリアルに知るために、4年生との合同授業も設定します。課題は、授業のなかでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の概要説明とグループ分け
第2回	教育実習とは何か	実習の流れと準備
第3回	プロ教師の授業から学ぶ(1)	授業の型と展開の基本
第4回	プロ教師の授業から学ぶ(2)	発問と授業コミュニケーション
第5回	プロ教師の授業から学ぶ(3)	モノ・教材の使い方
第6回	プロ教師の授業から学ぶ(4)	構成・シナリオとハプニング
第7回	プロ教師の授業から学ぶ(5)	板書のタイプと技法
第8回	教育実習生の実習体験から学ぶ	教育実習全体に関する身近なモデルからの学び
第9回	教育実習生の授業体験から学ぶ	授業実践に焦点化した身近なモデルからの学び
第10回	模擬授業を準備する	グループごとの打合せ
第11回	模擬授業して合評する(高校現代社会・政経分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第12回	模擬授業して合評する(高校歴史分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第13回	模擬授業して合評する(中学公民分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第14回	模擬授業して合評する(中学地歴分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習集団としてグループを形成します。講義をうけた話し合い・討論をはじめとして、模擬授業づくり発表準備や事後の振り返りをこの基本集団でおこないます。模擬授業にあたっては、1週間前に素案を共同制作し、担当教員の指導助言を受けることも含まれます。加えて、各個人が終了レポートとして、1時限の授業に必要な学習指導案や生徒用プリント、補助教材の作成も求められます。以上の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示します。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布していますので、参考にしてください。

【参考書】

高野良一「『教育実習（事前指導）』の授業デザイン」『法政大学教職課程年報』Vol.14（教職課程のHPから閲覧可能）
その他、講義の中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーや模擬授業の実施などの平常点（40％）、各自の学習指導案と教材からなる終了レポート（60％）を主たる評価対象として、総合的に合否を判定します。なお、平常点には、グループワークや授業内の討論への参加なども含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

身近なモデルとしての4年生から学ぶことは多いので、合同授業は大切にしたい。模擬授業では、授業を受けた学生からの「授業評価アンケート票」を活用して、双方向の振り返りを充実させたい。

【Outline and objectives】

The aim and goal of this class is to learn and obtain teaching knowledges and skills for the practical training in secondary schools during next school year.

教育実習（事前指導）

寺崎 里水

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年次に実施される教育実習に必要とされる知識とスキルの習得が目的です。教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる3つの授業目的となります。

【到達目標】

授業の実践的指導力の土台作りが目標となります。そのために、プロ教師の授業分析を通じて、授業を成立させる諸要素を理解すること、授業に必要な知的・コミュニケーション・スキルを知ること、その上で、模擬授業づくりのグループワークを通じて、知り理解したものを血肉化することが求められます。

なお、教育実習の履修単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、事後指導を総合して評定されます。教育実習を希望する学生は、この講義を必ず受講し、合格することが求められます。本講義の履修が合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできません。なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義は、中学校・社会科、高校地歴・公民の免許を取得する学生を対象としています。また、クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。

講義内容は、3つの単元から構成されます。

- ①教育実習とはなにか、準備すべきこととはなにか
- ②プロ教師の授業を分析し、授業スキルを学ぶ
- ③グループで学習指導案や教材を作成し、模擬授業をおこなう

また、教育実習をリアルに知るために、4年生との合同授業も設定します。模擬授業や学習指導案に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の概要説明とグループ分け
第2回	教育実習とは何か	実習の流れと準備
第3回	プロ教師の授業から学ぶ (1)	授業の型と展開の基本
第4回	プロ教師の授業から学ぶ (2)	発問と授業コミュニケーション
第5回	プロ教師の授業から学ぶ (3)	モノ・教材の使い方
第6回	プロ教師の授業から学ぶ (4)	構成・シナリオとハプニング
第7回	プロ教師の授業から学ぶ (5)	板書のタイプと技法
第8回	教育実習生の実習体験から学ぶ	教育実習全体に関する身近なモデルからの学び
第9回	教育実習生の授業体験から学ぶ	授業実践に焦点化した身近なモデルからの学び
第10回	模擬授業を準備する	グループごとの打合せ
第11回	模擬授業して合評する (高校現代社会・政経分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第12回	模擬授業して合評する (高校歴史分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第13回	模擬授業して合評する (中学公民分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第14回	模擬授業して合評する (中学地歴分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習集団としてグループを形成します。講義をうけた話し合い・討論をはじめとして、模擬授業づくり発表準備や事後の振り返りをこの基本集団でおこないます。模擬授業にあたっては、1週間前に素案を共同制作し、担当教員の指導助言を受けることも含まれます。加えて、各個人が終了レポートとして、1時限の授業に必要な学習指導案や生徒用プリント、補助教材の作成も求められます。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示します。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布していますので、参考してください。

【参考書】

高野良一「『教育実習（事前指導）』の授業デザイン」『法政大学教職課程年報』Vol.14（教職課程のHPから閲覧可能）
その他、講義の中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーや模擬授業の実施などの平常点（40%）、各自の学習指導案と教材からなる終了レポート（60%）を主たる評価対象として、総合的に合否を判定します。なお、平常点には、グループワークや授業内の討論への参加なども含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

身近なモデルとしての4年生から学ぶことは多いので、合同授業は大切にしたい。模擬授業では、授業を受けた学生からの「授業評価アンケート票」を活用して、双方向の振り返りを充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面で授業を実施します。オンラインでやらなければならない状況になったときには、オンラインで模擬授業を実施します。その場合、スマホやタブレットでは性能が不十分な可能性がありますので、PCで授業を受けるようにしてください。

【Outline and objectives】

The aim and goal of this class is to learn and obtain teaching knowledges and skills for the practical training in secondary schools during next school year.

教育実習（事前指導）

高野 良一

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年次に実施される教育実習に必要とされる知識とスキルの習得が目的です。教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる3つの授業目的となります。

【到達目標】

授業の実践的指導力の土台作りが目標となります。そのために、プロ教師の授業分析を通じて、授業を成立させる諸要素を理解すること、授業に必要な知的・コミュニケーション・スキルを知ること、その上で、模擬授業づくりのグループワークを通じて、知り理解したものを血肉化することが求められます。

なお、教育実習の履修単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、事後指導を総合して評定されます。教育実習を希望する学生は、この講義を必ず受講し、合格することが求められます。本講義の履修が合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできません。なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義は、中学校社会科・理科、高校地歴・公民・理科・商業の免許を取得する学生を対象としています。また、クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。

講義内容は、3つの単元から構成されます。

- ①教育実習とはなにか、準備すべきこととはなにか
- ②プロ教師の授業を分析し、授業スキルを学ぶ
- ③グループで学習指導案や教材を作成し、模擬授業をおこなう

また、教育実習をリアルに知るために、4年生との合同授業も設定します。なお、対面授業を原則とします（コロナ感染症等の状況により変更、ZOOMと併用もありません）。

提出された課題は、次回授業などでフィードバックすることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の概要説明とグループ分け
第2回	教育実習とは何か	実習の流れと準備
第3回	プロ教師の授業から学ぶ(1)	授業の型と展開の基本
第4回	プロ教師の授業から学ぶ(2)	発問と授業コミュニケーション
第5回	プロ教師の授業から学ぶ(3)	モノ・教材の使い方
第6回	プロ教師の授業から学ぶ(4)	構成・シナリオとハプニング
第7回	プロ教師の授業から学ぶ(5)	板書のタイプと技法
第8回	教育実習生(4年生)の実習体験から学ぶ	教育実習全体に関する身近なモデルからの学び
第9回	教育実習生(4年生)の授業体験から学ぶ	授業実践に焦点化した身近なモデルからの学び
第10回	模擬授業を準備する	グループごとの打合せ
第11回	模擬授業して合評する(高校現代社会・政経分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第12回	模擬授業して合評する(高校歴史分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第13回	模擬授業して合評する(中学公民分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会
第14回	模擬授業して合評する(中学地歴分野)	模擬授業のグループ発表とその検討会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習集団としてグループを形成します。講義をうけた話し合い・討論をはじめとして、模擬授業づくり発表準備や事後の振り返りをこの基本集団でおこないます。模擬授業にあたっては、1週間前に素案を共同制作し、担当教員の指導助言を受けることも含まれます。加えて、各個人が終了レポートとして、1時限の授業に必要な学習指導案や生徒用プリント、補助教材の作成も求められます。以上の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示します。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布していますので、参考してください。

【参考書】

高野良一「『教育実習（事前指導）』の授業デザイン」『法政大学教職課程年報』Vol.14（教職課程のHPから閲覧可能）
その他、講義の中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーや模擬授業の実施などの平常点（40％）、各自の学習指導案と教材からなる終了レポート（60％）を主たる評価対象として、総合的に合否を判定します。なお、平常点には、グループワークや授業内の討論への参加なども含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

身近なモデルとしての4年生から学ぶことは多いので、合同授業は大切にしたい。模擬授業では、授業を受けた学生からの「授業評価アンケート票」を活用して、双方向の振り返りを充実させたい。

【Outline and objectives】

The aim and goal of this class is to learn and obtain teaching knowledges and skills for the practical training in secondary schools during next school year.

教育実習（事前指導）

筒井 美紀

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業を如何に作り込むか。如何に力強い授業を展開するか。それがこのクラスのテーマである。教育実習の流れやその準備にふれた上で、学習指導案・授業の基礎理論と基礎知識、授業実践に不可欠なスキルを習得する。

【到達目標】

4年次の教育実習を立派にやり抜くために、教職および教科指導に関する実践的基礎理論・基礎知識の取得、社会的・対人スキルの形成・向上をゴールとする。教育実習参加希望の学生は、必ずこの授業を受講し、実習前年度までに合格しておかねばならない。なお、この講義はクラス指定があるので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部注意到登録すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は原則対面、ただし、コロナ状況によっては zoom によるリアルタイム方式に切り替える可能性もある。

授業内容は、＜社会・地歴・公民・商業科＞免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けて如何なる準備とスキルが必要かの理解、②学習指導案（授業指導案）の作り方、③授業を行う基礎スキルの習得、④相互扶助的な授業検討（批評）の方法、⑤既に教育実習を実施した4年生との議論を通した学び、を中心とする（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習等を総合して評価される。）課題レポートはコメントを入れて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標や流れの説明、班分け／教育実習を、対人関係や社会的場、専門職の振舞い方という観点から理解する。
第2回	実習生はどう評価されるか？	テキスト1,2章の予習を前提に授業。教育専門職とは何が求められるか。
第3回	学習指導案作成の基礎と指導案例の検討	テキスト3章の予習を前提に授業。「イマイチ」な指導案批判的に検討し、改善案を実演する。
第4回	各自指導案の作成①	各自指導案を作成。ミニ・パフォーマンスも行う。
第5回	各自指導案の作成②	引き続き各自指導案作成。適宜相談。
第6回	指導案の提出、模擬授業代表指導案決定	授業開始時、指導案を教員に提出後、各班で代表指導案を決める。
第7回	模擬授業（中学社会）	および討論。生徒に何をさせるのかを明確にした授業。
第8回	模擬授業（商業）	および討論。問題集解きに終始しない指導。
第9回	模擬授業（世界史①）	および討論。暗記に終始させない画像の活用。
第10回	模擬授業（世界史②）	および討論。歴史の因果を考えさせるICTの活用。
第11回	模擬授業（地理①）	および討論。地図と画像と数値を駆使したグループワーク。
第12回	模擬授業（地理②）	および討論。生活・文化との関連を実感させる実物教法。
第13回	模擬授業（公民①）	および討論。ロールプレイによる思考の刺激。
第14回	模擬授業（公民②）	および討論。ロールプレイによる思考の刺激。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に臨むにあたって、予習と復習（preparation and review）は膨大である。教育実習を立派にやり抜くには、それをこなせることが不可欠。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・遠藤野ゆり編（2016）『ベストをつくす教育実習』有斐閣

【参考書】

・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局
・文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

課題レポート20％、中間学習指導案20％、期末学習指導案40％、模擬授業と検討など授業への知的貢献20％。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業は DVR で撮影し映像データを見られるようにします。映像を見てしっかり振り返りをする事。

【その他の重要事項】

第1回に、班や作業割り当てが決められ、第2回から、毎回毎回、ワークをこなしていく。「初回くらい、どうってことない」などと甘い考えで欠席しないこと。「ちょっとくらい、提出が遅れたっていいじゃないか」—こういう学生は、教育実習に行く資格はありません。出席と課題提出には極めて厳しい規準を設定します。

【Outline and objectives】

In this class the students learn how to prepare for teaching, to construct a powful and relevant class of social studies etc., that is, to understand the flow of teaching practice and to master the basic skills of teaching.

教育実習（事前指導）

御園生 純

単位：単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また7月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】

次年度の教育実習を前に、実習がもつ様々な意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。プレゼンテーション及び各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	ガイダンス
第2回	教育実習の実際と実習に向けての準備のあり方	教育実習の意味と目的について
第3回	授業の進め方や実習に向けての準備・心構えについて	高校教員に求められる資質とは
第4回	実習ガイダンス 生活指導について	生活指導のあり方について
第5回	実習ガイダンス2 実習全般の注意	教育 実習期間中の過ごし方
第6回	実習ガイダンス3 分掌	校務 教職員の服務 生徒指導
第7回	実習ガイダンス4 運営全体における情報科担当教員の役割	学校 左記のとおり
第8回	教科指導 授業の事前準備の方法	年間計画と単元計画
第9回	教科指導 学習指導案の作成	副教材の作成方法
第10回	教科指導 学習指導案に即して	発問・板書・まとめ・考査の方法
第11回	教科指導 模擬授業の実施と検討	授業を演出する意味について
第12回	担任指導	生活・進路指導
第13回	ホームルーム指導の実際	生徒指導の実際例を引いてその効果的な指導方法をまなぶ
第14回	特別活動の指導	HR や行事の教育的な効果について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高等学校学習指導要領 情報編

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、不合格の評価を受けると次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、

- 授業への積極的参加、貢献度 30%
- 課題（指導案等）の提出 40%
- 授業計画のプレゼンテーション 30%

【学生の意見等からの気づき】

実際に授業ができる。
様々な局面における適切な生徒指導ができる。

【その他の重要事項】

- ・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、4月に実施される3年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
- ・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。
- ・この授業では、授業支援システムの利用を予定しています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

宮坂 健介

単位：単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年次に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と教科指導にかかわる基礎知識・力量の形成、教育実習に対処できる一定のスキルの獲得を目標とする。教育実習の受講を希望する学生は、この講義を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講義で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。なおこの講義はクラス指定であるので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部注意到登録すること。

【到達目標】

中国語の教育実習を行う際に、「きちんと」授業ができることを目指す。「きちんと」という中には、教材研究・授業計画の作り方・生徒対応など授業を成り立たせる基本を身に付け、それを実際に生かすことができるという意味が含まれる。どのような中国語の知識が必要なのか、そしてそれをどのように使うのかを中心に講義し、実践も行っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義内容は、外国語科（中国語）免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどう準備とスキルが必要か、②学習指導案（授業指導案）の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④授業検討（授業批評）、⑤すでに教育実習を実施した4年生からの体験を学ぶことを中心とした内容として構成する。授業内での発表も行う。その際のレポートについては、授業中に取り上げて、問題点や美点などを含めて議論を進め、コメントを加えたい。対面授業ができない場合は講義動画を織り交ぜつつ、必要な知識が身に付けられるように展開したい。

第1回については、zoomにて行いたいので、下記までアクセスしてください。
<https://us02web.zoom.us/j/87093635219?pwd=REF4SVdqZjNWNSStnZDc1QzlwYWVhCQQT09>

なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなるが、事後指導の一環として、4年次教育実習終了時の指定される時期（毎年11月の初旬から中旬頃）に、前年参加した教育実習事前指導講義のクラスに相当する授業に参加し、3年生に実習体験や授業を模範授業として再現するなどの「報告会」を実施する。全員の参加を義務とする。具体的な時期等は、4年次秋に掲示にて連絡するので注意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	講義全体の概要を説明する。
第2回	教育実習における基本姿勢(1)	教育実習とはどのようなものか。「教師」としての基本姿勢を学ぶ。
第3回	教育実習における基本姿勢(2)	実習前の準備と言語教育の基本を学ぶ。
第4回	教育実習における基本姿勢(3)	言語教育の基本について学ぶ。
第5回	教育実習における基本姿勢(4)	言語教育の基本について学ぶ。
第6回	教育実習における基本姿勢(5)	中国語を教える際の基本について学ぶ。
第7回	教育実習における基本姿勢(6)	中国語を教える際の基本について学ぶ。
第8回	教科書検討会	中国語教科書について実際に比較検討を発表する
第9回	指導案の書き方	外国語を教える際の注意点と指導法の確認を中心に、どのように授業を組み立ててゆくか考える。
第10回	模擬授業	これまでの授業をもとに模擬授業を行う。
第11回	実習を終えた4年生参加による教育実習報告会	実習の実際について報告を聞く。
第12回	教育実習における注意点(1)	教材研究などについて学ぶ。
第13回	教育実習における注意点(2)	授業以外の教育実習についての注意点を確認する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語をはじめとする第二言語習得についての文献を幅広く読むこと、現在の中国語教科書について調べること、その他授業方法について調べることを中心として、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜レジュメを配布します。

【参考書】

法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』
『高等学校の中国語と韓国朝鮮語：学習のめやす（試行版）』
『学習指導要領』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）を重視するが、討論への参加状況、レポート課題（指導案作成 30 %）、模擬授業（30 %）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

意見を言ったり質問をしやすい授業にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン若しくはスマートフォン・タブレット

【Outline and objectives】

As a prerequisite for participating in teaching practice in the fourth year, we aim to establish basic knowledge on teacher training and basic knowledge / competence related to subject guidance, and acquire certain skills that can cope with educational practice. Students who wish to take an educational training must attend this lecture without fail and must pass the examination by the previous fiscal year. In cases where it is not accepted as passing in this lecture, you can not participate in teaching practice. Since this lecture is class designation, register it with attention to the subject of the license to be acquired by yourself and the faculty affiliated.

教職実践演習

大栗 健二

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教職を担うにふさわしい知識、技能、ならびに教職を目指す姿勢の獲得について、4 年間の単位取得状況、関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】

①学校現場における授業を進める実践的スキルの獲得②専門とする教科領域における教育内容についての一定の研究と教材作成力の獲得③子ども理解及び学級・学校の実際の理解④教職に向けての明確な意志と各自の目標の設定⑤積極的なコミュニケーションと発表・プレゼンテーションのスキルの獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、講義と演習形式の授業を基本とするが、グループ学習、教職履修の 3 年生（対応する教科の教育実習事前指導クラスの学生）との協同討論を通しての経験報告やアドバイス、最終レポート作成などによって構成する。フィードバックは授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて行う。良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義にテーマと目標、具体的な授業展開についてのガイダンス
第 2 回	講義と討論（1）	「授業論・目的論」の講義と討論
第 3 回	講義と討論（2）	「教材論」の講義と討論
第 4 回	講義と討論（3）	「協同学習」の講義と討論
第 5 回	講義と討論（4）	「自己表現」の講義と討論
第 6 回	講義と討論（5）	「主体的で対話的な学び」の講義と討論
第 7 回	前期木曜 4 限 (6/24 予定)	教育実習に向けて準備している 3 年生と、自らの教育実習の経験交流
第 8 回	講義と討論（5）	「英語教育の諸課題」講義と討論
第 9 回	講義と演習（1）	「創造的な授業」の講義と演習
第 10 回	講義と演習（2）	「音声指導」の講義と演習
第 11 回	グループによる音声指導の発表（1）	グループによるプレゼンテーション（1）
第 12 回	グループによる音声指導の発表（2）	グループによるプレゼンテーション（2）
第 13 回	グループによる音声指導の発表（3）	グループによるプレゼンテーション（3）
第 14 回	講義のまとめ	講義全体のまとめ・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から教育書、新聞、インターネットなどで今日の教育、とりわけ外国語教育の状況や問題点を十分に把握する。また日本や世界の抱える課題に目を向け、視野を広げ、認識を深める努力をする。本学期的準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・「現場発！ 人間的な英語の授業を求めて」池田真澄（2019）高文研 2200 円＋税

【参考書】

「教科指導・生活指導・学校づくりなどの実践記録」（授業で指示）中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語編文部科学省

【成績評価の方法と基準】

①グループ研究のまとめとプレゼンテーションの評価②演習への参加と討論への参加状況③最終レポート、を総合的に勘案し評価する。（出席は、単位認定の前提条件である）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはできない。

【学生が準備すべき機器他】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはできない。

【その他の重要事項】

受講人数によって、模擬授業の日程や形式など、授業計画は調整する。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to achieve the goal as university education required for teacher license acquisition, with regard to acquiring knowledge, skills and attitude towards teaching, which is appropriate for teaching jobs, based on the achievements such as the unit acquisition status in 4 years and the results of related subjects.

教職実践演習

池田 真澄

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教職に相応しい知識と技能、教職をめざす姿勢の獲得について、4年間の単位取得状況や関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】

教職に就くための基礎力量の上げを行う。

- ①授業を進める上での実践的スキルの獲得と生徒理解
 - ②専門とする教科領域における教育内容についての研究と教材作成力の獲得（授業指導案の作成を含む）
 - ③今日の子どもの理解及び学級・学校の実際の理解と実践力、指導力量の育成
 - ④教職に向けての明確な意志の確立と各自の実践上の目標を設定
 - ⑤積極的なコミュニケーションとプレゼンテーションの技能獲得
- なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループを組んで共同研究と発表を行う。テーマは各自の専門とする領域から立てる。具体的には①教科の内容に関するブックレット等の作成（教科内容研究）、②教職等の仕事の現状についての調査報告書の作成（職業研究）、③子どもの困難、青年の自立の困難等について調査報告書の作成（子ども・青年研究）から選択。発表も行う。「教育実習事前指導」の受講生を対象に、模擬授業や教育実習体験の報告なども行う。また毎時間リアクションペーパーを提出してもらい、翌週にフィードバックを行なう。オンラインの場合は別の方法でフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本講義の目標と性格について説明。本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。履修カルテの確認
第 2 回	教育実習の総括	①各自の教育実習の振り返り、教職に就くためにどのような力量やスキルが求められるのか、学生の報告と討論を行い、教員が総括する。その結果を踏まえて、3年生へのメッセージの作成する。②この「演習」における各自の課題設定およびグループ分け
第 3 回	グループでの実習体験報告①教職の現代的性格の検討	講義＜今日の教職に求められる専門性とスキルとは何か＞に基づき、教職のあり方についての討論を行う。今日の労働がおかれている実態や法的仕組みなどを踏まえつつ、どうその専門性を高めていくかを考える。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 4 回	グループでの実習体験報告②後輩へのメッセージのプレゼンテーション要領	3年生に対して教育実習への準備のあり方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する年生との質疑応答を行う。
第 5 回	グループでの実習体験報告③グループ作業①	グループ作業。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 6 回	グループでの実習体験報告④	グループ作業。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する。
第 7 回	グループでの実習体験報告⑤	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する。

第 8 回	グループでの実習体験報告⑥	現場実習体験を報告するという一部学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 9 回	グループでの実習体験報告⑦	現場の体験を共有するという一部学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 10 回	グループでの実習体験報告⑧	発表とそれにもとづく議論一部学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 11 回	学ぶということ・教えるということ①	発表とそれにもとづく議論
第 12 回	学ぶということ・教えるということ②	発表とそれにもとづく議論
第 13 回	学ぶということ・教えるということ③	発表とそれにもとづく議論
第 14 回	発表総括・後輩への提言	グループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共同作業を通じて討論やプレゼンテーションスキルを高める。共同作業に責任を持って参加する。教育の現在における役割を考える。本授業の準備・復習時間は4時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

池田真澄『現場発！ 人間的な英語の授業を求めて』高文研、2019年

【参考書】

『学習指導要領』（文部科学省）
『学力・人格と教育実践』佐貫浩（大月書店）
『新・生活指導の理論』竹内常一（高文研）
『カリキュラムの批評』佐藤学（世識書房）
改訂版『教師の条件』小島弘道 他（学文社）
など

【成績評価の方法と基準】

①個別課題とプレゼンテーション等の評価、②グループ作業への積極的な参加とそのなかでの役割の遂行や討論への参加状況などの評価、③授業への積極的貢献度、を総合的に勘案して評価する。なお、最終評価にかかわって個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

学生アンケートの回答より研究する。

【Outline and objectives】

The target of this class is to accomplish all necessary works during the educational system in university to obtain the teaching license. It refers every student's grade average on all the related 4 year class works, and his/her attitude to be a teacher with desired skill and knowledge.

教職実践演習

丸山 義昭

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教職に相応しい知識と技能、教職を目指す姿勢の獲得をはかるとともに、4年間の単位取得状況や関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】

教職に就くための基礎力量の総仕上げを行う。

- ①授業を進める上での実践的な方法・技術の獲得と生徒理解
- ②専門とする教科領域における教育内容についての理解と、教材研究と授業構想の能力の獲得（学習指導案の作成力も含む）
- ③今日の子どもも理解および学校・学級についての理解と実践力、指導力量の獲得
- ④教職に向けての明確な意志の確立と、各自の実践上の目標を設定すること
- ⑤積極的なコミュニケーションとプレゼンテーション技能の獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループを組んで共同研究と発表を行う。テーマは各自の専門とする領域から立てる。具体的には、①教科の内容に関するブックレット等の作成（教科内容研究）、②教職等の仕事の現状についての調査報告書の作成（職業研究）、③子ども・青年の置かれている状況の困難さなどについての調査報告書の作成（子ども・青年研究）から選択。発表も行う。「教育実習事前指導」の受講生を対象に、模擬授業や教育実習体験の報告なども行う。毎回、前時の授業後に提出されたりアクションペーパーから意見や感想、質問をいくつか取り上げて全体にフィードバックし、相互の応答と教員のコメントを交えながら、さらなる議論に活かしていく。なお、課題の提出等は「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	本講義の目標と性格について説明する。本講義で取り組む課題、到達すべき目標について確認する。履修カルテの確認。
2	教育実習の総括	①各自の教育実習を振り返りながら、教職に就くためにどのような力量や技能が求められるのか、学生の報告と討論を行い、教員が総括する。その結果を踏まえて、3年生へのメッセージを作成する。②この「演習」における各自の課題設定およびグループ分け。
3	グループでの実習体験報告①	今日の教職に求められる専門性と技能についての講義に基づきながら、教職のあり方について討論を行う。グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
4	グループでの実習体験報告②	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
5	グループでの実習体験報告③	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
6	グループでの実習体験報告④	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。

7	グループでの実習体験報告⑤	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
8	グループでの実習体験報告⑥	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
9	グループでの実習体験報告⑦	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
10	グループでの実習体験報告⑧	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
11	グループでの実習体験報告⑨	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
12	グループでの実習体験報告⑩	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
13	グループでの実習体験報告⑪	グループ演習。一部の学生については、あわせて3年の「教育実習事前指導」に参加し、模擬授業を実演する。質疑応答、討論、講義によって、学ぶということ・教えるということについて考察する。
14	発表総括・後輩への提言	グループ演習。学ぶということ・教えるということについての考察のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教育実習の体験報告の準備、学習指導案の練り直しなど模擬授業の準備、模擬授業後の振り返りシートの作成等を行う。参考文献を読み込むことにより、実習体験を意味づけるとともに、教育現場の抱える問題や取り組むべき課題などについて理解を深める。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回、必要な参考文献や資料などを指定、もしくは配布する。

【参考書】

『学習指導要領』及び解説書（文部科学省）
 『学力・人格と教育実践』佐貫浩（大月書店）
 『新・生活指導の理論』竹内常一（高文研）
 『読むことの教育』竹内常一（山吹書店）
 『子どもの自分くずしと自分づくり』竹内常一（東京大学出版会）
 『カリキュラムの批評』佐藤学（世織書房）
 『実践国語科教育法』町田守弘（学文社）
 『改訂新版 教師の条件』小島弘道 他（学文社）
 『持続可能な未来のための教職論』諏訪哲郎 他（学文社）
 『文学は教育を変えられるか』福田淑子（コールサク社）
 『生き方を問う子どもたち』田中孝彦（岩波書店）
 『第三項理論が拓く文学研究／文学教育』田中実 他（明治図書）
 『文学が教育にできること』田中実 他（教育出版）

【成績評価の方法と基準】

①個別課題とプレゼンテーション等の評価、②グループ作業への積極的な参加と役割の遂行、討論への参加状況などの評価、③授業への積極的貢献度、を総合的に勘案して評価する。なお、最終評価に関わって個別面談を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The target of this class is to foster the student's positive attitude to teaching with good skills and knowledge, and accomplish the goal of obtaining a teaching license through a 4-year university education based on the scholastic marks in the related subjects.

教職実践演習

松尾 知明

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の教職科目及び関連科目の履修を踏まえ、教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力の形成が目的となる。

【到達目標】

具体的には、①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟、②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成、③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成、⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得、の5点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。授業は、グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせる構成とする。

個別的指導については、開始当初に学生に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出させ、個別課題を設定させる。必要に応じて中間報告を提出させ、講義終了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお、必要に応じて適宜、個別面談も行う。

演習形式を基本とする講義は、次の4つから構成される。①教職のあり方や実態、法規等を理解し考える報告・討論、②模擬授業も含めた授業実践の記録の共同研究、③生徒指導に関する事例研究、④以上を踏まえて、学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。

なお、学生のクラス分けは教科ごととする。

課題は、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
2	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に、教育実習を振り返る。
3	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性の理解を含む、教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
4	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき、教師の権限や自由、子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしぐみを理解する。
5	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理、学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し、また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
6	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）	単元、目標と評価、生徒理解を重点に授業研究をする。
7	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）	教材と教具、内容と構成を重点に授業研究をする。
8	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）	指導方法とコミュニケーションを重点に授業研究をする。
9	生徒指導の事例研究（1）	不登校やいじめ、対人関係トラブルの事例を扱う
10	生徒指導の事例研究（2）	家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携の事例を扱う
11	学生研究成果発表とその集団検討（1）	学生自らが設定した模擬授業を含む研究成果発表とその議論。研究対象は中学校
12	学生研究成果発表とその集団検討（2）	研究対象は高校
13	学生研究成果発表とその集団検討（3）	「特別な配慮を要する生徒」等の特定テーマ
14	講義のまとめ	学生の教職履修総括の発表と講義者のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」の作成、共同研究や研究成果発表の準備が必須となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にして指定しない。毎回、必要文献、資料などを指定、あるいは配布する。

【参考書】

文部科学白書最新版（文部科学省ホームページを利用）等のデータ数冊の教育実践記録（講義の最初に教科ごとに適切なものを選択して指示する）中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

①個別課題レポートについての評価（50%）、②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30%）、③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20%）を目安として、総合的に評価する。なお、最終の評価については、必要に応じて個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

ほぼ2年間にわたり、学生の主体性や能動性を重視しながらも、こちらから問いや課題を出して授業を進めてきた。本年度も、教員と学生、学生相互のコミュニケーションを活性化させつつ、基礎的な知識やスキルの習得を確認しながら教職課程履修の総まとめをおこなっていききたい。

【Outline and objectives】

This class is final one that students are demanded for obtaining the teaching certificates in Japan. Its aim and goal is to reflect themselves and develop the abilities and dispositions for teaching professionals.

教職実践演習

寺崎 里水

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の教職科目及び関連科目の履修を踏まえ、教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力の形成が目的となる。

【到達目標】

具体的には、①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟、②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成、③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成、⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得、の5点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は対面で、グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせる。

個別指導については、開始当初に学生に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出させ、個別課題を設定させる。必要に応じて中間報告を提出させ、講義終了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお、必要に応じて適宜、個別面談も行う。

演習形式を基本とする講義は、次の4つから構成される。①教職のあり方や実態、法規等を理解し考える報告・討論、②模擬授業も含めた授業実践の記録の共同研究、③生徒指導に関する事例研究、④以上を踏まえて、学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。

なお、学生のクラス分けは教科ごととする。

課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
2	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に、教育実習を振り返る。
3	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性の理解を含む、教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
4	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき、教師の権限や自由、子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしくみを理解する。
5	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理、学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し、また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
6	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）	単元、目標と評価、生徒理解を重点に授業研究をする。
7	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）	教材と教具、内容と構成を重点に授業研究をする。
8	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）	指導方法とコミュニケーションを重点に授業研究をする。
9	生徒指導の事例研究（1）	不登校やいじめ、対人関係トラブルの事例を扱う
10	生徒指導の事例研究（2）	家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携の事例を扱う
11	学生研究成果発表とその集団検討（1）	学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表とその議論。研究対象は中学校
12	学生研究成果発表とその集団検討（2）	研究対象は高校
13	学生研究成果発表とその集団検討（3）	「特別な配慮を要する生徒」等の特定テーマ
14	講義のまとめ	学生の教職履修総括の発表と講義者のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」の作成、共同研究や研究成果発表の準備が必須となる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回、必要文献、資料などを指定、あるいは配布する。

【参考書】

文部科学白書最新版（文部科学省ホームページを利用）等のデータ数冊の教育実践記録（講義の最初に教科ごとに適切なものを選択して指示する）中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

①個別課題レポートについての評価（50%）、②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30%）、③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20%）を目安として、総合的に評価する。なお、最終の評価については、必要に応じて個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

ほぼ2年間にわたり、学生の主体性や能動性を重視しながらも、こちらから問いや課題を出して授業を進めてきた。本年度も、教員と学生、学生相互のコミュニケーションを活性化させつつ、基礎的な知識やスキルの習得を確認しながら教職課程履修の総まとめをおこなっていききたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面で授業を行います。オンラインで授業を実施しなければならない場合、リアルタイムオンラインとオンデマンドの両方の形式を併用します。いずれの場合も出席をとりますので、オンデマンドであっても、リアルタイムで参加してください。

【Outline and objectives】

This class is final one that students are demanded for obtaining the teaching certificates in Japan. Its aim and goal is to reflect themselves and develop the abilities and dispositions for teaching professionals.

教職実践演習

高野 良一

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の教職科目及び関連科目の履修を踏まえ、教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力の形成が目的となる。

【到達目標】

具体的には、①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟、②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成、③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成、⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得、の5点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせる。

個別指導については、開始当初に学生に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出させ、個別課題を設定させる。必要に応じて中間報告を提出させ、講義終了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお、必要に応じて適宜、個別面談も行う。

また、授業は対面を原則とします（但し、コロナ感染症当への対応から変更、ZOOMとの併用もありえます）。

演習形式を基本とする講義は、次の4つから構成される。①教職のあり方や実態、法規等を理解し考える報告・討論、②模擬授業も含めた授業実践の記録の共同研究、③生徒指導に関する事例研究、④以上を踏まえて、学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。なお、学生のクラス分けは教科ごととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
2	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に、教育実習を振り返る。
3	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性の理解を含む、教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
4	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき、教師の権限や自由、子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしぐみを理解する。
5	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理、学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し、また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
6	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）	単元、目標と評価、生徒理解を重点に授業研究をする。
7	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）	教材と教具、内容と構成を重点に授業研究をする。
8	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）	指導方法とコミュニケーションを重点に授業研究をする。
9	生徒指導の事例研究（1）	不登校やいじめ、対人関係トラブルの事例を扱う
10	生徒指導の事例研究（2）	家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携の事例を扱う
11	学生研究成果発表とその集団検討（1）	学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表とその議論。研究対象は中学校
12	学生研究成果発表とその集団検討（2）	研究対象は高校
13	学生研究成果発表とその集団検討（3）	「特別な配慮を要する生徒」等の特定テーマ
14	講義のまとめ	学生の教職履修総括の発表と講義者のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」の作成、共同研究や研究成果発表の準備が必須となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特にして指定しない。毎回、必要文献、資料などを指定、あるいは配布する。

【参考書】

文部科学白書最新版（文部科学省ホームページを利用）等のデータ数冊の教育実践記録（講義の最初に教科ごとに適切なものを選択して指示する）中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

①個別課題レポートについての評価（50%）、②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30%）、③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20%）を目安として、総合的に評価する。なお、最終の評価については、必要に応じて個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

ほぼ2年にわたり、学生の主体性や能動性を重視しながらも、こちらから問いや課題を出して授業を進めてきた。本年度も、教員と学生、学生相互のコミュニケーションを活性化させつつ、基礎的な知識やスキルの習得を確認しながら教職課程履修の総まとめをおこなっていききたい。

【Outline and objectives】

This class is final one that students are demanded for obtaining the teaching certificates in Japan. Its aim and goal is to reflect themselves and develop the abilities and dispositions for teaching professionals.

教職実践演習

筒井 美紀

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教職に相応しい知識と技能、教職を目指す姿勢の獲得について、4年間の単位取得状況、関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】

上述のプロセスをとおして、専門職の土台をつくる。具体的には、
 ①学校現場における授業を進める実践的スキル（授業指導案の作成を含む）の獲得
 ②専門とする教科領域における教育内容についての一定の研究と教材作成力の獲得
 ③子ども理解及び学級・学校の実地の理解
 ④教職に向けての明確な意志と各自の目標の設定
 ⑤積極的なコミュニケーションとプレゼンテーションの技能獲得
 の5点を、到達目標とする。
 なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業形態】

原則対面ですが、コロナ状況によっては zoom によるリアルタイム授業に切り替える可能性もあります。

【進め方】

(1) 学校種・教科を基本に、グループを結成して授業について共同研究を行う（発表と期末論文執筆）。(2) 生徒指導の事例研究をとおして、その実践的理解を深める。

課題レポートについてはコメントを入れて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や課題、評価方法の説明。所属研究班の心積もり。次週までに、研究テーマをA4一枚に書いてくる
第2回	研究グループの結成／学術論文7つの構成要素	グループを結成。テーマと分担について話し合う／論文の書き方についてミニ・レクチャー
第3回	テーマと分担についての発表	各グループの代表者が発表、フロアから質問・助言をする。
第4回	教職のあり方：報告と議論	実習経験を元に、勤務・労働実態、教職の専門性と自由、教員評価と学校評価などについて議論する
第5回	生徒指導の実践的研究① 学級経営	多様な気質・背景の生徒たちから成る学級をどうまとめていくか、事例研究を通して学ぶ
第6回	生徒指導の実践的研究② 進路指導・キャリア教育	ロールプレイングととおしてスキルを磨きつつ議論する
第7回	生徒指導の実践的研究③ 保護者や地域への対応	ロールプレイングととおしてスキルを磨きつつ視野を広める
第8回	生徒指導の実践的研究④ 危機管理を中心に	事例研究を通して、災害や犯罪、対人トラブルへの対処方法について議論する
第9回	発表① 中学社会班	ICTを駆使し興味を思考に繋げる工夫
第10回	発表② 高校地理班	地図と画像と数値を総合的に活用し考えさせる工夫
第11回	発表③ 高校歴史班	現代から遡及的に探究させる工夫
第12回	発表④ 高校商業班	経済と生活の理解を深めさせる工夫
第13回	発表⑤ 高校公民班	社会の一員として主体的に生きることに誘うような授業の工夫
第14回	発表⑥ 三年生コーチング班	学校職場と同僚性に引きつけて議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に生産的・協働的な作業や議論が可能になるよう、担当箇所をきちんと準備身体を教室に運ぶこと。本授業の準備・復習時間は、標準2時間とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示。

【参考書】

「高等学校学習指導要領（本文）」「高等学校学習指導要領解説（総則、地理歴史、公民、商業）」「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説（総則、社会）」

【成績評価の方法と基準】

ロールプレイング・事例研究への参加・貢献20%、グループ発表40%、期末論文40%

【学生の意見等からの気づき】

<学術論文7つの構成要素>はわかりやすいとこのことでしたので、引き続きレクチャーします。

【学生が準備すべき機器他】

教室ではパワーポイント等の上映ができるので使用者はUSBを持参のこと。

【Outline and objectives】

In this class students are to review their experience of teaching practice at school and master the basic skills for teaching and guiding pupils.

教育実習（高）**教育実習担当教員※**

単位：3 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の教育実践・実務等を体験することを通して、教師の仕事の重要性・困難性、あるいはその豊かさを体験し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その役割や責任を自覚することを目的とする。

【到達目標】

教師としての仕事を遂行するために必要な力量を獲得する。そのためにも、実習校の指導に従い教育実習を全力で全うする。そしてその実習を総括して、さらなる課題を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の「事後指導」を通して、反省と総括を行う。

事前及び事後指導において、適宜、リアクションペーパーや課題を課すことになる。そのフィードバックは、授業内で紹介したり、授業支援システムを利用したりしておこなう予定である。

課題は、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等を行う。
実習中②	教育実習（3週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	実習日誌を完成させ、①各自の実習体験やそこから得たもの、反省点などをまとめ、②これから教育実習に臨む3年生にその経験を伝えたり、③実際に行った授業を3年生に対する模範授業として行ったりする。今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。教職実践演習との有機的関連を持って実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教育実習で担当する授業の授業案の作成など全力で取り組む。

【テキスト（教科書）】

各プロセスで適宜指示する。

【参考書】

文部科学省『学習指導要領』及び『学習指導要領解説』

法政大学『教育実習の手引き』

その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導の合格を前提にし、実習校の評価を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

実践的スキルの形成を指導過程で重視する。

【Outline and objectives】

The objectives for those who take this course are both to learn teaching knowledges and skills and to realize the roles and responsibilities for teaching and supervising pupils. The course begins at a third-year preparatory program and finishes in a fourth-year practical training.

教育実習（中・高）**教育実習担当教員※**

単位：5 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の教育実践・実務等を体験することを通して、教師の仕事の重要性・困難性、あるいはその豊かさを体験し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その役割や責任を自覚することを目的とする。

【到達目標】

教師としての職務を遂行するために必要な力量形成の仕上げを行う。そのため、実習校の指導に従い教育実習を全力で全うする。そしてその実習を総括して、さらなる課題を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の「事後指導」を通して、反省と総括を行う。

事前及び事後指導において、適宜、リアクションペーパーや課題を課すことになる。そのフィードバックは、授業内で紹介したり、授業支援システムを利用したりしておこなう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等を行う。
実習中②	教育実習（3週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	実習日誌を完成させ、①各自の実習体験やそこから得たもの、反省点などをまとめ、②これから教育実習に臨む3年生にその経験を伝えたり、③実際に行った授業を3年生に対する模範授業として行ったりする。今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。教職実践演習との有機的関連を持って実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教育実習で担当する授業の授業案の作成など全力で取り組む。

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示する。

【参考書】

文部科学省『学習指導要領』及び『学習指導要領解説』

その他、必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導の合格を前提にし、実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

実践的スキルの形成を指導過程で重視する。

【Outline and objectives】

The objectives for those who take this course are both to learn teaching knowledges and skills and to realize the roles and responsibilities for teaching and supervising pupils. The course begins at a third-year preparatory program and finishes in a fourth-year practical training.

人文地理学 I

片岡 義晴

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の農産物貿易の特色と仕組み、そこに見いだされる問題点を把握することを通して、現代世界の構造を理解できるようにしていきます。とりわけアグリビジネスの活動に主眼を置いて農産物貿易の仕組みを把握していきます。

【到達目標】

世界の農産物の貿易構造を大枠でとらえた上で、特徴的な農作物の貿易の特色と仕組みを把握していきます。そこに見いだされる問題点から、現代世界の政治・経済の仕組みの一端を理解できるようにしていきます。「誰」が貿易を支配しているのかに着目して、構造を把握していきます。特に「アグリビジネス」の実態を通して理解を深めていきますから、現代世界の農産物貿易の仕組みを把握できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

経済のグローバル化の中で世界の貿易はその量・額ともに増大していますが、この授業では主に農産物貿易を対象としてとりあげ、その仕組み、貿易拡大に伴う問題などを具体的に検討していきます。さらにそうした問題の克服のための試みも紹介していきます。具体的には「アグリビジネス」の実態について、個別の作物、畜目（バナナや茶、コーヒー、プロイラー等）を取り上げ、農産物貿易の仕組みを把握できるようにしていきます。また、アフリカの「砂漠化」を例に、「砂漠化」を「開発」という視点から考えていきます。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界の食糧需給	世界の食糧需給と食料自給率
第 2 回	世界の食糧とアグリビジネス (1)	世界の農産物貿易の構造
第 3 回	世界の食糧とアグリビジネス (2)	農産物貿易と多国籍企業
第 4 回	世界の食糧とアグリビジネス (3)	アグリビジネス企業の実態－カーギルの事例－
第 5 回	世界の食糧とアグリビジネス (4)	アグリビジネス企業の実態－モンサントによる遺伝子組み換え作物－
第 6 回	世界の食糧とアグリビジネス (5)	食品安全基準の国際的「統合」
第 7 回	果汁産業の展開と多国籍企業	ブラジルの事例
第 8 回	バナナの生産構造と多国籍企業	フィリピンの事例
第 9 回	紅茶生産と多国籍企業	ケニアにおける政治変化と紅茶生産の拡大
第 10 回	コーヒー危機	コーヒー危機とベトナムのコーヒー生産拡大
第 11 回	飼料、畜産のグローバル化	飼料支配と多国籍企業
第 12 回	フェアトレード	フェアトレード（公正貿易）の展開と問題点
第 13 回	アフリカの旱魃と気候	「砂漠化」と「開発」
第 14 回	まとめ、解説	まとめ、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ここ数年「日本食は世界一」「注目される日本食」などという意味不明な情報が跋扈していますが、日頃食べているものはどこから来ているか、それを考えるだけで現代日本の食が、いかに海外に食材を依存しているかを知ることができます。今や「日本食」は海外原料なくしては成立し得ない「幻想の産物」に過ぎません。

また国産農産物も外国人技能実習生に支えられており、国産農産物もまたグローバルな人材によって担われているのです。国産信仰もまた「幻想」に過ぎません。

さて、WTO ドーハラウンド交渉の挫折、TPP 妥結、米国の不参加、2020 年米国大統領選挙後、TPP への参加を米国は再び模索するするなど、この 5～6 年の貿易を巡る情勢は大きく変化しています。貿易一般の情勢変化は、当然、農産物貿易のあり方を規定します。「地理学」的把握も、現実の社会の動き（国際的動向）に連動したものでなければなりません。

なお本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。プリントを配布します。

【参考書】

大塚・松原編著（2004）『現代の食とアグリビジネス』有斐閣を一応の参考書としておきますが、他にも多数あるため、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加程度（出席状況を含む）等平常点約 20 点、筆記試験約 80 点、合計約 100 点で成績評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

この授業が「問題」の「解決策」を示さず、「批判的」過ぎるとの意見もあるようです。しかしこの授業は、あくまでも現象を「客観的」に把握することをめざします。安易な「解決策」など提示しませんし、できません。そもそも授業で「解決策」を提示でき、そしてそれを実行できるならば、この世に「問題」など存在しません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

Agribusiness in the World.

人文地理学Ⅱ

片岡 義晴

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業（鉄鋼業と石炭産業）の変容と、その過程で生じた「地域問題」を取り上げ、「地域問題」の仕組みを学びます。

【到達目標】

かつては主力産業であったが今や一方は比重を下げ、もう一方はほぼ消滅した産業、すなわち鉄鋼業と石炭産業という 2 つの産業と地域との関連を通して、日本の「地域問題」の仕組みを学びます。それらを通して、「地域問題」に対する把握方法を理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

一時期は一国の主力産業であっても、それは永遠ではありません。そうした産業の史的展開はそれらが立地している地域に大きな問題を生じさせます。「地域問題」を産業の変遷と関連づけて整理していきます。鉄鋼業と石炭産業は共に第二次世界大戦後、日本経済を牽引した産業ですが、かつての勢いは失われています。いや一方はほぼ消滅しました。それらの過程で、一体どのような地域問題が生じたのか、それを具体的に検討していきます。

【授業の方法】 講義形式で授業を進めます。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第二次世界大戦後の経済発展と鉄鋼業・石炭産業 (1)	戦後復興と「傾斜生産方式」
第 2 回	第二次世界大戦後の経済政策と鉄鋼業・石炭産業 (2)	日本における鉄鋼業の変遷
第 3 回	鉄鋼業の変遷 (1)	鉄鋼企業の変遷
第 4 回	鉄鋼業の変遷 (2)	鉄鋼の生産工程
第 5 回	鉄鋼業と地域	新日鐵釜石と岩手県釜石市
第 6 回	日本のエネルギー政策と石炭	新エネルギーと石炭需要
第 7 回	石炭政策の展開と石炭産業 (1)	幕末の開港と石炭需要
第 8 回	石炭政策の展開と石炭産業 (2)	明治政府の石炭政策とその後の展開
第 9 回	石炭政策の展開と石炭産業 (3)	第二次大戦後の石炭政策
第 10 回	石炭産業の展開と地域 (1)	九州と北海道
第 11 回	石炭産業の展開と地域 (2)	産炭地崩壊の地域性
第 12 回	三池争議と三井三池炭塵爆発	三池炭鉱の史的展開過程と、労働強化
第 13 回	太平洋炭閉山	太平洋炭鉱の史的展開と閉山
第 14 回	まとめ、解説	まとめ、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

鉄鋼生産にはコークスが必要ですが、コークスは石炭からつくられます。産業上、両者は関連し合っています。しかし「石炭」の国内生産は既に放棄され、鉄鉱石の生産も同様です。しかしアジア、たとえば中国では、近年炭鉱事故が多発しています。新聞などの海外ニュース、特に「鉱業」に関する記事に眼を向けて下さい。一方、鉄鋼業については、新聞では経済ニュース欄に、各企業の情報がしばしば登場します。ただし、鉄鉱石については輸入先の情報が時々登場する程度です。いずれの場合も、関連報道をチェックするようにして下さい。

なお本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

奈賀悟（1997）『閉山－三井三池炭坑 1889～1997』岩波書店（同時代ライブラリー）

その他、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）等の平常点約 20 点、筆記試験（記述式）約 80 点、合計約 100 点で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

この授業が「批判的」過ぎるとの意見もあります。しかしこの授業では、あくまでも現象を「客観的」に把握することをめざします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

日頃、大量に消費しているにもかかわらずそれに気づかない鉄鋼製品、石炭から見える日本の姿を知っていただければと思います。

【Outline and objectives】

Regional problems under the changing steel industries and coal mines in Japan.

自然地理学 I

狩野 真規

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学の基本を学びながら、教壇で地理を教えるために必要な資質・能力の獲得を目指す。例えば地図や分布図の読図に関わる技能や ICT 教材の利用のためのノウハウなどの獲得を狙いつつ、中学・高校の地理の授業に必要な知識や実践のためのヒントを講義や実習から学んでいく。

【到達目標】

実際に中学・高校での地理の授業を板書だけに頼らないレベルで実施できる知識や指導法の獲得と、自然地理学にまつわる話題の理解を目指す。また、文部科学省の学習指導要領の中学社会および、高校地歴の内容の理解も目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に図表などはプリントで配付し、それらをもとに PC によるスライドを利用した講義形式とする。また、各回の最後に次回への課題を提示し、次回冒頭にて小テストを実施ないしは実習課題等を提出する。フィードバックについては小テストならば、直後の講義内で解答の確認をしていく。場合によっては次回に返却する（実習課題は次回返却をもってフィードバックとする）。なお、予定では教室での対面形式での実施を前提とするが、オンラインでの受講となるケースがあれば、適宜対応していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学とは？	地理学とは如何なる学問であるかを確認しつつ、中学・高校の社会および地歴科の学習指導要領における地理の内容について確認する。
第 2 回	地理の教科書を見る	実際の中学・高校における地理の教科書にて自然地理に関わる内容を確認する。
第 3 回	地球の成り立ちと地球表面における活動	地表面の形成とプレートの運動について、わが国の自然環境と発生する災害などを確認する。
第 4 回	地図の活用	授業での地図の活用について、地形図や GIS などを利用するための方法を探る。
第 5 回	地形図の読図・その 1	実際の地形図を使って、地形図上の土地利用を考える。
第 6 回	地形図の読図・その 2	実際の地形図を使って、地形計測を行う。
第 7 回	白地図の利用	実際の授業に備えた教材研究の一環として、白地図の利用法について課題の発表を通じて考える。
第 8 回	ケッペンの気候区分について	ケッペンの気候区分とその設定基準について確認する。
第 9 回	小気候スケールの現象	生活圏の地理的課題と地域調査の観点から身近な地域で発生する現象やその仕組みを考える。
第 10 回	気候景観について	身近な生活空間で発現する現象からその場所の気候を考える。
第 11 回	地球上における水	地球的課題の観点から生活に不可欠な水とその分布状態について考える。
第 12 回	水資源とその利用	生活圏の地理的課題の観点から人間が利用できる水資源とその問題点について考える。
第 13 回	自然災害と防災について	我が国の自然環境の特色を踏まえた上で、災害を引き起こす自然現象に注目し、防災意識を高めるための教材作りについて考える。
第 14 回	ICT 教材やアクティブラーニングについて	地理の授業で実践するために必要な事項を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の冒頭にて小テストを実施するか、実習課題を課すので、その準備が必要となる（予習の代わり）。小テストないしは課題の内容は毎回の講義の最後にて指示する。なお、各講義出席に備えて、必要となる予習がおおよそ 2 時間、復習も 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高等学校で使用する地図帳、例えば帝国書院の新詳高等地図などがよい。

また、文部科学省の中学校ならびに高等学校の学習指導要領（社会・地理歴史）を留意すること。

【参考書】

高橋日出男・小泉武栄（2008）地理学基礎シリーズ 2 自然地理学概論、朝倉書店

水野一晴（2015）自然の仕組みがわかる地理学入門 ベレ出版

などがあげられるが、その他については適宜授業時に紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

毎回、何かしら評価の対象となるものを課題として設定するので、その合計で評価をする。具体的には小テストないしは実習課題（70%）、および課題を基にした発表内容（30%）の合計で評価する。特に発表に対する評価は教員だけではなく、受講者同士の相互評価を加え、教員と受講者で半分ずつの比率とする。

【学生の意見等からの気づき】

地理に対する知識の無さを気にする学生が多いが、その対策の一つとして、近年は小テストを実施するようにしたが、その他にも工夫が必要と考えている。また、履修者との対話からさらなる改善を探そうと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できる準備をしておくこと。また、課題で地図への彩色が必要となる関係で色鉛筆（12 色セットのもの）や定規・極細のペンなど作図ができるような道具を留意すること。

【その他の重要事項】

近年、出席が常ではない履修者が増えてきている。特に初回から出席しないものが増加している。教壇に立つために自分を律することが求められるはずなので、初回からきちんと出席することを求める。また、実習などで欠席した際には証明書を書き出して提出すること。それから、配布資料などは講義内での配布のみで、Hoppii 等での配布はしない（出席をすることの意味を考えていただくためである）。なお、情勢によっては教室での講義ができなくなることも起こり得るので、その際には臨機応変に対応していくこととする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to assemble geography classes in the junior high school and high school. Especially, learn the basics of natural geography.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Acquisition of lesson method using map
2. An understanding of the basic of natural geography (Topography, Climatology and Hydrology).
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. To assemble geography classes in the junior high school and high school for educational training.

自然地理学Ⅱ

狩野 真規

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関するテーマを軸として、教壇で地理を教えるために必要な資質・能力の獲得を目指す。特に受講者による模擬授業を実践することで、教材研究や板書計画などの経験を積むとともに、中学・高校で地理を教えるスキルの獲得・向上を目指す。

【到達目標】

地理の授業に必須となる自然地理学の知識だけではなく、教えるために必要な技能などの獲得を目指す。具体的には文部科学省の学習指導要領の内容を意識した学習指導案の作成から授業の実践を経験し、現場での授業に対処できるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には序盤はプリントを配付し、それらをもとに PC によるスライドを利用した講義形式とし、小テストなどの課題を実施する（フィードバックについては、小テストの解答を実施直後の講義内で提示していき、全体に対して行うことを基本とする）。中盤以降は受講者による実践を中心に行いたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学とは何か？	地理学とは如何なる学問であるかを確認しつつ、中学・高校の社会および歴史科の学習指導要領における地理について確認する。
第 2 回	自然環境と産業との関わり	農業と気候との対応などから地誌的内容への応用を探る。
第 3 回	造山帯と資源分布	造山運動と資源分布との対応から暗記主体授業からの脱却のための視点を考える。
第 4 回	地形図にみられる地形とその形成	身近な地域でみられる地形について、その形成や地形図上での表記に注目し、地形図の読図に関する知識の獲得とそれらを教材としての使い方を考える。
第 5 回	気候区分について	気候区分とその考え方から教材研究の方法を探る。
第 6 回	白地図の利用	実際の授業に備えた教材研究の一環として、白地図の利用法について課題の発表を通じて考える。
第 7 回	自然地理の授業の実践・その 1	大地形についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、授業実践に慣れることに主眼を置く。
第 8 回	自然地理の授業の実践・その 2	地形図に出てくるスケールの地形についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼を置く。
第 9 回	自然地理の授業の実践・その 3	ケッパンの気候区分についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、内容に対する指導上の留意点を確認していく。
第 10 回	自然地理の授業の実践・その 4	日本の気候についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、生徒の状況（認識力・思考力・学力など）に応じた授業設計の必要性を確認していく。
第 11 回	自然地理を活かした授業の実践・その 1	アメリカ地誌について自然環境の説明から展開する内容とした履修者主体の授業の実践を行うことで、発展的な学習内容を盛り込んだ授業実践を行うことで、それらの学習指導への位置づけを考える。
第 12 回	自然地理を活かした授業の実践・その 2	オーストラリア地誌について自然環境の説明から展開する内容とした履修者主体の授業の実践を行うことで、ICT 機器などの効果的利用を考慮した授業設計の検討をしていく。

第 13 回 自然地理を活かした授業の実践・その 3 アジア地誌について自然環境の説明から展開する内容とした履修者主体の授業の実践を行うことで、定期テストやレポートなどを通じた学習評価について、その方法や考え方を理解する。

第 14 回 アクティブラーニングを使った授業 地理の授業で実践するために必要な事項を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

序盤では小テストないしは課題を課すので、それに対処できる準備をして欲しい。中盤以降は履修者が主体となるので、模擬授業の準備などが必要となる。特に意識してもらいたいこととして、他人の模擬授業を聞くときは、自分が扱うことを想定した準備をしてもらうことを挙げたい。なお、各講義出席に備えて、必要となる予習がおおよそ 2 時間、復習も 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高等学校で使用する地図帳、例えば帝国書院の新詳高等地図などがよい。また、文部科学省の中学校ならびに高等学校の学習指導要領（社会・地理歴史）を留意すること。

【参考書】

高橋日出男・小泉武栄（2008）地理学基礎シリーズ 2 自然地理学概論、朝倉書店

水野一晴（2015）自然の仕組みがわかる地理学入門 ベレ出版

などがあげられるが、その他については適宜授業時に紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

序盤までの授業で実施する小テストないしは実習課題（40%）、および模擬授業内容（60%）の合計で評価する。特に模擬授業に対する評価は教員だけではなく、受講者同士の相互評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業の順については学生からの声を参考とした。また、他者が模擬授業をしているときにも出席する意義づけを考え、履修者同士の評価も成績評価に取り入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使えるようにしておくこと。場合によってはオンライン講義になることもあるので、その際にはインターネットへの常時接続ができる環境を各自で用意する必要があるため、大学の支援などについて各自で確認し、対応することが必要となる。

【その他の重要事項】

近年、出席が常ではない履修者が増えてきている。特に初回から出席しないものが増加している。教壇に立つために自分を律することが求められるはずなので、初回からきちんと出席をすることを求める。また、実習などで欠席した際には証明書を速やかに提出すること。それから、配布資料などは講義内での配布のみで、Hoppii 等での配布はしない（出席をすることの意味を考えていただくためである）。なお、情勢によっては教室での講義ができなくなることも起こり得るので、その際には臨機応変に対応していくこととする。特に模擬授業が実施できなければ、評価についても変わってくるので、その時には改めてアナウンスをしていく。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to assemble geography classes in the junior high school and high school. Especially, learn the basics of natural geography.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Acquisition of lesson method using map
2. To assemble geography classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.

地誌 I

山口 隆子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理の授業を担当する社会科の教員として必要な地理（地誌学）の基本的な知識を習得します。

【到達目標】

地理の授業を担当する社会科の教員として必要な基礎知識と授業の展開方法を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地図作業、学生による模擬授業などを適宜交えて講義を進行させます。出席者にはプリントの配布や Hoppii での資料配布を行います。提出されたリアクションペーパーや課題等はコメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学と地誌学	地理学や地誌学は、どのような学問か。
第 2 回	学習指導要領とは	新学習指導要領の変更点を中心に読み解く。
第 3 回	地理学習の基礎	地理情報と地図の活用
第 4 回	日本の諸地域	日本の自然
第 5 回	世界の諸地域①	アジアの自然
第 6 回	世界の諸地域②	西アジア・アフリカの自然
第 7 回	世界の諸地域③	ヨーロッパの自然
第 8 回	世界の諸地域④	旧ソビエトの自然
第 9 回	世界の諸地域⑤	北米の自然
第 10 回	世界の諸地域⑥	中南米の自然
第 11 回	世界の諸地域⑦	オセアニア・極域の自然
第 12 回	世界の諸地域⑧	学生による模擬授業等
第 13 回	フィールドワークとは	大学周辺でのフィールドワーク
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

荒井正剛（2019）：『地理授業づくり入門』。古今書院、150p。
井田仁康（2021）：『「地理総合」の授業を創る』。明治図書、163p。
磯井照子編（2018）：『「地理総合」ではじまる地理教育』。古今書院、200p。
千葉県高等学校教育研究会地理部会（2019）：『新しい地理の授業：高校「地理」新時代に向けた提案』。二宮書店、222p。
矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）：『地誌学概論 第 2 版』。朝倉書店、174p。
山口幸男ほか編（2016）：『地理教育研究の新展開』。古今書院、276p。
吉水裕也編著（2019）：『本当は地理が苦手な先生のための中学社会 地理的分野の授業デザイン&実践モデル』。明治図書、149p。

【成績評価の方法と基準】

到達目標欄に記載した各目的の達成度を評価基準とし、次の要素配分で評価を行う。

レポート：50%、小テスト・作業成果物・課題：50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内での作業時間を増やすようにします。

【学生が準備すべき機器他】

高校で使用していた教科書準拠の地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など）を毎回持参すること。作業に必要な文具（色鉛筆・定規・はさみ・のり等）は、その都度指示する。

【Outline and objectives】

Learn the basic knowledge of the geography necessary as a teacher of the social department in charge of geography classes.

地誌 I

南 春英

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の現代世界を理解する上で欠くことのできない中国について、地誌学の立場から理解を深めます。地域を理解するためには、さまざまな視点から見ることがありますが、特に本講義では現代中国を理解するために重要な視点に絞って論じます。

【到達目標】

まずは、現代中国に関する基礎知識を習得します。また、中国の地域的広がりや多様性を理解することを目指します。そして、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めていきます。受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）を通して、感想・質問等のリアクションや課題の提出をお願いすることがあります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	授業内容の説明
第 2 回	中国と日本①	日本と中国の歴史関係について考える
第 3 回	中国の地誌①	自然環境の多様性について考える
第 4 回	中国の地誌②	自然災害について考える
第 5 回	中国の地誌③	経済の歩みと日中経済について考える
第 6 回	中国の地誌④	都市化と課題について考える
第 7 回	中国の地誌⑤	中国の抱える人口問題の現状について考える
第 8 回	中国の地誌⑥	民族と文化の多様性について考える
第 9 回	中国の地誌⑦	自然と人文環境から生まれた食文化について考える
第 10 回	中国の地誌⑧	(DVD) 中国の食文化 (8 大料理)
第 11 回	中国の地誌⑨	中国の教育制度と現状について考える
第 12 回	中国の地誌⑩	中国人の現在の暮らしについて考える
第 13 回	未来の世界像	未来の社会のために～日中関係の未来とは？
第 14 回	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、講義で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことが求められます。また、講義中に紹介する文献をよむことを望みます。こうしたことから、各自がそれぞれ 2 時間以上自ら学ぶことを期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。読んで欲しい書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていききたい。
可見弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社。
季増民（2008）『中国地理概論』ナカニシヤ出版。
高井潔司・藤野 彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための 40 章』明石書店。
陳 舜臣・尾崎秀樹（1993）『中国：読んで旅する世界の歴史と文化』新潮社。
帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院。
帝国書院編集部（2019）『中学校社会科地図』帝国書院。
帝国書院（2020）『最新基本地図—世界—日本—44 訂版』帝国書院。
藤野 彰（2018）『現代中国を知るための 52 章』明石書店。
丸川智雄（2013）『現代中国経済』有斐閣アルマ。
矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験（50%）とレポート（50%）で行い、両者の合計が 100% です。

テンポの良い授業を目指します。

【学生の意見等からの気づき】

テンポの良い授業を目指します。

【Outline and objectives】

Understand modern China from various perspectives.

地誌Ⅱ

山口 隆子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理の授業を担当する社会科の教員として必要な地理（地誌学）の基本的な知識を習得します。

【到達目標】

地理の授業を担当する社会科の教員として必要な基礎知識と授業の展開方法を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地図作業、学生による模擬授業などを適宜交えて講義を進行させます。提出されたリアクションペーパーや課題等は、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学と地誌学	地理学や地誌学は、どのような学問か。
第 2 回	学習指導要領とは	新学習指導要領の変更点を中心に読み解く。
第 3 回	地理学習の基礎	地理情報と地図の活用
第 4 回	日本の諸地域	日本の地域ごとの特徴について、食生活を中心に考える。
第 5 回	世界の諸地域①	アジアの国々の特徴について、生活文化面から考える。
第 6 回	世界の諸地域②	西アジア・アフリカの国々の特徴について、生活文化面から考える。
第 7 回	世界の諸地域③	ヨーロッパの国々の特徴について、生活文化面から考える。
第 8 回	世界の諸地域④	旧ソビエトの国々の特徴について、生活文化面から考える。
第 9 回	世界の諸地域⑤	北米の国々の特徴について、生活文化面から考える。
第 10 回	世界の諸地域⑥	中南米の国々の特徴について、生活文化面から考える。
第 11 回	世界の諸地域⑦	オセアニアの国々・極域の特徴について、生活文化面から考える。
第 12 回	世界の諸地域⑧	学生による模擬授業等
第 13 回	フィールドワークとは	フィールドワークの実施方法について解説する。
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

荒井正剛（2019）：『地理授業づくり入門』。古今書院、150p。
井田仁康（2021）：『「地理総合」の授業を創る』。明治図書、163p。
確井照子編（2018）：『「地理総合」ではじまる地理教育』。古今書院、200p。
千葉県高等学校教育研究会地理部会（2019）：『新しい地理の授業：高校「地理」新時代に向けた提案』。二宮書店、222p。
矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）：『地誌学概論 第 2 版』。朝倉書店、174p。
山口幸男ほか編（2016）：『地理教育研究の新展開』。古今書院、276p。
吉水裕也編著（2019）：『本当は地理が苦手な先生のための中学社会 地理的分野の授業デザイン&実践モデル』。明治図書、149p。

【成績評価の方法と基準】

到達目標欄に記載した各目的の達成度を評価基準とし、次の要素配分で評価を行う。

レポート：50 %、小テスト・作業成果物・課題：50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

高校で使用していた教科書準拠の地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など）を毎回持参すること。作業に必要な文具（色鉛筆・定規・はさみ・のり等）は、その都度指示する。

【Outline and objectives】

Learn the basic knowledge of the geography necessary as a teacher of the social department in charge of geography classes.

地誌Ⅱ

南 春英

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教職の科目としても重要な地誌学の基本的な考え方や様々な地域の地誌学的な見方の基礎を培います。中国の「古都」と呼ばれる首都である北京と、「魔都」と呼ばれている中国の経済中心である上海を学習対象とし、その歴史から発展、現状、抱える課題について考えていきます。

【到達目標】

中国の地域的広がりや地域による多様性について理解します。中国の諸地域の中でも、南北を代表している北京と上海を取り上げることで、地域ごとの特徴を正しく理解することを目標とします。特に、「地誌」作成の基礎能力を修得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。また、グループごとに特定地域を選び、調べた結果を授業の最後に発表します。受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）を通して、感想・質問等のリアクションや課題の提出をお願いすることがあります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	地誌学とは
第 2 回	北京の地誌①	北京の自然環境と歴史について考える
第 3 回	北京の地誌②	「四合院」と現代住宅事情について考える
第 4 回	北京の地誌③	北京の経済発展とその機能について考える
第 5 回	北京の地誌④	北京市民の生活と文化について考える
第 6 回	北京の地誌⑤	(DVD) 北京の世界遺産 世界遺産の保護意義について考える
第 7 回	上海の地誌①	上海の自然環境と歴史について考える
第 8 回	上海の地誌②	上海の経済発展とその機能について考える
第 9 回	上海の地誌③	中国とアジアの中における上海について考える
第 10 回	上海の地誌④	上海市民の生活と文化について考える
第 11 回	北京と上海の地域特徴①	北京人からみる上海人と上海人からみる北京人について考える
第 12 回	学生による発表①	グループごとに発表する (A と B グループ)
第 13 回	学生による発表②	グループごとに発表する (C と D グループ)
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

北京と上海の基本的な地理については、事前に学習しておいてください。授業と並行してレポート「○○地域の地誌」を作成します。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

岩間一弘ほか（2012）『上海—都市生活の現代史』風響社。
 榎本泰子（2009）『上海—多国籍都市の百年』中央公論新社。
 木之内誠（2011）『上海歴史ガイドマップ』大修館書店。
 櫻井澄夫・人見豊・森田憲司（2017）『北京を知るための 52 章』明石書店。
 田嶋淳子（2000）『上海—魅せる世界都市』時事通信社。
 帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院。
 村松伸文（1999）『北京-図説：三〇〇〇の悠久都市』河出書房新社。
 矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店。
 楊東平著、趙宏偉・青木まさこ訳（1997）『北京人と上海人-攻防と葛藤の 20 世紀』日本放送出版協会。

【成績評価の方法と基準】

成績は発表（40%）とレポート（60%）で行い、両者の合計が 100% です。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生のコメントに耳を傾けた授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

発表時には全員分配付資料を印刷してきてください。

【Outline and objectives】

Learn the basic knowledge of the geography necessary as a teacher of the social department in charge of geography classes.

生涯学習入門Ⅰ

久井 英輔

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(授業の概要)

生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。

(授業の目的・意義)

授業内容をとおして、学校教育に留まらない学びが社会の至る所で展開していることを深く理解し、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】

生涯学習の理念、社会教育に関する様々な概念、制度、実際に行われている事業・実践、社会教育の歴史、社会教育に類する海外の教育活動（多様なノンフォーマル教育）の展開などについての基本的な理解を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会教育の多様性と生涯学習の理念	社会教育の概念とそこに含まれる多様な教育活動について、および、包括的な概念・理念としての生涯学習について解説する。
第 2 回	社会教育行政の事業①	市町村レベルの社会教育行政で実際に行われている事業の事例を挙げながら、社会教育行政の特徴について解説する。
第 3 回	社会教育行政の事業②	社会教育行政の事業を展開する上で重要な概念である「必要課題」「要求課題」とその具体例について解説する。
第 4 回	社会教育行政の事業③	公民館、図書館、博物館など、社会教育行政が運用する多様な施設（社会教育施設）の基本的役割と実態について解説する。
第 5 回	社会教育行政の事業④	社会教育施設以外で展開される社会教育行政事業について解説する。
第 6 回	職業訓練としての社会教育	職業能力開発校などで行われる職業訓練について概観するとともに、社会教育行政との関連について解説する。
第 7 回	民間の社会教育事業	カルチャーセンター、塾、スクールビジネスなど、民間の社会教育事業の歴史的展開と現状について解説する。
第 8 回	子ども、若者、学校と社会教育①	「子ども、若者対象」という観点から、行政、民間の社会教育事業の現在における動向を整理して解説する。
第 9 回	子ども、若者、学校と社会教育②	学校教育と社会教育の連携、および、学校と地域社会の連携に関する現在の動向について解説する。

第 10 回	近現代日本の社会教育史①	日本における近代以降（第二次世界大戦まで）の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第 11 回	近現代日本の社会教育史②	日本における第二次世界大戦以降の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第 12 回	社会教育の国際比較	社会教育を国際比較的に検討する際に必要な視点、及び、日本において頻繁に参照される海外の社会教育的な取り組みについて解説する。
第 13 回	「成人の学力」をめぐって	PIAAC（国際成人力調査）の調査概要とデータをふまえて、「成人の学力」について論じることの意味を解説する。
第 14 回	授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基に検討し、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・準備学習は特に必要ない。
- ・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
- ・中間レポート、期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
- ・本授業の復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

松岡広路、松橋義樹、鈴木眞理編『社会教育の基礎（シリーズ 転形期の社会教育 1）』学文社、2015 年

【参考書】

香川正弘他編『よくわかる生涯学習（改訂版）』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメントシート	50 %
中間レポート	25 %
期末レポート	25 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline and objectives】

This course provides students with basic knowledge on lifelong learning and social education. This course aims to deepen students' understanding on various types of learning activities outside of schools, and to widen students' perspective on education and learning.

生涯学習入門 I

朝岡 幸彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習は義務教育学校が成立するよりもはるかに前から、生活の場で仕事を通じて行われてきた営みである。発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門I）では、主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して講師や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯学習社会に生きることの意味	「知識基盤社会」と呼ばれる現代において、社会教育・生涯学習は何を期待されているのか、私たちが「生きる」ための学習の意味について考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約①	教育基本法及び教育勅語などの教育基本法令の原理について学ぶ。
第 3 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約②	教育無償化論の理解を通して、社会教育施設（図書館・公民館など）の無償制原則について理解する。
第 4 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約③	社会教育法等の解釈を通じて、戦後社会教育法制と制度の特徴を理解する。
第 5 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約④	社会教育法に関わる訴訟の論点を通して、学習権と「表現の自由」について理解する。
第 6 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑤	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令について、公民館を中心に理解する。
第 7 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑥	公共図書館の基本理念と図書館政策・提言、図書館経営のアウトソーシングや学校図書館・NPO 図書館、読書ボランティア活動とともに、博物館の理念と制度、その多様な形について考える。
第 8 回	社会教育・生涯学習の理念と思想	社会教育における四つのテーゼの特徴の理解を通して、戦後社会教育の理念の発展を学ぶ。
第 9 回	社会教育・生涯学習の政策と制度①	教育委員会制度の特徴を通して、社会教育・生涯学習を支える仕組みについて理解する。
第 10 回	社会教育・生涯学習の政策と制度②	学校と社会教育施設の関係を通して、社会教育・生涯学習の行財政の特徴について学ぶ。
第 11 回	社会教育・生涯学習の政策と制度③	長野県飯田市を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の課題と可能性を学ぶ。
第 12 回	社会教育・生涯学習の政策と制度④	長野県飯田市及び伊那地方を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の特徴と課題を学ぶ。
第 13 回	社会教育・生涯学習の課題と可能性	SDGs 及び ESD の時代における社会教育・生涯学習の課題と可能性を考える。
第 14 回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018 年

【参考書】

社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所 2017 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（ワークシートを含む）100 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline and objectives】

Lifelong learning has been carried on through our work in life, which has existed long before school education has started. In this class, participants will learn the essence and significance of lifelong learning and social education. Also, we will learn the institutional development of lifelong learning and will deepen understanding of basics in home education, school education and social education.

生涯学習入門Ⅱ

久井 英輔

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習、社会教育に関する事項について、基本的な文献の講読、学生による発表と討論をふまえて検討する。

【到達目標】

生涯学習の理念、社会教育に関する制度、実際に行われている各種の事業・実践について、それらを論じる際に不可欠な視点、また現実に課題となっている点を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初の数回は、生涯学習、社会教育に関する基本的知識・視点を講義形式で復習する。その後、受講生の各グループが、授業 1 回分の講読文献の発表を担当し、各回とも、その発表をふまえたディスカッションを中心に進める。授業終了時に、各回の文献で示された論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会教育・生涯学習における基本事項①	授業全体の進め方について説明した上で、教育・受講者間で社会教育・生涯学習に関する問題関心を共有する。
第 2 回	社会教育・生涯学習における基本事項②	文献講読の前提となる基本知識、特に社会教育の実践・制度に関わる基本的事項を概観する。
第 3 回	社会教育・生涯学習における基本事項③	文献講読の前提となる基礎知識、特に社会教育の歴史、生涯学習の理念、学習者支援や学習関心・行動の理論に関わる基本的事項を概観する。
第 4 回	子ども・若者と社会教育	文献講読及び討論を通じて、子ども・若者が対象となる社会教育事業を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 5 回	家庭教育支援と社会教育	文献講読及び討論を通じて、家庭教育支援事業を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 6 回	学校教育と社会教育	文献講読及び討論を通じて、学校教育・社会教育の連携を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 7 回	高齢者と社会教育	文献講読及び討論を通じて、高齢者対象の社会教育を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 8 回	職業・労働と社会教育	文献講読及び討論を通じて、職業・労働と社会教育の関連を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。

第 9 回	成人の学習関心・行動の実態	文献講読及び討論を通じて、(特に成人の) 学習関心・行動を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 10 回	社会教育行政の意義と課題①	文献講読及び討論を通じて、社会教育行政に求められる理念を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 11 回	社会教育行政の意義と課題②	文献講読及び討論を通じて、社会教育行政の制度を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 12 回	生涯学習・社会教育の概念①	文献講読及び討論を通じて、「ノンフォーマル教育」という概念を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 13 回	生涯学習・社会教育の概念②	文献講読及び討論を通じて、社会教育に関わる理念を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 14 回	授業の振り返り	前回までの発表とディスカッションについて、各グループでの議論をふまえて論点を提示してもらい、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回の文献講読、(発表担当の場合) 文献の要約とコメントが、予習として必要である。
- ・各回の授業後、文献および発表レジュメを読み直すこと。また、前回の授業のコメントシートに書かれた内容については、教員が適宜授業内で抜粋して配布し、リプライするので、そこで配布された自分以外のコメントについても目を通しておくこと
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講読文献は多岐にわたるため、授業内で紹介する。なお講読文献は基本的に PDF ファイル化して、受講者に配布する。

【参考書】

- 香山正弘他編『よくわかる生涯学習（改訂版）』ミネルヴァ書房、2016 年
- 松岡広路、松橋義樹、鈴木真理編『社会教育の基礎（シリーズ 転形期の社会教育 1）』学文社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

- グループでの文献発表 30 %
- 各回のコメントシート 40 %
- 各回のディスカッションへの貢献度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline and objectives】

In this course we examine major issues on lifelong learning and social education by text reading, presentation, and discussion. This course aims to help students understand the viewpoints indispensable to discussing lifelong learning and social education, and to widen students' perspective on education and learning.

生涯学習入門Ⅱ

朝岡 幸彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）では、主に日本における社会教育・生涯学習の歴史的展開を踏まえて、具体的に実施されてきた学習の内容と方法・形態について人間のライフサイクルや社会階層に応じた学習課題の展開・方法・形態について理解を深め、社会教育・生涯学習論の深まりについて考察する。

【到達目標】

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人が「学ぶ」ことの意味	ヒトから人へと進化・発達する歴史と営みを、「学ぶ」という行為の意味から考察する。
第 2 回	社会教育・生涯学習の現代的課題	社会教育と生涯学習と ESD の関係を通して、現代的な課題について考える。
第 3 回	戦後日本社会教育の流れ①	戦後民主主義の形成期における社会教育民主化政策の展開、公民館の提唱と初期公民館活動の展開、教育基本法・社会教育法の制定から戦後社会教育理念の形成の特徴を学ぶ。
第 4 回	戦後日本社会教育の流れ②	社会教育政策の転換による高度経済成長の準備過程を、青年学級振興法の制定と社会教育法「大改正」の流れを中心に学ぶ。
第 5 回	戦後日本社会教育の流れ③	低成長時代の社会教育政策と自治体の動向を踏まえて、「権利としての社会教育」論の広がりについて学ぶ。
第 6 回	戦後日本社会教育の流れ④	21 世紀戦略と生涯学習政策の動向を踏まえて、1990 年代の新たな社会教育運動について学ぶ。
第 7 回	戦後日本社会教育の流れ⑤	近年の教育政策の動向を踏まえて、社会教育・生涯学習の課題と可能性について考える。
第 8 回	社会教育・生涯学習の実践①	日本の農業と近代化という視点から農業・農民・食に関わる学習運動について学ぶ。
第 9 回	社会教育・生涯学習の実践②	公害教育を手がかりに環境問題に関わる学習運動について学ぶ。
第 10 回	社会教育・生涯学習の実践③	巻原発住民投票における住民の学習を事例に地域づくり学習のあり方を考える。
第 11 回	社会教育・生涯学習の実践④	公民館における「地域づくり学習」の事例をもとに、公民館と地域課題との関係を考える。
第 12 回	社会教育・生涯学習の実践⑤	公民館における講座やサークルの活動を事例に、公民館の特徴と役割を学ぶ。
第 13 回	社会教育・生涯学習の過去から未来へ	戦後社会教育・生涯学習における学習運動の地下水脈として、自由民権運動や憲法起草運動の意味について考える。
第 14 回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの購読。

授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018 年

【参考書】

千野陽一監修、社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育 増補版』エイデル研究所 2015 年

【成績評価の方法と基準】

テキストを中心に課題レポート（ワークシートを含む）80 %
平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業で紹介した資料は Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

テキストと授業の教材を読むこと。

【Outline and objectives】

Based on the historical development of Japanese social education and lifelong learning, this class will focus specifically on the transition of learning methodology and form.

図書館情報学概論 I

原田 隆史

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 図書館情報学とは何かに関する理解
2. 情報の収集・整理・利用、およびその実践の場である図書館に関する基礎的な知識の習得
3. 情報メディアや情報検索に関わる基礎的な知識の習得

【到達目標】

1. 図書館・情報学についての基本的な知識を身に付け、情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館や各種の情報提供機関に関して理解できる
2. 現代社会での情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関して、基本的な考え方・知識・技法、社会に及ぼす影響などについても理解できるようになる
3. 上記のような考え方・知識・技法が、図書館や情報提供機関の仕事およびサービスにどのように生かされるのか、その際に留意すべきことは何かについても考えを深められる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館・情報学とは何かについて、さまざまな新しいトピックを含めて解説していきます。まず、情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館に関する内容を中心に説明し、続いて情報メディアや情報検索に関わる内容を中心に講義します。図書館は、単に図書を集め、保存し、提供するという役割だけではなく、様々なサービスを行っています。図書館の持つ大きな可能性について知っていただきたいと思います。また、ネットワーク時代の図書館サービスも含め、実際の情報収集活動にも役立つ様々な知識を学ぶことができるように工夫していきます。

授業に対するフィードバックとしては、授業後に受講者からのコメント・質問などを集め、次の授業時に提出されたりコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館情報学とは何か	ガイダンスと授業の概要
2	図書館と情報メディアの歴史	図書館と情報メディアの意義・機能・歴史について述べます
3	図書館の種類	図書館の種類と役割・特徴などについて説明します
4	図書館の諸機能 (1)	間接サービス、テクニカルサービスとは何かについて説明していきます
5	図書館の諸機能 (2)	直接サービス、レファレンスサービスについて説明していきます
6	図書館と法制度	図書館と関わりがある各種の法規(図書館法、著作権法など)について簡単に解説します
7	図書館行政・図書館政策・図書館の管理と経営	図書館行政や図書館政策などについて説明します。 また図書館経営について考えるとともに、図書館業務の評価についても述べます
8	知的自由と図書館	図書館員の専門性についても説明します
9	図書館と出版流通	日本の出版状況などについて説明するとともに、図書館と出版流通の関係についても解説します
10	情報メディアと図書館資料の保存	情報メディアの特徴を説明するとともに、図書館での資料の保存についても解説します
11	図書館における児童サービス	公共図書館で行われる児童サービス、ヤングアダルトサービスについて解説します
12	情報検索 (1)	情報検索の基本的な考え方について説明します
13	情報検索 (2)	情報検索の手法などについて例示を含めて説明するとともに、情報検索システムについても述べます
14	図書館の将来展望と課題	図書館の将来展望と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を実際に使用したり、情報検索演習などを行う可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

逸村裕（ほか）編. 図書館情報学を学ぶ人のために. 世界思想社. 2017. ISBN : 978-4790716952

【参考書】

日本図書館情報学会「図書館情報学用語辞典」第 3 版 (丸善) など (必須ではありませんが、専門用語などでわからない語が出てきた場合に参考にしてください)

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法については、後日、皆さんの履修状況を見てから決定いたしますが、現時点では以下の予定です。
・授業への参画：20% Zoom での授業時にはマイクとビデオをオンにしてください
・レポート：80% 4～5 回のレポートを課す予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業ページとの対応を充実させる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

初回授業から zoom で行います。zoom 授業については原則としてビデオ ON で受講していただきます。

zoom へのアクセス方法は、「学習支援システム」に掲示していますのでご覧ください。

【Outline and objectives】

Basic knowledge on library and information science

図書館情報学概論 I

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から、図書館活動の各領域についての基礎的なコンセプトを総合的に学ぶ。

【到達目標】

図書館情報学の基礎を学び、生涯学習施設の一つである図書館についての基本的な知識や概念を包括的に習得することができる。

市ヶ谷図書館の現場（事務室）で、図書館の運営方針、予算などを実際に職員に聞くことによって、図書館の実際について深く学ぶことができる。また、現場の見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験をより確実にすることができる。

授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実際の授業ではテキストを中心に、図書館司書課程 e-Learning システム (HULiC) を活用しながら、図書館情報学に関する多様な知識や概念を総合的に理解することをめざす。必要に応じて、図書館の見学やビデオ視聴、グループディスカッションなども取り入れる。

毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

メディア情報リテラシーのアンケート調査等も行う。アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンス、図書館とは何か
2	図書館の意義と役割①	図書館法、生涯学習社会の到来、教育観の変化、情報社会と図書館等
3	図書館の意義と役割②	図書館協力・ネットワーク、出版文化と図書館、著作権等
4	図書館の理念と図書館員の職務	図書館の自由、図書館員の倫理綱領（専門職とは何か、図書館員の対応）等
5	図書館法規と行政、施策	図書館の法的基盤、教育基本法と社会教育、地方自治法、国の図書館行政と施策等
6	地域社会と公共図書館（制度・機能）	地域の情報拠点としての図書館、市民参加、公共図書館の機能、制度、諸問題等
7	学校図書館及び大学図書館の制度と機能	学校図書館及び大学図書館に関する法律、機能、諸問題等
8	市ヶ谷図書館ツアー・ガイダンス（予定）	図書館ツアーの小レポートを課す。
9	国立国会図書館及び専門図書館の制度と機能	国立国会図書館及び専門図書館に関する法律、機能、諸問題等
10	日本の図書館の歴史	古代～現代
11	世界の図書館の歴史①	古代～中世
12	世界の図書館の歴史②	近世～現代
13	外国の図書館 図書館の類縁機関・関係団体 図書館の課題と展望	アメリカ、イギリス、北欧、中国等 国際機関、図書館協会、図書館関係団体等 図書館の挑戦と課題（ケース・スタディ）
14	総まとめ	筆記試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前に司書資格課程の授業ポータルサイトからダウンロードし、空欄を埋めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

塩見昇 編、『図書館概論』、日本図書館協会、最新版
(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-1)

【参考書】

高山正也、岸田和明 編集、『図書館概論』樹村房、2017 (現代図書館情報学シリーズ) ISBN-10: 4883672719 ISBN-13: 978-4883672714

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認アンケートクイズ (30%)、図書館ガイダンスのレポート (20%)、筆記試験 (50%) によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。毎回授業の初めに小クイズを行うため、遅刻・欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度が早いという指摘がいくつかあったので、しゃべる内容を精査したい。

【その他の重要事項】

本授業では、50 人収容の情報実習室で行われる。50 人以上の場合は、最初の授業で、(1) 上級生 (2) 図書館資格課程の履修生の優先順位で受講生を確定する。2 回目以降の受講は認めない。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

【Outline and objectives】

As an introduction to Library Information Science, students will learn foundations and basic concepts of libraries from the viewpoint of lifelong learning.

図書館情報学概論 II

原田 隆史

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識
2. 図書館業務に関する技術（図書館システム、Web ページを用いた情報発信など）
3. データの管理を中心とした技術（データベース管理システム、デジタルアーカイブなど）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】

1. 図書館をとりまく多様な情報環境について考えるための基礎となる知識を身につける
2. 各種の図書館業務に関わる技術手法について理解し、取り扱うことができる
3. 図書館活動を行う際に、どのような情報技術が利用可能であるのかを判断する能力を身につける
4. 図書館情報学を学ぶ際に必要な基本的な情報技術を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館をとりまく多様な情報環境、各種の図書館業務に関わる技術手法について説明します。まず、コンピュータやネットワークの基礎知識について学んだ後、図書館システムやデータベース管理システム、WebAPI などについて理解を深めていきます。講義のほか演習も行う場合があります。

授業に対するフィードバックとしては、授業後に受講者からのコメント・質問などを集め、次の授業時に提出されたりコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術と図書館	ガイダンスと授業の概要について説明します
2	アナログとデジタル	デジタルとはどういうものなのか説明していきます
3	コンピュータの基礎知識	コンピュータの動作原理などについて解説します
4	ソフトウェアとアルゴリズム	OS やアプリケーションソフトウェアなどについて説明します
5	ネットワークの基礎知識	インターネットや LAN などの仕組みについて解説します
6	ネットワークサービスと電子資料の要素技術	HTML, CSS, XML などといった電子資料を作成する際の要素技術について演習します
7	データベース管理システム	データベース管理システムの仕組みと検索技法について学びます
8	図書館業務システム	図書館業務システムや OPAC の仕組みについて解説します
9	図書館システムをめぐる最新の動き	ディスカバーインタフェースや次世代システムと呼ばれる仕組みについて解説します
10	図書館における外部サービスの利用	図書館が他の Web サービスを利用してサービス内容を高度化する手法などについて学びます
11	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実例などについて説明します
12	電子文書と電子出版、電子書籍	電子書籍について学ぶとともに、さまざまな電子書籍フォーマットについて理解します
13	図書館の管理・運営とセキュリティ管理	ネットワークサービスにおける管理・運用について説明するとともに、セキュリティ対策などについても述べます
14	ネットワーク社会の中での図書館サービス	図書館情報技術に関するまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館をとりまくコンピュータやネットワークなどの情報技術に関するレポートをいくつか作成していただきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉本重雄編著、図書館情報技術論（現代図書館情報学シリーズ 3）、2014、224p。ISBN: 978-4883672035

【参考書】

特定の参考書は指定しません。必要に応じて資料プリントを Web 上で公開して用いることもあります。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%

授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが、授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことはしているなどの場合は大幅に減点します。Zoom での授業の場合は原則としてビデオとマイクをオンにさせていただきます。

レポート 40%

4~5 回のレポートを課す予定ですが、レポートを行わない可能性もあります。その場合には期末試験 80% とします。

期末試験 40%

COVID-19 などの影響により期末試験を行わない場合は、全てレポートとします。その場合にはレポート 80% とします。

【学生の意見等からの気づき】

シラバスとの対応の充実

【その他の重要事項】

授業は現時点では zoom で行う予定ですが、COVID-19 の状況などによっては対面での授業も併用するなどの手段で行う可能性があります。開講時期が近くなった時点であらためて確認してください。

なお、zoom で授業する場合、原則としてビデオは ON としていただきます。

【Outline and objectives】

1. Basic knowledge of computers, networks and information technology
2. Information technology in libraries.
3. Database management system, digital archive
4. Network Security
5. Information Technology and Society

図書館情報学概論 II

丹 一信

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】

図書館にかかわる情報技術の基礎知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本科目は図書館情報技術論の内容を多く含む関係で、コンピュータ教室にて授業を行う予定です（COVID-19 の感染状況によっては変更もあり得ます）コンピュータ、インターネットを使用しながら、講義と演習、実習を組み合わせて行います。その為、単に出席するだけでは意味がなく、演習に取り組むことに意義があります。

授業の冒頭では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

また授業ごとに課題を提示します。課題については、メッ後の授業において、解答例を示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータとネットワークの基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 ・身の回りにあるコンピュータ ・コンピュータシステムの構造について学びます
2	コンピュータとネットワークの基礎②	・ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの基礎について ・コンピュータシステムが扱う「デジタルデータ」の基礎 ・コンピュータシステムの応用分野について学びます。
3	情報技術と社会	・情報化社会とはなにか ・情報技術の普及と社会の変化 ・情報化社会の抱える課題について
4	図書館における情報技術活用の現状	図書館で使われる情報技術について、具体的な事例に基づいて学習します。
5	図書館業務システムの仕組み	・図書館業務システムの構成 ・図書館業務システムの機能 —ソフトウェアの構成 ・オンラインサービスについて（ネットワークによるサービス）を学びます。
6	インターネットの仕組みとその歴史	インターネットの仕組みとその歴史について学ぶ
7	データベースの仕組み	・データベースの概要と構造、利用方法について（リレーショナルDBなどを中心に学びます）
8	検索エンジンの仕組み	検索エンジンの概要や歴史、課題について
9	電子資料の基礎	電子資料の基礎知識や管理技術、課題について学びます。
10	検索エンジンの種類	検索エンジンの種類と仕組みについて学び、演習を行う
11	コンピュータシステムの管理	システム管理の基本的な考え方やアプリケーション管理、データ管理、セキュリティについて学びます。
12	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの構築や図書館における具体例をあげながら、実際に演習も行います。
13	電子書籍・出版	電子書籍・出版の仕組みについて学び、演習を行う
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日高昇治 著. 図書館情報技術論 第二版. 学文社, 2017. ; ISBN:978-4-7620-2720-8

【参考書】

田中均著. 図書館情報技術論 青土社, 2019. ISBN 9784787200709

【成績評価の方法と基準】

平常点 15 % 小課題 35% 期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナウイルスの影響により、特記事項はありません。

【学生が準備すべき機器他】

司書課程の学習支援システム Hulic にて授業は進めます。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。

情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業はリアルタイムのオンライン授業です。

授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。但し上記はあくまでも対面授業が実施できる場合の前提条件です。感染状況により変更が生じた場合は、別途周知します。

【Outline and objectives】

In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.

In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

図書館情報学概論 II

菅原 真悟

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、図書館に関わる情報技術について理解を深めることをめざす。授業では主に下記の 5 つの項目を扱う。

1. コンピュータやネットワークに関する基礎知識
2. 図書館業務に関する技術（システム・情報発信・検索エンジン）
3. データ管理に関する技術（電子資料・データベース）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】

図書館に関わる情報技術の基礎知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、電子図書館、検索エンジン、コンピュータセキュリティ等について講義を行い、必要に応じて演習を行う。毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板でも個々にフィードバックする。
・課題等の提出・フィードバックは「HULiC」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業支援システム (HULiC) の利用方法に関するガイダンス。
第 2 回	コンピュータの基礎知識 (1)	デジタルとアナログ。2 進数と 10 進数。ビットとバイト。
第 3 回	コンピュータの基礎知識 (2)	コンピュータの歴史。
第 4 回	ウェブ OPAC	ウェブ OPAC を用いた演習。
第 5 回	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実際。
第 6 回	ウェブの歴史	ウェブの誕生から普及に至る歴史。ブラウザの種類とシェアの推移。
第 7 回	AI 時代の図書館	コンピュータ研究の現在と未来。人工知能研究の発展と図書館。
第 8 回	検索エンジン	検索エンジンの種類と仕組み。
第 9 回	電子図書館 (1)	電子資料・出版、電子図書館の現状。
第 10 回	電子図書館 (2)	電子書籍の特性について、タブレット端末を用いた演習。
第 11 回	図書館業務システム (1)	図書館業務システムの仕組み。
第 12 回	図書館業務システム (2)	図書館業務システムを用いた演習。
第 13 回	セキュリティ	コンピュータの管理とセキュリティ対策。
第 14 回	振り返りとまとめ	半期の授業を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。

<http://lc.i.hosei.ac.jp/>

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布する。

【参考書】

講義の中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の演習への積極的な参加（出席状況を含む） 30%

課題（授業中に課題を数回出す予定） 40%

期末レポート 30%

課題・レポートは「HULiC」へアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】

演習やグループ学習の時間を増やしたいと考えています。授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加を求めます。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

1. Computer and network
2. Technology related to libraries
3. Database
4. Network security
5. Information Technology and Society

図書館情報学概論Ⅱ

丹 一信

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】

図書館にかかわる情報技術の基礎知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本科目は図書館情報技術論の内容を多く含む関係で、コンピュータ教室にて授業を行う予定です（COVID-19 の感染状況によっては変更もあり得ます）コンピュータ、インターネットを使用しながら、講義と演習、実習を組み合わせて行います。その為、単に出席するだけでは意味がなく、演習に取り組むことに意義があります。

授業の冒頭では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

また授業ごとに課題を提示します。課題については、メッ後の授業において、解答例を示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータとネットワークの基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 ・身の回りにおけるコンピュータ ・コンピュータシステムの構造について学びます
2	コンピュータとネットワークの基礎②	・ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの基礎について ・コンピュータシステムが扱う「デジタルデータ」の基礎 ・コンピュータシステムの応用分野について学びます。
3	情報技術と社会	・情報化社会とはなにか ・情報技術の普及と社会の変化 ・情報化社会の抱える課題について
4	図書館における情報技術活用の現状	図書館で使われる情報技術について、具体的な事例に基づいて学習します。
5	図書館業務システムの仕組み	・図書館業務システムの構成 ・図書館業務システムの機能 —ソフトウェアの構成 ・オンラインサービスについて（ネットワークによるサービス）を学びます。
6	インターネットの仕組みとその歴史	インターネットの仕組みとその歴史について学ぶ
7	データベースの仕組み	・データベースの概要と構造、利用方法について（リレーショナルDBなどを中心に学びます）
8	検索エンジンの仕組み	検索エンジンの概要や歴史、課題について
9	電子資料の基礎	電子資料の基礎知識や管理技術、課題について学びます。
10	検索エンジンの種類	検索エンジンの種類と仕組みについて学び、演習を行う
11	コンピュータシステムの管理	システム管理の基本的な考え方やアプリケーション管理、データ管理、セキュリティについて学びます。
12	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの構築や図書館における具体例をあげながら、実際に演習も行います。
13	電子書籍・出版	電子書籍・出版の仕組みについて学び、演習を行う
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日高昇治 著. 図書館情報技術論 第二版. 学文社, 2017. ; ISBN:978-4-7620-2720-8

【参考書】

田中均著. 図書館情報技術論 青土社, 2019. ISBN 9784787200709

【成績評価の方法と基準】

平常点 15 % 小課題 35% 期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナウイルスの影響により、特記事項はありません。

【学生が準備すべき機器他】

司書課程の学習支援システム Hulic にて授業は進めます。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。

情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業に出席しない場合は、履修を認めません。

授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。但し上記はあくまでも対面授業が実施できる場合の前提条件です。感染状況により変更が生じた場合は、別途周知します。

【Outline and objectives】

In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.

In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

図書館サービス概論

丹 一信

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館サービスの意義や理念を理解し、図書館における実践事例などについて基本的な知識を習得します。図書館サービスは公共図書館だけのものではなく、全ての館種においてなされるものです。現在の図書館サービスの抱える課題について理解し、グループディスカッションを通じて、問題解決への方策を検討します。

【到達目標】

図書館サービスの種類や内容などについて、理解を深めます。単に講義だけではなく、図書館サービスにおける先駆的な事例をもとに、「自分が担当であったならば、どうする？」というディスカッションを通じて、深い理解への到達を目指します。将来、図書館のサービス担当者となった時に、司書として主体的な判断ができることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

シラバス執筆時点では、教室での対面授業を仮定しています。講義形式の進行予定です。更にグループごとのディスカッションやリアクションペーパーのコメントを取り上げながら授業を進めます。リアクションペーパーについては、毎回、配布します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 図書館サービスとは	ガイダンス（授業の概要、進め方） 図書館サービスの概要や位置づけ、理念について学びます。
第 2 回	図書館サービスの種類	「司書および司書補の職務内容」にみる図書館サービス、図書館サービスの時代による変遷などを学びます。
第 3 回	図書館サービスとネットワーク	・図書館システム ・全域サービスと図書館システム ・図書館間相互貸借と図書館ネットワーク ・広域利用制度について学びます。
第 4 回	閲覧サービス	・閲覧とはなにか ・閲覧の利用形態とスペース活用 ・閲覧におけるさまざまな問題を考えます。
第 5 回	資料提供に関するサービス	資料提供サービスの概要と種類、貸出サービス（利用者登録、貸出、返却、督促、予約、リクエストなど）
第 6 回	貸出しサービス	貸出サービスの概要と種類、現状と課題について
第 7 回	情報提供サービス	レファレンスサービスや読書相談サービスとカレントアウェアネスサービスなどについて、事例研究を交えながら学びます。またアウトリーチサービスについても学びます。
第 8 回	地域支援サービス	地域支援サービスの概要、歴史、子育て支援やコミュニティへの支援など
第 9 回	図書館サービスと著作権	図書館と著作権との関り、権利制限規定などについて、事例をもとに考えます。
第 10 回	障害者サービス	障害者サービスとはなにか、障害者サービスを積極的に実施している図書館の事例を参考に、学びます。
第 11 回	高齢者サービス	高齢者への図書館サービスの概要と実践例について
第 12 回	集会・文化活動	集会文化活動その歴史と意義について学びます。 講演会・フォーラム・講座・ワークショップ 児童文学講座・読書ボランティア講座・フォーラム、読書会・講演会・展示会・コンサート・映画会・その他の活動について
第 13 回	児童サービス	特色ある児童サービスについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習として、テキストの関連するページをよく読む。身近な大学図書館や公共図書館を直接利用したり、各図書館のホームページのコンテンツを見て、図書館サービスのよい点や課題について理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『図書館サービス概論』 小黒浩司著 ミネルヴァ書房 2018 本体 2,800 円＋税
ISBN：9784623083961

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%） 期末課題（70%）

【学生の意見等からの気づき】

実際の図書館における事例紹介は授業の理解を促しました。今年度も実例をあげながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン
司書課程授業支援システム「Hulic」を用いて、資料の配布、レポート提出を行います。

【その他の重要事項】

対面授業の実施が困難となった場合には、授業内容に変更が生じます。各自、学習支援システム等からのお知らせに注意してください。

【Outline and objectives】

In this lesson, you understand the significance and way of thinking of library services and master basic knowledge. We will also learn about practical examples at the library. Library services are conducted not only in public libraries but in all libraries. Understand the challenges of the current library service and consider ways to solve problems by group discussion.

情報サービス演習

田中 順子

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】

情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスをを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本 (1)	コンピュータ検索の技術 ① OPAC 検索の基礎と応用
3	情報検索の基本 (2)	コンピュータ検索の技術 ②論理演算
4	情報検索の基本 (3)	コンピュータ検索の技術 ③トラン ケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方 (1)	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方 (2)	情報資源の活用、インターネット上の 情報資源
8	情報検索基礎演習 (1)	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習 (2)	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習 (3)	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習 (4)	法律、外交資料の検索
12	情報検索基礎演習 (5)	レファレンスブック検索
13	情報検索基礎演習 (6)	統計の検索
14	情報検索基礎演習 (7) / 春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタ ビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタ ビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	インターネットで調べられない質問に 対する調査
26	情報発信型サービスの実 際 (1)	情報発信型サービスを行っている事例 について解説
27	情報発信型サービスの実 際 (2)	地域の特徴を生かした情報発信型サー ビスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋 学期のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表 20 %、演習 80 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なることを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

情報サービス演習

田中 順子

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】

情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスをを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本 (1)	コンピュータ検索の技術 ① OPAC 検索の基礎と応用
3	情報検索の基本 (2)	コンピュータ検索の技術 ② 論理演算
4	情報検索の基本 (3)	コンピュータ検索の技術 ③ トラン ケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方 (1)	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方 (2)	情報資源の活用、インターネット上の 情報資源
8	情報検索基礎演習 (1)	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習 (2)	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習 (3)	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習 (4)	法律、外交資料の検索
12	情報検索基礎演習 (5)	レファレンスブック検索
13	情報検索基礎演習 (6)	統計の検索
14	情報検索基礎演習 (7) / 春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタ ビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタ ビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	インターネットで調べられない質問に 対する調査
26	情報発信型サービスの実 際 (1)	情報発信型サービスを行っている事例 について解説
27	情報発信型サービスの実 際 (2)	地域の特徴を生かした情報発信型サー ビスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋 学期のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表 20 %、演習 80 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の準備（課題の回答）が大変だと意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なることを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

情報サービス演習

菅原 真悟

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために必要な情報を提供するサービスのことで、現代の図書館の重要なサービスと位置づけられている。この授業では、演習を通して次の 2 点を主に扱う。

1. 情報源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2. 発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】

利用者の質問に回答し、回答と回答プロセスをデータベース化できるようにする。利用者教育プログラムの構築ができるようになる。発信型情報サービスのために必要な ICT の基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・利用者の質問に回答する方法を学ぶ。情報源として、事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使えるようにする。模擬的な問答を演習する。
- ・発信型情報サービスのためのウェブサイト作成、データベース構築を学ぶ。
- ・図書館の情報サービスについて調査し発表する課題を課す。
- ・毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
- ・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板でも個々にフィードバックする。
- ・課題等の提出・フィードバックは「HULiC」を通じて行う。
- ・発表課題では、すべての発表について質疑応答を通じたフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：情報サービスとは	図書館の情報サービス。利用者質問の種類と対応。利用者に回答する際に注意すべき点。
第 2 回	図書検索 (1)	法政大学図書館 OPAC の使い方。
第 3 回	図書検索 (2)	検索演算子を使った検索演習。
第 4 回	図書検索 (3)	検索式を用いた検索方法。 NDL-OPAC。
第 5 回	情報サービス (1)	情報サービスの現状。
第 6 回	情報サービス (2)	レファレンス事例データベース。
第 7 回	図書館に関する最新情報を探す	カレント・アウェアネスの活用方法。
第 8 回	論文検索 (1)	CiNii を使った論文検索（基礎）。
第 9 回	論文検索 (2)	CiNii を使った論文検索（応用）。
第 10 回	横断検索・連想検索	情報を横断的に探す方法。連想検索。
第 11 回	雑誌記事検索	MAGAZINE プラス・大宅壮一文庫などのデータベースの活用。
第 12 回	新聞記事検索	新聞社のデータベースの活用。
第 13 回	さまざまなデータベースを使う (1)	辞書・事典・歴史・地図検索。
第 14 回	さまざまなデータベースを使う (2)	統計・議会情報・法令検索・判例検索などのデータベースの活用。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期の振り返りとまとめ。
第 16 回	ウェブ検索	ウェブで情報を探す。検索エンジンの仕組み。
第 17 回	人物情報検索	人物情報について調べる方法。
第 18 回	特許検索	特許や商標等の知財情報を調べる方法。
第 19 回	発信型情報サービス	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第 20 回	理系論文検索 (1)	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第 21 回	理系論文検索 (2)	医学系論文を探す。
第 22 回	SNS 演習	図書館とソーシャルメディア。
第 23 回	発表会 (1) 発信型情報サービスの現状	図書館の発信型情報サービスについて、個人またはグループで調べた内容を発表。
第 24 回	CMS 演習 (1)	CMS と図書館サイト構築の現状。
第 25 回	CMS 演習 (2)	図書館サイトのコンテンツ分析。
第 26 回	CMS 演習 (3)	CMS(NetCommons) を用いた図書館サイトの構築演習。
第 27 回	CMS 演習 (4)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。

第 28 回 発表会 (2) 新しい発信型 発信型情報サービスについて、個人またはグループで発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム (<https://hoppii.hosei.ac.jp/>) のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」(<http://lc.i.hosei.ac.jp/>) も使います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】

講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内演習への参加 30%
小レポートの提出（小レポートを数回出す予定）40%
グループまたは個人発表 30%
小レポート・発表の資料等はすべて「HULiC」へアップロードして提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

Purpose and Goal

1. Learn how to search information sources (databases).
2. Learn how to build website and database for outgoing information service.

図書館情報資源概論

小黒 浩司

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な図書館情報資源について、形態別、主題別の特性の概略を学習する。また図書館情報資源の収集と選択、評価、保存など、図書館における情報資源の管理の実際を学ぶ。加えて、代表的な図書館情報資源である図書や雑誌についての理解を深めるために、その流通事情などについても学ぶ。

【到達目標】

図書館の基本的な機能は、資料・情報の収集と提供である。そこで図書館情報資源に関する基礎的な知識を学び、その収集、保存のあり方などについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では主要な図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では図書館情報資源の維持・管理の手法や意義などについて概説する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源とは何か	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、図書館情報資源について、図書館法など関連法規の上から説明する。
第 2 回	図書館情報資源の種類	『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』の種類に従って、図書館情報資源の概略を説明する。
第 3 回	図書・逐次刊行物	図書と逐次刊行物について概説する。
第 4 回	視聴覚資料・電子資料	視聴覚資料と電子資料について概説する。
第 5 回	図書館情報資源の選択と収集	図書館における資料選択と収集の形態について概説する。
第 6 回	蔵書評価	図書館における蔵書評価の種類などについて概説する。
第 7 回	蔵書管理	図書館における蔵書管理の技法などについて概説する。
第 8 回	図書館情報資源の更新	図書館における資料の更新の意義などについて概説する。
第 9 回	資料保存	図書館における資料保存のあり方などについて概説する。
第 10 回	資源共有	図書館情報資源の収集と保存の協力について概説する。
第 11 回	資料選択の自由	図書館における資料収集と選択の自由について概説する。
第 12 回	出版流通 1	日本の出版流通の現状を、メディア別に概説する。
第 13 回	出版流通 2	日本の出版流通の現状を、流通過程から概説する。

第 14 回 まとめ

試験・まとめ。新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、各 2 時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトの URL などを掲載するので、活用してほしい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

新訂図書館資料論 小黒浩司編著 東京書籍 2008

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点（80 %）に、授業への参加・貢献度（20 %）を加えて評価する予定である。

ただし新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

質問などは遠慮なくメールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【Outline and objectives】

Learn the characteristics of various library information resources.

図書館情報資源概論

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】

- ・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の種類と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
- ・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
- ・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
- ・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。

マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループディスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア（HULiC）を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア（HULiC）利用ガイド 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史① （紙の発明） 紙の博物館見学	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等 小レポート 1
7	メディアの発展史② （印刷革命（1）木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史
8	メディアの発展史③ （印刷革命（2）印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、 人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴 小レポート 2
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション 構築の理論（選書）	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。

「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8）

【参考書】

小黑浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座 8）
志保田務 [ほか] 編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】

（1）毎回の確認クイズ（30%）、（2）2回的小レポート（30%）、（3）学期末試験（40%）によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードする際、必ずリンクの確認をすること。

毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】

ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】

Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

図書館情報資源概論

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】

- ・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の種類と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
- ・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
- ・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
- ・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。

マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループディスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア（HULiC）を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア（HULiC）利用ガイド 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史① （紙の発明） 紙の博物館見学	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等 小レポート 1
7	メディアの発展史② （印刷革命（1）木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史
8	メディアの発展史③ （印刷革命（2）印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、 人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴 小レポート 2
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション 構築の理論（選書）	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。

「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8）

【参考書】

小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座 8）
志保田務 [ほか] 編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】

（1）毎回の確認クイズ（30%）、（2）2回的小レポート（30%）、（3）学期末試験（40%）によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードする際、必ずリンクの確認をすること。

毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】

ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】

Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

図書館情報資源特論

小黒 浩司

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報資源概論では扱わなかった情報資源、主題情報について、学習する。とくに電子資料については、その収集・提供・保存などについて、十分に理解する。

【到達目標】

図書館の基本的な機能は、資料・情報の収集と提供である。そこで図書館情報資源概論での学習を基礎に、近年図書館で重視されている各種情報資源の特性などについて発展的に学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では近年公共図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では学術図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	読書の電子化	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、「電子読書」の歴史と現状を概説する。
第 2 回	政府刊行物	図書館における政府刊行物の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 3 回	地域資料	図書館における地域資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 4 回	法情報	図書館における法情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 5 回	統計資料	図書館における統計資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 6 回	健康・医療情報	図書館における健康・医療情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 7 回	生活・労働情報	図書館における生活・労働情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 8 回	音楽資料	図書館における音楽資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 9 回	地図資料	図書館における地図資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 10 回	マイクロ資料	図書館におけるマイクロ資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 11 回	歴史的音源	SP 盤レコードなどの歴史的音源の電子化や配信の状況を概説する。
第 12 回	ウェブアーカイビング	ウェブアーカイビングの意義や現状を概説する。
第 13 回	オンライン資料	オンライン資料の収集と提供の現状を概説する。
第 14 回	まとめ	試験・まとめ。新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、各 2 時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトの URL などを掲載するので、近年注目されている図書館情報資源に関する理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

新訂図書館資料論 小黒浩司編著 東京書籍 2008

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点（80 %）に、授業への参加・貢献度（20 %）を加えて評価する予定である。ただし新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに理解の参考となる情報源などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性があるため、PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

質問などは遠慮なくメールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【Outline and objectives】

Learn about information resources and subject information that you did not learn in the spring semester, focusing on electronic materials.

図書館情報資源特論

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】

現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。

グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。

また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループに分かれて、さまざまな専門図書館へインターネットを介した調査を行い、評価をする。インターネット調査には、職員へのメール等によるインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他已評価する。

プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション① 専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション② 利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。

授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書 (30%)
(2) グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など (30%)

(3) 個人のレポート (40%)

全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80% を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良 (14 回中 4 回以上の欠席) のものは、「(2) グループ活動・授業への参加 (出席)・(30%)」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル (文書・パワポ・画像・他) 提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】

Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

図書館情報資源特論

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】

現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。

グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。

また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループに分かれて、さまざまな専門図書館へインターネットを介した調査を行い、評価をする。インターネット調査には、職員へのメール等によるインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他已評価する。

プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション① 専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション② 利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。

授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書（30 %）
(2) グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30 %）
(3) 個人のレポート（40 %）

全ての提出物は授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「(2) グループ活動・授業への参加（出席）・(30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。

また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】

Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

図書館演習

坂本 旬

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における新しい図書館像の探究とメディア情報リテラシーの理解

【到達目標】

- (1) ユネスコのメディア情報リテラシー教育の基本的な考え方を理解する。
- (2) メディア情報リテラシー・カリキュラムに基づいた実践を行うことができる。
- (3) ユネスコのメディア情報リテラシーの理念・運動にもとづいた公共図書館・学校図書館像を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ユネスコの日本語版と英語版カリキュラムをテキストとして用いてディスカッションを行う。また秋期では、一人ひとりがカリキュラムにもとづいたワークショップを企画・実施し、図書館司書としてのワークショップ実践力を身につける。新型コロナ感染症流行が続く場合、Zoomを用いたオンライン授業とする。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックは HULiC を通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
- ・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

この授業は、基本はオンラインとし、受講者数や各授業回の内容に応じて、対面を実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と方法の解説
2	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システム HULiC の使い方を解説する
3	メディア情報リテラシーの概念	メディア情報リテラシーの概念の枠組みについて学ぶ
4	メディア情報リテラシーの恩恵と必要性	メディア情報リテラシーがもたらす恩恵と必要とされる背景について学ぶ
5	カリキュラムの枠組み	メディア情報リテラシー・カリキュラムの構成を学ぶ
6	メディアと情報の政策	メディア情報リテラシーにかかわる政策の見直しについて学ぶ
7	メディアと情報に関する基礎理解	民主主義社会におけるメディアと情報に関する基礎知識を学ぶ
8	メディアと情報の評価	メディアと情報の評価方法について学ぶ
9	メディアと情報の創造と活用	メディアと情報の創造や活用方法の基礎を学ぶ
10	司書・教師の能力	実践の核になる司書や教師の能力について学ぶ
11	メディア情報リテラシーと学習	メディア情報リテラシー教育のための学習理論を学ぶ
12	メディア情報リテラシーの教材	メディア情報リテラシーについてユネスコが推奨する教材について学ぶ
13	メディア情報リテラシーと学校図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと学校図書館の役割について学ぶ
14	メディア情報リテラシーと公共図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと公共図書館の役割について学ぶ
15	秋学期ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス
16	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習について学ぶ
17	ニュース、メディア倫理と情報倫理	ニュース、メディア倫理と情報倫理について学ぶ
18	メディアと情報のリプレゼンテーション	メディアと情報のリプレゼンテーションについて学ぶ
19	メディアと情報の言語	メディアと情報の言語について学ぶ
20	情報メディアと広告	広告について学ぶ
21	新旧のメディア	新旧のメディアについて学ぶ
22	インターネットの機会と挑戦	インターネットの機会と挑戦について学ぶ

23	コア・モジュール7情報リテラシーと図書館スキル	情報リテラシーと図書館スキルについて学ぶ
24	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習について学ぶ
25	メディアの技術	メディアの技術について学ぶ
26	デジタル・ブックトーク制作の方法	デジタル・ブックトークの方法を学び、プランを作る
27	デジタル・ブックトークの制作	デジタル・ブックトークを制作する
28	デジタル・ブックトークの発表	制作したデジタル・ブックトークを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

司書課程専用授業支援システム (HULiC) を用いた事前学習および宿題をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』（日本語版・英語版）

右のサイトからダウンロードできる。<http://amilec.org/>

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014 年）
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』（2021 年）

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30 %、提出課題 30 %、平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業でも十分なディスカッションを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業用コンピュータを使用する。新型コロナ感染症流行のため、オンライン授業となる場合は、オンライン授業に用いる端末が必要である。

【その他の重要事項】

実習として映像制作（デジタル・ブックトーク）を行う。

【授業中に求められる学習活動について】

A,B,C,D,E,F,G,H

【Outline and objectives】

Exploration of the new image of libraries in modern society and an understanding of media information literacy.

(1) To understand the basic concept of media information literacy of UNESCO.

(2) To be able to practice based on the media and information literacy curriculum.

(3) To be able to conceptualize the image of public libraries and school libraries based on UNESCO's media and information literacy principles and movements.

図書館演習

村上 郷子

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、講義のほか、グループによる研究調査とその発表を行うことによる、と公共図書館を取りまく様々な課題について理解を深める。秋学期は、グループによる公共図書館へのフィールド調査やプレゼンを行うことにより、公立図書館の現状と課題について総合的に理解する。

【到達目標】

春学期は、講義のほか、学生による研究発表を行うことにより、公立図書館の現状と課題について理解することができる。
秋学期は、東京 23 区中央図書館を中心に、グループによる対面・参与調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について総合的に理解することができる。また、プレゼンにおける配付資料、プレゼン資料、おしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、指定管理者制度、司書の雇用形態、多様なサービスなどについての調査報告を行い、調査内容に関する報告書を提出する。その際、各項目の課題について指摘し、課題の解決策・提案等も提示すること。

秋学期は、グループによる現地調査を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。

春・秋学期、それぞれ授業で学んだことをまとめた学期末レポートを提出する。また、授業の一環として、協働学習およびメディア情報リテラシーに関するアンケート調査を実施する。自身のメディア情報リテラシーのスキル・能力について自己評価をすることによって、どのスキル・能力がどの程度伸びたのかを客観的にみるためのものである。

アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンスについて
2	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度 (1)
3	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度 (2)
4	公立図書館の現状と課題②	市民との協働 (1)
5	公立図書館の現状と課題②	市民との協働 (2)
6	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態 (1)
7	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態 (2)
8	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲 (1)
9	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲 (2)
10	グループ活動①	グループによる研究発表の準備①
11	グループ活動②	グループによる研究発表の準備②
12	グループ活動③	グループによる研究発表の準備③
13	学生による研究発表①	2つのテーマについて、発表する。
14	学生による研究発表②	2つのテーマについて、発表する。
15	秋学期授業ガイダンス	公立図書館の比較概要
16	東京 23 区中央図書館の動向①	個人・グループの調査対象図書館の選定
17	東京 23 区中央図書館の動向②	調査対象図書館及びグループの確定、アポの取り方
18	調査計画案作成①（グループ）	インタビューの極意、調査テーマの決定
19	調査計画案作成②（グループ）	調査でのインタビュー項目の決定、現地調査の結果提出
20	発表順の抽選	個人によるグループ活動報告書提出①
21	グループ調査進行状況チェック①	配付資料作成の極意
22	グループ調査進行状況チェック②	プレゼン資料作成の極意

23	グループ調査進行状況チェック③	プレゼンの極意、インタビュー調査の結果提出
24	グループ調査進行状況チェック④	グループ活動
25	リハーサル（予備）	グループによる配付資料提出、プレゼンのリハーサル
26	グループ・プレゼンテーション①	プレゼンの実践と評価
27	グループ・プレゼンテーション②	プレゼンの実践と評価
28	公共図書館の現状と課題・グループ活動総括	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、研究発表の準備や研究課題について、グループで十分に話し合いの時間を確保すること。

秋学期は、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるので、受講生には授業への積極的な参加とリーダーシップが求められる。また、授業時間外のグループ活動が入ってくることを了承しておくこと。

授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。グループ活動では、HULiC だけではなく、簡単な確認のためのコミュニケーションツールとして LINE も積極的に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

- (1) グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション（配付資料、プレゼン資料等）（春学期 15 % + 秋学期 20 % = 合計 35 %）
- (2) 個人の課題・アンケート + 個人の覆面調査など（25 %）
- (3) 課題研究に関する報告書 + 学期末レポート（40 %）

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 10 回以下）のものは、「(1) グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【Outline and objectives】

In the spring semester, students will deeply understand the current trends and various issues surrounding public libraries by conducting research investigations in groups. In the fall semester, students are required to visit one central public library in the 23 wards of Tokyo, interview librarians with group members, and make presentations together in order to compare and evaluate public libraries and discover current situations, various issues of the public libraries, and the ways of solving the problems.

図書館演習

丹 一信

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては、【その他の重要事項】を必ず確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）

なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回の授業参加は必須です。

図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。

1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。

【到達目標】

春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定3級合格レベルとすることです。各種データベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。

秋学期は、実用に耐えうるパスファインダーの製作し発表することが第一目標です。また図書館の実地見学を行うことにより、図書館の実地についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行います。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何か、理解に至ることが到達点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、検索技術者検定3級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。演習中心の進め方となります。

秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。

演習形態が中心となりますが、社会情勢が許せば、図書館見学も行う予定です。毎回アクションペーパーを配布し、皆さんからの自由な質問等に解答します。履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。

また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULic) の利用方法
第2回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第3回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第4回	情報資源と情報サービス機関①	データと情報 ・一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類
第5回	情報資源と情報サービス機関②	・データベース、ポータルサイト ・情報資源の組織化
第6回	ネットワーク情報資源の検索と種類①	・情報サービス機関と情報サービス ネットワーク情報資源の検索
第7回	ネットワーク情報資源の検索と種類②	・ネットワーク情報資源の種類 ・検索エンジン、深層ウェブ
第8回	ネットワーク情報資源の検索と種類③	ネットワーク情報資源の検索演習 ・図書、雑誌について
第9回	ネットワーク情報資源の検索と種類④	ネットワーク情報資源の検索演習 ・雑誌記事、新聞記事 ・Web アーカイブ、デジタルアーカイブ
第10回	知的財産権①	知的財産権の概要について
第11回	知的財産権②	著作権について
第12回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて①	・ネットワーク社会の諸問題 ・コンピュータの基礎知識
第13回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて②	・インターネットの基礎知識 ・セキュリティに関する知識
第14回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ、デジタルアーキビストなどの情報専門職について学びます。

第15回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表 (web にて)	秋学期授業ガイダンス
第16回	専門図書館①	専門図書館の概要
第17回	専門図書館②	専門図書館の具体例から学習します。
第18回	事例研究①	専門図書館の一つである企業内図書館について学びます。
第19回	事例研究②	COVID-19 いわゆる新型コロナウイルスが図書館に与えた影響について、グループごとに討議し考察します。
第20回	パスファインダーの制作①	パスファインダーの概要
第21回	パスファインダーの制作②	テーマの設定について
第22回	パスファインダーの製作③	図書、雑誌の記述
第23回	パスファインダーの製作④	新聞および新聞記事について
第24回	パスファインダーの製作⑤	雑誌記事について
第25回	パスファインダーの製作⑥	Web 上の情報資源、その他の情報資源について
第26回	検索技術者検定3級①	検索技術者検定3級試験解説
第27回	検索技術者検定3級②	検索技術者検定3級過去問解説 2017～2019
第28回	総まとめ	制作課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館への見学や調査が必須となります。夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。

また第22回図書館総合展、2021年11月9日～11日の3日間開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。

（上記はあくまで4月下旬時点での予定です。社会情勢の変化によりオンライン開催に変更もあります）

また当科目は検索技術者検定3級受験及び合格を目標としています。< = > こちらは授業内容と強く関わります。 <https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/>

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく第2版: 検索技術者検定3級公式テキスト., 樹村房, 2020, ix, 147p.

ISBN 9784883673407

【参考書】

(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑., 日本図書館協会, 2018, 冊 p.

(2) 専門図書館協議会 <https://jsla.or.jp/>

【成績評価の方法と基準】

提出物（60%）および平常点（40%） 単に出席しているだけではなく、授業への積極的な参加が望ましいです。

【学生の意見等からの気づき】

少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PC

Hulic

<https://lc.i.hosei.ac.jp/>

【その他の重要事項】

「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

初回授業には必ず出席してください。必須です。

新型コロナウイルスの影響により、変更が生じた場合は、別途お知らせします。「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー1級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】

The outline of the lesson is as follows.

1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

図書館演習

丹 一信

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては、【その他の重要事項】を必ず確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）

なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回の授業参加は必須です。

図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。

1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。

【到達目標】

春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定3級合格レベルとすることです。各種データベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。

秋学期は、実用に耐えうるパスファインダーの製作し発表することが第一目標です。また図書館の実地見学を行うことにより、図書館の実地についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行います。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何か、理解に至ることが到達点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、検索技術者検定3級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。演習中心の進め方となります。

秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。

演習形態が中心となりますが、社会情勢が許せば、図書館見学も行う予定です。毎回アクションペーパーを配布し、皆さんからの自由な質問等に解答します。履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。

また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULic) の利用方法
第2回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第3回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第4回	情報資源と情報サービス機関①	データと情報 ・一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類
第5回	情報資源と情報サービス機関②	・データベース、ポータルサイト ・情報資源の組織化
第6回	ネットワーク情報資源の検索と種類①	・情報サービス機関と情報サービス ネットワーク情報資源の検索
第7回	ネットワーク情報資源の検索と種類②	・ネットワーク情報資源の種類 ・検索エンジン、深層ウェブ
第8回	ネットワーク情報資源の検索と種類③	ネットワーク情報資源の検索演習 ・図書、雑誌について
第9回	ネットワーク情報資源の検索と種類④	ネットワーク情報資源の検索演習 ・雑誌記事、新聞記事
第10回	知的財産権①	ネットワーク情報資源の検索演習 ・Web アーカイブ、デジタルアーカイブ
第11回	知的財産権②	知的財産権の概要について 著作権について
第12回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて①	・ネットワーク社会の諸問題 ・コンピュータの基礎知識
第13回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて②	・インターネットの基礎知識 ・セキュリティに関する知識
第14回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ デジタルアーキビスト などの情報専門職について学びます。

第15回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表（webにて）	秋学期授業ガイダンス
第16回	専門図書館①	専門図書館の概要
第17回	専門図書館②	専門図書館の具体例から学習します。
第18回	事例研究①	専門図書館の一つである企業内図書館について学びます。
第19回	事例研究②	COVID-19 いわゆる新型コロナウイルスが図書館に与えた影響について、グループごとに討議し考察します。
第20回	パスファインダーの制作①	パスファインダーの概要
第21回	パスファインダーの制作②	テーマの設定について
第22回	パスファインダーの製作③	図書、雑誌の記述
第23回	パスファインダーの製作④	新聞および新聞記事について
第24回	パスファインダーの製作⑤	雑誌記事について
第25回	パスファインダーの製作⑥	Web上の情報資源、その他の情報資源について
第26回	検索技術者検定3級①	検索技術者検定3級試験解説
第27回	検索技術者検定3級②	検索技術者検定3級過去問解説 2017～2019
第28回	総まとめ	制作課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館への見学や調査が必須となります。夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。

また第22回図書館総合展、2021年11月9日～11日の3日間開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。

（上記はあくまで4月下旬時点での予定です。社会情勢の変化によりオンライン開催に変更もあります）

また当科目は検索技術者検定3級受験及び合格を目標としています。<=こちらは授業内容と強く関わります。https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく第2版: 検索技術者検定3級公式テキスト., 樹村房, 2020, ix, 147p.

ISBN 9784883673407

【参考書】

(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑., 日本図書館協会, 2018, 冊 p.

(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】

提出物（60%）および平常点（40%） 単に出席しているだけではなく、授業への積極的な参加が望ましいです。

【学生の意見等からの気づき】

少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PC

Hulic

https://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

初回授業には必ず出席してください。必須です。

新型コロナウイルスの影響により、変更が生じた場合は、別途お知らせします。「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー1級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】

The outline of the lesson is as follows.

1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

読書と豊かな人間性

有吉 末充

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館における読書教育についての今日的課題と教育行政の動きを知る。読書教育について、そのねらい、発達段階に応じた方法について学び、学校図書館ができることを考える。学びの基礎であり、読書の世界の入り口である本そのものを知る。

【到達目標】

読書の効果と指導の重要性を学び、学校図書館が行うさまざまな読書への働きかけ、方法を知る。本を紹介するスキルを身につけ、同時に具体的な本についての知識を身につける。学校図書館が行うべき活動とその方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

子どもの読書の効果、発達段階をどう考えるか、読書指導のねらいと方法の既存のものを比較検討し、そのあり方を考える。同時に学校図書館における多様な読書材、さまざまな本を知る。毎時間、本紹介の発表の時間を設ける。さらに本の魅力を伝えるための工夫、心構え、方法を学ぶ。読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリングなどを学ぶ。1回はゲスト講師による実演を味わう。授業内課題に対しては受講生同士の討論や講師からのコメントによって授業内容の理解を深めていく。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	読書と豊かな人間性とは	読書教育をどうとらえるか
第2回	読書とは何か	メディアの発達と物語需要の変化 推薦本のプレゼン「この本オススメ！」(2回以降毎回行う)
第3回	読書の効果	なぜ読書は必要か、読書が及ぼす効果
第4回	子どもの読書をめぐる状況(1)	文部科学省の施策、子どもの読書に関する法律など
第5回	子どもの読書をめぐる状況(2)	OECD学習到達度調査
第6回	読書と発達段階	読書の発達段階と指導
第7回	読書教育を考える(1)	朝の読書 読書感想文コンクール
第8回	読書教育を考える(2)	日米比較 フィンランド・メソッド
第9回	本の面白さを伝えるために(1)	読み聞かせ ブックトーク
第10回	読書指導の実践	ゲスト講師による読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク
第11回	本の面白さを伝えるために(2)	展示、パスファインダー
第12回	図書館見学	図書館でのサービス方法の調査
第13回	本の面白さを伝えるために(3)	読書のアニメーションと表現教育
第14回	発展的指導の方法	読書指導プランの中間発表 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この本オススメ!」の発表や課題のために児童や YA 向けの本（絵本や児童文学を含める）に対する調査が必要になる。学校図書館、公共図書館の児童コーナーや YA コーナー、書店に行く機会を作る。準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

『鍛えよう！読むチカラ 学校図書館で育てる 25の方法』 桑田てるみ監修
「読むチカラ」プロジェクト 明治書院 2012
『読み聞かせ この素晴らしい世界』 ジム・トレリス 亀井よし子訳 高文研 1987
『読書と豊かな人間性 新版』 朝比奈代作 米谷茂則 放送大学教育振興会 2015

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度、本紹介の発表「この本オススメ!」、レポート課題など。
平常点（授業時の発言など授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40%
課題（「この本オススメ!」の発表、見学レポート）：30%
読書指導の最終課題：30%

【学生の意見等からの気づき】

実践的な内容を取り上げるよう心がける

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や連絡に授業支援システム HULiC を使用する。必ず登録を行うこと。

【その他の重要事項】

本科目は司書教諭資格取得のための科目であるが、司書教諭資格を必要としない読書や読み聞かせに関心のある学生も受講できる。

【Outline and objectives】

読書の効果と指導の重要性を学び、学校図書館が行うさまざまな読書への働きかけ、方法を知る。本を紹介するスキルを身につけ、同時に具体的な本についての知識を身につける。学校図書館が行うべき活動とその方法を学ぶ。

情報メディアの活用

村上 郷子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館における情報メディア全般の特性を理解し、基本的なメディア情報リテラシーを習得する。

【到達目標】

司書教諭に必要なメディア情報メディアの基本的な知識、技能を習得することができる。例えば、学校図書館の広報誌、簡単な CM・動画広報、簡単な図表、パワポなど、限られた汎用ソフトを使って、制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学校図書館の利用と検索、情報機器の活用法、アプリケーションの活用法、プレゼンテーションの方法など、各項目の課題演習をこなすことによって、基本的なメディア情報リテラシーの取得を目指す。授業後半では、グループによる広報紙および CM・動画制作を行い、グループによるプレゼンを行う。

アンケート調査やプレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報メディアの特性と活用	情報実習室及び授業用グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス、「司書教諭」の規定、学校図書館とメディア
2	メディアの歴史（課題①、エクセル）	図書館資料とは何か、古代から現代までの主なメディアと歴史
3	レポート・論文の書き方（課題②、引用文献）	レポート・論文作成法 - 10 のステップ
4	検索の基礎理論（課題③、検索）	データベース、検索システム、論理演算、他
5	法政大学図書館	データベース検索の実際（有料データベース、洋書、他）
6	広報紙：見出しとレイアウト、ホームページの仕組みと作り方（課題④、PR 用ホームページ）（グループを決める）	読ませるための基礎理論、見出しとレイアウトの基本、ホームページの目的と機能、レイアウト
7	プレゼンテーションの基礎（課題⑤、パワーポイント）	プレゼンテーションの目的と方法
8	情報倫理・著作権（グループ活動によるプレインストーミング）	情報リテラシーと著作権、グループ活動
9	学校図書館からの情報発信①	グループによる広報紙制作（その1）、各班の広報紙タイトルと役割分担の決定
10	学校図書館からの情報発信②	グループによる広報紙制作（その2）、広報紙の構成、レイアウト、コンテンツの作成
11	学校図書館からの情報発信③	グループによる広報紙制作（その3） 広報紙の校正
12	学校図書館からの情報発信④	プレゼン・リハーサル
13	グループ・プレゼンテーション①	グループ・プレゼンテーション
14	情報メディアの活用・グループ活動総括	振り返り・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業以外にも演習課題の提出やグループによる広報紙制作を行う。課題をしっかりこなし、授業にも積極的に参加することが求められる。また、授業後半のグループ学習においては、班によっては授業外での活動も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【参考書】

・山本 順一・気谷 陽子著『情報メディアの活用』、放送大学教育振興会、三訂版、2016
・五十嵐絹子著『学校図書館ビフォー・アフター物語—図書館活用教育の全国展開を願って』、国土社、2009

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）、グループ・プロジェクト及びプレゼンテーション（30%）、個人のプロジェクト作品（30%）によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

課題のワードについてはほとんどの学生がある程度のスキル（画像の挿入、罫線・図表の作成など）を身につけているため、今回は割愛した。

【その他の重要事項】

授業では、グループによるプロジェクトの協働制作やプレゼンテーションを行うため、受講生には授業への積極的な参加が求められる。

【Outline and objectives】

Students will understand the characteristics of media and information resources in school libraries and acquire basic skills and knowledge of media and information literacy that are necessary for teacher librarians. Examples include creating school library PR, newsletters and videos.

情報メディアの活用

坂本 旬

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生は、情報メディア社会を生きる市民に必要なメディア情報リテラシーを育成するための学校図書館と情報メディア活用の基礎を学び、実践力を養う。

【到達目標】

- (1) 今日の情報メディア社会を生きる人間のあり方を考察することができる。
- (2) 学校図書館における情報メディア活用の実践力を身に付ける。
- (3) 情報メディア社会に生きる市民として求められるメディア情報倫理を理解する。
- (4) 情報メディアを活用した基礎的な映像制作スキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半はメディア情報リテラシーの基本的な考え方を学び、後半は実際の情報メディアを用いた創作活動を行う。新型コロナウイルス感染症流行が続く場合は、Zoomを用いたオンライン授業とする。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックは HULiC を通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
- ・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

この授業は、基本はオンラインとし、受講者数や各授業回の内容に応じて、対面で実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や学習方法、司書課程専用授業支援システムの使い方などを解説する
2	高度情報社会と人間	グローバル化するメディア社会の特徴を考える
3	情報メディアの発展と社会の変化	情報メディアの発展と社会の変化の関係を考える
4	情報メディアの特性と選択	情報・メディアの特性と活用のためのメディア情報リテラシーの概念を学ぶ
5	情報倫理と市民社会	市民社会における著作権や肖像権、表現・情報の自由などの情報倫理を学ぶ
6	情報メディアの種類とその特性	さまざまな情報メディアの種類と特性を学ぶ
7	情報リテラシーと情報検索・探究学習	情報リテラシーと情報検索・探究学習の関係を具体例を通して学ぶ
8	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館が情報リテラシー教育の中心に位置することを学ぶ
9	視聴覚メディアとメディア・リテラシー	視聴覚メディアとメディア・リテラシーの関係を学ぶ
10	視聴覚メディアの活用と学習	視聴覚メディアの仕組みと学習についての基本的な理論を学ぶ
11	学校図書館とコンピュータ・情報発信	デジタル・ストーリーテリングを学校図書館で活用する方法を学ぶ
12	映像制作の実際	映像制作の過程を実践的に学ぶ
13	映像評価の実際	映像を評価する方法を実践的に学ぶ
14	映像作品の発表会	映像作品を発表し、評価をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

司書課程用授業支援システム (HULiC) を用いて、事前に準備された予習や宿題等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディア情報教育学』（法政大学出版局）2014 年

【参考書】

ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』

右のサイトからダウンロードできます。<http://amilec.org/>

寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』（2021 年）

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50%、提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業になっても積極的にワークショップを取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコンなどの映像制作可能な情報機器。新型コロナウイルス感染症流行のため、オンライン授業となる場合は、オンライン授業に用いる端末が必要である。

【その他の重要事項】

授業の中で映像制作を行うため、欠席はなるべくしないこと。

【Outline and objectives】

To study basic theories of digital media and information literacy for school librarians

To produce digital storytelling video about books and reading life

社会教育演習

久井 英輔

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（授業の概要）

社会教育実践分析に必要な基本的視点、知識を学ぶための文献講読を行う。また、その視点、知識を活用して、実際の社会教育実践の現場（社会教育施設など）での実地調査を実施し、調査結果をもとに受講者各自でレポートを作成・発表する。

（授業の目的・意義）

文献講読、実地調査、レポート作成を通じて、社会教育士、社会教育主事に求められる実践的な研究能力（地域社会で行われている社会教育実践の性格と背景を客観的に把握し、あわせて現実的な提言をおこなう）を獲得する。

【到達目標】

社会教育施設、社会教育行政と関連する制度、社会教育をめぐる連携のあり方に関する基本的な視点と知識を得る。また、これらの視点・知識を生かして、実際の社会教育事業に対して客観的把握と実践的提言を行える力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半は、社会教育実践の分析に必要な基本的な視点、知識について、文献講読（発表・討論）を通じて学ぶ。後半は、社会教育施設等での実地調査や、既存の社会教育実践分析の事例の検討を踏まえて受講者各自で実践分析のレポートを作成し、それを基に討論を行う。学生の文献講読発表、実践分析レポート発表などに対しては、発表後の授業内での討論や授業後のアドバイス（対面、メールなど）等の形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会教育実践分析の概観①	演習の実施方法について、問題関心を共有する
第 2 回	社会教育実践分析の概観②	学習活動としてみたときの社会教育の位置づけについて、概観する。
第 3 回	社会教育実践分析の概観③	社会教育実践の歴史的展開について、概観する。
第 4 回	社会教育実践の場を知る①	社会教育施設の体系と各種施設の役割について、文献講読を通じて理解する。
第 5 回	社会教育実践の場を知る②	公民館およびそれに類似する施設の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 6 回	社会教育実践の場を知る③	青少年教育施設、女性教育施設の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 7 回	社会教育の制度を捉える①	多様な社会教育のとりくみとその中における社会教育行政の位置づけについて、文献講読を通じて理解する。
第 8 回	社会教育の制度を捉える②	社会教育行政の仕組みとその課題について、文献講読を通じて理解する。
第 9 回	社会教育の制度を捉える③	社会教育における行政・施設職員や支援者の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。

第 10 回	社会教育における連携を巡る①	社会教育行政と多様な主体の間で行われる連携の概要について、文献講読を通じて理解する。
第 11 回	社会教育における連携を巡る②	社会教育行政と学校教育の連携の意義と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 12 回	社会教育における連携を巡る③	社会教育行政と住民自治活動、地域振興活動の連携の意義と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 13 回	実地調査の構想発表①	社会教育施設の実地調査に際して、各受講者が具体的な問題関心を発表する。
第 14 回	実地調査の構想発表②	社会教育施設の実地調査における具体的な調査項目について、各受講者が自身の問題関心に基づいて発表する。
第 15 回	社会教育施設・実践の実地調査①	社会教育施設を訪問し、事業の見学、施設経営に関する職員からの説明を受ける。
第 16 回	社会教育施設・実践の実地調査②	社会教育施設を訪問し、事業、施設経営に関して、職員に対するインタビュー調査を行う。
第 17 回	実践分析の方法論①	公民館のとりくみに関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 18 回	実践分析の方法論②	青少年教育施設または女性教育施設のとりくみに関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 19 回	実践分析の方法論③	社会教育施設経営に関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 20 回	実践分析の方法論④	社会教育職員、支援者の専門性に関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 21 回	実践分析の方法論⑤	社会教育行政事業と学校教育との連携に関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 22 回	実践分析の方法論⑥	社会教育行政事業と住民自治活動・地域振興活動との連携に関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 23 回	調査レポート作成の進捗状況発表①	社会教育施設経営のあり方をテーマとする受講生がレポート作成の進捗状況を報告し、内容を検討する。
第 24 回	調査レポート作成の進捗状況発表②	社会教育行政、職員の専門性のあり方をテーマとする受講生がレポート作成の進捗状況を報告し、内容を検討する。
第 25 回	調査レポート作成の進捗状況発表③	社会教育行政と多様な主体との連携のあり方をテーマとする受講生がレポート作成の進捗状況を報告し、内容を検討する。
第 26 回	社会教育実践の調査レポート発表・討論①	社会教育施設経営のあり方をテーマとする受講生が最終的なレポート報告を行い、内容についてディスカッションを行う。
第 27 回	社会教育実践の調査レポート発表・討論②	社会教育行政、職員の専門性のあり方をテーマとする受講生が最終的なレポート報告を行い、内容についてディスカッションを行う。
第 28 回	社会教育実践の調査レポート発表・討論③	社会教育行政と多様な主体との連携をテーマとする受講生が最終的なレポート報告を行い、内容についてディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回の授業の前に課題の講読文献を予め読んでおくこと。

- ・各回の文献発表担当者は、丁寧な要約と、ディスカッションの論点となるコメントを用意すること
- ・調査レポートの作成は基本的に授業時間外となるので、計画的な執筆を心がけること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたは PDF ファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】

鈴木真理、伊藤真木子、本庄陽子編『社会教育の連携論：社会教育の固有性と連携を考える』学文社、2015 年
鈴木真理、井上伸良、大木真徳編『社会教育の施設論：社会教育の空間的展開を考える』学文社、2015 年
鈴木真理、稲葉隆、藤原文雄編『社会教育の公共性論：社会教育の制度設計と評価を考える』学文社、2016 年

【成績評価の方法と基準】

社会教育実践に関する個人レポート 40 %
文献講読発表 30 %
討論への貢献度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「社会教育演習」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための科目である。

【Outline and objectives】

In this course student are needed to read texts, make presentation, and discuss the topics for learning basic knowledge and viewpoints indispensable to analyses on social education activities. Students are also needed to conducting surveys on social education activities, mainly in social education facilities, and to write reports utilizing data of the survey.

This course aims to help students acquire proper abilities of practical research for social education advisers and supervisors (ability to grasp the characteristic of each social education activity and its background, and to make realistic proposals for the activity) by reading texts, conducting surveys, and writing reports.

生涯学習支援論 I

久井 英輔

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(授業の概要)

社会教育の場における様々な学習者の特性や、それらの学習活動を支援する手法の基本的な考え方について解説する。

(授業の目的・意義)

多様な学習者の特性に関する議論や学習者への支援手法について、これらを単に手段的な知識として理解するだけでなく、その社会的・歴史的背景をふまえることにより、社会教育における学習支援のあり方を深く理解する。

【到達目標】

社会教育における学習者の特性に関する基本的な理論、学習支援の手法に関する基本的な手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。必要に応じて、コメントシート提出に代え、重要な論点に関するグループ・ディスカッションと全体での議論の共有などを行う場合もある。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯学習・社会教育における多様な学習者	学校教育と比較したときの生涯学習・社会教育における学習者の多様性について概観する。
第 2 回	自己教育、相互教育の思想と方法①	学習者の自発性と相互性を重視した戦前期日本の先駆的な理念・実践について解説する。
第 3 回	自己教育、相互教育の思想と方法②	初期公民館構想（寺中構想）や共同学習論など、学習者の自発性と相互性を重視した戦後日本の主要な理念・実践について解説した上で、そこに見られる学習支援の考え方について理解を深める。
第 4 回	成人学習論の展開①	M. ノールズの提唱したアンドラゴジー、自己主導的学習など、成人学習論の基礎的な知見とそれらの社会的・歴史的背景について解説する。
第 5 回	成人学習論の展開②	J. メジローの変容的学習理論など、ノールズ以後の成人学習論の展開とその意義について解説した上で、成人学習論の実践的意義について理解を深める。
第 6 回	高齢者への学習支援①	学習者としての高齢者の特性や、高齢者を対象とした学習支援の手法に関する議論について解説する。

第7回	高齢者への学習支援②	高齢者を対象とした学習プログラムの事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
第8回	子ども・若者への学習支援①	社会教育における学習者としての子ども・若者の特性や、子ども・若者を対象とした学習支援の手法に関する議論について解説する。
第9回	子ども・若者への学習支援②	高齢者を対象とした社会教育の学習プログラムの事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
第10回	生涯発達論の展開	R. ハヴィガースト、E. エリクソン、D. レヴィンソンら、生涯にわたる発達を視野に入れた代表的な議論について解説する。
第11回	特別な支援を要する学習者への視点①	学習活動への参加に対して、障害など様々な理由から困難を抱える学習者の状況や、社会教育における「合理的配慮」のあり方について解説する。
第12回	特別な支援を要する学習者への視点②	社会教育施設や学習プログラムにおける「合理的配慮」の事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
第13回	オンラインによる学習支援の現在	COVID-19 対策として現在各地の社会教育現場で取り組まれている、オンラインの学習支援の取り組みの意義と課題について解説する。
第14回	授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基にグループ・ディスカッション等の形を用いて、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回の授業の前に教科書の関連箇所を予め読んでおくこと。
- ・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所、コメントシートに対する教員のリプライの内容を確認すること。
- ・最終レポートの課題を意識しつつ、これらの予復習を行うこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020年

【参考書】

高井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019年

【成績評価の方法と基準】

コメントシート 25 %
 ディスカッションへの貢献度 25 %
 最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline and objectives】

This course provides students with knowledge and viewpoints on characteristics of various learners and methods for supporting learners in social education.

This course aims to deepen students' understanding of various types of learners and basic methods for supporting their learning activities so as to understand these topics not only as instrumental knowledge, but also from the viewpoint of their social and historical context.

生涯学習支援論 I

朝岡 幸彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・生涯学習における学習支援は、公的社会教育に代表される専門職資格制度と社会教育施設の枠組みに依拠するとともに、社会に広く存在する学習機会においても重要な役割を果たしている。この授業では、社会教育関連法等に規定された代表的な社会教育専門職制度と社会教育施設の役割を学ぶとともに、地域づくりや社会問題解決の枠組みの中で実践されている学習支援のあり方について検討する。

主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】

社会教育・生涯学習における学習支援の本質と意義を理解し、社会教育・生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。

毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	学習支援とは何か	社会教育・生涯学習における学習支援は、学校等の定型教育とどのような違いがあるのかについて考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令における学習支援の仕組み	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令における専門職制度や社会教育施設の役割について理解する。
第 3 回	社会教育主事制度	社会教育法に規定された社会教育主事資格について学ぶ。
第 4 回	公民館と主事	公民館の特徴と公民館主事等の専門職の役割について学ぶ。
第 5 回	図書館と司書	図書館の特徴と専門職としての司書の役割について学ぶ。
第 6 回	博物館と学芸員	博物館の定義と役割の変化について学ぶ。
第 7 回	学校一斉休校は正しかったのか？	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）での教育政策のあり方を通して学習支援について考える。
第 8 回	学校と教育委員会	COVID-19 での学校と教育委員会の対応を通して学習支援について考える。
第 9 回	公民館・社会教育施設	COVID-19 での公民館・社会教育施設の対応を通して学習支援について考える。
第 10 回	図書館	COVID-19 での図書館の対応を通して学習支援について考える。
第 11 回	博物館・美術館・動物園・水族館	COVID-19 での博物館・美術館・動物園・水族館の対応を通して学習支援について考える。
第 12 回	屋外教育施設・自然学校	COVID-19 での屋外教育施設・自然学校の対応を通して学習支援について考える。
第 13 回	生涯学習社会を生み出す力	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に職員はどう向き合ったのか、どのように対応すべきなのかについて考える。
第 14 回	ふりかえり	この授業で学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水谷哲也・朝岡幸彦編著『感染症と教育』筑波書房 2021 年（5 月刊行）

【参考書】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018 年
社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所 2017 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（ワークシートを含む）100 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline and objectives】

Learning support in social education/lifelong education plays significant role in the context of providing various learning opportunities. It relies on the system of professional qualification ran by the public social education and relies on the framework of social education institution. In this class, participants will learn the representative system of professional qualification prescribed to social education-related laws and will learn the role of social education institution. Participants will also discuss the way of learning support in the context of community development and solving social problems.

生涯学習支援論Ⅱ

久井 英輔

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育における実践的な学習支援技法、学習プログラムの作成手法について解説し、学んだ知識を活用した学習プログラム案作成のグループワークを行う。

（授業の目的・意義）

グループワークによる学習プログラム案の作成というプロセスを通じて、社会教育職員あるいは支援者にもとめられる実践知（理論知を現実の状況に応じて適切に活用する能力）を体得する。

【到達目標】

社会教育における様々な学習支援技法（ワークショップ、ファシリテーションの技法など）や、それらの技法を利用した学習プログラムの作成手法を理解する。また、これらの知識を生かして学習プログラム案を作成する基本的な実践力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初の数回は、基本的な学習支援技法、学習プログラム作成の基本的な手法に関する講義を行う。その上で、具体的な自治体／地域を想定して、グループワークによって学習プログラム案（対象地域の特性の把握、実際の自治体社会教育計画の把握、学習プログラムの目的・概要と展開案、参加者対象アンケート案、広報案）を作成していく。作成した学習プログラム案については、教員からだけでなく、学生相互にコメントし、個々人でより改善を進めたものを最終レポートとして提出する。グループワークでの課題に対する教員からのフィードバックは、授業内でのディスカッションを通して、及び、メールを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	多様な学習支援技法①	社会教育の学習プログラムにおけるグループワークで用いられる諸技法について解説する。
第 2 回	多様な学習支援技法②	社会教育の学習プログラムにおいて用いられるファシリテーションの基本的な考え方について解説する。
第 3 回	学習プログラム作成の基本的な手法①	社会教育の学習プログラム案作成の基本的な視点、および標準的な手順について解説する。
第 4 回	学習プログラム作成の基本的な手法②	学習プログラム案作成にあたって必要な、地域社会の特性・課題把握の方法について解説する。
第 5 回	学習プログラム作成の基本的な手法③	学習プログラムの広報、および、受講者アンケート実施に必要な基本的事項について解説する。
第 6 回	社会教育の現場における学習プログラム①	公民館または生涯学習センターを訪問し、実際の学習プログラム実施状況を見学した上で（可能であれば一般受講者とともにプログラムに参加）、学習プログラムの企画・準備について、施設職員とディスカッションを行う。

第 7 回	社会教育の現場における学習プログラム②	青少年教育施設または男女共同参画センターを訪問し、実際の学習プログラム実施状況を見学した上で（可能であれば一般受講者とともにプログラムに参加）、学習プログラムの企画・準備について、施設職員とディスカッションを行う。
第 8 回	地域課題の把握①	任意の地域（市町村など）を各受講者が選定し、その地域の課題、教育・学習・文化環境や、社会教育に関わる政策環境について把握する。
第 9 回	地域課題の把握②	前回の個人ワークの成果を基に、グループワークによって学習プログラムを作成する際に前提とする地域を選定し、地域課題に関する考察を深める。
第 10 回	学習プログラム案の作成①	学習プログラムの目的・概要、事業評価の方法をグループワークで作成する。
第 11 回	学習プログラム案の作成②	学習プログラムの各回実施内容の詳細を、グループワークで作成する。
第 12 回	学習プログラム案の作成③	学習プログラムにおいて実施する受講者アンケート案を、グループワークで作成する。
第 13 回	学習プログラム案の作成④	学習プログラムの内容に対応した広報案を、グループワークで作成する。
第 14 回	学習プログラム案の発表と検討	グループ毎に完成した学習プログラム案を発表し、ディスカッションをとおして、改善すべき点を把握する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・個人ワーク、グループワークともに、授業時間外での準備時間が十分に必要となるので、留意すること。
- ・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020 年

【参考書】

高井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019 年

【成績評価の方法と基準】

地域課題把握に関する個人レポート 25 %
 学習プログラム案の発表 25 %
 グループワーク、ディスカッションへの貢献度 25 %
 学習プログラムの改善案（最終の個人レポート） 25 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC（グループワーク等で使用）

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline and objectives】

This course provides students with knowledge on practical methods for supporting learners and for planning learning programs in social education. Addition to this, this course supports group work of students for planning learning programs by utilizing basic knowledge.

This course aims to help students acquire “practical knowledge” (the ability of utilizing theoretical knowledge according to situation) for staffs or learning supporters of social education, by experiencing the process of planning learning programs.

生涯学習支援論Ⅱ

朝岡 幸彦

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に理解するために、「湿地」というフィールドを設定し、そこにおける湿地教育のあり方から学習支援の方法や課題を学ぶ。学習支援が持つ広がりや専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】

社会教育・生涯学習における学習支援の具体像を、フィールドの特性や地域・市民との関わりの中で理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に考えるために、それぞれの課題に即して調査し、実際の学習支援のあり方について理解を深める。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「社会に埋め込まれた学習」と社会教育・生涯学習	社会教育・生涯学習における「学習」の特質を考える。
2	SDGs と「湿地」というフィールドの意味	「湿地」というフィールドが SDGs においてどのような意味をもつのかを考える。
3	「湿地教育」という概念について	「湿地教育」という概念について、教育的な意味を考える。
4	水のつながりに生きる学び	「水」をとおしてどのような学びが成立し、そこにどのような「つながり」が生まれるのかを考える。
5	CEPA における体験学習の役割	湿地の保全・活用における CEPA の意義を検討することを通して、体験学習の意味と支援について考える。
6	学校教育における海洋教育の展開	学校における海洋教育の実践を通して、学校教育における学習支援の方法について考える。
7	「海洋教育」という物語	気仙沼市を事例に、「海と生きる」ことの意味を問う学びについて考える。
8	タンチョウ保護と共生のための湿地教育	釧路湿原におけるタンチョウの保護活動を通して、湿地教育と学習支援について考える。
9	ツルに関わる環境教育・活動の意義	出水市におけるナベヅル、マナヅルの保護活動を通して、湿地教育と学習支援について考える。
10	地域づくりと「湿地の文化」教育	「湿地の文化」という視点から地域づくり学習と学習支援のあり方について考える。
11	エコロジストが考える地域の人づくり	エコロジーと地域づくりという視点から、人材養成のあり方を考える。
12	「湿地」をめぐる多様な学習と学習支援	「湿地」というフィールドに存在する多様な学習のあり方を通して、その学習支援の意味について考える。
13	学習支援の「現場」について	社会教育・生涯学習において学習を支援する仕事において、「現場」（フィールド）がもつ意味について考える。
14	ふりかえり	この授業で学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの講読。

授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

朝岡幸彦・笹川孝一・日置光久編著『湿地教育・海洋教育』筑波書房 2019 年

【参考書】

随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

テキスト等からの課題レポート（ワークシート） 80 %

平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業のアンケートをもとに改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するため、(できれば) 携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他】

授業中に出題される課題を提出すること。

【Outline and objectives】

To make concrete and profound understanding of learning support, we will place "wetland" as a field to learn the method and problems of learning support. The course's aim is to understand the expertness and extension of learning support.

現代生活・文化と社会教育 I

鈴木 悌遍

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域と企業と「職場における学び」の関係性について学ぶ。授業ではまず、地域と地域の資源、企業の活動との関係について解説する。その上で企業の持続的活動のために、「職場における学び」が果たす役割について学ぶ。

つぎに会津若松市とランドセル業界の変遷を解説する。2 つの変遷を踏まえた上で、具体的な事例としてランドセル会社羅羅屋による「職場における学び」について学ぶ。

その後ランドセル業界以外の地域企業の事例を示す。

学期後半では学生各位が興味を持った地域企業について調べ、発表、学生同士で議論を行い、理解を深める。

希望者にはランドセル工場見学の実習を行う。

【到達目標】

・社会教育士・社会教育主事、また広く地域における学習コーディネーターを志す学生が、地域企業と社会教育との関わりについて理解を深める機会を提供する。

・そのために、ほとんどの学生が使った経験を持つランドセル業界に焦点を当て、設計・製造・販売・経営と雇用創出をふくめた地域貢献に実際について理解を深める。

・また特に、そこで働いている人々の人生や職業、自己研鑽、人材育成について、詳述し、希望者について別の日程で現場見学の機会を設け、生涯学習・社会教育との関係を考える。

・学期後半ではそれぞれの学生が興味のある「地域企業と社会教育」の事例を調べ、発表をし、議論を行い、社会教育士・社会教育主事として実践的に活躍できる能力を身につけることを目指す。

・実際に地域企業の経営に携わる者としての経験を活かした授業を行うことを心掛ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習（事例研究と発表、議論）を中心に授業を進める。実習は別途、希望者のみ参加でおこなう。

毎週提出してもらいうりアクションペーパーに対してはできる限り次回の授業までにフィードバックし、また授業内でも取り上げる。

学期末の発表に対しては個々へのフィードバックし、授業内でも講評する。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域企業と社会教育	地域と企業の持続的関係性のためには「職場における学び」が重要であることを学期の講義内容の説明とともに学ぶ。
第 2 回	地域の資源と企業と社会教育 1	企業と企業活動に必要な資源（資本、労働力、原材料等資源、資金・信用、指導・規制・社会資本、理解・支持）と地域の関係について学ぶ。
第 3 回	地域の資源と企業と社会教育 2	地域と企業が行う実践について、具体的事例を学ぶ。
第 4 回	地域の資源と企業と社会教育 3	社会教育の視点から、地域と企業が行う実践について、具体的事例を学ぶ。
第 5 回	地域と企業と社会教育 1	ランドセル会社羅羅屋を素材に、地域の産業の移り変わりや地域の社会教育の変化について学び、議論する。
第 6 回	地域と企業と社会教育 2	地域企業の事例研究 1（地域企業の事例について学び、議論する）
第 7 回	地域と企業と社会教育 3	地域企業の事例研究 2（地域企業の事例について学び、議論する）
第 8 回	地域と企業と社会教育 4	地域企業の事例研究 3（地域企業の事例について学び、議論する）
第 9 回	地域と企業と社会教育 5	地域企業の事例研究 4（地域企業の事例について学び、議論する）
第 10 回	地域と企業と社会教育 5	地域企業の事例研究 5（地域企業の事例について学び、議論する）
第 11 回	地域企業と社会教育 1	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 1）
第 12 回	地域企業と社会教育 2	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 2）
第 13 回	地域企業と社会教育 3	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 3）

第 14 回 まとめ

それまでの授業内容を踏まえて、「地域企業と社会教育」の関係、社会教育士・社会教育主事・地域学習コーディネーターの役割を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。準備とは、学期末の発表に向けた時間。復習とは授業内容についての個々の振り返りとリアクションペーパーを書き、提出することである。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業内の発表やコメントペーパー等（80%）、発表用レポート（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

座学のあとにグループワークをおこない、講師の一方的な授業進行は行わない。

【その他の重要事項】

外資系コンサルティング会社勤務を経て、WEB コンサルティング会社、WEB 開発会社、EC 会社、ランドセル会社を営む。

実務者の目線、生活者の目線から、企業と地域と社会教育について講義を進める。

講義を通して、受講者の調査、発表、議論能力の向上に努める。

授業で使用したスライドに関しては授業後共有する。メール等にて質問、相談等を常時受け付ける。

提出してもらったリアクションペーパーには可能な限り返信する。

【Outline and objectives】

In this lecture, students will learn about the relationship between local communities, companies and “learning in the workplace”.

The case study is Raraya, which produces Japanese traditional school bag (called “Randoseru”) company in Aizuwakamatsu.

Afterwards, other local companies case studies will be introduced.

In the second half of the semester, students will conduct case studies and make presentations.

Fieldwork will be conducted for those who are interested.

現代生活・文化と社会教育Ⅱ

佐々木 美貴

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を生かした地域づくりを調べ報告することや、社会教育プログラムを作る作業も行う。また、私たちの暮らしと身近な自然に関係が深い生物多様性条約やラムサール条約の精神と社会教育との関係、日本各地で実践されている自然の恵みを活用した暮らしや地域づくりと、それを支える知恵や技の具体例、交流・力量形成・教育・参加・気づき（Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness: CEPA）の実践例等を取り上げる。

【到達目標】

①人々の暮らしは自然の恵みに依存して成り立っていること、②日本各地には身近な自然を保全しながら暮らしや地域づくりに役立てるための知恵や技（文化と技術）が数多く蓄積され、現在も発展されていること、③それらをふまえて行われている社会教育実践の実際の姿、④社会教育主事・社会教育士と学習支援の能力、以上4点を理解することが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を生かした地域づくりについて調べ報告することや、社会教育プログラムを作り、発表・ディスカッションする作業も行う。また、毎回の授業の最後に、授業の感想・質問などを記入して提出する。この内容については、次回の授業の最初に取り上げる。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス、身近な自然を活かした暮らし	授業の内容、進め方、成績評価基準など、この授業について説明する。身近な自然を活かした暮らしについて考える。
第2回	私たちの暮らしと自然の恵み	飲み水や海産物・農作物などの食料等、自然の恵みによって、私たちの暮らしが支えられていることを考える。
第3回	私たちの暮らしと自然を活かした地域づくり・まちづくり	身近な自然を活かした地域づくり・まちづくりについて、具体例を調べ・報告し、クラス内でディスカッションする。
第4回	私たちの暮らしと生物多様性条約・ラムサール条約	暮らしを支える、水田や干潟、湖沼などの「湿地」、多様な生物の保全や活用を支える二つの国際条約とその構造について考える。
第5回	二つの条約と「交流・力量形成・教育・参加・気づき」=CEPA	ラムサール条約を中心に、保全や活用を支える CEPA の役割や実際の活動を考える。
第6回	CEPA と「社会教育」	二つの条約の CEPA と「環境教育」「持続可能な開発のための教育 (ESD)」との関係、「社会教育」「生涯教育」との関係を考える。
第7回	社会教育主事・社会教育士と学習支援の能力	社会教育主事や社会教育士に求められる、課題を解決するための学習支援の能力について考え、クラス内でディスカッションする。
第8回	自然の恵みの文化①（保全・再生）	新潟の「潟普請」などに即して、保全や再生にかかわる活動を考える。
第9回	自然の恵みの文化②（ワイズユース）	「ふゆみずたんぼ米」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる活動を考える。
第10回	自然の恵みの文化③（CEPA）	ふるさと絵屏風やワークショップ等の事例に即して、CEPA にかかわる活動を考える。
第11回	これからの社会教育と身近な自然を活かした「地域の活性化」	自然を身近に感じ、地域の活性化につなげるための社会教育について考える。
第12回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る①	「生きもの調査」や世代間を結ぶワークショップ等の身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作るための手順を考える。
第13回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る②	①で考えた手順に即して、自分が行いたい社会教育プログラムを実際に作る。また、互いのプログラムに評価する手法を考える。

第14回 社会教育プログラムの発表会・まとめ 実際に作った社会教育プログラムを発表し、互いに評価し合う。また、授業全体を振り返り、この授業への理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自然の恵みと自分との関わりを観察しておくこと。自分にとっての身近な自然を1つ探し、そこを活かした地域づくりやまちづくりの事例がないか、調べる。自然にかかわる大人を対象とした社会教育プログラムを作成するため、関心のある事例を調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『湿地の文化と技術 33 選～地域・人々とのかかわり』日本国際湿地保全連合 2012年 授業内で配布

【参考書】

生物多様性条約とラムサール条約の本文及び決議、『干潟生物調査ガイドブック～東日本編』、環境省『日本のラムサール条約湿地』『ラムサール条約湿地とワイズユース』パンフレット等 必要に応じて授業内で配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加（50%）と作成した社会教育プログラムの発表（50%）によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の感想と質問は、翌週の授業のはじめに伝えるようにしている。生物多様性について身近に感じられるよう、ビデオ等を使った授業を行っている。

【Outline and objectives】

Focusing on lectures and videos, we will also investigate and report on community development that makes the most of the nature around us, and create social education programs. Also, biodiversity that is closely related to our lives and the nature around us. The relationship between the spirit of the treaty and the Ramsar treaty and social education, living and community development utilizing the blessings of nature practiced in various parts of Japan, specific examples of wisdom and techniques that support them, and practical examples of CEPA (Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness) will be taken up.

博物館概論

金山 喜昭

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学術、文化施設としての博物館について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】

博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法、関連法令などを取り上げる。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	博物館とは何か？博物館の定義などについて概説する。
第2回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。
第3回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第4回	博物館学史	博物館学の学史を概観する。
第5回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第6回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第7回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第8回	博物館の資料論	博物館が取り扱う資料について解説する。
第9回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第10回	博物館と地域社会Ⅰ	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第11回	博物館と地域社会Ⅱ	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。
第12回	博物館と災害	博物館学芸員による特別講義 現代の災害のリスク管理について解説する
第13回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第14回	総括	授業内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。

東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーであるために常設展を無料で見学できるので活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】

金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）

金山 喜昭『公立博物館をNPOに任せたら－市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）

金山 喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題提出）（40%）

課題レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】

This course aims to understand “What is a museum?” as a cultural facility and learn its social role and significance.

博物館経営論

金山 喜昭

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の経営の現状とその課題や改善に学ぶ。

【到達目標】

博物館の適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館や美術館の運営形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。実際の博物館の経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深める。

最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館経営とは何か？	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第 2 回	博物館の経営基盤	博物館の経営基盤について概説する。特に、組織体や職種のほか、関連する行財政制度や人材育成面について、その特徴を解説する。
第 3 回	博物館経営の現状Ⅰ（公立博物館）	公立博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 4 回	博物館経営の現状Ⅱ（民間博物館）	民間博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 5 回	博物館の使命・社会的役割Ⅰ	博物館の社会的使命、行動規範・倫理ならびにリスク・マネジメント（危機管理）やコンプライアンスについて解説する。
第 6 回	博物館調査に入るためのガイダンス	博物館の経営調査をグループ・ワークで進めるための準備作業。調査から発表に至るまでの方法・プロセスや留意点を説明する。
第 7 回	博物館の使命・社会的役割Ⅱ	博物館の社会的使命、行動規範・倫理ならびにリスク・マネジメント（危機管理）やコンプライアンスについて解説する。
第 8 回	独立行政法人博物館、地方独立行政法人博物館の経営と課題	東京国立博物館・国立科学博物館、地方独立行政法人の経営状態と課題や展望について解説する。
第 9 回	博物館行政と博物館経営	博物館経営に関する制度を解説する。
第 10 回	インバウンド観光と博物館経営	博物館経営における観光の考え方や展望について解説する。
第 11 回	博物館における連携・ネットワーク	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の事例を扱う。
第 12 回	博物館経営調査Ⅰ（調査・分析）	実際にグループワークで博物館の経営状況について調査・分析し、その成果をまとめる。
第 13 回	博物館経営調査の実際（報告／討議）	グループワークで調査・分析した成果を発表・報告し、各事例について相互に討議・解説する
第 14 回	本授業の総括	本授業の内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山喜昭 編『転換期の博物館経営』（同成社、2020）

【参考書】

金山喜昭『博物館と地方再生』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、レポート課題（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】

This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.

博物館経営論

杉長 敬治

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と日本の博物館の経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】

日本の博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。この変化に伴い、博物館に求められている役割や期待も、大きく変わりつつあります。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館経営に関する基本事項について講義し、受講生には、博物館を視察した成果を踏まえてレポートを提出してもらいます。受講生のリアクションペーパー等でのコメントや授業内容に即した課題レポートは、授業で取りあげ、講義内容の理解を深めるために活用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス－博物館経営の基本概念と博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館の使命がどのように設定されているかについて学習する。また、使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこととその背景）について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の動向について学習する。
5	博物館におけるマーケティングについて	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本概念とマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
6	博物館の広報活動－現状と課題	博物館の広報活動の現状と求められている広報戦略（ブランド戦略を含む）について学習する。
7	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力－現状と課題	博物館の支援組織（友の会・後援会）とボランティアについて学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
8	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
9	国立博物館の経営－現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、国立博物館の経営上の課題について学習する。
10	公立博物館の経営－現状と課題	公立博物館の行財政制度、指定管理者制度、地方独立行政法人制度、国の公立博物館に関する政策について学習する。

11	私立博物館の経営－現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
12	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理について・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、博物館経営の観点から博物館を観察・分析するマインドと方法を身につけてください。教科書と参考図書は、講義内容の理解を深めていく上で欠かせないものです。他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでいきますので、積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書「転換期における博物館経営」（金山喜昭編、同成社、2020年4月22日発行、価格2,700円+税）を使用します。また、教科書で言及していない内容は、資料を授業支援システムに掲載します。

【参考書】

①ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、②マネジメント、P. F. ドラッカー、ダイヤモンド社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一・稲葉郁子、日本経済新聞社、④公立博物館をNPOに任せたら、金山喜昭著、同成社、⑤博物館と地方再生、金山喜昭著、同成社、⑥思想としてのミュージアム、村田麻里子、人文書院、⑦文部科学省の社会教育調査（https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/）、⑧その他（授業中に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】

博物館経営についての理解の度合いを判定するため、レポートにより評価します。レポートの配分は、①授業期間中の指摘した時期に提出す課題レポート（授業時に示す課題から5題を選択して提出）が50%、②第14回授業時に提出する課題レポートが50%です。②の課題レポートは、i 指定した教科書、講義内容から出題するもの又はii（新型コロナウイルス感染症がおさまり、博物館の見学に支障がない状況になれば）特定の博物館に関する経営分析に関するもの、2つの何れかを選択してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんの授業理解が深まるよう進行速度を調整しながら講義します。授業内容に不明な点がある時には、質問をしてください。質問には、授業支援システムを使って回答します。また、授業環境に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】

教材の配付や諸連絡は、授業支援システムで行います。各回の授業の前後に必ず支援システムにアクセスをしてください。

【その他の重要事項】

この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目の一つです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館経営に関心のある方の受講も念頭に置いて、授業を進行していきます。①疑問、質問、ご意見は、授業への参画のための重要なツールで、授業を面白くする上でも重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館での勤務経験を踏まえて、博物館現場の姿を伝えることに力点を置きたいと思えます。

【Outline and objectives】

Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums.

博物館資料論

田中 裕二

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」「公開」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】

博物館を、「資料」という観点から理解することを旨とする。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通じた教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。学生の積極的な参加を促すために、グループ・ディスカッションや課題のプレゼンテーション等も適宜実施する。また最低一度は、博物館でのフィールド調査を課す予定。提出されたレポートはコメントを付して返却すると共に、授業内で取り上げ課題とコメントを共有する。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第2回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第3回	博物館の一次資料	博物館の一次資料について具体的に学ぶ。
第4回	博物館の二次資料	博物館の二次資料について具体的に学ぶ。
第5回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第6回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第7回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第8回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第9回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第10回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第11回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第12回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第13回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性化など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第14回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連した事例を各自で調べておくこと。授業内で活発な議論となるよう発言を促します。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを課す予定です。レポート課題作成のため若干の入館料が発生する可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】

授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加度（ディスカッションの姿勢や課題の成果など）：50%
期末試験（論述）：50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は完全オンラインだったため、コミュニケーションが取りにくかったが、今年度はオンデマンドと対面のハイブリッドを予定しており、活発な意見交換を期待したい。

【Outline and objectives】

Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials.

博物館教育論

渡邊 祐子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ミュージアムにおける教育活動の理念、活動の基礎となる学習理論、国内外のミュージアムの具体的な事例に関する講義を通して、ミュージアムの教育的な役割と意義について理解を深めます。

【到達目標】

実際のミュージアムの利用体験と照らし合わせながら講義の内容について理解を深め、ミュージアムの教育活動に必要なとされる基礎的能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、講義と演習によって構成されます。また、授業内での発表や調べ学習の他、場合によってはアクションペーパーの提出があります。提出された課題等に対しては、授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の目的、進め方、計画、評価などの概要について説明します。
第 2 回	博物館教育とは何か	ミュージアムとは何か、「博物館教育」(museum education) とは何かについて学びます。また、なぜミュージアムにおいて教育が重視されるようになったのか、歴史をたどりながら理解していきます。
第 3 回	博物館教育の学習理論	ミュージアムでの学びにみられる特徴について、学校教育などとの比較をふまえて理解していきます。
第 4 回	教育資源としての展示	ミュージアムでの実物教授の学び(object-based learning) について理解し、教育的な活用事例を見ていきます。
第 5 回	展示見学	ミュージアムの展示を見学し、調べ学習をします。
第 6 回	ミュージアムと来館者をつなぐ①	ミュージアムの資料や展示を生かしたプログラムの実践事例を知り、プログラムの企画・立案のプロセスについて学びます。
第 7 回	ミュージアムと来館者をつなぐ②	ミュージアムが教育活動のために作成している教材やウェブなどの媒体、アーカイブの事例を知り、制作のプロセスを学びます。
第 8 回	ミュージアムと来館者をつなぐ③	ミュージアムで活躍する市民（アート・コミュニケータ）の役割と活動について学びます。
第 9 回	ワークショップ体験	ミュージアムで実践されているワークショップと同じ内容の活動を授業内で体験します。
第 10 回	プログラム・メイキング①	教育プログラムを立案するためのプロセスを理解したところで、グループごとに与えられたテーマに沿った企画を考えます。
第 11 回	プログラム・メイキング②	グループごとに与えられたテーマに沿った企画内容を考え、企画案を作成します。
第 12 回	グループ発表①	グループごとに作成した企画案を発表します。(前半)
第 13 回	グループ発表②	グループごとに作成した企画案を発表します。(後半)
第 14 回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、ミュージアムの見学や、その体験をもとにしたプログラム案の企画・発表を予定しています。そのため、授業内容と合わせて各館のホームページを閲覧して多様な教育プログラムについての知識を深めたり、授業内で紹介する博物館教育に関する報告書、文献等を読んだりするための、準備学習及び課題が適宜課されます。

授業外の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

J.H. フォーク・L.D. ディアキン『博物館体験』（雄山閣出版）
G.E. ハイン『博物館で学ぶ』（同成社）ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % と、期末試験 50 %（グループ発表及び試験）を合計して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度のため、特にありません。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn the philosophy and learning theory of museum education. And also you will deepen your understanding of the educational role and significance of museums through concrete examples of museums at home and abroad.

博物館教育論

山下 治子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】

- ①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
- ②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しあう。

リアクションペーパーなどによる感想や質問などについては、授業のなかで紹介したり、答えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	美術館での学び、ワークショップ生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	自然史系博物館での学び① 地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	自然史系博物館での学び② さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考として、『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】

雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【成績評価の方法と基準】

（出席数＋リアクションペーパー）（50%）＋レポート（30%）＋学期末試験（20%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

図書館制度・経営論

森 智彦

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館の法令と関連法規について解説して、主に公立図書館の基本設計から管理運営までの過程（プロセス）を、経営という観点から考察して解説する。

利用者への望ましいサービスを達成するには、図書館を開設する前の基本設計の時点から綿密に計画する必要がある。図書館統計から図書館サービスの指標を導き出して、サービス対象となる利用者の特性を考えて、地域や母体組織（学校、大学、企業など）に相応した図書館像を考えたい。

図書館の財務管理や、人事管理、などをめぐる諸問題についても触れ、PFI、指定管理者制度、民間活力導入の問題が、今後の図書館経営に与える影響についても考察する。

【到達目標】

- ・公立図書館の運営について説明ができる。
- ・PFI、指定管理者制度などの新たな公共機関の運営方法について説明できる。
- ・新聞や雑誌で公立図書館の運営に関する記事に興味を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、教科書と配布したレジュメに沿って授業を行う。授業内で課題の提出を求めることがある。課題の提出・回答の提示、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	図書館法の成り立ち(1)	図書館法の位置づけ
第2回	図書館法の成り立ち(2)	図書館法逐条解説 条例等その他の法規
第3回	図書館経営の意義と基本的な考え方(1)	組織の経営と経営原理 経営組織
第4回	図書館経営の意義と基本的な考え方(2)	経営資源の構成要素 業務プロセスと経営資源 経営のサイクル
第5回	人的資源と組織編成	図書館の人的資源 知識専門職としての司書 図書館の組織
第6回	物品の調達・管理	図書館に必要なモノ 物品の調達 物品の管理
第7回	図書館財務	図書館にとっての財務 図書館財務の実際と限界 新しい図書館財務の考え方
第8回	公共空間としての図書館	施設を活かす管理・運用 サービス空間の設計 書庫管理
第9回	PRとマーケティング	PRとは何か マーケティングの必要性 図書館のマーケティング
第10回	経営戦略策定のための調査・分析と評価	戦略計画をつくる 戦略を支える調査と研究 経営評価
第11回	経営形態の選択と外部連携	図書館の経営環境の変化 公共図書館の経営形態 外部との連携
第12回	図書館情報政策の意義	図書館情報政策の位置づけ 地方自治体内の一組織としての図書館
第13回	各種図書館の役割と根拠法	国立国会図書館 大学図書館 学校図書館 専門図書館 関連する諸法律
第14回	まとめと確認	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の章に沿って授業を行うので、授業前に教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおいてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳与志夫著、『図書館制度・経営論（ライブラリー図書館情報学4）』学文社、2019

【参考書】

糸賀雅児、葉袋秀樹編、『図書館・制度経営論』（現代図書館情報学シリーズ2）樹村房，2013

その他授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題（50%）、レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

授業の要点をわかりやすくする。

【Outline and objectives】

Achieving the effective service to users requires careful planning from the point of basic design before the library is opened. I want to derive an index of library services from library statistics, consider the characteristics of users to be serviced, and consider a library image that is appropriate for the region and organization (school, university, company, etc.).

This section will also discuss various issues related to library financial management and personnel management, and consider the effects of PFI, the designated manager system, and the issue of private vitality on library management in the future.

児童サービス論

田中 順子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。

【到達目標】

児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。絵本等の資料を使った読み聞かせを実践し、児童と本を結びつける手法も獲得する。また、学校との連携など、児童を取り巻く読書環境についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

毎回、学生によるその日のテーマに関する発表や意見の提出を行い、それについて授業中にコメント、アドバイスをを行う。良いコメントを紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	児童サービスとは	児童サービスの理念について
2	児童について	児童の発達と読書について
3	乳幼児の読書環境	乳幼児の読書環境とブックスタート
4	児童サービスの歴史	児童サービスの歴史と法律について。児童の読書推進のための政府、自治体の取り組みについて
5	ブック・トーク	ブックトーク実践
6	読み聞かせ	読み聞かせ実践
7	ヤングアダルト	ヤングアダルトサービスについて
8	児童図書館	児童図書館の目的と役割
9	児童図書館リサーチ	児童図書館や児童図書コーナーの調査
10	他団体との連携	公立図書館と、学校図書館、他の施設との連携について
11	レファレンス・サービス	児童のためのレファレンスサービスについて
12	読書の児童への影響	幼少時の読書がどんな影響を与えるか学ぶ
13	学習支援	学習支援としての児童サービス
14	学校図書館	学校、学校図書館の活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した範囲のテキストの読み込みを含め、本授業の準備・復習時間に、各2時間を充てること。

【テキスト（教科書）】

植松貞夫・鈴木佳苗編『児童サービス論』樹村房 2014

【参考書】

笠原良郎編『楽しい読み聞かせ 学校図書館入門シリーズ3』全国学校図書館協議会

『図書館をつくる 教育をかえる』全国学校図書館協議会

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業内の発表（20%）と中間レポートの提出（30%）、学期末のレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

現場のリサーチや、読み聞かせの実践を通して、実情が実感できたという感想が多いので、学生による体験を積極的に取り入れていく。

【Outline and objectives】

The child age is very important for reading. When meeting a good book, children will love and continue reading, and when it isn't so, they might give up reading. In this class, students learn about child's book suitable for a reading ability, about history of children's service and various challenges in the library. Students visit a children's library actually to research it. They learn about service necessary to children and how to offer that service.

情報サービス論（2013年度より開設）

田中 順子

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスを展開する能力を習得する。

【到達目標】

図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービス、情報検索について理解を深め、多岐にわたる情報源の知識を習得し、情報サービスを積極的に展開する能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。毎回、学生によるその日のテーマに関する発表や意見の提出を行い、それについて授業中にコメント、アドバイスをを行う。良いコメントを紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報サービスとは	情報サービスの概念と歴史
2	レファレンス・サービス	レファレンスサービスとレフェラルサービスについて
3	図書館の利用	カレントアウェアネスサービスと読書相談、利用案内等について
4	レファレンス・サービスに求められるもの	レファレンスサービスの理論と実際
5	レファレンス・プロセス	レファレンスプロセスについて
6	レファレンス・インタビュー	利用者のニーズを引き出すレファレンスインタビュー
7	図書館の情報サービス	情報社会における図書館の情報サービスの役割
8	情報源について（1）	各種情報源の特質と利用法
9	情報源について（2）	各種情報源の解説と評価
10	情報源について（3）	各種情報源の組織化
11	情報検索サービス	情報検索サービスの理論と方法
12	図書館利用教育	図書館利用教育の現状
13	図書館の連携	学校図書館、地域の図書館の連携について
14	情報リテラシー	情報リテラシーの育成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した範囲のテキストを読んでくることを含め、本授業の準備・復習時間に、各2時間を充てること。

【テキスト（教科書）】

山崎久道編集『情報サービス論』樹村房（改訂版ではありません）

【参考書】

井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業内発表（20%）と課題調査（30%）、学期末のレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に行うディスカッションによって、考える力、発信する力がついたという感想が多いので、受け身ではなく積極的に授業に参加する場を設けていく。

【Outline and objectives】

In this class, students learn about library service and think about various challenges in the future library. Students visit a library to research it. They also learn about reference work.

情報資源組織論

丹 一信

単位：2単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報資源の組織化の理論および技術について、講義を中心に学習する。特に印刷資料、非印刷資料だけではなく、電子資料やネットワーク上の情報資源についても、組織化の理論を学ぶ。これを通じて情報や知識資源の組織化全般について理解を深めることを目的とする。

なお、本科目は情報資源組織演習を受講するにあたって重要であるので、出来るだけ早い学年で受講することを勧めたい。

【到達目標】

図書館の基本業務である情報資源の組織化について、理論を中心に基礎的な事柄を学習する。特に情報資源組織演習の基礎となるよう目録法、件名法、分類法、書誌コントロールなどを学習する。また、できる限り実際の業務の様子などをPC画面に提示しながら解説し、情報資源組織演習で必要となる事項を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「情報資源組織演習（資料組織演習）」の授業を履修するためには、本授業の知識は重要となる。本授業では、「目録法」「分類法」「件名法」の三つの技術を活用する。「目録法」では目録の重要性と『日本目録規則』の使用法について、「分類法」と「件名法」では、『日本十進分類法』と『基本件名標目表』の構成と使用法を中心に解説する。メタデータの扱いについても解説する。

授業は講義形態が中心である。

なお授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーは紙に限らず、電子媒体も使用予定である。

COVID-19(新型コロナウイルス)による授業への影響が予想されるため、初回授業のガイダンスは極めて重要である。3月上旬時点で、少なくとも初回授業はオンライン授業の予定である。リアルタイムでガイダンスを実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報資源組織化の意義	情報資源組織化の意義と理論
3	情報・知識の概念について	情報・知識の概念を学ぶ
4	書誌コントロールの意義	書誌コントロールの基本について学ぶと役割
5	書誌記述法（記述目録法）	記述目録法の概要を解説
6	主題目録法（主題分析の意義）	主題による分析の手法を学ぶ
7	分類法（主要な分類法について）	各種の分類法について、その詳細を学習する
8	件名とシソーラス	基本件名標目表を中心に、シソーラスについても学ぶ
9	MARC、書誌ユーティリティ	現代の図書館をめぐる書誌情報の流通経路を中心に学ぶ
10	OPAC Web OPAC	書誌ユーティリティの役割とMARCについて
11	書誌情報の提供（OPACの運用）	OPACの進化の歴史について
12	ネットワーク情報資源の組織化	実際の図書館業務におけるOPACの運用方法を中心に学ぶ
13	メタデータ	ネットワーク上に存在する情報源の組織化について学習する
14	多様な情報資源の組織化	データのためのデータとも呼ばれるメタデータについて学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

公共図書館や大学図書館をよく利用し、OPACや排架について馴染んでおくこと。

本授業の準備・復習時間は各2時間が標準。

【テキスト（教科書）】

(1) 竹之内 禎, 山口 洋, 西田 洋平. 情報資源組織論. 東海大学出版部, 2020, ix, 158pp.

【参考書】

(1) 田窪 直規, 飯野 勝則, 小林 康隆, 原田 智子, 山崎 久道, 渡邊 隆弘. 情報資源組織論. 3訂, 樹村房, 2020, xvii, 232pp.

(2) 榎本 裕希子, 石井 大輔, 名城 邦孝. 情報資源組織論. 第 2 版, 学文社, 2019, 157pp.

(3) 長田 秀一. 情報資源組織化の理論と展開. サンウェイ出版, 2020, viii, 267pp.

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70% 平常点 (小 web テスト含む) 30%

【学生の意見等からの気づき】

- ・ 実際の実務を念頭においた授業を展開する。
- ・ 図書館関連職種への就職を考えている学生への情報提供も行う。
- ・ 前年度のアンケートでも、コメントシートを通じて、あらゆる質問に答えることは好評であった。本年度も継続して実施する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

時々 PC を使用

【その他の重要事項】

本シラバスの内容は、2020 年冬に大学より提示された 2021 年度授業方針に沿って記述している。しかし COVID-19 の感染状況、ワクチンの接種状況により、変更が生じる可能性も多分にある。変更の際には、別途、あらかじめ説明する。なるべくコミュニケーションのとれる授業を心がけているので、わからない点は遠慮なく問い合わせしてほしい。

【Outline and objectives】

This course will teach you the theory and techniques of organizing library information resources.

In particular, I will learn not only printed materials but also electronic information resources and information resources on the network.

The purpose of this subject is to deepen the understanding of general information and composition of knowledge resources.

情報資源組織演習

丹 一信

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、図書館司書の重要な業務のひとつである情報資源の組織化（目録データの記述・排列、メタデータの作成、資料の主題分類）の演習を行ないます。図書館司書の実務能力を得られることを目的としています。また情報資源組織論の授業と密接に連動しています。

【到達目標】

多種多様な情報資源についての書誌データの作成、主題分析、分類作業、シソーラス、メタデータの作成などの演習を行い、情報資源組織業務における実務的能力、実践力の育成を目標とする。

- ① 図書、継続資料、電子資料等の書誌を正確に記述できること
- ② 各分野の情報資源の分類記号を付与できるようになること
- ③ 基本件名標目表を正しく使いこなせるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報資源組織業務の基本となる目録・件名・分類を理解し、例題と演習問題の実習により、その技法の習得をめざします。具体的には目録・件名・分類について、それぞれ日本目録規、BSH、日本十進分類法を用いて、演習問題の解説、演習を中心に学習します。なお昨今はコンピュータ目録が中心となっている為、シミュレーションによる Nacsis-CAT の演習やメタデータ作成の実習なども行う予定です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。リアクションペーパーは紙に限らず、電子媒体も使用します。

尚、本授業は演習形式のため、欠席が多いと理解および習得が困難になりかねません。また「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修するのが極めて望ましいです。

人数超過の場合は、抽選となります。20 名までです。COVID-19 いわゆる新型コロナウイルスの影響により、諸事変更となる可能性があります。初回ガイダンスは重要です。初回の授業はリアルタイムのオンライン授業となります。必ず初回授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスが中心
2	単行資料の書誌記述 1 タイトル・責任表示	単行資料の書誌記述を学ぶ 1 タイトル及び責任表示の記述について学習する
3	単行資料の書誌記述 2 版・出版に関する事項	単行資料の書誌記述を学ぶ 2 版の記述、出版地、出版年などの記述について学習する
4	単行資料の書誌記述 3 形態・シリーズ、注記・標準番号	単行資料の書誌記述を学ぶ 3 大きさなどの形態、シリーズに関する事項、ISBN の記述について学習する
5	継続資料の書誌記述	雑誌などの継続資料の書誌記述の実際について
6	各種資料の記述（録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料）	録音資料や映像資料等々の記述の実際について
7	各種資料の記述（電子資料及びその他の資料）	電子資料の記述方法
8	コンピュータ目録の演習 1	MARC を用いた組織業務について（JAPAN MARC を例に）
9	コンピュータ目録の演習 2 NACISIS-CAT その実際	NACISIS-CAT のような共同目録の実際について説明する
10	ネットワーク情報資源について（メタデータ作成の実際）	ダブリンコアに基づきメタデータの演習を行う
11	・主題分析について ・件名標目の付与 1	・主題の分析の仕方 ・基本件名標目表の概要
12	件名標目の付与 2	細目について
13	件名標目の付与 3	・分類記号からの付与 ・件名規定
14	件名標目の付与 4	件名標目総合演習課題
15	日本十進分類法による分類作業	NDC の基本原則について
16	分類記号付与の実際 1	形式区分について
17	分類記号付与の実際 2	地理区分・海洋区分について

18	分類記号付与の実際 3	言語区分について
19	分類記号付与の実際 4	言語共通区分・文学共通区分
20	分類記号付与の実際 5	分類規程に基づいて付与する
21	分類記号付与の実際 6	分類規程 特殊分類規定に基づいて付与する
22	分類記号付与の実際 7	分類・件名総合演習 1 1 類から 5 類を中心に分類と件名の付与の演習
23	分類記号付与の実際 8	分類・件名総合演習 2 6 類～9 類、0 類を中心に分類と件名の付与の演習
24	分類記号付与総合演習	各々の総合演習課題を行う
25	書誌データ管理、検索システムの構築	書誌データベースを実際に構築し、データ入力も行い、実務の疑似体験を行う
26	書誌データ管理、検索システムの構築 2	書誌データベースの構築（論文・記事データベースの構築）
27	書誌データベースその運用	構築した書誌データベースに、データを入力し運用を試みる。抄録の作成、シソーラスによるキーワード付与、書誌分類の付与など
28	総合演習課題	春学期の記述目録法、秋学期の主題目録法に基づいて、演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を毎授業ごとに課します。また本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

和中幹雄, 山中秀夫, 横谷弘美 共著. 情報資源組織演習. 新訂版. 日本図書館協会, 2016.3. 278p ; ISBN 978-4-8204-1515-2

【参考書】

- ①蟹瀬 智弘. やさしく詳しい NACSIS-CAT. 樹村房, 2017, xiii, 249p, 図版 1] 枚 p.
 - ②宮沢 厚雄. 目録法キイノート. 樹村房, 2016, 104pp.
 - ③宮沢 厚雄. 分類法キイノート. 第 3 版補訂, 樹村房, 2020, 104pp.
- そのほか随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業時、夏季及び冬季の課題、期末試験にて評価します。

演習課題 50% 期末試験 30% (定期試験期間内)

平常点 20%

授業への積極的な参加姿勢、課題への取り組みを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

ポイントを絞った授業進行にします。

また図書館関連の就職情報も踏まえた授業内容にします。

アンケート結果を更に反映し、実務に則した事例を多く演習する様にします。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用します

また授業では、Hulic を使用します。http://lci.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

PC については、私物のものでも構いません。

PC の操作になれておいてください。

教科書は必須です。

毎回、課題が課されます。

「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー・目録担当者としての実務経験を踏まえて、実務における目録作成の技法、データベース構築の基礎を中心に授業を行います。

初回授業時に履修者の抽選を行います。20 名まで。

必ず初回授業には出席してください。

なお感染状況により変更が生じた場合は、学習支援システム等により周知します。

【Outline and objectives】

In this lesson, I will learn about organizing information resources, which is one of the important tasks of the librarian. In particular, we will learn to create catalogs, create metadata, and classify themes of documents. It is aimed at obtaining the practical ability of the librarian. It is also linked with lesson of information resource organization theory.

情報資源組織演習

村上 郷子

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報資源組織論（資料組織論）で学んだ理論や知識をもとに、実際に書誌データの作成、主題分析、分類作業の作成を行う。

【到達目標】

書誌データの作成、主題分析、分類作業等の基本的スキルを修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

資料の組織化は、大きく記述目録法と主題目録法の 2 部から成り立っている。春学期は記述目録の演習を中心に目録規則の適用及び主題分析の基礎について学習する。秋学期は主に日本十進分類法による分類作業を中心に、主題目録法の実践についてのスキルを学ぶ。

授業の初めに、毎回の小クイズの答え合わせをすることにより、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期情報資源組織演習（資料組織演習）のガイダンス（Unit0-1）	情報資源組織演習（資料組織演習）概要について
2	記述に関する総則（Unit2-4）	記述に関する総則
3	図書の記述（Unit5・6）	タイトルと責任表示、版、資料の特性、出版・頒布等
4	図書の記述（Unit7・8）	形態・シリーズ、注記、標準番号
5	図書の記述①（単行書中心）	図書の記述①（単行書中心）
6	図書の記述②（単行書＋シリーズ）	図書の記述②（単行書＋シリーズ）
7	継続資料の記述①（Unit9・10）	通則および記述
8	継続資料の記述②（Unit9・10）	記述及び所蔵事項（予備）
9	標目、典拠、排列（Unit13-16）	標目、典拠、排列
10	例題および総合演習問題（Unit22・23）	図書の記述演習を中心に行う
11	コンピュータ目録（Unit17・18）	コンピュータ目録、OPAC、コピー目録、オリジナル目録、MARC、UNIMARC、NACSIS-CAT、JAPAN-MARC など
12	MARC フォーマット（Unit19・20）	NACSIS-CAT（Unit21）
13	件名法（Unit47-49）	基本件名標目表の概略、語の関係性、細目
14	件名規定と演習（Unit50）	件名標目付与の演習を中心に行う。
15	春学期総まとめ	筆記試験・まとめ
16	主題組織法、日本十進法の構成（Unit27-30）	秋学期ガイダンス、主題組織法とは何か、日本十進分類法とは何か
17	NDC の構成、形式区分	地理区分、海洋区分、言語区分
18	日本十進法による分類作業（Unit31）	
19	分類記号付与の実際（Unit32-35）	分類作業、分類規定、分類表の改訂
20	人文科学①（Unit36）	哲学・宗教（1 類）
21	人文科学②（Unit37）	歴史・地理・伝記（2 類）
22	社会科学①（Unit38）	政治・法律・経済他（3 類前半）
23	社会科学②（Unit39）	社会・教育他（3 類後半）
24	自然科学・技術（Unit40・41）	自然科学・技術（4・5 類）
25	技術・産業（Unit41）	技術・産業（5・6 類）
26	人文科学④ 芸術（Unit42）	芸術（7 類）
27	言語・文学（Unit43）	言語・文学（8・9 類）

26	文学・総記 (Unit43・44)	文学・総記 (9・0 類)
27	図書記号・別置記号の付与 (Unit45・46)・総合演習	図書記号・別置記号の付与・総合演習
28	秋学期総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回出される宿題を、確実にこなすこと。

【テキスト (教科書)】

『情報資源組織演習』日本図書館協会、(JLA 図書館情報学シリーズ 3-10) の最新版

【参考書】

木原 通夫 [ほか] 著 『情報資源組織法—資料組織法』、最新版、第一法規
日本図書館協会 編 『図書館資料の目録と分類』、最新版、日本図書館研究会

【成績評価の方法と基準】

通年授業のため、春学期は 50 %、秋学期は 50 %とする。50 %の内、出席・毎回の小クイズ・春・秋学期それぞれ (25 %)、春・秋学期筆記試験それぞれ (25 %) によって総合的に評価する。

出席は 8 割以上を目安とする。毎回授業の初めに小テストを行うため、遅刻や欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

なじみの少ない領域のため、できるだけ平易な説明を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学生は司書資格課程のポータルサイト (Hulic) から、事前に毎回のレジメをダウンロード・印刷をして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】

この授業では、受講生を 20 人以下に制限する。20 人以上の場合は、司書課程の受講生及び上級生を優先し、司書課程以外の受講生及び下級生は最初の日に抽選を行う。途中からの受講は認めない。

【Outline and objectives】

Based on the theory and the knowledge of organizing information resources, students will practice creating actual bibliographic catalog and decimal classification as well as analyzing subject headings.

情報資源組織演習

竹之内 禎

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

図書館が扱う図書を中心とした膨大な情報資源の中から目的にかなうものを素早く見つけ出し入手する仕組みを作ることを「情報資源の組織化」と言います。本演習では、『日本十進分類法』(NDC)、『基本件名標目表』(BSH)、『日本目録規則』(NCR) という 3 つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを旨とし、図書館の実際の資料を対象に、情報資源の主題分析と記号化、統制語彙の適用、目録データベースを作成するための書誌情報の記録方法等の演習を行います。

【到達目標】

- 1) 『日本十進分類法』(NDC) を使用して、基本的な分類記号を与えることができる
- 2) 『基本件名標目表』(BSH) を使用して、基本的な件名標目を与えることができる
- 3) 『日本目録規則』(NCR) の概要を理解して、図書館が扱う情報資源に関する適切な目録データを作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

前期は『日本十進分類法』(NDC)、『基本件名標目表』(BSH) という二つのルールブックを使用して、図書資料に分類記号と件名標目を与える演習を行います。後期はこれに加えて『日本目録規則』(NCR) に基づき、図書を中心とした図書館情報資源に関する目録データの作成演習を行います。毎回、図書館の蔵書を探す課題を出す予定です。授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントシート (リアクションペーパー) の内容からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の全体像 『日本十進分類法』(NDC) による分類法の基礎	第 1 分冊：本表・補助表編 第 2 分冊：相関索引・使用法編
第 2 回	『日本十進分類法』(NDC) の構成、NDC 相関索引の使用法	相関索引と分類記号の対応、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 3 回	本表の省略記号、NDC1 類 (哲学・心理学・宗教) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 4 回	地理区分 (1)、NDC3 類 (社会科学) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 5 回	地理区分 (2)、NDC4 類 (自然科学・医学・薬学) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 6 回	形式区分、NDC5 類 (技術・工学・生活科学) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 7 回	海洋区分、NDC2 類 (歴史・伝記・地理) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 8 回	地理区分 (3)、NDC6 類 (農林水産業・商業・交通・観光・通信) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 9 回	言語区分、NDC7 類 (芸術・スポーツ) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 10 回	分類規程、NDC8 類 (言語) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 11 回	図書記号、NDC9 類 (文学) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 12 回	NDC0 類 (知識・情報・図書館・出版・博物館・ジャーナリズム) の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 13 回	『基本件名標目表』(BSH) の構成	BSH による件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 14 回	『基本件名標目表』(BSH) の使用法	BSH による件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認

第 15 回	『日本目録規則』(NCR) による目録作成の基礎、『基本件名標目表』(BSH) による件名付与の復習、『日本十進分類法』(NDC) による分類記号付与の復習	NDC と BSH の復習
第 16 回	タイトルと責任表示の記述	目録記入の基本型
第 17 回	版表示、出版地、出版者、出版年の記述、NDC1 類(哲学・心理学・宗教) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 18 回	形態に関する事項の記述、NDC2 類(歴史・伝記・地理) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 19 回	さまざまなケースの記述、NDC3 類前半(社会科学・政治・法律・経済・財政) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 20 回	NDC3 類後半(統計・社会・教育・民俗・軍事) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 21 回	NDC4 類(自然科学) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 22 回	NDC5 類(500～589 技術・工学) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 23 回	NDC5 類(590～家政学・生活科学) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 24 回	NDC6 類(農林水産業・商業・交通・観光・通信) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 25 回	NDC7 類(芸術・スポーツ) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 26 回	NDC8 類(言語) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 27 回	NDC9 類(文学) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認
第 28 回	NDC0 類(知識・情報・図書館・出版・博物館・ジャーナリズム) 関連資料の目録記入作成	指定したテーマの資料紹介と目録記入の確認

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【予習】各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。

前回の授業で出された宿題(指定されたテーマの図書を探して書誌情報、著者・出版者情報、分類記号等を調べておくこと/目録記入を作成すること)

【復習】各回の授業内容を見直し要点をまとめておくこと。

【テキスト(教科書)】

山本順一監修、竹之内禎ほか編著、『情報資源組織演習:情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』, 講座・図書館情報学, ミネルヴァ書房, 2016

本体 3,500 円+税

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b239765.html>

【参考書】

竹之内禎ほか編著、『情報資源組織論』, 東海大学出版部, 2020

本体価格 2800 円+税

https://www.press.tokai.ac.jp/bookdetail.jsp?isbn_code=ISBN978-4-486-02188-9

【成績評価の方法と基準】

評価の方法:

毎回の授業への参加と提出課題(70%), 学期末レポート課題(30%)

評価の基準:

授業への 2/3 以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。

- 1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
- 2) 分類法、件名法のスキルを習得したか
- 3) 図書館情報資源の目録データの作成スキルを修得したか

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当者が変更になります。

【その他の重要事項】

「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修していることが望ましいです。

【Outline and objectives】

In this class, students will learn the method of information resource organization, that is, how to classify books, give subject headings and make bibliographic data for library catalog.

情報資源組織演習

菅原 真悟

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力の習得をめざす。

【到達目標】

- (1) 多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の知識とスキルを身につける。
- (2) 書誌データベースの仕組みと機能を理解し、実際にデータベースを構築する。
- (3) XML や WebAPI 等についての知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

- ・春学期は、書誌データの作成、主題分析、分類作業を中心に演習を行う。
- ・秋学期は、春学期に行ったことを踏まえて、実際に書誌データベースを構築する演習を通して、情報資源組織業務に関する知識と技術を習得することを目指す。また、XML や WebAPI 等についての理解も深める。
- ・毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
- ・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板でも個々にフィードバックを行う。
- ・課題等の提出・フィードバックは「HULiC」を通じて行う。
- ・発表課題では、すべての発表について質疑応答を通じたフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の授業内容について
第 2 回	日本十進分類法	日本十進分類法(NDC)の構造
第 3 回	分類作業の実際(1)	日本十進分類法を用いた演習(主題分析)
第 4 回	分類作業の実際(2)	日本十進分類法を用いた演習(補助表)
第 5 回	分類作業の実際(3)	日本十進分類法を用いた演習(0・1類)
第 6 回	分類作業の実際(4)	日本十進分類法を用いた演習(2・3類)
第 7 回	分類作業の実際(5)	日本十進分類法を用いた演習(4・5類)
第 8 回	分類作業の実際(6)	日本十進分類法を用いた演習(6・7類)
第 9 回	分類作業の実際(7)	日本十進分類法を用いた演習(8・9類)
第 10 回	件名作業の実際(1)	基本件名標目表(BSH)の概要
第 11 回	件名作業の実際(2)	基本件名標目表(BSH)を用いた演習
第 12 回	目録作成の実際(1)	書誌コントロールと図書館目録
第 13 回	目録作成の実際(2)	日本目録規則(NCR)の構成演習
第 14 回	春学期振り返り	春学期に学んだことを振り返る
第 15 回	課題発表会	夏季課題についての発表会
第 16 回	書誌ユーティリティ	書誌ユーティリティと共同分担目録
第 17 回	NACSIS-CAT	NACSIS-CAT、NII の教育研究・事業データベースの仕組み。リレーショナルデータベース
第 18 回	データベース(1)	SQL 入門
第 19 回	データベース(2)	SQL 入門
第 20 回	メタデータ(1)	図書館におけるメタデータの活用
第 21 回	メタデータ(2)	XML、RDF
第 22 回	メタデータ(3)	ダブリンコア、junii
第 23 回	図書館システム演習(1)	OPAC の概要
第 24 回	図書館システム演習(2)	書誌データベースの構築(Enju)
第 25 回	図書館システム演習(3)	書誌データベースの構築(DC-NDL(RDF)を利用)
第 26 回	図書館システム演習(4)	書誌データベースの構築(目録作成)
第 27 回	図書館システム演習(5)	書誌データベースの構築(件名作業・分類作業)
第 28 回	まとめと振り返り	授業全体のまとめと振り返り

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業で行った演習内容を復習すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて、プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題提出状況をふまえて総合的に評価する。

授業内演習への参加（50%）

小課題（数回出す予定です）および夏季課題の発表（30%）

期末レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

演習やグループ学習の時間を増やしたいと考えています。授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（<https://hoppii.hosei.ac.jp/>）のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」（<http://lc.i.hosei.ac.jp/>）も使います。

【その他の重要事項】

演習教室での授業のため、人数超過の場合は抽選となります（定員 20 名）。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

We learn about

(1)NDC: Nippon Decimal Classification

(2)BSH: Basic Subject Headings

(3)NCR: Nippon Cataloging Rules

(4)Metadata and WebAPI

学校図書館メディアの構成

有吉 末充

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館のメディアの種類と、その組織化、選択法と分類、目録の基礎を学ぶ。学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成を通して、使いやすい学校図書館をつくる上での基礎的な知識を身につける。

【到達目標】

学校図書館の現場に必要な学校図書館メディアについての知識、選択にあたっての心構えを身につける。メディアをどう使うかを考えながら、実際の学校図書館で利用者にわかりやすい分類をつけられるようにする。検索のための目録の基礎を知る。配架、レイアウトの基本を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各種メディアの種類と特性を理解し、授業においてどう活用するかを考える。学校図書館の蔵書を作り上げ、管理するために、資料・情報の選択と収集に必要な力をつける。選択・収集・更新・廃棄の基準等の実務を知る。分類、配列、目録の整備などメディアの組織化に関しては、その基本を知り、演習を行う。受講生からの質問、意見は次回授業で公開し、討論、コメントするなどして理解を深めていきます。また授業時間以外でもメールで対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	学校図書館メディアの教育的意義と役割	学校図書館の機能とサービス
第 2 回	学校図書館メディアの種類（1）	活字、印刷メディア（1）
第 3 回	学校図書館メディアの種類（2）	活字、印刷メディア（2）
第 4 回	学校図書館メディアの種類（3）	視聴覚メディア
第 5 回	学校図書館メディアの種類（4）	校内資料、地域資料、ファイル資料
第 6 回	学校図書館メディアの授業での活用	メディアを活用した授業事例を考える
第 7 回	学校図書館メディア、組織化の流れ	学校図書館のテクニカルサービス
第 8 回	分類（1）	分類の意義、種類 分類演習（1）
第 9 回	分類（2）	NDC のしくみと応用 分類演習（2）
第 10 回	目録（1）	目録の意義、種類、NCR 目録演習（1）
第 11 回	目録（2）	目録記述と書誌的事項 目録演習（2）
第 12 回	図書館見学	実際の図書館での分類や目録の調査
第 13 回	学校図書館メディアの選択（1）	選択・購入から配架まで
第 14 回	学校図書館メディアの選択（2）	予算、組織、保存、廃棄 最近の動き等 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学校図書館、図書館、書店に実際に行って、全体のレイアウト、分類、目録、配架を見る。

準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

『改訂新版 学校図書館メディアの構成』北克一 平井尊士 放送大学教育振興会 2016

『学校図書館メディアの構成』小田光宏編 樹村房 2016

【成績評価の方法と基準】

平常点、演習課題、最終課題による

平常点（授業時の小課題、授業への積極的な貢献度）：40 %

演習課題①分類②目録：30 %

提出レポート「図書館のレイアウト計画」とまとめのレポート：30 %

【学生の意見等からの気づき】

実践的な練習の機会を作るよう心がける

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や連絡に授業支援システム HULiC を使用する。必ず登録を行うこと。

【その他の重要事項】

本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】

Students learn how to use school library's functions and resources for teaching. For that purpose they learn an inquiry learning and information literacy. This subject is a weak point in Japanese school library. To realize that teaching needs using school library, librarians (teacher librarian and school librarian) have to appeal the meaning of school library to teachers.

学校経営と学校図書館

松田 ユリ子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館の本質的な意義に迫る。まずは学校教育における学校図書館の位置づけを、法律・制度・歴史・学習理論などの面から考察する。その上で学校図書館運営の実際について、事例を豊富に交えながら概観し、受講者とともに理想的な学校図書館のあり方を探る。

【到達目標】

講義の内容を踏まえて、受講生が理想の学校図書館像を明確に捉え、他者に説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する

翌週までに学習支援システムを通じて講師からのフィードバックを受け取る
以上のやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業で扱う内容と講義のすすめ方の確認
第 2 回	学校図書館の意義	事前に教科書の第 1 章～第 4 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 3 回	学校の中の図書館	事前に教科書の第 5 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 4 回	学校図書館の歴史	事前に教科書の第 6 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 5 回	学校図書館の歴史と制度	事前に教科書の第 7 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 6 回	日本の学校図書館の現状	事前に教科書の第 8 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 7 回	学校図書館の目的と機能	事前に教科書の第 9 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 8 回	学校図書館のサービス	事前に教科書の第 10 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 9 回	学校図書館における教育活動	事前に教科書の第 11 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 10 回	学校図書館の担当者	事前に教科書の第 12 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 11 回	学校図書館のマネジメント	事前に教科書の第 13 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 12 回	学校図書館の設計／まとめ／最終レポート提示	事前に教科書の第 14 ～ 15 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。最終レポートを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【テキスト（教科書）】

中村百合子編著『学校経営と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ II・1）』樹村房、2015

【参考書】

金沢みどり編著『学校司書の役割と活動:学校図書館の活性化の視点から』学文社、2017

全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』改訂版、悠光堂、2017

野口武悟、前田稔編著『学校経営と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会、2017

堀川照代編著『学校図書館ガイドライン』活用ハンドブック 解説編』悠光堂、2018

【成績評価の方法と基準】

各レポートの提出が必須である。

レポート 77 % (各レポート 7 % づつ)、最終レポート 23 % の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

課題を出すタイミングを的確にする

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要だが、準備できない場合は相談すること

【Outline and objectives】

Students will articulate the history, values, legal and foundational principles of the school library profession.

To provide a broad understanding of the field of school library, and facilitate the exploration of the rich possibilities of practice in the field.

学習指導と学校図書館

松田 ユリ子

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、情報リテラシー教育、メディア・リテラシー教育、言語活動、探究型学習についての理解を深め、学校図書館がいかに教科学習を支えているかを考える。

【到達目標】

授業のゴールとしては、受講生各自が司書教諭としてのオリジナルな授業案をつくることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義だけでなく、ワーク、発表、討論といった活動も行う。この授業自体が、学校図書館での学習指導の方法を体験する場となるはずである。教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する。翌週までに学習支援システムを通じて講師からのフィードバックを受け取る。以上のやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のすすめ方 / 学校図書館における教科学習体験の共有
第 2 回	学校図書館と学習指導の関わり	事前に教科書の第 1 章～第 2 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 3 回	探究的な学習の理論	事前に教科書の第 3 章～第 4 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 4 回	情報リテラシー教育	事前に教科書の第 5 章～第 6 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 5 回	課題の設定	事前に教科書の第 7 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 6 回	情報探索から表現まで	事前に教科書の第 8 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 7 回	レファレンスサービス	事前に教科書の第 9 章～第 10 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 8 回	小学校における学校図書館の活用	事前に教科書の第 11 章～第 12 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 9 回	中学校・高等学校における図書館の活用	事前に教科書の第 13 章～第 14 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 10 回	発表「こんな授業がやりたい！」1	授業案の発表および討議
第 11 回	発表「こんな授業がやりたい！」2	授業案の発表および討議
第 12 回	発表「こんな授業がやりたい！」3	授業案の発表および討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が卒業した小学校、中学校、高等学校における学校図書館の状況（職員体制・授業での活用状況）を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

齋藤泰則編著『学習活動と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ II・3）』樹村房, 2016

【参考書】

塩谷京子編著『すぐ実践できる情報スキル 50:学校図書館を活用して育む基礎力』ミネルヴァ書房, 2016

塩谷京子著『探究の過程におけるすぐ実践できる情報活用スキル 50:単元シートを活用した授業づくり』ミネルヴァ書房, 2019

全国学校図書館協議会「情報資源を活用する学びの指導体系表」<http://www.jsla.or.jp/pdfs/20190101manabinosidoutaikeihyou.pdf>

日本図書館協会図書館利用教育委員会編著『問いをつくるスパイラル:考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会, 2011

堀川照代、塩谷京子著『学習指導と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会, 2016

【成績評価の方法と基準】

発表を行うこととレポート提出が最低条件である。その上で、授業への積極的な貢献度 40 %・発表 20 %・レポート 40 %の総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し

【Outline and objectives】

Students will demonstrate competency in multiple literacies (literacy, information literacy and media literacy etc.) and inquiry-based-learning of the school library profession.

To understand the importance of collaboration between school library specialist, teachers and students.

社会教育経営論

御園生 純

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主体的な学びのスタイルとは？

★学習キーワード—脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など

私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。

社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないのでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテータ（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実際についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。

実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】

社会教育計画立案にかかわる

- ・プレゼン能力
 - ・現状調査能力
 - ・企画立案力
 - ・イベントプロモーションの在り方
 - ・広報宣伝/集客テクニック
- などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとり、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設への訪問などを通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。各課題について受講生毎に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	子どもからおとなへ～教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権

14	社会教育主事のごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス
17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画	学社融合の理論的土壌
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタビューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビュー結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビュー結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビュー結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本固有の概念である社会教育設立の経緯とその目的等については他の社会教育関連講義や、資料分権を通じて理解しておく

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

提出課題 30%

期末時の社会教育計画論の策定～プレゼンテーション 40%

【学生の意見等からの気づき】

対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際にも具体的な事例をもとに紹介していきます。

受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。

担当者のサイト

ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】

・ Understanding of the present situation of local government and social education in Japan.

・ Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.

Will be able to have your own thoughts about social education issues.

社会教育経営論

御園生 純

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主体的な学びのスタイルとは？

★学習キーワード—脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など

私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。

社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないのでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテーター（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実際についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。

実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】

社会教育計画立案にかかわる

・プレゼン能力

・現状調査能力

・企画立案力

・イベントプロモーションの在り方

・広報宣伝/集客テクニック

などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとり、講義形式で進行する予定です。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。

秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設への訪問などを通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。各課題について受講生毎に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ～教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権

14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス
17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画	学社融合の理論的土壌
20	・学校教育との連携	
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタビューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビュー結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビュー結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビュー結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本固有の概念である社会教育設立の経緯とその目的等については他の社会教育関連講義や、資料分権を通じて理解しておく

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

提出課題 30%

期末時の社会教育計画論の策定～プレゼンテーション 40%

【学生の意見等からの気づき】

対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO活動などの実際も具体的な事例をもとに紹介していきます。

受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。

担当者のサイト

ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】

・ Understanding of the present situation of local government and social education in Japan.

・ Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.

Will be able to have your own thoughts about social education issues.

社会教育活動 I

桔川 純子

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、持続可能な社会を形成していくにあたって、適切な対応をしなければならぬマイノリティの問題、特に外国籍、外国にルーツをもつ人、また女性たちの問題に焦点を当て、「自分」に引きつけて考えていきます。そして国内外のさまざまな取り組みを通じて、「ダイバーシティ」「内なる国際化」とは何かについて考察し、「ジェンダー」「エスニシティ」「マイノリティー」の問題について、グローバルな視点から分析できるようにします。そして、現在の全世界の状況に目を向けながら、「ポストコロナ、ウイズコロナの世界」を一緒に考えてみましょう。初回のガイダンスを通じて受講生の興味・関心を把握し、講義に反映させる予定です。

【到達目標】

1. 本講義のテーマ、エスニシティ、ジェンダーとは何かについて理解できるようにします。
2. 国際社会における日本や海外の事例を通じて「多文化共生」「エスニシティ」「内なる国際化」「ジェンダー」「マイノリティ」といったテーマについて、自分の身にひきつけて考察します。そして、社会教育・生涯教育の意義について、日本社会の状況と海外を比較しながら理解し、ディスカッションを重ね、思考を深めていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

初回の授業は4月13日（火）になり、オンラインでの開講となります。詳細については、学習支援システムで提示しますので、必ず確認して下さい。その後の予定については、初回の授業時に、また学習支援システムで説明しますので、定期的に確認するようにして下さい。授業では、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。そのフィードバックは、Hoppiiを通じて確認できるようにしますので、確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、今後の授業の予定、授業の進め方、評価などについて。
2	「コロナの時代」において何を考えるのか ジェンダーとは何か	ジェンダーの定義。 女性を取り巻く状況、「フェミニズム」「ジェンダー」について。
3	エスニシティとは何か	エスニシティの定義。日本における「多文化共生」の現状
4	住んでいる地域について把握する	自分が住んでいる地域の特徴、市民活動の状況について調べてみる
5	セクシャルマイノリティと社会教育	セクシュアリティ、LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender) とは何か、そしてそれに関するムーブメントについて紹介し、考察する。
6	<人権>と社会教育	憲法で保障されている<人権>、関連する法律などを確認し、日常のなかの<人権意識>について考察する。
7	<ことば>のもつ意味と識字教育	差別を助長する<ことば>、配慮のある<ことば>について考える。
8	しくみ（法律、制度）について考えてみる	意識変容を促す<制度>とは
9	地域における実践の考察①	日本の<地域>について調べてみる。
10	地域における実践の考察②	日本の<地域>について調べてみる。
11	世界の実践の考察①	世界の取り組みについて調べてみる
12	世界の実践の考察②	世界の取り組みについて調べてみる
13	制度と実践から学ぶ「学習」について	調べてきた日本と世界の制度、事例と「学習」について考察してみる
14	まとめ：意見交換	「ポストコロナ、ウイズコロナの社会」を見据えて、ジェンダー、エスニシティ、マイノリティが大切にされる社会をつくるためにはどうすればいいのかについてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時資料を配布したり紹介したりするので、授業の前に目を通してきて下さい。

【テキスト（教科書）】

講義に関連したプリントを配布するため、テキストは指定しません。

【参考書】

■富坂キリスト教センター 在日朝鮮人の生活と住民自治研究会編『在日外国人の住民自治』（新幹社,2007）

■移住労働者と連帯する全国ネットワーク・入管法対策会議／在留カードに異議あり！NGO 実行委員会編集・発行『改定入管法 中长期在留者のための Q&A』、『改定入管法 非正規滞在者・難民申請者のための Q&A』、『改定入管特例法 特別永住者のための Q&A』（2011）

■ソーシャルデザイン会議実行委員会（著，編集）『希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン』（宣伝会議、2013）

【成績評価の方法と基準】

授業での発言、毎回のリアクションペーパー等 40%、発表 20%、期末レポート 40%とします。

ただ、オンライン授業に変更になった場合など、基準を変更する場合がありますので、

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言する機会を増やし、ディスカッションなどを通じて考察を深める機会を増やしていきます。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will learn about minority issues through various social education activities.

Also for a sustainable society, will consider about issues, of "diversity", "gender", "ethnicity" and so on.

社会教育活動Ⅱ

佛木 完

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者の社会教育活動の具体的な事例や歴史を説明し、活動の背景にある時代状況を知ると共に、青年自身の悩み、要求と、活動を通して仲間や社会にどう関わってきたのかを学びます。具体的な学習素材としては、地域の「青年団活動」を例にとり、活動内容とその時代状況を知ると共に、若者たちが地域活動や仲間集団を通して、学び、人間関係を築き、社会に参画するなかで、主体的な生き方を形成する事例を見ていきます。そして、現代の若者の課題と、社会教育や青年活動が果たす役割について考察します。

【到達目標】

地域青年団の性格や活動状況を理解しつつ、青年活動によって若者が成長する姿を学ぶと共に、その時代背景と青年活動や社会教育活動の意義について考察を深めます。

あわせて、雇用・労働環境、地域共同体や人間のコミュニケーションの変容の中で、若者が自己の価値観を形成し、多様な人間関係に向き合い、社会に能動的に働きかけながら主体的に生きる姿勢と視点を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回、テーマに応じたレジュメや資料、活動に携わった当事者の若者が書いたレポート、関連のビデオや映像などを用意し、それらを読み進めながら、地域青年団の活動や社会的な背景、若者が果たす役割などについて解説を加えていきます。あわせて、学生との意見交換も行います。

また、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや授業内で行った小レポート等において、学生全体の理解を更に深めるための題材となるものは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域青年団の概要と授業概説	地域青年団の歴史、性格や目的、その活動内容について概説し、あわせて授業全体を通して目指したいことを説明します。
第 2 回	青年団と歴史背景の概観	戦後の荒廃の中から全国的に青年団が再結成されていく 50 年代から、高度経済成長政策を経て変貌する地域や社会、現在に向かっての変化と青年団の位置を考えます。
第 3 回	映像に見る青年団	過疎の村で劇団公演に取り組む青年団を描いた山田洋次監督の映画「同胞」から、地域で活動する若者の姿、若者集団が果たす役割について考えます。
第 4 回	若者たちの課題と学び	青年団の共同学習運動と青年問題研究会集を例に、若者たちが時代の中で生活上の課題をどのように捉え、何をどんな方法で学び、実践したのかを解説します。
第 5 回	青年団の地域活動	青年が地域の各層や他世代とどのようにかわり、地域社会や生活課題に対してどんな働きかけをしていったのか、地域活動の系譜や各地でさまざまなに繰り上げられる青年団の地域活動の具体的事例について学びます。
第 6 回	若者とスポーツ・文化活動	地域で青年団が取り組むスポーツ・文化活動から「全国青年大会」に至る過程で、青年たちが活動を通して編む人間関係、共感の形成を考えます。
第 7 回	青年団と地域文化	地域で継承されてきた祭りや文化事業、郷土芸能などに青年団がどのように関わっているかを学び、そこで果たす若者の役割について考えます。
第 8 回	青年団の社会活動	青年団の平和運動や女性活動など、平和・環境・国際関係・男女共同参画・子どもなどの問題に取り組む「社会活動」を通して、若者が学んできたことや社会に果たした役割について考えます。

第9回	青年団の平和運動（その1）	青年団は社会活動の一つとして長年にわたって原水爆禁止運動など平和運動に取り組んできました。その原点となる戦争、広島、長崎の被爆の実相を学ぶ具体的な活動を解説します。
第10回	青年団の平和運動（その2）	青年団の平和運動を通じて若者が学ぶもの、広義の平和に関してこれからの自分ができることについて考えます。
第11回	若者と子どもや他世代とのかかわり	子どもが育っていく社会環境の変化をふり返り、子どもたちの課題と、若者が他世代にかかわりながら若者自身が成長することを考えます。
第12回	現代の生きづらさと青年運動	貧困の問題、自殺、児童虐待、DV、介護など各世代を通じた現代の生きづらさ、人間の相互扶助と青年運動の果たす役割を考えます。
第13回	青年問題と青年運動	若者の雇用不安や自立の困難さ、孤立や疎外を越えて今後の展望をどう考えるのか。青年の問題と青年運動の果たす役割を考えます。
第14回	まとめ	これまで学んだことをふり返り、これからの社会の中で自分の生き方、共に支える人間関係のあり方、青年運動、社会教育について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた活動事例に関連する時代状況や社会的背景をできるだけ自己学習して、青年の置かれた環境や状況と社会の関係への理解を深め、疑問点は授業の中で再度確認をしてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せずに、授業の中でその都度、レジュメや資料、青年たちの活動レポートなどを配布し、適宜、ビデオも活用し、参考文献を紹介します。

【参考書】

特に指定しませんが、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の終了前に提示したテーマに沿って、レポートを提出していただきます。授業への積極的な姿勢と授業で学んだことの考察のされ方を参考に、レポートを採点します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

2020年度はコロナ禍のなかで、対面授業が数回しかできず、大変残念でした。今年は全面的に対面授業ができることを願っています。

若者たちはいつの時代も、進路や仕事、人間関係での模索、どう生きていくかという葛藤を抱えています。それを同世代の青年たちで共有し、社会に向けて何らかの発信をしていながら、若者は自分自身をも形成していくのです。若者は、社会の未来を創造する主体者でもあります。そんな若者の活動や生き方を共に考えてみたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about social education activities conducted by the youth of every era in our history ;the circumstances surrounding young people, their own anxieties, demands, and how they have been in contact with their colleagues and the society.

As for lecture materials, we will study about "Seinendan(Japanese traditional youth organization)" activities carried out by the youth throughout Japan. We will learn about how young people have been learning, making up relationships with others, communicating with the society and forming the way to live independently. Let's consider about modern youth's problems and the role played by social education and youth activities.

社会教育実習

朝岡 幸彦

単位：2単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育施設等に一定期間にわたり日勤し実習を行う場合や半日程度の実習を数カ月にわたり行う場合など、多様な実施形態が考えられ、実習先についても公民館や青少年施設のほか、地域や施設の事情を踏まえ、社会教育主事の職務遂行に求められる実践的な能力の養成に効果的な取組を行う。社会教育施設等において実習を行う。実習にあたっては、事前授業において社会教育主事等の役割をとその意義を理解する。事後授業においては、実習の反省とまとめを各自の発表（実習報告）のもとに行う。

【到達目標】

地域や施設の事情を踏まえ、社会教育主事の職務に求められる実践ができる。実習日誌に記載されている実習先からの評価において、①社会教育主事等の専門資格を取得する上で必要な実務経験を体験できていること、②実習先の規則やマナー、指導担当者の指示を守っていること、③市民の学習支援のあり方について理解できていること、等ができることと評価されることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会教育施設等に一定期間にわたり日勤し実習を行う。実習日誌をもとに、それぞれの実習の成果と課題を最後の授業で振り返る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義	ガイダンス	過去の実習報告を読む
実習	社会教育施設実習 1	社会教育施設等に一定期間にわたり日勤し実習を行うためのガイダンス等
実習	社会教育施設実習 2	講座 A 等の見学
実習	社会教育施設実習 3	講座 A 等の支援
実習	社会教育施設実習 4	実習のまとめ①
実習	社会教育施設実習 5	講座 B 等の見学
実習	社会教育施設実習 6	講座 B 等の支援
実習	社会教育施設実習 7	実習のまとめ②
実習	社会教育施設実習 8	講座 C 等の見学
実習	社会教育施設実習 9	講座 C 等の支援
実習	社会教育施設実習 10	実習のまとめ③
実習	社会教育施設実習 11	事業 A の説明
実習	社会教育施設実習 12	事業 A の支援
実習	社会教育施設実習 13	実習のまとめ④
実習	社会教育施設実習 14	事業 B の説明
実習	社会教育施設実習 15	事業 B の支援
実習	社会教育施設実習 16	実習のまとめ⑤
実習	社会教育施設実習 17	事業 C の説明
実習	社会教育施設実習 18	事業 C の支援
実習	社会教育施設実習 19	実習のまとめ⑥
実習	社会教育施設実習 20	実務の説明
実習	社会教育施設実習 21	実務の支援
実習	社会教育施設実習 22	実習のまとめ⑦
実習	社会教育施設実習 23	実習の振り返り①
実習	社会教育施設実習 24	実習の振り返り②
実習	社会教育施設実習 25	実習の振り返り③
実習	社会教育施設実習 26	実習のまとめ⑧
講義	ふりかえり	実習報告の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018年

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

実習報告書（選択実習及）の提出と内容によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートの結果を踏まえて改善する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにおける情報の更新を随時確認して対応すること。

【Outline and objectives】

This course will focus on activities that cultivate practical abilities required to accomplish tasks as social education supervisor. Activities can be practiced in various ways, which will be taken place such as community center and youth education facilities and will be proceeded regarding to circumstances of local community and social education institution.

In the preparation class, participants will understand the role and meaning of social education supervisors. In the follow-up class, participants will review and evaluate their work by making presentation for the class.

博物館資料保存論

今野 農

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における基本的な機能の1つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】

講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得する。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得する。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得する。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤をつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。また、各回にリアクションペーパーの提出を課し、記載された重要な事項や質問については、各回の講義冒頭で取り上げて議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第2回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第3回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第4回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第5回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第6回	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第7回	博物館における環境管理・温湿度管理	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第8回	有害物質管理と照明管理	汚染物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第9回	有害生物管理	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、IPM（総合的有害生物管理）について解説する。
第10回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第11回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。

第12回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第13回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第14回	まとめ・学芸員の役割	授業のまとめとして、資料保存に果たすべき学芸員の役割について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に興味を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

・石崎武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
 ・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
 ・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー：70%（内、平常点50%程度、各回コメント20%程度）、最終試験：30%。

【学生の意見等からの気づき】

昨年のリアクションペーパーにおけるフィードバックから、講義内容について、詳細であったとの高評を得たため、この点は水準の維持に努める。一方で、難解であったとの反応については、より多くの学生が親しめるように努める。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

博物館資料保存論

清水 玲子

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】

博物館における資料の展示及び取蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。
 到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に付けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・ppt による資料を提示しながら、実施する。
 ・その場での質問や意見を歓迎するが、できない場合は、リアクションペーパーに記載する。
 ・リアクションペーパーにおける質問は、内容に応じて、授業時、或いは、質問者に直接フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義	オリエンテーション	オンライン講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明
講義	博物館資料とは何か・資料保存の意義	博物館が資料を蒐集し、保存することについて様々な角度からその意義について考える
講義	資料の梱包と輸送	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について
講義	保存の諸条件 1	資料を保存する環境について、劣化要因として温度と湿度に関して
講義	保存の諸条件 2	資料を展示する際の環境を中心に、劣化要因となる光、その他について
講義	文化財の保存と活用	文化財の保護から活用へ社会的な位置づけが大きく変わった中で、未来へ資料を受け継ぐ為の対策や課題を考えていく
講義	保存の諸条件 3	資料における生物の被害と、総合的病害虫管理（IPM：Integrated Pest Management）について
講義	取蔵と展示 1	博物館の取蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について
講義	取蔵と展示 2	博物館の取蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について、資料の取扱いを中心に見ていく
講義	自然災害と資料保存	災害の多い日本において、資料を守るための対策と被災後の対応について
ワークショップ	地域資源の保全と博物館の役割	地域の文化財保護における博物館の役割と、博物館の在るべき姿をみんなで考える。
ワークショップ	博物館の役割とは何か	前回のワークショップのまとめと発表。
講義	エコミュージアムとコミュニティ	ワークショップの講評及び地域資源の保全の事例を見ていく。
講義	まとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・原則、授業後にリアクションペーパーを提出してもらうが、その他については、必要に応じて告知する。
 ・本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】

『歴史を未来につなぐ：「3・11からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019年5月
 金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017年3月
 奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会（地域づくりの基礎知識1）』神戸大学出版会、2018年1月
 吉田正人『世界遺産を問い直す』山と溪谷社、2018年8月
 *その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】

・講義終了後に、理解の程度を確認する為のリアクションペーパーを提出。
 小課題 50 % 期末課題 50 % にて評価する。
 *詳細は、第1回目の講義で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

他の出席者との関係性が希薄になるという学生からの意見があったので、ワークショップを取り入れ、お互いに意見交換したり、共に何かを考える時間を設けながら進める予定である。

【Outline and objectives】

Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

職業指導（仕事の場と学び）

高橋 浩

単位：4 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学生から社会人における様々なキャリア上の転機に対応できるような職業指導（進路指導）のための諸理論および方法を学ぶ。職業指導の場面は単に学校から社会へ移行する際の職業選択の支援だけにとどまらない。社会人になってから遭遇する様々なライフイベントや転機を乗り越えるための支援や、より良い職業生活へと導く開発的支援を習得する必要がある。

【到達目標】

職業指導（進路指導）に求められるキャリア理論・カウンセリング理論とその方法について理解し、自他の今後のキャリアに応用できる。

職業指導・進路指導に必要な基礎的なキャリア支援技法を習得し、他者に対する支援的な態度と言動を取れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面事業で実施する。

職業指導（進路指導）は個人の人生に関わる分野である。職業を選択するプロセスや、働くことの意味・意義を理解した上で指導をする態度や知識・技法を身につける必要がある。そのために本授業では、一方的な講義に終始するのではなく、職業指導（進路指導）およびキャリアカウンセリングの諸理論・技法について実践場面を想定したテーマについて、グループワークやディスカッション、ロールプレイを行い、体験的に職業指導の実践力を習得していく。毎回、リアクションペーパーを提出してもらいが、次回の授業冒頭にてコメントや補足などのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	職業指導・進路指導の歴史①（米国編）	米国において職業指導・進路指導がどのような歴史をたどって発展してきたのかについて理解する。
2	職業指導・進路指導の歴史②（日本編）	日本における職業指導・進路指導の発展の歴史と今日的課題および意義（学習指導要領を含む）について理解する。
3	職業選択としての職業指導・進路指導の理論①（マッチング理論）	人の特性と職業のマッチングの理論であるパーソンズおよびホルランドの理論を理解し、その活用方法を学ぶ。
4	職業選択としての職業指導・進路指導の理論②（意思決定の理論）	ジェラットやヒルトンの理論をもとに、職業選択の合理性と不確実性について理解し、その活用方法を学ぶ。
5	職業選択としての職業指導・進路指導の理論③（学習と偶発性）	クルンボルツの理論をもとに、職業選択の学習による影響と偶発性について理解し、その活用方法を学ぶ。
6	職業選択としての職業指導・進路指導の理論④（転機への対処）	シュロスバークの理論をもとに、転機への対処について理解し、その活用方法を学ぶ。
7	生涯発達としての職業指導・進路指導の理論①（発達段階とアイデンティティ）	エリクソンの心理-社会的発達理論をもとにライフステージ毎の発達課題やアイデンティティについて理解し、職業との関連について学ぶ。
8	生涯発達としての職業指導（進路指導）の理論②（キャリア・ステージ理論）	ギンズバークやスーパー、レビンソンの理論をもとにキャリアの発達段階と発達課題について理解し、その活用方法を学ぶ。
9	意味形成としての職業指導・進路指導の理論①（働く意味の形成）	ハンセンやサピカスの理論をもとに、働く意味の形成とキャリア発達との関連について理解を深める。
10	意味形成としての職業指導・進路指導の理論②（関係性アプローチ）	ホルの関係性アプローチについて理解し、キャリア形成と人間関係の関連について学ぶ。
11	組織における職業指導・進路指導の理論①（人事制度）	企業・組織における人事制度、特に年功賃金制と成果主義（目標管理制度など）について理解する。
12	組織における職業指導・進路指導の理論②（キャリア・アンカー）	企業・組織におけるキャリア形成理論やキャリア・アンカーについて、シャインの理論の有効性と限界を理解し、活用方法について学ぶ。
13	学びの場としての職業	経験学習理論や組織学習理論について理解し、「学びの場」としての職業について理解する。

14	試験・まとめ	試験として理論の有効性と限界、活用方法について各自のまとめを発表し、ディスカッションと解説を行う。
15	キャリア支援の種類と機能	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア教育のそれぞれの意味と機能について学ぶ。
16	キャリアカウンセリングの概要	キャリアカウンセリングとは何か、面談による支援・指導とは何かについて、ディスカッションを通じて学ぶ。
17	支援者としての自己理解と他者理解①（無意識と自己）	フロイト、ユング、バーンの理論にもとづいて無意識と抑圧など心の働きについて学ぶ。
18	支援者としての自己理解と他者理解②（認知理論）	ベックの認知療法やエリスの論理療法などの認知理論にもとづいて、認知変容・自己理解と問題解決について学ぶ。
19	支援者としての自己理解と他者理解③（学習理論）	3つの学習理論（古典的学習、オペラント学習、観察学習）にもとづいて、行動変容と問題解決の関係について学ぶ。
20	支援者としての自己理解と他者理解④（自己理論・来談者中心療法）	ロジャーズの自己理論（来談者中心療法）にもとづいて自己概念の働きと、自己一致/自己不一致について学ぶ。
21	アセスメントのしくみと解釈①（フォーマルアセスメント）	フォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
22	アセスメントのしくみと解釈②（インフォーマルアセスメント）	インフォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
23	職業指導の演習①（関係構築：態度と関わり技法）	面談初期の関係構築で必要となる基本的態度や関わり技法について、ロールプレイを通じて学ぶ。
24	職業指導の演習②（自己探索支援：質問技法）	面談中期の自己探索支援において用いられる質問技法の種類や効果、問いの立て方について、ロールプレイを通じて学ぶ。
25	職業指導の演習③（行動化支援：目標設定と計画・実行の支援）	面談後期の行動化支援で行われる目標設定とその計画・実行の支援について、解決志向アプローチに基づいた支援を学ぶ。
26	職業指導の演習④（支援の構造化：支援のプロセス）	複数の汎用的なカウンセリング・プロセス・モデルを学び、面談の組み立て方（構成）について、ロールプレイを通じて学ぶ。
27	総合的演習	これまで学んだ理論・技法を総合的に用いたロールプレイを行い、職業指導の導入部における望ましい支援方法を体験的に習得する。
28	試験とまとめ	試験として、面談場面を想定したロールプレイを行い、結果についてのフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各理論・技法については、授業前にテキストおよび参考図書などで概要の把握と、疑問点や意見をまとめておき、授業当日のディスカッションに備えておくこと。

習得した支援技法については、それを日常生活の中で自他に応用するように努めること。

【テキスト（教科書）】

『新時代のキャリアコンサルティング—キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来』労働政策研究・研修機構編（労働政策研究・研修機構）

【参考書】

『進路指導・キャリア教育の理論と実践』吉田辰雄・篠翰著（日本文化科学社）
『新版 キャリアの心理学』渡辺三枝子編著（ナカニシヤ出版）
『カウンセリングの理論』國分康孝著（誠信書房）
『小学校学習指導要領』
『中学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

・職業指導（進路指導、キャリア）の理論とその方法の理解について：春学期末のレポート課題（50%）、授業への参加姿勢（50%）
・カウンセリング理論とその支援技法について：秋学期末の演習（50%）、授業への参加姿勢（50%）

【学生の意見等からの気づき】

実際の指導場面を踏まえたディスカッションとロールプレイをより多く行い実践力を強化する。

【Outline and objectives】

In this class, students learn theories and methods for career guidance that can cope with career turning points from school to work. Scenes of career guidance are not limited to just assisting vocational selection in transitioning from school to work. It is necessary to master support skills to overcome various life events and turning points encountered after becoming a worker, and development skills to lead to a better life career.

博物館展示論

渡邊 尚樹

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

・人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間の作り方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアーティスティックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30%、レポート 30%、試験 40% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面講義は再開するが、密にならないワークショップを考慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

博物館展示論

渡邊 尚樹

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

・人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアーティスティック性、照明テクニクについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面講義は再開するが、密にならないワークショップを考慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

博物館情報・メディア論

柏女 弘道

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】

博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明します。大規模館の例にとらわれず、市町村規模の博物館におけるメディア活用の現状と課題についても取り上げます。授業は講義形式で行います。リアクションペーパー等に記載された質問や感想については、次回以降の講義の中で回答をおこなうとともに、その後の講義に活かしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 博物館におけるメディアと情報	授業ガイダンスとともに、博物館におけるメディアや情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を学ぶ。
第2回	メディアとしての博物館	博物館のメディアとしての役割について学ぶ。
第3回	ICT 社会における博物館	ICT 化による博物館の情報の管理や公開の変化について学ぶ。
第4回	資料のデータベースの整備と公開	資料管理に用いられる資料データベースの概要と、一般公開されているデータベースについて学ぶ。
第5回	博物館の発信する情報の伝わり方	広告と広報、マスメディアとの関わりなどについて学ぶ。
第6回	インターネットを使った情報発信	インターネットを活用した情報発信について、ホームページなどの例を見ながら学ぶ。
第7回	博物館における映像理論・情報機器の活用	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第8回	スマートフォンの活用	博物館で行われているスマートフォンの活用について学ぶ。
第9回	博物館活動と著作権①	著作権法の概要と博物館活動との関りについて学ぶ。
第10回	博物館活動と著作権②	実際の博物館活動の中で遭遇する著作権に関する事柄を学ぶ。
第11回	近年の博物館情報やメディアを取り巻く動き①	デジタル技術を用いた資料の復元やクラウドファンディングなど、近年の博物館における情報やメディアにかかわる事例を学ぶ。
第12回	近年の博物館情報やメディアを取り巻く動き②	実体を持たないデジタル博物館など、近年の博物館における情報やメディアにかかわる事例を学ぶ。
第13回	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの考え方を通して、あらゆる人たちが利用しやすい博物館における情報発信について学ぶ。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を通して、情報やメディアを扱う学芸員のあり方について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013年）
K. マックリーン著、井島真知・芦谷美奈子訳『博物館をみせる-人々のための展示プランニング-』（玉川大学出版部、2003年）
日本展示学会編『展示論—博物館の展示をつくる—』（雄山閣、2010年）

大堀哲、水島英治編『博物館学 III — 博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012 年）
 金山喜昭著『公立博物館を NPO に任せたら—市民・自治体・地域の連携—』（同成社、2012 年）
 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 56 %、レポート 44 %。レポートの課題や文字数については授業内で通知する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

博物館について日ごろから興味関心を持ち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline and objectives】

Think about how to make use of information in museums

博物館情報・メディア論

石川 貴敏

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。新しい取り組みを知り、これからの博物館のあり方を考えるために学びます。

【到達目標】

将来、博物館に関連する仕事を志す者に対しては、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける事を目指します。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す者に対しては、博物館における情報の活用方法などを伝え、博物館の賢い利用者、理解者となるよう、ミュージアム・リテラシーを高めることも目標の一つに据えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。講義毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に受講者の意見を踏まえながら講義内容の工夫を図っていきたいと考えています。授業では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	I C T 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化<調査研究活動>	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化<展示活動>	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化<教育普及活動・学習活動>	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 10 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 11 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 12 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、情報の整備・管理・発信時における課題についても触れる。
第 13 回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。

- 第14回 博物館における情報・メディア戦略(まとめ) 博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日的課題を通して、今、求められている博物館情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けます。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知らないといふと内容が理解できないかもしれません。各自、授業外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、授業時に配布します。

【参考書】

- 『博物館学 III — 博物館情報・メディア論』(大堀哲・水嶋英治編著、学文社、2012年)
 『博物館情報・メディア論(放送大学教材)』(西岡貞一・篠田謙一編著、放送大学教育振興会、2013年)
 『博物館情報・メディア論(放送大学教材)』(稲村哲也・近藤智嗣編著、放送大学教育振興会、2018年)
 『博物館情報・メディア論』(日本教育メディア学会編、ぎょうせい、2013年)
 『展示論—博物館の展示をつくる—』(日本展示学会編、雄山閣、2010年)
 『博物館展示論(K S 理工学専門書)』(黒沢浩編著、講談社、2014年)

【成績評価の方法と基準】

期末レポート課題(到達目標に掲げた内容につながる課題を考えています)を提示します。「平常点」と「レポート課題(与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを判断します)」で総合的に評価します。「平常点 40 % (40点)」「レポート課題 60 % (60点)」の配分(合計 100点)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックの時間や振り返りの時間を設けることで、講義内容への理解が深まるようにします。本講義では、数多くの情報を紹介しますので、講義後に受講生が復習しやすいように、学習支援システムを活用します。本講義に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せています。国からも新たな施策や指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、受講生と意見を交わしていけたらと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

本講義では、講義資料(パワーポイント等)・配布資料(授業時に配布します)とともに、インターネットを介した個別の事例(取組)を紹介します。インターネットにアクセスできる情報機器(スマートフォン等)は準備できると望ましいです。また、各回の内容を復習できるように、講義資料や講義で紹介した事例(取組)のURLは学習支援システムを利用して掲載することを考えています。

【その他の重要事項】

ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、30年間の実務経験を有しています。そのうち20年以上にわたって、情報部門の責任者を務めています。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当したり、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業に従事しました。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline and objectives】

I will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also explain about the current situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, I will try to introduce new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments. Learn to understand new initiatives and think about what the museum should be like in the future.

博物館実習 I

田中 裕二

単位：2 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

博物館学芸員として必要な実務に係る諸技能を実習で学ぶ。

【到達目標】

博物館に係る実務に則しながら、学芸員としての心得や技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるが、中でも資料の取り扱い方や、資料の記録・整理・展示を中心に、博物館運営に関わる実践的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

昨年度はオンラインと対面のハイブリッド授業であったが、今年度は対面を予定している。お知らせや課題、リアクションペーパーは、原則学習支援システムを通じて行う。常に Hoppii を確認しておくこと。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前指導	実習全体の事前指導を行うガイダンス。博物館学芸員の仕事・実務について概観する。
第2回	博物館資料の取り扱い(実務実習のための指導)	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料(民芸玩具・風)に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第3回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料(風)の整理・実測(1)
第4回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料(風)の整理・実測(2)
第5回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料(民具)の整理・実測(1)
第6回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料(民具)の整理・実測(2)
第7回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第8回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第9回	博物館資料の取り扱いⅦ	文書類の調査・観察・記録(1)
第10回	博物館資料の取り扱いⅧ	文書類の調査・観察・記録(2)
第11回	博物館資料の取り扱いⅨ	文書類の調査・観察・記録(3)
第12回	博物館資料の取り扱いⅩ	文書類の調査・観察・記録(4)
第13回	博物館資料の取り扱いⅪ	文書類の調査・観察・記録(5)
第14回	博物館見学会	実地調査。東京及び関東近郊の博物館で学芸員から解説を受け、実態を理解する。
第15回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する
第16回	コレクション調査(調査報告)	I 夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料(民芸玩具・風等)に関して、その成果を報告する。
第17回	コレクション調査(調査報告)	II 夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料(民芸玩具・風等)に関して、その成果を報告する。
第18回	コレクション調査(調査報告)	III 夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第19回	コレクション調査(調査報告)	IV 夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第20回	博物館資料の整理Ⅰ	収集した資料のクリーニング。
第21回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影(解説：撮影機材・撮影手技)(実習：資料撮影)
第22回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影(実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際)
第23回	博物館資料の梱包	資料の梱包資材・梱包作業
第24回	博物館資料の展示実技Ⅰ	美術資料(掛軸・巻子・画帳)の取り扱いと展示作業
第25回	博物館資料の展示実技Ⅱ	美術資料(掛軸・巻子・画帖)の取り扱いと展示作業
第26回	パネルの作成Ⅰ	解説文を書き、パネルを作成する。
第27回	パネルの作成Ⅱ	作成したパネルを展示する。
第28回	事後指導	実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み期間中に資料の収集調査をしてもらいます。実地調査に必要な旅費交通費や入館料など各自の負担となります。収集調査した結果は授業内で発表してもらいます。詳細については授業内で周知します。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と課題の提出（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は25名を上限とする。なお、初回の授業で希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は授業内で指示するが、資格課程実習準備室の掲示、学習支援システムなどを随時確認すること。

【Outline and objectives】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at a museum.

博物館実習 I

金山 喜昭

単位：2 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の実務に関わる業務を実習する。

【到達目標】

博物館にかかわる実務を中心に学習しながら、学芸員としての心構えや技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるものであり、博物館の役割や機能に応じた活動が求められる。実務実習として、実際に資料を取り扱い、資料の観察・記録・整理・展示のほか、博物館運営に関わる実践的能力を身につける。将来、博物館などの文化施設のみならず、文化・教育関連、地域や NPO 等の分野でも活用できるスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期には大学のコレクションを用いた実務実習と教材製作を行う。後期には各種の資料の取り扱いや資料の製作を学ぶ。この授業では、博物館活動の基礎となる実習を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：風）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（風）の整理・実測（1）
第 4 回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（風）の整理・実測（2）
第 5 回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（風）の整理・実測（3）
第 6 回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（風）の整理・実測（4）
第 7 回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料（風）の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第 8 回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（石器）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 9 回	博物館資料の取り扱いⅦ	石器の調査・観察・記録（1）
第 10 回	博物館資料の取り扱いⅧ	石器の調査・観察・記録（2）
第 11 回	博物館資料の取り扱いⅨ	石器の調査・観察・記録（3）
第 12 回	博物館資料の取り扱いⅩ	石器の調査・観察・記録（4）
第 13 回	博物館資料の取り扱いⅩⅠ	石器の調査・観察・記録（5）
第 14 回	博物館見学会	現地調査。東京及び近郊博物館での学芸員からの業務解説で実態理解。
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する。
第 16 回	コレクション調査（調査報告）	I 夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査（調査報告）	II 夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査（資料化実習）	III 夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査（資料化実習）	IV 夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理Ⅰ	拓本（実習）
第 21 回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の整理Ⅳ	博物館関連講座の取材・記録・資料化
第 24 回	博物館資料の梱包	資料の梱包・運搬
第 25 回	博物館資料の展示実技	美術資料（掛軸・画帖）の取り扱いと展示体験
第 26 回	教材製作実習・篆刻Ⅰ	篆刻・文字・落款の解説、製作
第 27 回	教材製作実習・篆刻Ⅱ	篆刻の製作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み中に資料収集をすることや、篆刻はホームワークとする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

出席と課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline and objectives】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at the museum.

博物館実習Ⅱ

小西 雅徳

単位：2 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館は奥の深い世界です。学芸員のスタンスとして博物館活動の花形である企画展実施過程の手法を学んでいきます。日本の博物館ではコレクションの関係や館規模、組織等の問題から、集客性に重点を置いた企画展を重視する傾向があります。これは世界的にみても特異な現象ですが、企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、学生各人の企画力やグループ討議を通じて企画展実施のノウハウを学びながら、博物館の裏方を支える学芸員の世界をのぞいてみましょう。

【到達目標】

日本の博物館活動では企画展あるいは特別展と呼ばれる集客性を重視した企画が必要とされます。そのため学芸員も企画展を前提に活動することが求められています。企画展を実施するには、多様な価値観や専門性に加え基本となる企画展実施の工程・過程を学ぶ必要があり、この授業では 1 年間を通じて企画展実施までの様々な手法やその時々々の流行を捉え、博物館現場の実際をシミュレーションして学んでいきます。博物館学という基礎能力の構築と同時に豊かな企画展創造への個々人のスタイルと発想力を引き出していきます。個人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想・発表し企画展実施計画への到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業内容は、前期と後期とを通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程と手順、③学生個々人の企画展発表、④グループ企画展発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが博物館の展示状況をスライドで紹介し、後期は各人の企画展発表やグループ発表準備にあてます。企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制をグループワークを通じて模擬体験します。発表はパワーポイントとなります。レポート課題を随時課していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 博物館展示と学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や実情を紹介しします。
第 2 回	博物館展示の時代的、地域的変遷推移と日本と海外の企画展の違いについて	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証しつつ、海外と日本の学芸員のスタイルについて紹介しします。
第 3 回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順－その 1－展示のための素材探し、種・ヒントの探し方を考える。
第 4 回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみる	企画展実施までの工程手順－その 2－成功した企画展例を基に、自分なりにシミュレーションしてみる。
第 5 回	スライド（海外博物館の展示状況）	欧米博物館・美術館の展示状況をスライドで解説します。
第 6 回	展示構想と企画書 企画展を構想する①	展示構想の内容と要点について説明し、企画書に盛り込む内容を整理する。課題として企画書を作成準備する。
第 7 回	展示設営（展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示レイアウト－展示導線と照明計画について説明する。パワポ資料提示。
第 8 回	レポート課題	前回までの展示の進め方を参考に自分が取り組んでみたい企画展を構想し提出してください。
第 9 回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員が存在する理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。ライターとしての学芸員像を提示する。
第 10 回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。またサイン作成も重要。
第 11 回	展示図録・パンフレット等の作成手順及び情報端末導入について	展示図録・パンフレット等の作成手順。大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。
第 12 回	借用交渉と調書	学芸員の力量は資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。資料をみて調書を作成する。
第 13 回	企画展発表Ⅰ①	各回 10 名程度に分け、パワポ 5 枚程度を作成し発表する。

第 14 回	企画展発表 I ②	パワポ 5 枚程度を作成し発表する。発表終了後、後期の発表課題について事前説明を行う。
第 15 回	資料目録の作成手順と資料保存修復の仕方について	展示の第一歩は出展目録の作成にある。展示資料の 1 次候補から 2 次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始め、また、展示を実施する際の資料の修復等について説明する。
第 16 回	企画展を構想する②	前期発表を肉付けした企画展の構想について説明する。
第 17 回	企画展発表事前相談	各人の取り組みについて相談し、課題を克服する。
第 18 回	企画展発表 II - ①	各回 7 名程度に分け、パワポ 15 枚程度を作成し発表する。
第 19 回	企画展発表 II - ②	パワポ 15 枚程度を作成し発表する。
第 20 回	企画展発表 II - ③	パワポ 15 枚程度を作成し発表する。
第 21 回	グループ企画展実施① グループ紹介と自己の主張について	5 人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第 22 回	グループ企画展実施② グループ企画展から発表	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第 23 回	グループ企画展実施③ グループ企画展実施④ 展示企画の具体像の作文化	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 24 回	グループ企画展実施④ 教育普及と観覧者の希望する展示とは何かを考える	企画展における教育普及のあり方を考え、更に集客方法や展示の仕方と広がりを考える。
第 25 回	グループ企画展実施⑤ ミュージアムグッズについて	博物館の魅力の一つとしてグッズがある。独自のグッズを考えてみよう。
第 26 回	グループ企画展実施⑥ 最終発表に向けた調整を行う	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。パワポ内容やレジュメ原稿を整理する。
第 27 回	発表 グループ数が多い場合は、発表順を決め 2 回に分けて実施する場合がある	各グループが 15 分程度で発表する。パワーポイントやペーパーを用いて発表する。1 年間の成果を問う。
第 28 回	発表評価と企画展の将来的展望について (まとめ)	発表案について評価すると共に、日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。企画展発表のためにはいろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を最低 3 回程度課します。最新の展示状況を俯瞰し自分の企画展発表のシーズ(種)を探してください。

【テキスト (教科書)】

特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業時に配布します。

【参考書】

特別展図録や展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】

出席 7 割以上確認の上、成績を課題発表等から評価する。学生自身のオリジナリティを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。前期の出席や評価については適宜課題等を通じて確認していきます。

【学生の意見等からの気づき】

机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけて欲しいです。

【学生が準備すべき機器他】

グループ討議では☑を用意していただきます。個人用に加え、必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有として☑を活用してほしいですが、最近ではスマートフォンでやり取りするケースも多く、実際その使用を認めています。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline and objectives】

Learn how to organize exhibitions at the museum. In the first half the lesson, you will learn various steps based on the text. In the second half, we will organize a group and present a special exhibition. At the same time, learn about the differences between the world and Japan in their approach to museum activities.

博物館実習 II

杉山 享司

単位：2 単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画からフライヤー(展覧会チラシ)の制作までを通して、学芸員の仕事の実態について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】

この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を立案して展覧会の企画書にまとめ、最終的にそれをフライヤー(展覧会チラシ)として完成させ、発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要な知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通して「資料配信型」の授業を進めていきます。当該の授業回のねらいや目的を提示しますので、受講生は配布した資料を読み、また場合によっては参考動画を視聴し、各自の考えを課題(レポート)にまとめてもらいます。なお、その際に受講生の皆さんからの質問等に答えたり、レポートへのフィードバックを行いたいと思います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や目的、その進め方について説明する
2	博物館と学芸員	博物館の使命や意義、学芸員の役割やその仕事について解説する
3	日本における博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、日本において博物館がどのように発展していったのかを解説する
4	公立博物館の活動紹介	東京国立博物館の概要と収蔵する資料について紹介する
5	私立博物館の活動紹介	日本民藝館の歴史とその概要について紹介する
6	博物館資料の収集と活用について	日本民藝館が所蔵するアイヌ資料を紹介し、併せて博物館における収集(蒐集)について考える
7	博物館資料の保存と調査研究について	日本民藝館で実施された韓国文化財の共同調査を通して、文化財返還問題について考える
8	海外における博物館の歴史と活動の紹介	海外における博物館の歴史を紐解きながら、大英博物館の概要について紹介する
9	企画展の開催とその意義について	企画展の歴史やその意義、そして開催方法などについて解説する
10	展覧会実施までのプロセス①	展覧会(企画展)の立案から企画書の作成までの過程を解説する
11	展覧会実施までのプロセス②	出品交渉などの準備から展覧会実施までの過程を解説する
12	展覧会企画書の作成に向けて	展覧会実施までのプロセスを理解した上で、企画書の作成方法や注意点について解説する
13	展覧会企画書の作成	企画展示の企画書を実際に作成してみる
14	13 回目に統合	同上
15	受講生による 1 回目の企画展の企画書の発表	受講生による 1 回目の「展覧会企画書」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、展覧会の内容やその構成について解説する
16	前回発表の振り返りと、受講生による 2 回目の企画書の発表	受講生による 2 回目の「展覧会企画書」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、展覧会タイトルの付け方について解説する
17	前回発表の振り返りと、受講生による 3 回目の発表	受講生による 3 回目の「展覧会企画書」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、会場の設定について解説する

18	前回発表の振り返りと、受講生による4回目の発表	受講生による4回目の「展覧会企画書」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、展覧会の料金設定に関して解説する
19	前回発表の振り返りと、受講生による5回目の発表	受講生による5回目の「展覧会企画書」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、開館時間や休館日の設定について解説する
20	前回発表の振り返りと、受講生による6回目の発表	受講生による6回目の「展覧会企画書」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、記念催事について解説する
21	「展覧会企画書」の発表の総括	受講生各自の発表を基にして問題点や課題を整理し、企画内容の充実化を図る。併せてプレゼンテーションの仕方について解説する
22	展覧会の実見	学芸員の案内を受けながら、東京都内の博物館施設で開催されている展覧会を見学する
23	企画書を基にしたフライヤー（展覧会チラシ）の作成に向けて	フライヤー（展覧会チラシ）の作成方法や注意点について解説する
24	受講生によるフライヤーを用いた1回目の発表	企画書を基にして作成したフライヤーの1回目の発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
25	前回発表の総評と、受講生による2回目の発表	展示内容に意識しながら2回目の発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
26	前回発表の総評と、受講生による3回目の発表	フライヤーのデザイン面に留意しながら3回目の発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
27	前回発表の総評と、受講生による4回目の発表	プレゼンテーションの仕方を意識しながら4回目の発表を行い、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
28	前回発表の総評と、受講生による5回目の発表	企画者としてのメッセージに留意しながら5回目の発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するよう心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】

レジュメを授業中に配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の課題「企画書の作成と発表」の評価 40%、秋学期の課題「フライヤー（展覧会チラシ）の制作と発表」の評価 60%

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、秋授業では各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

An exhibition which is one of the basic items of curator's activities.

In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

博物館実習Ⅲ

金山 喜昭

単位：2単位 | 開講セメスター：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは、博物館の実務実習である。博物館で働く学芸員に触れることで、専門的で多様な技能を身につけることをめざす。

【到達目標】

博物館に関する基礎知識や基本的技能をベースに、博物館での館務体験を通して、博物館の業務を理解するとともに、学芸員として求められる実践的能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講前年度までに「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」の9科目全てを取得した者のみを対象に、2週間（10日間）以上の館務実習を実施する。

実習先としては、(1) 全国の博物館における館園実習コース及び(2) 法政大学博物館展示施設での展示実習コースを選択する。受け入れ先の博物館の都合により、実習日数が10日を満たない場合は、不足分を秋学期に学内での学芸員実務で補う。このほか、実習前後に計5回の事前（実習ガイダンス）・事後（実習発表会）の指導のほか、個別の面接指導・課題指導等を実施する（全員が対象）。

なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、今後の予定や、変更等が生じた場合は資格課程準備室等からメール等で連絡をする。

最終授業となる実習報告会では、実習のまとめや振り返りだけでなく、学芸員となるための準備や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	博物館実習Ⅲ（館務実習）の事前指導。概要、受講条件・年間スケジュール、受講及び応募に向けての準備学習を指導。
実習前②	事前指導	受講生の志望に即した実習計画の設定、応募施設の選択等に関する個別面談指導。
実習前③	事前指導	実習計画を踏まえた博物館学芸員実習希望登録書・身上書等の作成・提出。「博物館実習Ⅲ」の履修登録手続等の確認、学内外実習の応募先の決定、実習計画・関連書類の整備。
実習前④	事前指導	博物館実習の事前指導。（実務実習の方針、実習にのぞむ心構え・姿勢、事前準備・予習事項）
実習前⑤	事前指導	現場の学芸員によるガイダンス等を行う。
実習中	館園実習（10日間）	学内実習の場合は担当教員によるガイダンスを行う。 ・実習館の見学、説明。 ・展示企画、準備、実施などを行う ・資料整理を行う。 ・教育普及活動。 ・実習授業の反省会。
実習後①	事後指導	事後指導ガイダンス。実習を終えての礼状、実習成果報告及びプレゼンテーションに関する指導。
実習後②	事後指導	実習成果・考察を明示した報告課題（実習日誌・実習レポート・年度報告書用レジュメ）とプレゼンテーション用電子資料のまとめ・提出。
実習後③	事後指導	受講者全員による実習成果の発表会。実習授業全体の振り返りと総評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を事前に読むこと。
実習する館を事前に下調べする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

随時指示する

【成績評価の方法と基準】

実習先での評価 (50%)。
ガイダンスを含めた平常点 (20%)
課題提出物 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

その他の重要事項

- *第 1 回ガイダンス【受講準備】(前年度 12 月)
- *個別指導【施設選択、希望実習館への問い合わせ、提出書類作成、応募】
- *第 2 回ガイダンス【登録、学内・学外実習先の決定】(4 月)
- *第 3 回ガイダンス【事前指導】(7 月)
- *実地実習
- *実習先への礼状の送付
- *第 4 回ガイダンス【報告準備】(10 月)
- *事後指導・実習報告会および情報交換会(12 月上旬に市ヶ谷キャンパスで開催予定)形式：各自制作のレジュメおよびパワーポイントによる成果発表。なお、本講座に関する指示・通知に関しては、各ガイダンスならびに資格課程実習準備室の掲示板等で常に確認するようにしてください。

【学内実習】

学内実習の実務実習は、春学期(6 月)及び秋学期(10 月～11 月)にそれぞれ 10 日間実地する。学外の各博物館の都合で実習日数が 10 日に満たない場合、不足分を秋学期の学内実習で補う。

【Outline and objectives】

The theme of this course is a practicum for practical operations at a museum. This course aims to learn communication skills as a member of society as well as professional and diverse skills by training with the professionals at a museum.

ミュージアム資料保存論

今野 農

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

博物館における基本的な機能の 1 つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】

講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いや、「資料」に関する知識を習得する。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得する。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得する。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤をつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。また、各回にリアクションペーパーの提出を課し、記載された重要な事項や質問については、各回の講義冒頭で取り上げて議論を深める。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第 2 回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第 3 回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第 4 回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第 5 回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第 6 回	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第 7 回	博物館における環境管理・温湿度管理	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第 8 回	有害物質管理と照明管理	汚染物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第 9 回	有害生物管理	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、IPM(総合的有害生物管理)について解説する。
第 10 回	災害と保全対策	災害の種類(火災、地震、水害、盗難等)と対策、復興支援等について解説する。
第 11 回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。

第12回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第13回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第14回	まとめ・学芸員の役割	授業のまとめとして、資料保存に果たすべき学芸員の役割について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

・石崎武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
 ・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
 ・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー：70%（内、平常点50%程度、各回コメント20%程度）、最終試験：30%。

【学生の意見等からの気づき】

昨年のリアクションペーパーにおけるフィードバックから、講義内容について、詳細であったとの高評を得たため、この点は水準の維持に努める。一方で、難解であったとの反応については、より多くの学生が親しめるように努める。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

ミュージアム資料保存論

清水 玲子

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】

博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。
 到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に付けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・ppt による資料を提示しながら、実施する。
 ・その場での質問や意見を歓迎するが、できない場合は、リアクションペーパーに記載する。
 ・リアクションペーパーにおける質問は、内容に応じて、授業時、或いは、質問者に直接フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義	オリエンテーション	オンライン講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明
講義	博物館資料とは何か・資料保存の意義	博物館が資料を蒐集し、保存することについて様々な角度からその意義について考える
講義	資料の梱包と輸送	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について
講義	保存の諸条件 1	資料を保存する環境について、劣化要因として温度と湿度に関して
講義	保存の諸条件 2	資料を展示する際の環境を中心に、劣化要因となる光、その他について
講義	文化財の保存と活用	文化財の保護から活用へ社会的な位置づけが大きく変わった中で、未来へ資料を受け継ぐ為の対策や課題を考えていく
講義	保存の諸条件 3	資料における生物の被害と、総合的病害虫管理（IPM：Integrated Pest Management）について
講義	収蔵と展示 1	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について
講義	収蔵と展示 2	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について、資料の取扱いを中心に見ていく
講義	自然災害と資料保存	災害の多い日本において、資料を守るための対策と被災後の対応について
ワークショップ	地域資源の保全と博物館の役割	地域の文化財保護における博物館の役割と、博物館の在るべき姿をみんなで考える。
ワークショップ	博物館の役割とは何か	前回のワークショップのまとめと発表。
講義	エコミュージアムとコミュニティ	ワークショップの講評及び地域資源の保全の事例を見ていく。
講義	まとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・原則、授業後にリアクションペーパーを提出してもらうが、その他については、必要に応じて告知する。
 ・本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】

『歴史を未来につなぐ：「3・11からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019年5月
 金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017年3月
 奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会(地域づくりの基礎知識1)』神戸大学出版会、2018年1月
 吉田正人『世界遺産を問直す』山と溪谷社、2018年8月
 *その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】

・講義終了後に、理解の程度を確認する為のリアクションペーパーを提出。
 小課題 50% 期末課題 50% にて評価する。
 *詳細は、第1回目の講義で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

他の出席者との関係性が希薄になるという学生からの意見があったので、ワークショップを取り入れ、お互いに意見交換したり、共に何かを考える時間を設けながら進める予定である。

【Outline and objectives】

Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

ミュージアム展示論

渡邊 尚樹

単位：2単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
 ・人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニクについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30%、レポート 30%、試験 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面講義は再開するが、密にならないワークショップを考慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

ミュージアム展示論

渡邊 尚樹

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

・人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアーティスティック性、照明テクニクについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面講義は再開するが、密にならないワークショップを考慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

ミュージアム情報・メディア論

柏女 弘道

単位：2 単位 | 開講セメスター：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】

博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明します。大規模館の例にとらわれず、市町村規模の博物館におけるメディア活用の現状と課題についても取り上げます。授業は講義形式で行います。リアクションペーパー等に記載された質問や感想については、次回以降の講義の中で回答をおこなうとともに、その後の講義に活かしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 博物館におけるメディアと情報	授業ガイダンスとともに、博物館におけるメディアや情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を学ぶ。
第2回	メディアとしての博物館	博物館のメディアとしての役割について学ぶ。
第3回	ICT 社会における博物館	ICT 化による博物館の情報の管理や公開の変化について学ぶ。
第4回	資料のデータベースの整備と公開	資料管理に用いられる資料データベースの概要と、一般公開されているデータベースについて学ぶ。
第5回	博物館の発信する情報の伝わり方	広告と広報、マスメディアとの関わりなどについて学ぶ。
第6回	インターネットを使った情報発信	インターネットを活用した情報発信について、ホームページなどの例を見ながら学ぶ。
第7回	博物館における映像理論・情報機器の活用	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第8回	スマートフォンの活用	博物館で行われているスマートフォンの活用について学ぶ。
第9回	博物館活動と著作権①	著作権法の概要と博物館活動との関りについて学ぶ。
第10回	博物館活動と著作権②	実際の博物館活動の中で遭遇する著作権に関する事柄を学ぶ。
第11回	近年の博物館情報やメディアを取り巻く動き①	デジタル技術を用いた資料の復元やクラウドファンディングなど、近年の博物館における情報やメディアにかかわる事例を学ぶ。
第12回	近年の博物館情報やメディアを取り巻く動き②	実体を持たないデジタル博物館など、近年の博物館における情報やメディアにかかわる事例を学ぶ。
第13回	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの考え方を通して、あらゆる人たちが利用しやすい博物館における情報発信について学ぶ。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を通して、情報やメディアを扱う学芸員のあり方について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013年）
K. マックリーン著、井島真知・芦谷美奈子訳『博物館をみせる-人々のための展示プランニング-』（玉川大学出版部、2003年）
日本展示学会編『展示論—博物館の展示をつくる—』（雄山閣、2010年）

大堀哲、水島英治編『博物館学 III — 博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012 年）
 金山喜昭著『公立博物館を NPO に任せたら—市民・自治体・地域の連携—』（同成社、2012 年）
 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 56 %、レポート 44 %。レポートの課題や文字数については授業内で通知する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

博物館について日ごろから興味関心を持ち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline and objectives】

Think about how to make use of information in museums

ミュージアム情報・メディア論

石川 貴敏

単位：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。新しい取り組みを知り、これからの博物館のあり方を考えるために学びます。

【到達目標】

将来、博物館に関連する仕事を志す者に対しては、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける事を目指します。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す者に対しては、博物館における情報の活用方法などを伝え、博物館の賢い利用者、理解者となるよう、ミュージアム・リテラシーを高めることも目標の一つに据えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。講義毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に受講者の意見を踏まえながら講義内容の工夫を図っていきたいと考えています。授業では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	I C T 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化<調査研究活動>	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化<展示活動>	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化<教育普及活動・学習活動>	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 10 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 11 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 12 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、情報の整備・管理・発信時における課題についても触れる。
第 13 回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。

- 第14回 博物館における情報・メディア戦略（まとめ） 博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日的課題を通して、今、求められている博物館情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けます。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知らないといふと内容が理解できないかもしれません。各自、授業外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、授業時に配布します。

【参考書】

『博物館学 III — 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著、学文社、2012年）

『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（西岡貞一・篠田謙一編著、放送大学教育振興会、2013年）

『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（稲村哲也・近藤智嗣編著、放送大学教育振興会、2018年）

『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編、ぎょうせい、2013年）

『展示論—博物館の展示をつくる—』（日本展示学会編、雄山閣、2010年）

『博物館展示論（KS理工学専門書）』（黒沢浩編著、講談社、2014年）

【成績評価の方法と基準】

期末にレポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えています）を提示します。「平常点」と「レポート課題（与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを判断します）」で総合的に評価します。「平常点 40%（40点）」「レポート課題 60%（60点）」の配分（合計100点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックの時間や振り返りの時間を設けることで、講義内容への理解が深まるようにします。本講義では、数多くの情報を紹介しますので、講義後に受講生が復習しやすいように、学習支援システムを活用します。本講義に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せています。国からも新たな施策や指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、受講生と意見を交わしていけたらと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

本講義では、講義資料（パワーポイント等）・配布資料（授業時に配布します）とともに、インターネットを介した個別の事例（取組）を紹介いたします。インターネットにアクセスできる情報機器（スマートフォン等）は準備できると望ましいです。また、各回の内容を復習できるように、講義資料や講義で紹介した事例（取組）のURLは学習支援システムを利用して掲載することを考えています。

【その他の重要事項】

ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、30年間の実務経験を有しています。そのうち20年以上にわたって、情報部門の責任者を務めています。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当したり、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業に従事しました。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline and objectives】

I will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also explain about the current situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, I will try to introduce new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments. Learn to understand new initiatives and think about what the museum should be like in the future.

